

(2) 2020 年度第 4 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	91
人文学部	人類文化学科	95
人文学部	心理人間学科	101
人文学部	日本文化学科	105
外国語学部	英米学科	109
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	112
外国語学部	フランス学科	115
外国語学部	ドイツ学科	117
外国語学部	アジア学科	119
経済学部	経済学科	122
経営学部	経営学科	126
法学部	法律学科	133
総合政策学部	総合政策学科	139
理工学部	システム数理学科	146
理工学部	ソフトウェア工学科	147
理工学部	機械電子制御工学科	151
国際教養学部	国際教養学科	154
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	159
教職センター		162
外国語教育センター		164
体育教育センター		175

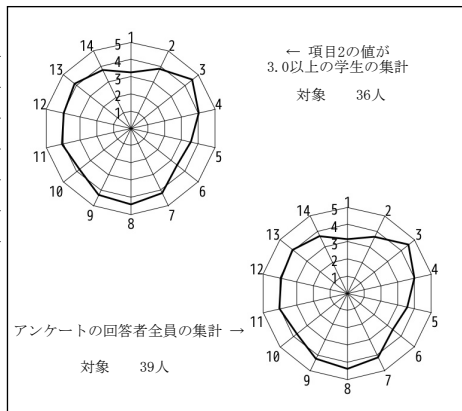
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	177
人文学部	心理人間学科	180
人文学部	日本文化学科	181
外国語学部	英米学科	182
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	184
外国語学部	フランス学科	187
外国語学部	ドイツ学科	189
外国語学部	アジア学科	190
経済学部	経済学科	192
経営学部	経営学科	196
法学部	法律学科	197
総合政策学部	総合政策学科	200
理工学部	機械電子制御工学科	202
国際教養学部	国際教養学科	202
共通教育	仏語	204
共通教育	中国語	205
共通教育	日本語	206
共通教育	共通	208
教職センター		216
外国語教育センター		217

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[E]1
授業コード	10A01-007
教員名	寒野 康太
教員コード	104315
登録人数	97
回答数	39
回答率	40.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

現代世界の社会や文化を理解するためには宗教に関する理解が不可欠である。また、キリスト教が持つ価値を正しく理解するためには宗教そのものの理解が必要である。このように、宗教一般に関しての知見を養うのが、大きな目標であった。この目標達成のため、この講義において宗教に対する理解を深めるための基礎的な枠組みを習得することをめざし、次の二点を具体的な到達目標とした。

- 1 宗教のもつ意義、そして歴史上見られた弊害について、諸宗教の具体的な例の理解をふまえて各自の宗教観を表明できるようになっている。
- 2 宗教学の基礎的な概念を理解し、それらの人文学上の意義に関して意見を表明できるようになっている。

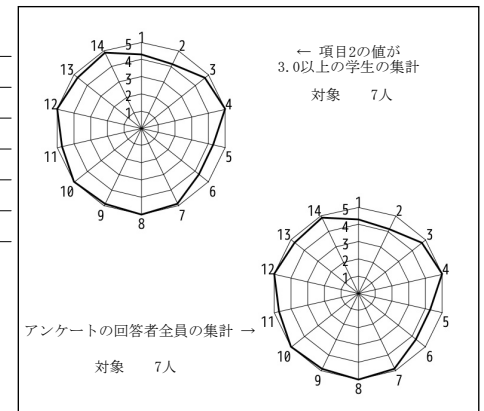
これらにかんし、レポート採点から、各学生が基本的には十分な理解に達していたことを確認したので、目的は満たされたものとする。

具体的な点では、90人の大人数でグループ討論等の実行は難しかったので、各自のレポートにおいて理解度をみることにしたが、もう少し、レポートの書き方について、説明指導する必要を感じた。特に、大きなテーマから自分で問題を設定するという、大学における論文作成の提要进行を強調し、取り組み方について説明することが今後必要であることを実感した。今後の課題としたい。

宗教現象そのものの中にある様々な、歴史的社会的背景に目を止めることによって、宗教の外部にありつつ、宗教の理解評価に関わるという講義の態度自体は理解してもらえたと考える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	自然神学
授業コード	21C12-001
教員名	松根 伸治
教員コード	101833
登録人数	15
回答数	7
回答率	46.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



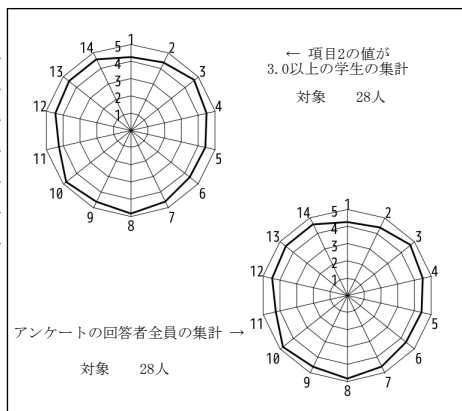
授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修者15名、アンケート回答7名という少人数なので、平均値にもとづく分析はあまり意味がないかもしれないが、数値の高かった項目と低かった項目について記述する。項目4（授業構成・進行速度）、8（教員の声や音声機器）、10（授業の妨げ）、11（質問や相談の機会）は回答者全員が5の回答で、授業の進め方について評価が高かった。すべてオンラインで実施したが、教材作成と課題説明を念入りにおこなったのがよかったと思われる。項目14が4.86なので、全体的な受講生の満足度という点ではよい結果だった。

これに対して数値が低いのは、項目2（予習復習、主体的な授業参加）の4.14である。小さな課題に加えて、中間と期末に二度のレポートも課したが、日常的には、レジュメをもらって説明を聞き、スライドを眺める単調な形式が中心だったので、学生にとって積極的に参加したという印象はもちにくかったかもしれない。提出課題の一部を授業で提示し、他の人の意見を共有する時間なども設けてみたが、工夫が行き届かなかった点を反省している。また、到達目標に関わる項目5と6の平均値がどちらも4.29だった。シラバスには「自然神学に関わる重要な概念を説明できる」「神の存在証明のいくつかのタイプの特徴を理解している」の二つを到達目標に掲げてあった。提出された課題と期末レポートの結果自体は満足いくものではあったが、今学んでいることが学科の勉強の中でどんな意味があるのかを、もっと具体的に示す機会を増やす必要がある。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中世哲学史II
 授業コード 21C14-001
 教員名 井上 淳
 教員コード 100301
 登録人数 89
 回答数 28
 回答率 31.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

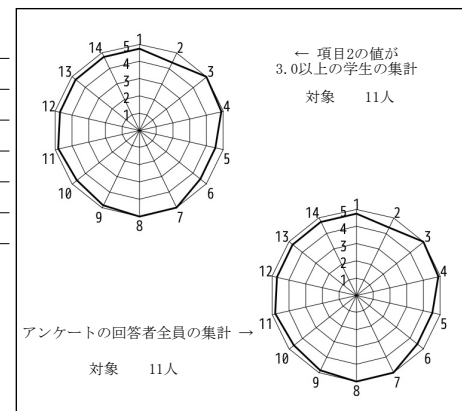
この講義では7～15世紀の哲学思想家を紹介した。予定していた目標には到達できたと思う。学生からの評価も全体的に高評だった。特に評価が良かったのは、8の4.86, 9の4.61, 10の4.79である。授業の満足度に関する13は4.57, 14は4.57であった。

授業で紹介した思想家たちは以下の通りである。1はイントロダクション、2. カロリング・ルネサンス、3. ヨハネス・スコトゥス・エリウゲナ、4. カンタベリーのアネルムス、5. ピエール・アペラル、6. クレルヴォーのベルナルド、7. ビンゲンのヒルデガルト、8. イスラムの哲学者たち、9. トマス・アクィナス、10. アシジのフランシスコとボナヴェントゥラ、11. ヨハネス・ドゥンス・スコトゥス、12. オッカムのウィリアム、13. マイスター・エックハルト、14. ニコラウス・クザーヌス。

それぞれの授業は独立した内容とし、前の授業を聞いていなくても理解できるようにした。しかし全くばらばらなわけではなく、前後の思想家では発展や批判、人間関係などで関連性を持たせた。オンラインなのでZoomでの話は説明文書と共に30分で行い、残り時間を小レポートの論述と提出にあてた。集中力が持続しやすいので、このやり方は結構好評だった。今後もさらに興味深い内容となるよう、工夫してゆきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 新約聖書学(黙示録)
 授業コード 21C29-001
 教員名 HERA, Marianus Pale
 教員コード 102689
 登録人数 16
 回答数 11
 回答率 68.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

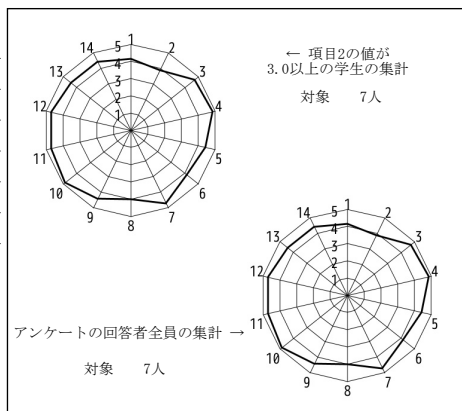
本授業はゼミ形式で行いました。数回の講義の後、参加者はヨハネ黙示録の中から割り当てられる箇所がどのように解釈されてきたかを調べ、発表し、ディスカッションを行うという授業形態でした。

ほとんどの参加者はキリスト教学科の学生で、ある程度の聖書の基礎知識を持っており、発表の準備と実施は十分に出来たと思います。しかし、オンライン授業ということもあり、ゼミ形式の授業で期待していた活発なディスカッションや意見交換があまりできませんでした。また、学生の中には発表のために最低限の準備しかできなかったという印象を受けました。図書館で文献を探ることができなかったという理由が考えられます。学生による授業評価からも「ゼミ形式の場合、発表の質がどうしても先生の講義より質が劣るため、そこをどうするかが課題である」という声もあがりました。今後このようなゼミ形式の授業にさらなる工夫が必要だということを感じました。また、それぞれの学生は自分に割り当てられる箇所にだけ集中し、他の学生が担当する箇所に十分な前準備が出来なかった学生が多いことも課題です。

学生の評価からはこの授業の目的に達成できたと思いますが、オンライン授業が今後もしばらく続く中、学生の積極的な参加が求められるゼミ形式の授業の工夫が大変重要だということが今回の授業で改めて思い知らされました。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	初期キリスト教思想B
授業コード	21C31-001
教員名	岡寄 隆哲
教員コード	103614
登録人数	20
回答数	7
回答率	35.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

ヘレニズムとヘブライズムというヨーロッパ精神の二大潮流の大枠を理解するという目標については、あるていど説明ができたものとする。オンライン形式に合わせて、今年度より初めてPowerpointのスライドを用いた講義を試みたが、スライドをとおり画像や図式を多用することで、レジュメ・プリントと白板だけのこれまでやり方よりもよく伝えられたのではないかと感じる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

私自身の授業としては全体として漫勉ない数値のように感じるが、毎回ながら受講者によっては話しの聞き取りやすさに難を感じていたのではないと思われる。オンライン形式ということも考えた工夫も必要だったと思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

Powerpointによるスライド形式の講義が初めての試みで、ただでさえスライドの適切な切り替えのタイミングがつかめていないのに加えて、オンライン形式で受講者側の様子が見えないために、十分なノート筆記時間を確保しないまま切り替えるといったことが起こっていたのではないかと察せられる。次クォーターでは対面形式でもPowerpointを使用する予定なので、スライドの作り方や切り替えのタイミングなど他の先生のアドバイスも求めながら考慮してやって行くことにしたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎神学(教会論)
授業コード	21C43-001
教員名	SUSAI, Raj
教員コード	101347
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

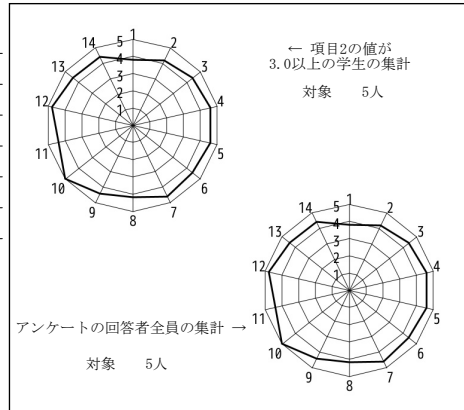
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

基礎神学（教会論）の授業の受講者5人だった。少人数の授業だったので学生一人ひとりに気を配ることが出来た。授業は予定通りに進んだので、シラバスを変更せずスムーズ進むことが出来た。授業の達成目標に到達したと思われる。コロナ禍の中で学生が毎回教室に集まってくれことを非常に喜ばしく思う。学生評価にも見られたが、少人数のため内容を確認しながら、また学生の理解程度を確かめることが出来た。さらに、学生も積極敵に参加してくれた。本講義の内容に関しての学生の知識がバラバラだったので、時と場合によっても基礎的なことを繰り返す必要性があった。学生による評価にもあったが、発表の時間が少なく感じるがあった。学生たちが懸命に準備した内容全てを限られた時間内に発表することが出来なかった。今後の課題として、人数に合わせて発表の時間を設定する必要があると思われる。発表はZOOMで行われたことも良かったと思われる。全体的にはシラバスに沿って進み、わかりやすくかつ深く学ぶことが出来たと思われる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教倫理学(基礎論B)
授業コード	21C51-001
教員名	RAJCANI, Jakub
教員コード	103281
登録人数	12
回答数	5
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

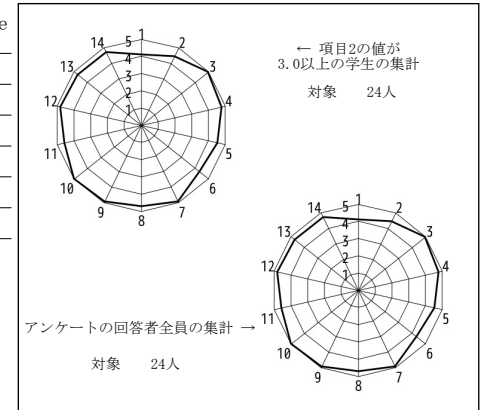


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) オンライン授業という予期せぬ妨げにもかかわらず、授業の目標として設定してあったものを到達できたと思われる。効率よく、どのテーマも残さず、また、時間を余すこともなく、扱うことができた。
- (2) 自由記述はなかったし、評価してくれた学生も半分以下だったので、特にコメントはない。こちらからの感想だが、もっと受講生と双方向で講義をできれば良かったなと後悔している。何度も何度も反応を求めたり、カメラをつけるように指示したりしたにもかかわらず、毎回毎回その繰り返しに疲れてきて、講義の代わりに警察官をやりたいのではないと思ひ、結局良い加減にさせた。誰がどこまで授業を積極的に受けているかを調べようにも、限界がある。
- (3) オンライン授業の諸々の悩みは別として、磨きをかけながら、だいたいこのような授業の構造を保っていきたいと思う。また今度対面式でやった場合に、是非とも学生に感想をたくさん書かせて、上達状況を確認しながら話を進めたいとも思っている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Culture B<国際科目群>2
授業コード	31C07-903
教員名	KISALA, Robert
教員コード	018275
登録人数	36
回答数	24
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

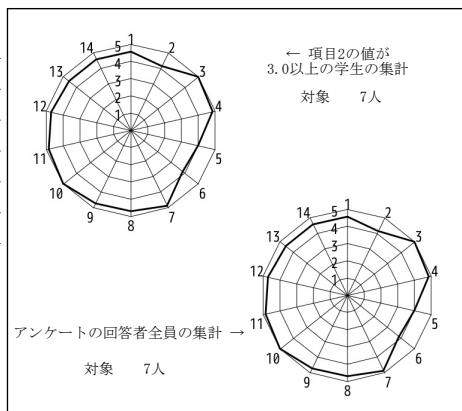
The goals of the course were two-fold: 1) students will become able to appreciate the continuing importance of religion, broadly understood, in many contemporary societies, focusing on the United States as an example of this phenomenon, and 2) students will be able to analyze and understand the current manifestations of religion in U.S. life and how that impacts on public policy. The responses to questions 5 and 6 indicate that more could be done to clarify the goals.

Overall, the evaluations indicate a high level of satisfaction with the class. In the comments, special mention is made of the incorporation of small group discussions and the online discussion with students in the United States as part of the NU-COIL program. I was happy that we were able to continue the practice of small group discussions in each class using the breakout-room function in ZOOM. The use of NU-COIL was a new element added this year, and the reports submitted by the students after the online discussion, as well as the evaluations, indicate that it was well-appreciated. I will plan on continuing the use of NU-COIL.

In terms of improvements, I will reformulate and clarify the goals of the class.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想・文化をめぐって3
授業コード 13A06-003
教員名 齋藤 喬
教員コード 103192
登録人数 12
回答数 7
回答率 58.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

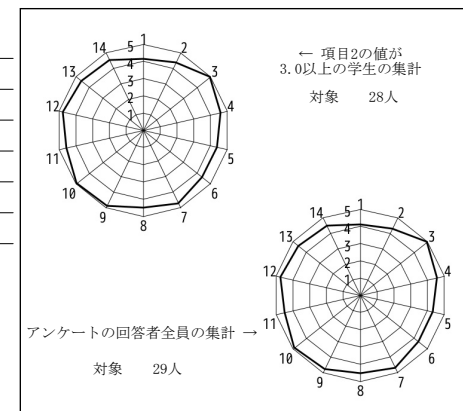


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本授業は、記述式のミニテストを課し、その答案を次の回でフィードバックする形式の授業である。そのため、2020年度Q4では受講者が少ないことで、解答例の多様性に関してはやや物足りなさが残った。しかし、結果として全ての受講者の解答例を、授業中に紹介しコメントすることができたので、その点において授業内容の到達度は下げずに済んだのではないかと考えている。
- ②開講主体別平均値をみると、本授業が該当する学際科目で、設問1-14の平均値が4.56、設問3-14の平均値が4.59であるのに対し、本授業では設問1-14が4.60、設問3-14が4.64で、平均値より4~5ポイント高い数値となった。また、①で書いた事柄が功を奏し、自由記述回答では自分の解答例がきちんと確認されていることを評価する意見が出た。毎回の授業で解答例を紹介できる人数が限られているので、今回は丁寧なフィードバックが高い評価につながったと言える。
- ③今後の課題として、授業の到達目標に関わる設問5と6のポイントが著しく低いので、授業の中でシラバスに書いた到達目標の内容をより詳しく説明するなどして、生徒の自己評価を向上させることができるよう心掛けていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス演習II2
授業コード 15P13-002
教員名 浅石 卓真
教員コード 103263
登録人数 39
回答数 29
回答率 74.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

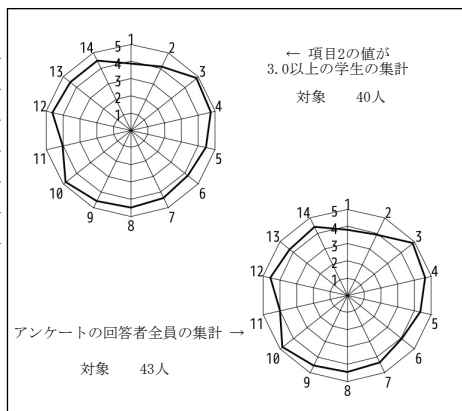


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度
「レファレンスPOPを作成・評価できる」「参考図書を用いてレファレンス質問に回答できる」「図書館利用教育の資料（パスファインダー、オリエンテーション資料、セルフチュートリアル）を作成できる」という3点を目標として掲げていた。提出されたレポートを見る限り、授業者が求めている水準には概ね届いていたため、基本的に達成できたと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値データについては、項目1-14の平均値も、項目3-14の平均も、資格課程や同程度の受講者数の講義を上回っており、大きな問題はないと考えている。自由記述を見ると、グループワークや演習の時間を十分に取ったこと、資料を丁寧に作成したことが評価されている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由記述で「課題が自分のコンピュータスキルに対して難しすぎたところが困った」という意見が見られたので、次年度にはコンピュータスキルを補足する資料を作成する予定である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学基礎論B
授業コード	22A06-001
教員名	中尾 央
教員コード	102505
登録人数	129
回答数	43
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
目標は以下である。
- ・人類文化に対する多様なアプローチを理解している。
 - ・人類文化に対する様々なアプローチを比較し、それぞれの長短所を考察できる
- 項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」は評点4.05のようなので、概ね達成できたように思われる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
声が小さいという評価が2, 3あった（複数で同じ意見があったのはこの点だけであった）。出力を調整いただければ何とかかなと思っていただくと、最初数回は小さくないか確認していたのだが、普段から声は大きくないので気をつけるべきだろうか。項目7「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」の評点は4.47のようなので、全体では問題がなかったのだろうか。よくわからない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次年度から100分になって学生さんの負担はさらに大きくなるようなので、そこをどうするかを考えなければならないだろう。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	研究プロジェクト
授業コード	22A17-014
教員名	後藤 明
教員コード	101380
登録人数	14
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

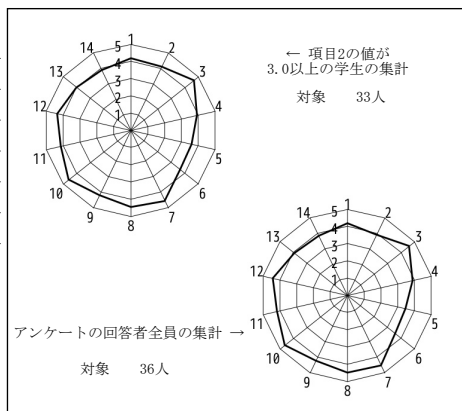
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 研究プロジェクトはほぼ毎回ズームで行った。ただし学期当初は遠方の学生中心に図書館利用もままならず、資料を集めるのが困難であったので、可能な限り講師がもっている本を宅配などで学生に送ったりもした。また調査を予定していた学生も対象となった祭りが中止になったりして、予想外の困難もあった。
- オンラインによって、毎回、一人一人の卒論の指導であつが、毎回、学生と比較的じっくり話すことが出来て、それ自体はマイナスばかりではなかった印象である。画面共有で講師が論文書式を学生に見せたり、引用文献を書いて見せたり、逆に学生から送ってもらった草稿をその場で添削したりするなどが、その際、当該学生でない学生も閲覧できて参考にできるなどの効果があったように思われる。
- 4年生は就活も含め、とくに遠方の学生はこの授業だけに登校するという状況を考えると、オンライン形式の論文指導をより効果的に活用していくことを目指すべきだろう。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	言語学概論
授業コード	22B01-001
教員名	青柳 宏
教員コード	017004
登録人数	87
回答数	36
回答率	41.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達目標とその達成度

今Qはつぎの2つの目標を掲げた。

1. 日本語や英語といった身近な言語だけでなく、他のさまざまな特徴を持った言語があることが理解できる。
 2. 世界の言語には多様性があるばかりか、普遍性があることを理解できる。
- 毎回の復習クイズ+期末テストの合計点の平均（出席過多や試験欠席は除く）は75.7であり、問題の難易度は例年と変わらないので、昨年度より5ポイントほど上昇している。ただ、学生によって到達度に大きな差があるのは例年と同じである。

②総合的自己点検・評価

項目1~14の平均が4.14、3~14の平均が4.15で例年とほぼ変わらない。

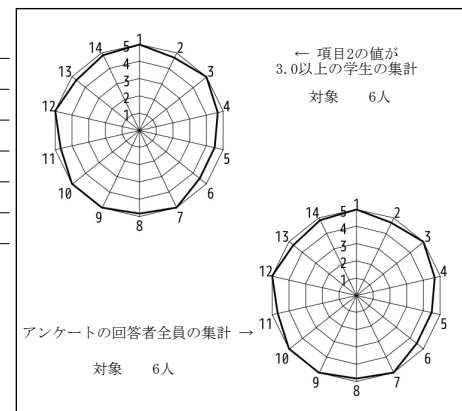
毎回授業の初めに前回の授業後の質問に丁寧に答えたつもりであるが、自由記述をみると、それを肯定的に評価している学生が多い反面、時間を取りすぎているという記述もあった。講義の難易度に関しても、簡単ではないが学ぶところが多かったという記述もあり、概論としては難しすぎるという指摘もあった。設問5と6でそれぞれ1点をつけた学生が8.8%いるが、6の「力がついたか」について低評価があるのはまだしも、5の「到達目標が理解できたか」の評価が低いのは解せない。なぜなら、折に触れ、扱っている項目が到達目標とどう関係するかを解説してきたからである。

③今後の改善点・方針

到達目標は最初のオリエンテーションでも、その後の講義でも繰り返し述べているが、そもそもそれを理解しようとせず、さらにいえば、シラバスさえ読まずに登録してくる学生が一定数いる。最初の一週間が大事なので、徹底して説明し、理解のうえで受講してもらうことを徹底したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	意味論
授業コード	22C15-001
教員名	和泉 悠
教員コード	103645
登録人数	14
回答数	6
回答率	42.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①二つの目標は、

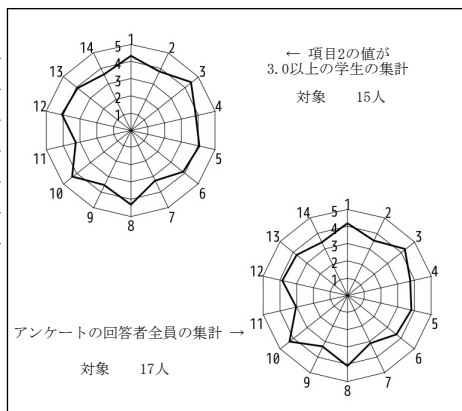
1. 形式意味論と語用論における基礎的な概念と道具立てを理解する。
 2. 自然言語の意味にまつわる現象を、理論的に説明していく方針を自分で考えることができる。
- であり、それぞれテストの平均点を踏まえると十分に到達できたと考える。特に②について、テストの主要問題は記述式であり、基礎的概念を理解した上で、新しい現象に取り組むことが求められる。当然学生間に差異があったが、おおむね理解度の点で満足のいく解答が多かった。

②回答数が少ないため数値はあまり参考にならない。開講形態が特殊（ハイブリッド）だったため、かなり授業負担が強く感じられた。内容とは関係なく、配信に関する技術的詳細、ディレクター業務を同時遂行することについての負担である。

③上記のように、授業内容いかによりも、それがきちんと提供できているのかという点へのディレクター業務（集音されているのか、スクリーンは見えるのか、資料はオンライン上に適切にあるのか、etc. etc.）に膨大なエネルギーが割かれている。形態が続くようならば、その簡素化、適応を図らなければならないが、開講形態について現状誰も確定的なことがわからない以上、どのようにアプローチすべきが非常に悩ましい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近世哲学史II
授業コード	22C30-001
教員名	谷口 佳津宏
教員コード	016550
登録人数	61
回答数	17
回答率	27.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

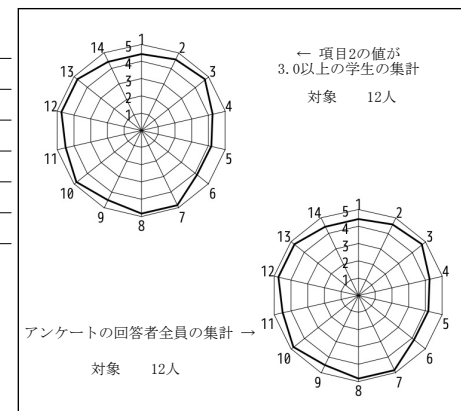


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業目標は「1. 近代の哲学の流れを理解している。2. 近代の哲学の特徴を理解している。」の二つであり、哲学史の基本的知識の習得に重点を置いている。これまではマークシート形式の筆記試験でその理解度を確認してきたが、今年度は試験をレポート形式に変更せざるをえず、授業で扱った哲学者のなかから一人を選んで、その人物について自分で更に調べてレポートするという課題にしたため、レポートの内容だけからは哲学史の流れを理解できているかどうかは判定しづらいが、レポート提出者のレポートはおおむねよく書いており、それぞれある程度は近世哲学史に関する知識を獲得しえたものと考えられる。もともと教科書を使って行なう授業で、従来の対面式授業では、教科書を読みすすめながら、適宜、補足説明を行なうというやり方ですすめてきたが、今回は、自主学习を中心に各自で教科書を読み進めながらレポートを作成するというやり方にしたため、一部の受講生からは相当な不満の声が聞かれた。レポート未提出者の割合がけっこう高かったこともこのことと関係しているように思われる。なかには「パソコンを見る必要がなく、目の負担を減らせた」という好意的な意見もあったが、当方としても、こうしたやり方で十分な授業となりえるとは毛頭思っていない。次クォーター以降、状況がどうなるか今の時点では分らないので、具体的な抱負を記すことはできないが、状況が少しでも良くなっていることを祈るばかりである。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献資料講読(日本)B
授業コード	22C57-001
教員名	青山 幹哉
教員コード	019323
登録人数	23
回答数	12
回答率	52.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

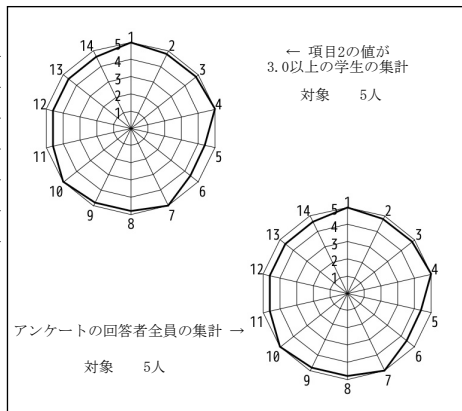


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定した到達目標は、(1) 日本中世史料解読に関する基本的知識を習得できる (2) 鎌倉幕府および鎌倉期武士社会の歴史的特性が理解できる、の2点であった。設問6の平均値は4.17であり、期末試験の平均点は72点(100点満点)であったので、目標はおおむね達成できたものと判断する。
- ② この科目は、2017年度Q3学期における学生評価の対象であった。今期はオンライン授業となったため、やや異なる点もあるがほぼ同じ項目なので、設問1~14の回答平均値を比較したところ、今回アップした設問が12、ダウンした項目が2、であった。卒業論文で中世史料を用いる学生はきわめて少数となっているため、ここで身につけた中世史料の読解能力がすぐに役立つ機会は少ないであろう。しかし、新たな知見を得た喜びは、学生にとって、それなりにあったようである(設問13の平均値は4.75であった)。
- ③ オンライン授業により、授業前後に受講生から質問を受けることができなくなった。そのため、WebClassに質問の掲示板を立ち上げたところ、好評であった(設問12の平均値は4.75、自由記述欄でもこのことに触れた記述があった)。次回以降も継続したい。また、講読史料の精選と授業進行状況に応じて注釈の量を加減することについては、今後もいっそう気をつけて、より効率的な学習方法を模索していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(対照言語学)
授業コード	22C64-001
教員名	林 晋太郎
教員コード	103741
登録人数	5
回答数	5
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目は、(i) 言語間に見られる共通点と相違点を把握すること、および(ii) 諸言語の比較を通じて、個別言語の文法のみならず、普遍文法の研究に対する理論的提案ができるようになること、の2点を到達目標として設定した。各回の授業時間中に取り組みせる課題や、実施した小テストの出来に鑑みると、設定した目標は概ね達成できたと考えられる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

本科目を運営するにあたり、上記の到達目標や、本科目の履修に際して必要とされる予備知識について、シラバスに明記することを心がけた。

項目1, 2, 5, 6の平均値がそれぞれ5.00, 4.80, 4.40, 4.40だったことを踏まえると、履修者はこちらが想定する予備知識と学習意欲を持って本科目に取り組んだことが窺える。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

本科目は、対面授業を実施しつつオンライン授業を同時配信するハイブリッド型の授業運営を行った。

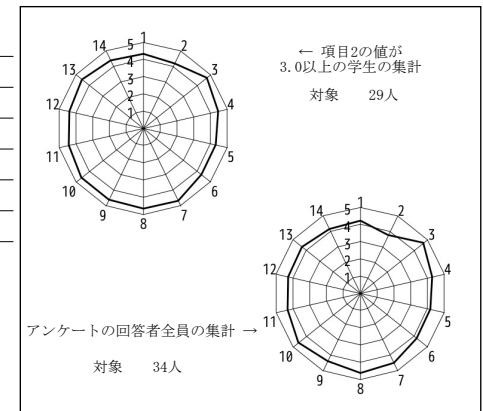
対面授業とオンライン授業との間で質の差がなるべく出ないように努めたつもりではあるものの、対面授業におけるメリットをオンライン授業でも等しく得られるよう運営するには至らなかった。

このことは、否定的な意見でこそないものの、自由記述回答からも窺うことができる。

この点は次クォーター以降の改善点としたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(アフリカの社会人類学)
授業コード	22C68-001
教員名	石原 美奈子
教員コード	100080
登録人数	140
回答数	34
回答率	24.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、一定程度文化人類学について学修経験と知識を有する3年次以上の履修生を対象に、アフリカを舞台に行われてきた社会人類学的研究のレビューを行った上で、社会人類学が生み出した分析方法や理論が現代アフリカ社会理解にどの程度役に立つのかについて考えることを目的としていた。初めの数回で、アフリカに関する基礎知識を共有した後、植民地時代のもので(主として英国人)社会人類学者が植民地政府とどのような距離感を持ちながら調査研究を実施したのかについて講義を行った。その後、植民地時代、あるいは独立直後に行われた著名な社会人類学者や彼(女)らによる研究成果としての民族誌をひとつひとつ取り上げ、解説を行った。自由記述回答のなかで、「パワーポイントが細かすぎる」「そのまま読み上げている」といったコメントがあったのは、この民族誌の概説に対する指摘であろう。パワーポイントに書き記した事柄を全て読み上げていると時間がなくなってしまうので、端折りながら解説を行っていたつもりであるし、民族誌は細かな事実と分析が交互に展開する性質のものなので、パワーポイントが細くなるのは致し方がないとも思うが、来年度に向けて、もう少しわかりやすいスライド作りを心がけるようにしたい。植民地時代のイギリス社会人類学のアフリカにおける研究は、かつての「伝統社会」を聞き取りや参与観察から再構成している側面も多く「静態的」な描き方に偏りがちになるので、そのようなものとして描かれた民族誌は、現代日本の学生にとってはあまり関心をもてなかったのかもしれない。来年度からサブタイトルを「アフリカの人類学」に変更したので、変動著しい現代アフリカを様々な観点から調査・分析した成果を紹介できるように思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(新大陸の考古学)
授業コード	22C69-001
教員名	渡部 森哉
教員コード	101237
登録人数	12
回答数	4
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

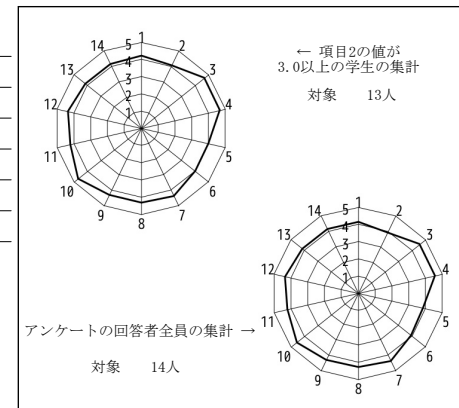
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバス通りに授業を行った。
対面授業とzoom使用のハイブリッド方式で授業を進めた。対面授業に参加する学生の顔ぶれはほぼ決まっていた。また寒い日はzoomでの受講者が増えた。
前年度までと同じような課題を設定したが、zoomによる授業により課題が増えたためか、ガイダンス後に登録者は減少した。登録者は10名でありゼミのような規模の授業となった。アンケートに回答したのが4名であったので回答率は40%であった。
後半はテーマを設定してそれに関する文献を受講生に発表してもらうという授業を取り入れた。それぞれきちんと役割をこなし、それなりに充実したと思われる。
アンケートに回答したのはこの授業に興味があった学生だと思われ、いずれの項目の数値も高い。また自由記述では、「生徒に授業に対する興味を様々な観点から引き出してくれていた」「資料が豊富で、学びが深まった」とあった。今後は受講者をより増やす方法を考えたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(中国的世界の形成)
授業コード	22C72-001
教員名	西江 清高
教員コード	019356
登録人数	59
回答数	14
回答率	23.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

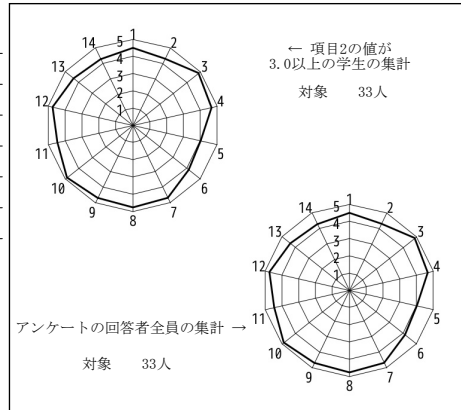


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はオンラインによる講義形式であった。①開講当初に設定した目標と到達の程度に関連しては、授業の日程等はすべて予定通りに進行され、受講生に向けて予定していた内容を十分に提供できたと考えている。しかし受講生から見た場合、結果として十分な学修成果が得られたのかと言えば、以下の数値データにもあるように問題点は少なくない。②オンライン授業は私の場合はじめての経験であったが、授業の運営そのものにかかわる設問項目3、8、9、10、12などは受講生から一定の評価が得られている。一方、設問項目5、6など、授業の到達目標と学修成果についての学生自身の判断が低い評価となっている。さらに授業全体の満足度にかかわる設問項目13、14の総合的な評価も、過去の同授業の評価と比べてもやや低調であった。③授業では知識の積み上げに傾きがちな面もあるが、「授業目標」を確認する作業と「学修成果」を確認する作業を、講義の開始段階・中間段階・終了段階などで繰り返し確実に実施すべきだったかもしれない。オンライン授業の場合、授業進行のプロセスについて授業の各段階で確認することは、対面式の授業に比べても必要な事項かと思われる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A2
授業コード 12E03-002
教員名 浦上 昌則
教員コード 018788
登録人数 64
回答数 33
回答率 51.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

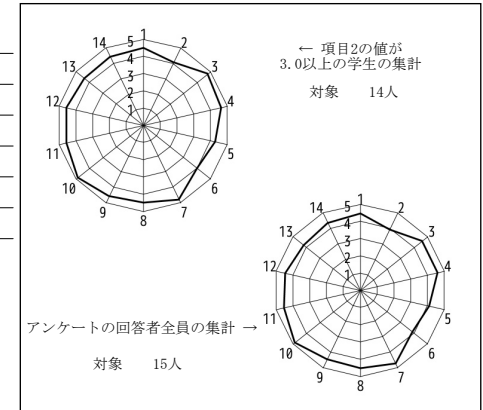
この授業は、認知心理学、学習心理学および発達心理学を学ぶ概論科目である。そのため各領域内の多様な基礎的事項を広く紹介した。各領域の概要を理解し、基礎的事項を説明でき、また生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができるようになることを目的としている。

授業評価の回答は、平均値が概ね4点台であり、好意的な評価を得られたと考える。対面形式の際にも実施していた、授業終わりに書いてもらう学生からの質問に回答する時間を次の回にとることをzoom利用の遠隔授業でも行った。今回は、このような形式に対して肯定的なコメントが多かったところが特徴といえるかもしれない。「わかりやすく、学生の質問に対しても親切に答えてくださいました」「毎回答えてもらえるわけではないが、質問するフォームが設けられていた」「他の授業より、質問の機会がしっかりしていたところ」などである。質問への回答は、前回の内容の繰り返しにもなるが、この授業で重要視しているポイントでもある。

なお、例年はこの質問への回答時間が多いことに対して批判的な意見を表明する声もあるが、今年度の回答にはなかった。遠隔授業ばかりで、教員と間接的にでもやり取りをする機会が少なかったためかもしれない。今年度の特殊性なのかどうか、様子を見ていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって5
授業コード 13A04-005
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 50
回答数 15
回答率 30.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通教育科目であり全学部全学科の学生を対象としている。報告者は、今年度より本講義を担当している。本講義の内容は、視覚的芸術としての美術における癒しについてであり、美術教育と臨床心理学、芸術心理学、美学、美術史など学際的視点から美術を考察するものである。本講義の到達目標は、「想像性と想像力について理解を深めることができる」「美術教育と芸術療法における美術の力を理解することができる」「癒しとしての美術の力について自分の考えを表現することができる」の3つである。

本講義の到達目標に対しての達成度の項目（設問6）の平均値は3.87であり、ほかの項目の平均値と比べ低い結果であった。加えて、新たな理解の獲得や深まりをたずねる項目（設問13）も4.20であり、この点が先ず取り組むべき課題と考える。内容の進め方や提示の仕方についても、まだまだ多くの改善点がある。具体的には、学際的理解を促進するためには、それぞれの専門領域をどう繋げていくのかを工夫する必要がある。

学生の理解を深めるための課題については、学生には肯定的に取り組んでもらえたようで、自由記述欄には、「実際に課題などを通じて、芸術活動について理解を深められたこと。課題が非常にためになった。」「実際に活動して共有することで授業への理解が深まったと思う」というコメントがあった。こうした課題を適切なタイミングで提示し、学生の理解を促していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間関係プロセス論(ファシリテーション・アプローチ)II
授業コード	23C10-001
教員名	中村 和彦
教員コード	055731
登録人数	64
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

目標は「ファシリテーションの基礎的な理論を理解し、基礎的な力が身に付いている」であった。学生が提出したレポートからは、ファシリテーションについての基礎的な理解ができており、ファシリテーターとしての視点や働きかけ方を獲得していることが伺える。

②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

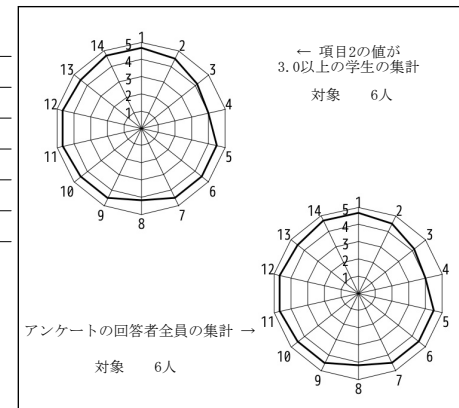
今年度の授業は、ファシリテーション実習をオンラインで実施した。共同担当者である池田先生と毎回の授業後に約1時間半のミーティングを行い、オンラインで実施が可能な実習の開発やZoom上での実施の工夫を話し合い、実施していった。また、授業中にブレイクアウトルームでの学生の実習の様子を見に行くこと、WebClassに毎回提出されるジャーナル(=授業後に気づきや学びを記入するフォーム)に教員が毎回コメントを書くことなどを通して、実習からの学びに対してきめ細かいフォローを行った。その結果、例年の対面授業に比べて、学生の学びの質が低下することなく、授業を実施することができたと自己評価している。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今年度オンラインで初めて実施した実習の中には、難易度が高いものもあったため、実習時間内に達成できる程度に課題の難易度を下げるなど、実習をさらに改善していく。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教育課程論
授業コード	23C16-001
教員名	高橋 亜希子
教員コード	103582
登録人数	20
回答数	6
回答率	30.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

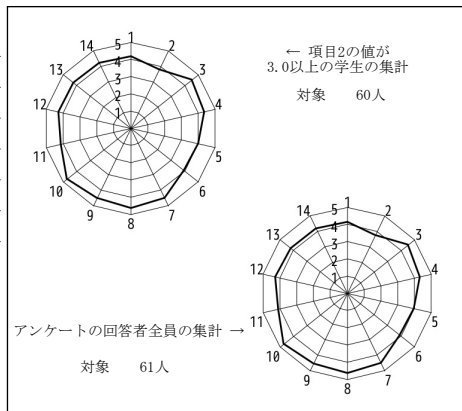
当初の目標は、「戦後から現在に至るまでの日本の教育の経緯を整理し、教育課程との関係から理解すること」だった。初めて行った授業であったが、ゆとり教育をさかのぼりながら当初の目標については説明し、理解してもらえたのではないかと思います。

対面授業として行い、実際に学生に問題を解いてもらったり、手を動かして課題を解いてもらったり、グループで話したりということを重視した。対面の際にグループで話し合う機会を設定したことで、学生同士の親密感が増し、後半にさまざまな事情でオンライン授業となった際もスムーズに活動できたのではないかと思います。授業の形態については試行策度しながらだったため、おもしろいけど高評価を得られたことは嬉しく思う。子ども中心の教育課程について授業中には十分に触れられなかったため、コロナ禍の中での教育の状況を取り上げて調べ学習をしたり、授業の形態について学生と相談したりなどを通して、本授業が学生中心の授業になればという意図があったが、それに対して「学生の意見を聴きながら授業を組み立てていただいたので、自由度が高くて良かったです」という感想があったのも嬉しく思う。

来年度は、グループ学習ではまた別のテーマを立て、ゲストの高校の先生もいらっしやるため、より教育現場に近い内容にできればと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	発達心理学
授業コード	23C21-001
教員名	西脇 良
教員コード	100623
登録人数	127
回答数	61
回答率	48.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、①乳児期・幼児期・児童期を中心に、主要な発達課題、定型／非定型発達に関する基礎的知識を習得していること、②学習内容と自分の成育経験との照合をおこなうなかで、自らの成育史への理解を深めていること、を到達目標としました。うち①については、非定型発達に関して量的にもやや不足していたと思います。②については、各回レポート等で成育史を振り返る機会を提供しましたが、自力では思い出せない時期も含めており、その点、レポート課題の見直しの必要性を感じております。

学生の皆さんからの数値面での評価ですが、本科目の全設問の平均値（＝4.27）は、評価対象科目全体の平均値（4.40）、心理人間学科全体の平均値（4.50）よりも低く、全体として「平均以下」との判断でした。設問2を除き、最も高かったのは設問10（授業の妨げへの対処＝4.72）、最も低かったのは設問6（主観的目標到達度＝3.90）でした。受講生の表情が見えないオンライン授業であり、通常の対面授業とは異なる工夫が必要であると痛感しました。自由記述では、「資料や例話があり、説明が分かりやすい」「話しぶりが誠実、面白い」「適切な休憩時間が取られている」等の肯定的意見の一方、「記憶のない幼少期を振り返ることは難しい」「雑談を減らしてほしい」「成績評価の説明で不安になった」等の改善に向けた意見を頂戴しました。このうち成績評価の説明については、誤解を招く表現がありましたので、受講生に対してWebclass上で訂正のお知らせを行いました。

次クォーターでは、資料や例話を豊富に採り入れつつ、時間を有効に使い、幼少期を振り返るレポート課題については一部内容を見直したいと思います。また研究の最先端を反映した内外の文献を参考にするなど、講義内容のアップデートに努めてまいります。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代教育論
授業コード	23C40-001
教員名	加藤 隆雄
教員コード	019349
登録人数	11
回答数	3
回答率	27.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

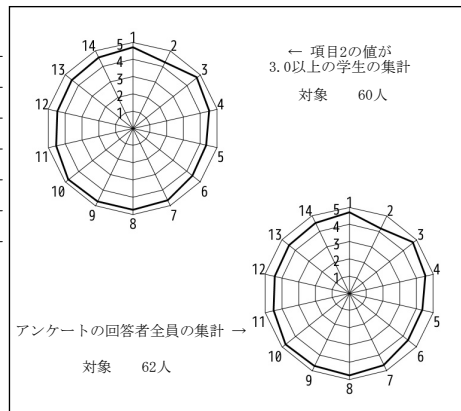
本授業は今年度で閉講する授業であるが、学生による授業評価の対象科目であることが決まっていたため、実施部署とも相談のうえ、これまでの総括として実施することとした。

とはいえ、旧カリキュラムの科目であるので4年生以上しか履修ができず、登録者は11名であったが、卒業単位の「保険」として登録していた学生も多少いたとみえ、受講者は5名程度であり、回答も3名にとどまった。そのうえ、開講前には予期していなかった事態により、オンラインでの授業であったので、これまでの総括として位置づけられるかはかなり疑問が残るのだが、評価はほとんどの項目において5か4であり、期待された水準は達成できたのではないかと思われる。なお、自由記述回答はなかった。

上記の事情により、次年度以降への抱負や方針は立てることができないが、本授業が主として用いたパワーポイントは、オンラインの方式と相性が良いのではないかという気がした。学生はスマホなどでの動画視聴の習慣をもっていると思われるが、授業で用いる図表や画像などを間近で見るとはそれと同様の経験であり、対面の講義よりも関心を引き付けられやすいのではないだろうか。ウイルス感染が収まり対面授業が可能になったとしても、オンライン授業のメリットは残しておくべきではないかと思った。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会心理学(社会・集団・家族心理学)
授業コード	23C60-001
教員名	土屋 耕治
教員コード	102287
登録人数	167
回答数	62
回答率	37.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次以上を対象とした講義科目である。主に、心理人間学科の学生を中心に約160名が受講した。

(1) 目標と到達

本授業では、心理学の視点からの人間理解、ならびに、科学的に現象を考察することを目標としていた。到達目標を振り返る項目（項目6）は、4.39と比較的高いと言え、一定の目標を達成していたとできよう。また、全体に関する満足度に関する項目（項目14）も例年よりも若干低いものの、4.52と比較的高い水準にあることから全体としても、評価を得ていたと考えられる。

(2) 総合的な自己点検・評価

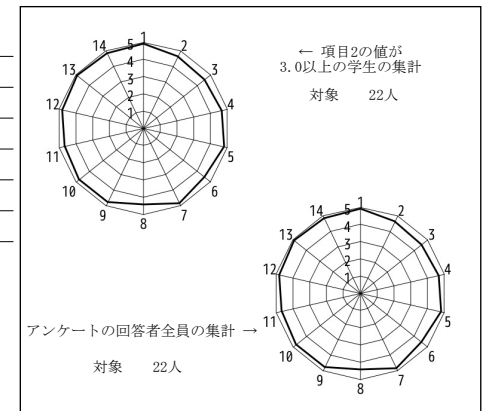
オンラインでの実施となったことから、(1) 資料をGoogle Slideを用いてアップした、(2) 授業中、コメントスクリーンというアプリを用いて、学生のコメントが画面の表示されるようにした、(3) 毎回の授業後の記録（ジャーナル）を匿名状態にして受講生全員が相互に見られるようにした、といった工夫を行った。とくに、コメントスクリーン、また、ジャーナルを相互に見られたことは自由記述でも複数言及されており、学習に効果的であったと言える。

(3) 改善点

自由記述において、授業者の話し方が冗長であったというものがあった。学生のビデオをオフにしていたことから、反応が掴みづかったことも影響していると考えられるが、より臨場感があるような話し方を工夫したいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	カウンセリング実践トレーニング
授業コード	23C63-001
教員名	楠本 和彦
教員コード	055780
登録人数	22
回答数	22
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、以下のものであった。

1. マイクロカウンセリングの考え方の概要を理解している。
2. マイクロカウンセリングの基本的傾聴技法の考え方を理解するとともに、それを実践することができる。
3. マイクロカウンセリングの積極技法について、理解している。

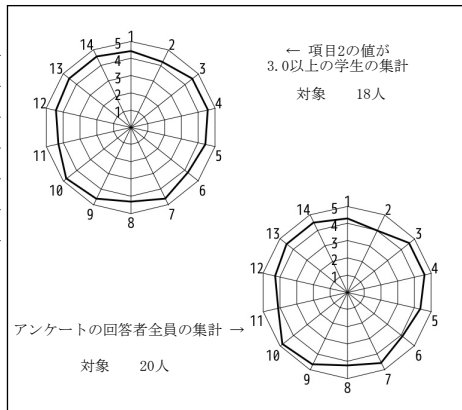
本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、項目3と8において、本授業の結果が下回った。項目3に関して、本授業は実習を伴うため、授業運営上、授業の終了時刻が定時にならない場合があったためと考えられる。学生グループによる各技法についての発表時間が流動的であることと、カウンセリング実習は、1クール約30分かかるため、授業運営が難しい面がある。今後、改善を検討したい。項目8に関して、対面とオンラインとを併用する授業運営だったため、オンラインによる授業環境を整えることに時間を要した場合があったことが影響していると考えられる。

それ以外の項目は全学の平均を上回っており、設問1~2、4~7、9~14の項目は0.2ポイント以上(特に、1~2、5~6、13~14は0.4ポイント以上)上回っている。これらの項目は、授業への関心、主体的参加、授業運営、到達目標の達成、適切な指導、理解の深化、全体的な評価に関することであり、現在のそれらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。設問5、6、13、14の評価を見ると、到達目標は達成されたと考えられる。

今後とも、運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	精神医学概説(精神疾患とその治療)
授業コード	23C78-001
教員名	中野 有美
教員コード	103995
登録人数	70
回答数	20
回答率	28.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

レーダーチャートはすべての項目で4点以上だったが、残念なことに、「6. 到達目標に向けて力がついてきていると思いますか(4.10)」が最低点であった。到達目標は次のように設定したが、15回の授業では賄いきれないやや現実的でない内容であったかもしれない。

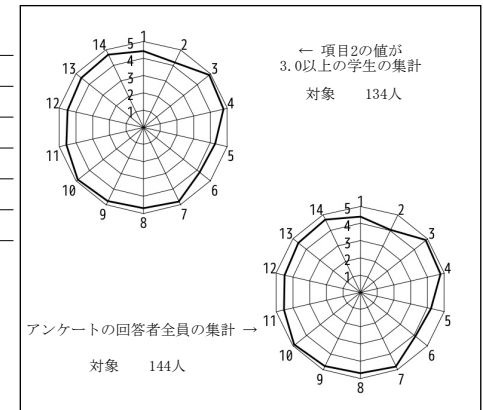
1. 各疾患の歴史、危険因子、診断基準、症状、治療、予後についての知識を持つ
2. 正しい知識を持つことにより精神障害への偏見を解消する
3. 症状の予防、改善、再発予防に役立つ心理社会的支援のあり方についての知識を持つ

実際の講義では、精神科疾患の疫学、症状、治療全般、予後について広く正しい知識を提供することで多くの時間を使ったが、例えば上記の2を実現するには、正しい知識を持つことだけでは到達することが難しく、疾患や障害を持つ当事者の経過報告や生き様を伝えるなどの工夫が必要であると思われる。3については、その点に焦点を絞った映像や詳しい資料を提供することに心がけることで目標達成を狙った。

今後は、到達目標そのものの妥当性を再検討するとともに、包括的に知識を教授することにとらわれすぎずに講義を展開していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文化学入門
授業コード	24C01-001
教員名	福本 拓
教員コード	104126
登録人数	178
回答数	144
回答率	80.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

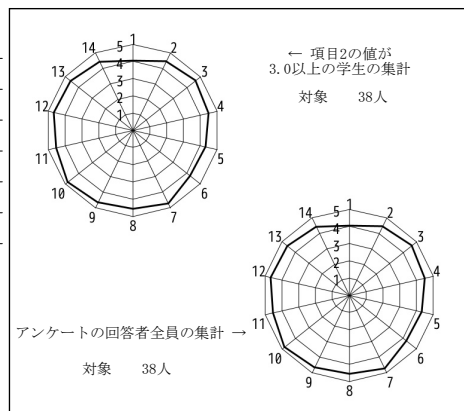
本講義は、全回にわたってオンライン講義で実施した。受講生の通信状況によって、しばしば遅延が発生したこともあり、オンライン環境でのリアルタイム講義の難しさはあったと思われる。一方で、自由記述でも言及されていたように、講義の動画（Zoomで録画）を授業後に公開したことは、通信環境に配慮した方策であったが、復習に活用できるという意味でかなり好評であった。窮余の策としてのオンライン授業とはいえ、予想外のメリットもあり、今後の講義でも活用を考えたい。

受講生からの評価としては、満足度(Q14)が4.69と平均を上回っており、また他の項目でもほとんどが平均以上であったことから、概ね良好だったといえる。ただ、相変わらず「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」(Q5)が4.11と低い。到達目標を都度示すなど、「どのような到達目標か」に見える化していく必要があるだろう。

自由回答では、Mentimeterを用いたアンケート機能を評価する声が複数あった。このサービスは、オンラインのリアルタイム講義においても、各人に参加意欲を持たせたり、他の受講生の存在を意識させられる点で有効であった。対面授業でも活用の方法を探りたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代日本とアジア
授業コード 24C14-001
教員名 松田 京子
教員コード 100789
登録人数 97
回答数 38
回答率 39.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

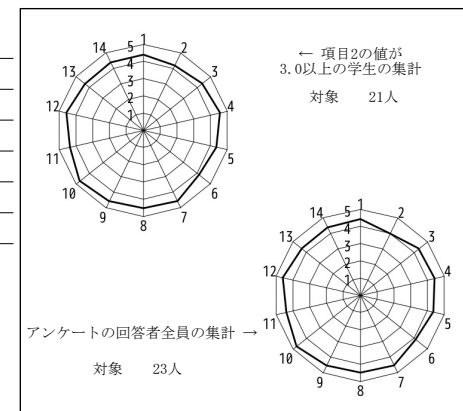
①この授業では、「近現代日本とアジア」という主題のもと、具体的には植民地期台湾、特に台湾先住民政策に歴史的な手法で焦点をあて講義形式で、オンラインでの授業を行った。主な教材としては、教員作成のプリントを資料DLサーバに毎回、事前にアップロードするとともに、パワーポイントを作成し、それへの解説を中心に、適宜、映像資料等も織り込みながらテーマを掘り下げていった。そして毎回、授業で扱った内容について考えた点や、一般的な質問・感想などを受講生全員にリアクションペーパーとして書いてもらい、webclassからの提出を求めた。そして次の授業の冒頭で、前回の復習も兼ねて、そこに書かれた感想等をいくつか紹介し、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。またオンライン授業であったため、新しい取り組みとして、授業中にこちらから質問を行い、受講生にチャットでの回答を求めるなど、受講生のより主体的な参加を促すための工夫を行った。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画は、ほぼ予定通り進行することができた。

②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法などについては、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問7の4.74、設問9の4.66、設問10の4.82、設問12の4.68、設問13の4.61という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。とりわけ回答数38人中の約3分の1にあたる13人の受講生が、自由記述欄にそれぞれの言葉で、この授業の良かった点を具体的に書いてくれたことは、大変励みになった。

③以上のことから、自由記述欄の回答でも、複数の人が良かった点として挙げてくれた毎回の授業冒頭でのリアクションペーパーの紹介と復習や、チャット機能を使った質疑応答など、より主体的な授業参加を促すための取り組みについて、一層効果的にいけるよう、さらに工夫していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 表象文化論
授業コード 24C20-001
教員名 坂井 博美
教員コード 102981
登録人数 72
回答数 23
回答率 31.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

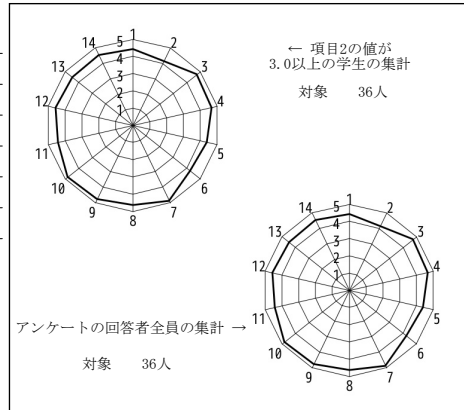


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標はおおむね達成されたと考える。今年度は全回オンライン講義を実施した。授業としては、パワーポイントでの講義を実施、毎回、小課題を提示し、授業後に提出をしてもらい、コメントや疑問等は抽出して次回授業で紹介、回答した。項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」は平均値4.61であり、一定程度効果があったかと考える。自由回答は、レジュメに掲載したもの以外の資料も多く提示された点がよかった等、視覚資料の紹介が多かった点について何人かの人が肯定的に回答していた。昨年度までも対面授業で資料提示を行ってきたが、オンライン授業では各自パソコン上で間近でみることができ、この点ではよかったと思われる。問題点としては、進行が少し早かったという意見と、パワーポイントの操作が不慣れである点の指摘があった。オンライン授業において、各自のメモ取りの速度等が確認できなかったこともあり、この点については課題として改善したい。最後に、オンライン授業上の操作ミス等もあったが、受講者から状況を教えてもらえたため対処できたことに感謝したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近現代小説研究
授業コード	24C37-001
教員名	岸川 俊太郎
教員コード	103907
登録人数	72
回答数	36
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2020年度Q4の開講科目「近現代小説研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

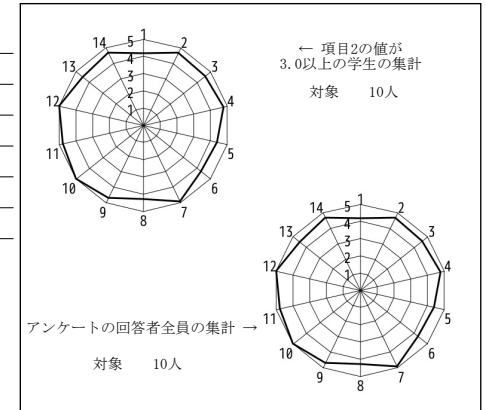
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5、設問6でそれぞれ、4.39、4.25という評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問2を除く全ての設問項目で全学部（全体）の平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.47、4.53という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、わずかながら全学部（全体）の平均値を下回ったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、理解が難しい概念的な事項についてはレジュメに詳しい説明を加え、学生の更なる理解に努めたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	漢文学研究II
授業コード	24C46-001
教員名	西岡 淳
教員コード	019315
登録人数	17
回答数	10
回答率	58.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、和刻本のテキストを用いて中国古典詩（宋代の詩）を読み進める内容である。主な到達目標は、漢和辞典を用いて適切な解釈ができること、韻文に特有の規則や語法を理解し、その上で作品の背景や作者の思考方法について考察し、日本文化研究に援用できること、などである。受講生には毎時間の下調べを課し、授業ではそれを元に担当者と応答を重ねながら、読み方や解釈を明らかにするという方法によった。結果は回収またはWebclassを通じて提出してもらい、点検のうえ次回までに返却またはコメントを付けた。毎回の提出物の出来具合から、受講者は問題なく到達目標に達したと思われる。注釈のない漢詩を読むというのは、受講生にとって非常にレベルの高い作業であるが、それを基本的にこなせるようになったというのは大きな成果と言える。授業評価の全項目の平均値は4.64で、比較的高い評価が得られた。低かったのは設問1（履修前からの興味：4.20）、8（声の聞き取りやすさ：4.30）で、1は仕方ないとしても、8については今後注意したい。自由記述では、「提出物のフィードバックがしっかりしている」「毎回同じパターンで行われるから予習がしやすかった」「色々な種類の詩を扱ったため新しく知ることがとても多かった」などの回答があった。こうした参加型の授業については、受講生の達成感が比較的高いのではないかという感触をもった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語学と日本文化

授業コード 24C65-001

教員名 平子 達也

教員コード 104112

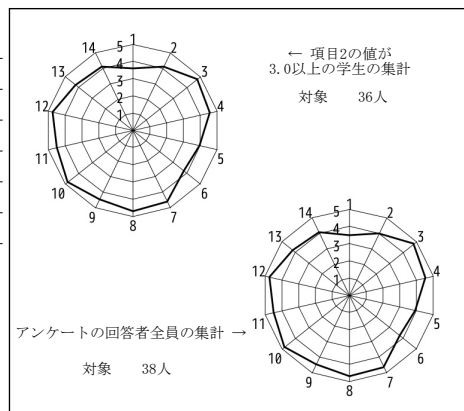
登録人数 71

回答数 38

回答率 53.5%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、「『おもしろさうし』を通して琉球・沖縄の言葉と文化について考えることができる」と「文学作品・文献資料を通して過去の言葉や文化に迫る方法について考えることができる」の2つであった。課題として、授業内容についての感想やコメント、あるいは、事前に論文などを読んで自分の意見をまとめてくることを課していた。これらの出来具合からして、多くの学生が、上記2点について考えようとしていたと思われる。よって、その点では目標を達成したものと考えている。

ただし、アンケート項目中「この授業の到達目標を理解することができましたか」「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目については、数値が必ずしも高くなかった。授業内でのコメントで、中間テストの実施などで理解度を確認するような仕掛けを作るようなリクエストがあったことから、何がどのようになれば良いのかについて、より明示的であって欲しいという学生の要望を示す結果なのだと考える。この点、今後の課題と考えるものの、必ずしも知識を習得すること、数値となって見えやすいものだけを「到達点」として設定することに私自身は違和感を覚えている。

今回の授業内容は、私自身も専門とするものではなく、その点で、自由記述欄に見るように教授内容に不満があったことは理解できる。ただ、誤解を恐れずに言えば、「授業をするならあくまでも教える立場として題材に通じているというテイをもう少し保ってほしかった」や「先生自身が授業ででてくる内容について、よくわからないというような様子もみられた。こちら側の理解度も低くなるので、一緒に学んでいくというスタイルは自分的にはイマイチだった」というコメントからは、知識を「与えられるもの」としてしか考えていない学生の姿勢がうかがえる。まず、そういった知識に関する認識を改めるところから始める必要があるように考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語の口頭能力研究

授業コード 24C68-001

教員名 岩崎 典子

教員コード 103983

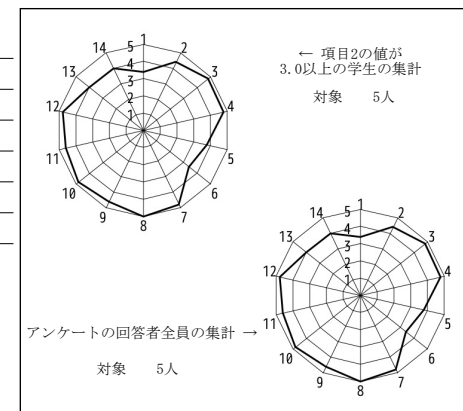
登録人数 9

回答数 5

回答率 55.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回この科目を初めて教えたが、目標設定が非常に困難であった。3-4年生だけが履修できる科目にも関わらず、前提科目がなく、言語学・日本語学・日本語教育・第二言語習得などの関係領域の知識がまったくない学生もいた。履修前の授業の内容への興味が3.4で、興味もあまり持っていなかったようである。そのため、手探りで到達目標を調整せざるを得なかった。現状ではどのような学生が登録するかによって到達目標を調整せざるを得ない。次回のカリキュラム改正の際は前提科目をいくつか設け、もう少し到達目標を明確にすることを考えたい。今回は幸い少数数であったので、面談で相談にのるなどして一人一人のニーズに対応したが、人数が多ければ当然難しいため、今後の課題である。また、3-4年生の科目であるので4年生が半数だったが、小さいながらもプロジェクトを行って結果をレポートにまとめるといった課題は、卒論提出の時期には難しかったようだ。今後は第4クォーターではなく、第1または第2クォーターに開講する意向である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A7
授業コード	31B04-007
教員名	TOLAND, Sean
教員コード	103616
登録人数	6
回答数	1
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

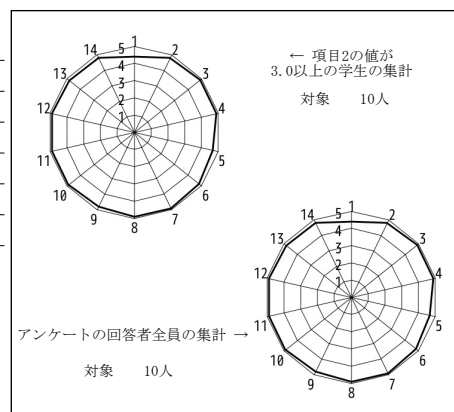
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The Special Topics in English: International Studies A course took place in a virtual learning environment. Five students actively participated in the weekly discussion tasks, delivered two presentations, and created their own learning portfolios. It is difficult to address any specific issues as none of the students completed the online survey. However, the goals of the course were achieved and the students appeared to enjoy learning with their peers, especially the interactive Zoom breakout room activities. I was impressed the Special Topics A students' adaptability, creativity, and willingness to communicate.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B<国際科目群> 2 (英米学科生用)
授業コード	31C17-903
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	24
回答数	10
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

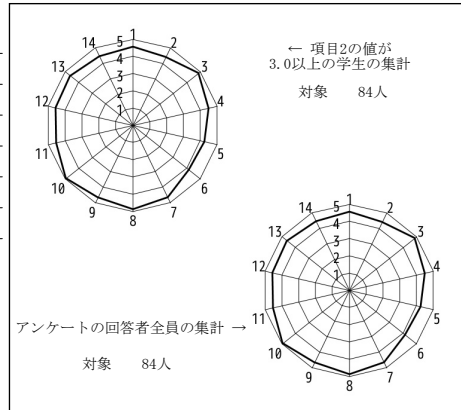


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course goals are to: (1) familiarize students with aspects of Australian identity through a variety of different perspectives; (2) use historical and contemporary materials, including film, newspapers, and books to give students the opportunity to consider the issues; (3) to offer different perspectives on "white Australia," Australia's convict past, and the challenges Australia faces in terms of social issues. The course used asynchronous and synchronous instruction. Dividing students into groups allowed me to focus on individual opinions, as noted in one comment. Attendance was high, and I was impressed with the level of student engagement. I reduced the number of assignments from previous courses to 4, which gave students the opportunity to absorb the material, which was sometimes complex. One comment noted the difficulty of some material; I may reduce the number of topics that are covered in future versions of this course in order to avoid confusion. Overall, the course went well. I was extremely impressed with a number of students from departments other than the British and American Studies department. Opening this course to such students benefits the entire group.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語研究の基礎
授業コード 31D01-001
教員名 今井 隆夫
教員コード 104239
登録人数 98
回答数 84
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

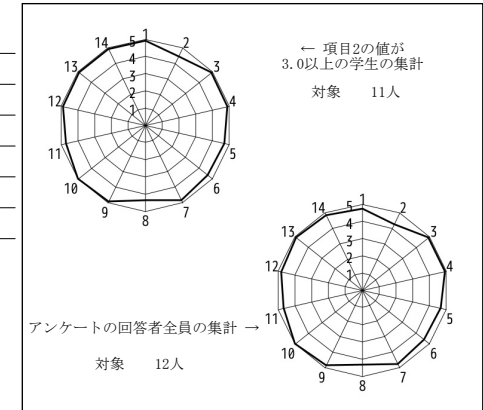
①2つの到達目標、「1) 言語研究の基礎の1つと言える、帰納的及び演繹的思考法について体験して、身に着ける。2) 言語学の知見を活用した言語教育/学習について理解し、自分自身の外国語学習に活用できるようにする。」は、学生のアンケート結果の数値とコメントから、ほぼ達成できたと言える。

②多人数のオンライン授業ということで、100名を25名ずつの4つのグループに分け、90×2時限を4つのパートに分け、各グループに交代でカメラオンで参加してもらい、他のグループはカメラオフで参加し、カメラオンの学生と教員に対話から学ぶスタイルを考えてみた。ブレイクアウトルームでの話し合いの機会も設け、大部分の学生には好評であり、新しい試みとしては、成功したと言える。1つ代表的なコメントを紹介する「良い点は二つあります。一つは顔出し交代制です。ずっと顔出しで疲れるという事もなく、発言の機会も与えられて、まだ本当の対面授業は体験したことないけれど対面授業を受けている感覚でした。二つ目はブレイクアウトルームの多さです。自分の考えた事に共感してもらえたり、他の人の考えを逐一知ることが出来て、理解を深めることが出来たと思っています。また、私は一年生なのですが、先輩と話す機会が多かったのも嬉しかったです。本当に頭が柔らかくて、沢山アイデアを出してくれて、先輩との交流には刺激をもらいました。また、私全体のルームで先生はどんな意見がでてでも否定せずに話を始めていらっやって素敵だなと思いました。安心感があるので、発言に関して抵抗感が全くない授業でした。」

③多人数の講義には、Zoomによるオンライン授業を行うことで、学生との対話型授業が可能になったので、来年もオンラインであれば、この方法を継続したい。改善点は、オンラインでの適切な評価方法である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米社会特殊研究B
授業コード 31E27-001
教員名 大井 由紀
教員コード 101888
登録人数 38
回答数 12
回答率 31.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

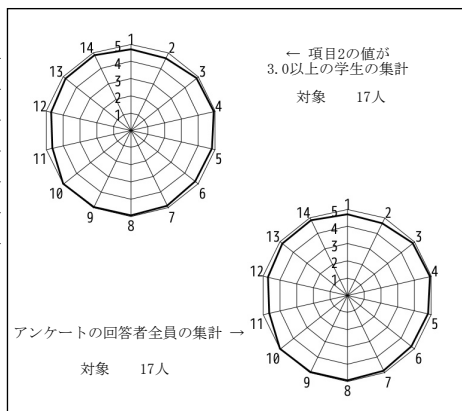
①目標と到達の程度については、シラバス記載の内容についてはすべてカバーできたこと、また期末課題で提出していただいたレポート内容から、達成されたと思います。

②資料・映像・アクティブだった点がよかったとのことでしたので、次回以降も続けたいと思います。と同時に、資料に関してはさらに充実・アップデートさせ、アクティビティもディスカッションだけでなく、さらに工夫したいと思います。

③毎回グループに分かれてディスカッションを行いましたが、ディスカッションを行うタイミングについて改善の余地があるかと思いました。今年度は、これから学ぶ内容について関心を喚起できるよう、新トピックに入った時点で行いましたが、学んだ知識・考えをさらに発展させるために、トピックが終わった時にも行うことも考えていきたいと思っています。次年度の授業形態がオンラインになるのか対面になるのか現時点でわかりませんが、それぞれの利点を生かし、参加者の主体性を引き出せるアクティビティにできたらと思います。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米政治特殊研究A
授業コード 31E28-001
教員名 平松 彩子
教員コード 103468
登録人数 35
回答数 17
回答率 48.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

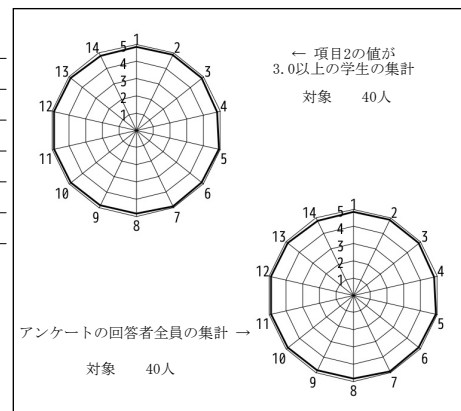
(1) この授業には次の3つの到達目標があった。(1) 現代アメリカ政治における二大政党の特徴と統治機構の運用について知識を得る。(2) アメリカ社会の多様性と統合の問題について、政治学の既存の研究に基づいて議論できる。(3) また英語ないしは日本語のいずれかを用いて、自ら問いを立て、読み手を説得する文章を書けるようになる。目標はいずれも十分に達成されたと考えている。

(2) クォーターを通してズーム上でリアルタイムの講義を行った。学生の側はカメラを基本的にオフにし、質問のある場合はチャットで送り、毎回の授業でコメントシートを提出してもらうようにしたため、教えている側からは授業中に受講生がこちらの話を面白いと思ってきているのか、あるいは飽きているのかの反応を即座に読み取ることはできず、不安ではあった。しかし評価を見ると総じて評価の数値が高く、自由記述にも「先生の授業の丁寧さ。平松先生の授業はどれもそうだが、先生自身が内容の知識をしっかりとっており不明な点は調べてわたしたちの疑問にどの角度からでも対応できるようにしてくれている。また内容解説がとても分かりやすい。」等、身に余る褒め言葉があったので、説明が伝わって、学生も面白いと思っていてくれたことを知り安心した。

(3) アメリカ政治が刻々と変化している中で、変わらないものと時事の変動の双方を結びつけた授業を、今後も行なっていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米コミュニケーション特殊研究B
授業コード 31E37-001
教員名 今井 達也
教員コード 102469
登録人数 98
回答数 40
回答率 40.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

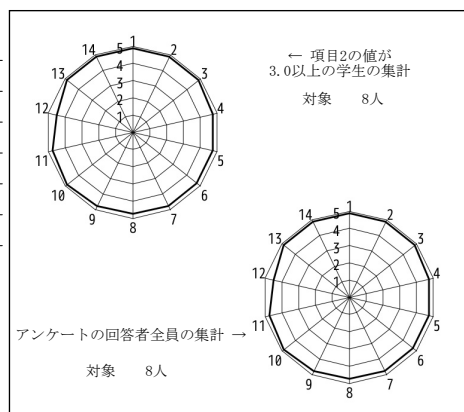


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
設定していた目標は、身の回りの偏見や差別の問題を、理論的に理解することにあった。授業を受けている学生の様子を確認したところ、特にグループワークを通じて、授業で説明した理論などをしっかりと応用している様子が見られ、ある程度目標は達成されたと感じる。期末レポートにもその理解の深さが伺えた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
数値としては他授業の平均を上回り、なおかつ自分の他の授業の評価よりも高かったので、良い指標になっていると思う。自由記述を読む限り、オンラインという状況にも関わらず、数多くの価値のあるインタラクションがあったようで、学びに対して学生が価値を見出してくれていたように思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
コメントの中に「就活を意識しすぎている内容があった」とあったので、就活のことも念頭に置きながらも、そこがこの授業のコアではなく、学びによる自己成長、そしてその先に就活にも応用できる点があるという姿勢で授業を運営していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語教育特殊研究B<国際科目群>
 授業コード 31E39-901
 教員名 SHILLAW, John
 教員コード 100560
 登録人数 13
 回答数 8
 回答率 61.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

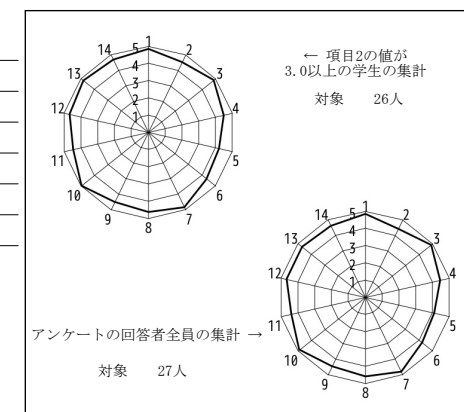


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I have to confess that I was not really looking forward to teaching this course online. The course was originally designed to be as practical as possible, requiring a lot of student to student interaction and discussion. Interacting through Zoom was not ideal by any means, but judging by the very positive evaluation from the students, the class went much better than I thought it would. For this, I have to give great credit to the students themselves. They were an excellent group who worked extremely hard individually and in groups, when called upon to do so. One advantage of using Zoom was that the students' presentations, which are an integral part of the course, could be recorded for both video and for audio. This made it easier for me to review the work being done and to give a better evaluation of the individual contributions to the planning and execution of the two tasks that students had to prepare and present on. If I had to teach the course again online, I would actually try to make the group work more time efficient. Working with breakout rooms in Zoom is not simple and it is easy to misjudge the amount of time that should be allocated to group interaction.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VIII[FS]2
 授業コード 11D08-002
 教員名 前田 明美
 教員コード 101377
 登録人数 29
 回答数 27
 回答率 93.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の予定どおりに進めた後、試験範囲を調整するため、学期末の授業を復習に充てた。予定を変更した点に指摘があったが、学生から再度説明を求められた項目を扱い、結果的に学習効果を高められたと考えている。

今学期は対面授業が実現した。毎回ペーパーによる小テストを実施できたことは、多くの学生が評価しており、担当者としても良かったと思う。通常の授業であれば、このような小テストの他に、学生に次々に板書してもらい、それにコメントを付けて解説する方法を取っているのだが、このような状況下では、板書は一部の質問に答える場合のみとし、学生は指定席に座ったまま、オンライン受講を選択した学生にも不利にならないよう、授業の大部分をZoom上で行った。自由記述でも指摘を受けたが、担当者自身、教室に来てくれている学生に対して、もどかしい気持ちであった。

一方で、授業内容や資料等は理解し易いとの評価をいただき、安堵している。設問5・6のポイントがやや低かったが、学生は皆よく努力し、スペイン語基礎文法の習得に向かって順調に進んでいるので、これからも自信を持って学習を続けてもらいたいと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語科指導法B
授業コード	15B62-001
教員名	泉水 浩隆
教員コード	102114
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価の対象となった科目は、初めて担当する科目であり、また、教職課程科目としても初めてのものであったため、内容・進度等、いずれも手探りで、受講生の反応を見ながら微調整を続けなければならず、どのような反応があるか気がかりでした。登録者数そのものが5名と少なく、そのうち3名のみからしか回答が得られなかったため、残念ながらレーダーチャートは表示されませんが、学生回答結果のエクセルファイルを参照しながら、所見を記します。

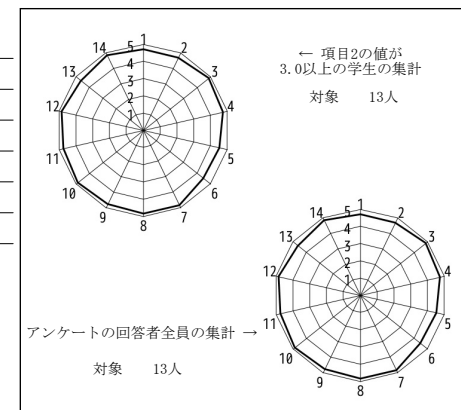
回答を記入した3名の受講生全員が、アンケートのすべての項目に対し、5 という回答だったため、当初予定していたこの授業の目標は達成されたものと考えます。授業進度・内容も想定していたことがらをほぼ予定通り扱うことができました。

「スペイン語科教育法」あるいは「スペイン語科教授法」という名称から「スペイン語科指導法」という名称に変わり、特に情報機器を授業の中で活用して指導することが求められているようですので、現在の社会的情勢も考慮に入れながら、音声分析や模擬授業、成績処理などを扱う場面で、実際にそうした機材を使いながら教育活動を展開することを意識させるようにしました。自由記述欄でも、よかった点として「情報機器の操作について再度確認ができたこと」という意見がありましたので、受講生の側にもその意図は伝わったようです。

いずれにしても、得られた結果を見る限り、特に大きな問題はなかったと言えます。今後も同様の方針を持続し、スペイン語教育への関心を高められるような授業にしていきたいと考えます。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	上級スペイン語IIA2
授業コード	32A19-002
教員名	ESCANDON, Arturo
教員コード	102090
登録人数	34
回答数	13
回答率	38.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

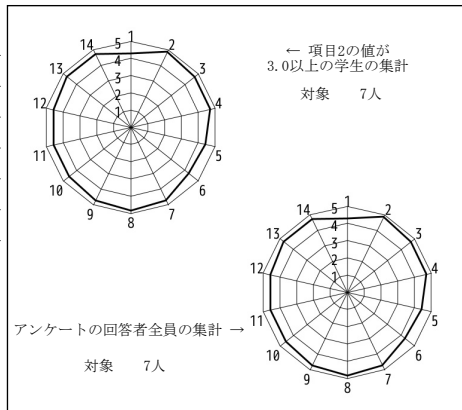
The course's goal was to have students reaching reading comprehension skills up to level B2 under the CEFL, and especially developing a taste for interesting readings and research. I believe the goal was reached.

Regarding the evaluation done by students about the course, I am glad that most indicators had a mean over 4.5 points, which is frankly quite good considering the course was delivered exclusively online.

The course is being reshaped. A colleague and I have conducted a thorough research on developing reading skills for this level and we are producing a textbook that could be used by students during next year.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語翻訳法II
 授業コード 32D11-001
 教員名 小阪 知弘
 教員コード 103689
 登録人数 14
 回答数 7
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

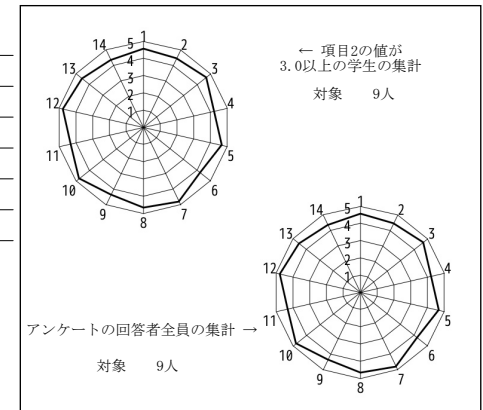


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、目標は予定していた作品を全て読了することができたので達成できたと判断している。また、到達の程度であるが、学生達がある程度、翻訳理論を把握することができたのでこの点も達成できたと判断している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価に関してであるが、全ての数字が4.0以上を記録しており、(8)「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」は、4.86という数字になり、(14)「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」に関しては、4.71という数字に達していることから、高評価を得ていると捉えることができる。ただ、自由記述については、解答がなかったため、次回からは学生たちに自由記述に関する解答も要請する所存である。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などについてであるが、改善点については、テキスト読解と理論把握との組み合わせをさらに進展させていく予定である。今後の抱負に関しては、日本語からスペイン語への翻訳について、さらに詳細にわたる説明をおこないたい。今後の方針に関しては、スペイン文学とラテンアメリカ文学のテキストを交互に読み進めていく講義形式をさらに深化させたいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語論文作成法II
 授業コード 32D17-001
 教員名 CARDENAS, Abel
 教員コード 017525
 登録人数 10
 回答数 9
 回答率 90.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



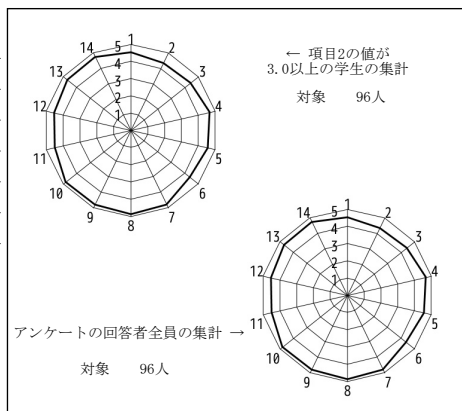
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main objective of this course was the development of knowledge and skills in the writing of academic papers in Spanish. This was achieved by an analysis and discussion of the characteristics and stages of the academic writing process, followed by several tasks, which allowed students to practice the different skills in writing their own academic paper. Students were also encouraged to review and improve their writing by following the feedback provided by their peers and teacher.

The results of the survey clearly show that students were extremely satisfied with the course. As can be seen from the radar chart and the table provided, all of the aspects included in the three major categories of the class evaluation received an average score of 4.53, which is higher than the average achieved by other courses in the department and across the university campus. In addition, comments provided by the students in the open-ended questions of the survey confirmed their complete satisfaction with the course. Among the positive aspects that were highlighted by the students were the ample opportunities they had to ask questions and as well as the fact that they were able to receive personal guidance as they were working on their graduation paper.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの文化
授業コード	33A06-001
教員名	齋藤 山人
教員コード	104150
登録人数	225
回答数	96
回答率	42.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

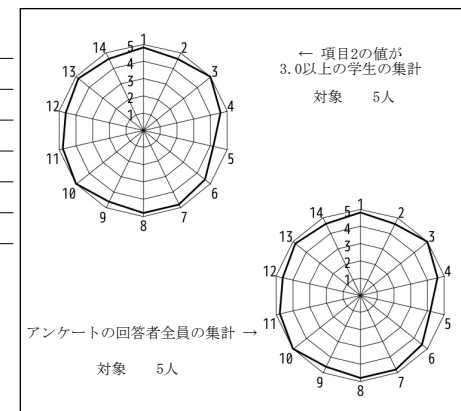


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① この講義は、フランスの文化を思想・文学・美術・映画・ファッションといった多角的な視点から紹介することを目指したものであり、受講者からのコメントを見る限り、当初の目標は15回の授業の枠内で十分に達成されたのではないかと考えられる。② 授業評価アンケートの結果を見る限り、満足度の高い授業を行うことができたと考えられる。学生の表情や反応が見えないために手探りしながら進むような授業であったが、画像や動画を織り交ぜつつ、なるべく学生の関心に訴えかけようとした努力は実を結んだと言えるのではないだろうか。③ 授業初回にオンライン授業についてのアンケート（持続可能な集中力についての質問を含む）を行ない、その結果に鑑みて授業時間を短縮する努力をした。多くの学生にとって、そのことは満足度の高い措置であったと考えられるが、一部の学生にとっては不満が残った可能性がある。その点は今後の参考にしたい。また、220人以上の受講生がある程度揃うまで授業の開始を待っていたことがあるが、そのことが授業開始の遅延とみなされてしまった可能性がある。その点についても、授業冒頭に前回の復習を丁寧にしったりチャットでの質問を受け付けるなどして、時間の浪費が生じないように対処すべきであったかもしれないと反省している。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IIIA3
授業コード	33A13-003
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	18
回答数	5
回答率	27.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

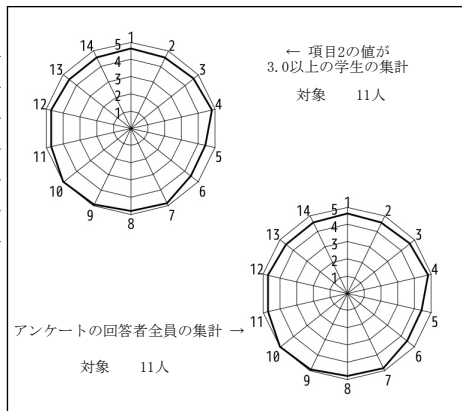


授業評価結果を踏まえた点検・評価

We, teachers and students, are facing a civilization change of paradigm. But only teachers are responsible in the educational changes in methods to maintain or recreate the motivations of the students. Considering isolated students doing homework, on one side, and suddenly in front of the others in a camera frame for an online course, on the other side, I chose, with the same French language book, to give many little exercises, generally easy ones, to help students to participate and succeed. I also proposed, with information posted in a homepage of the course, to link these exercises with news of French media, trailers of new movies, online papers or blogs about French society, culture and arts, particularly with humorous land art and street art. The weekly dictation, with previously studied vocabulary and grammar rules, was explained the next week with a phonetic approach : which sounds we hear could help us to know about grammar rules to apply, specially to remember mute letters to write. The involvement of the students, sometimes depending in the quality of their connection, has to be considered with kindness but inside some firm rules, explained at the beginning and written to be considered at any time. The goals we achieved were to give new skills by the book and to increase motivation in French language in spite of the difficulties.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス現代史
授業コード 33A25-001
教員名 平田 周
教員コード 103583
登録人数 39
回答数 11
回答率 28.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



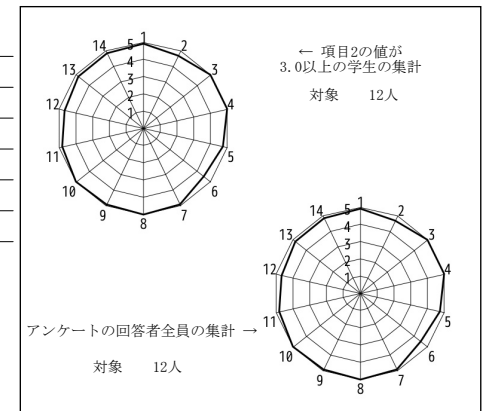
授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初は、教科書を用いたグループワークを中心にして、何回か反転授業を行い、それに対して、解説を加えていくという授業形態を想定していたが、オンラインに切り替わったことを受けて、私が話す講義に変更した。講義内容としては、現代のポピュリズムから出発して、第五共和政から始まる狭義の現代史を教えつつ、民主主義の問題を話すに当たって、フランス革命にまで遡って論じた。当初の授業計画と異なり、教員が話す機会が多くなったため、それを補うべく、2回ほど講義内容に関連する文献のレジュメを課した。最後に学生各自が課題で扱ったテーマとつなげるかたちで講義で扱ったテーマを総合的に論じるレポートを課した。現代の問題から出発して過去の歴史に遡り、現在の厚みを考えるという歴史学の営みをクラスで共有できたように感じられる。提出した課題に対して、どの学生もこちらの想定以上の高度な水準で課題を遂行した。

②③これまで私が受けてきた授業評価のなかでも高いものであるが、これも学生の熱心な取り組みなしには考えられないものである。振り返るに、授業準備に十分な時間が避けずに、ワードのレジュメ、パワーポイント、口頭での説明などの作り込みができていない回がいくらかあったので、十分な時間が取れるよう、自らの時間管理を徹底させたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事フランス語
授業コード 33C15-001
教員名 松川 雄哉
教員コード 103644
登録人数 22
回答数 12
回答率 54.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

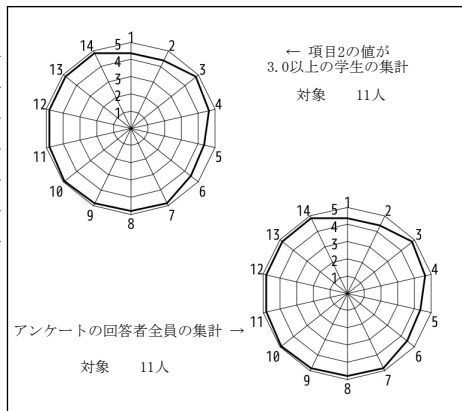


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、教科書がなく、出来るだけ新しいフランス語の新聞記事を取り上げている。今年はオンライン授業になったため、毎回課題として配布した新聞記事を読んでもらい、事前に用意した質問に答えてもらい、その解説を次の授業で行なうといった流れで授業を進めていった。まず、全体的な評価としては、平均値は高く、満足できる結果であったと感じている。開講当初の目的は、新聞記事を和訳以外の方法で理解することであった。そのために、フランス語で書かれた記事についてテキストマッピングやレジュメのトレーニングを行なった。アンケート結果を見ると、「項目5：この授業の到達目標を理解することができましたか。」の平均値は4.75であったため、学生達はテキストマッピングやレジュメをする意図は理解してくれていたと解釈している。ただ、「項目6：あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の平均値が若干低かった(4.50)。来年度は段階を設けて数多くの簡単なトレーニングをこなすといった、改善の余地があるだろう。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VIII<全>1
 授業コード 11C08-001
 教員名 水守 亜季
 教員コード 103678
 登録人数 11
 回答数 11
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

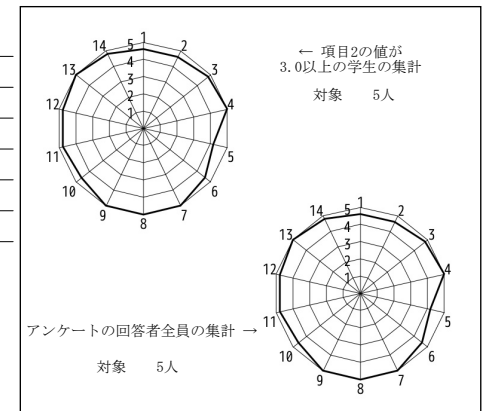


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。Q1にはオンライン授業に少々戸惑っていた学生たちも、今期までにオンライン授業で用いる様々なツールを使いこなし、学生同士で協力しながら楽しそうに課題に取り組んでいた。授業全体の満足度を問う設問(14)の4.82、設問(3)～(14)の平均値4.74、といった学生からの高い評価もその証左と言える。さらに知識の増加や理解の深まりについて問う設問(13)の4.82という高い数値からも、アクティブラーニングの効果を学生が実感したことがうかがえる。自由記述でも、ZOOMの画面共有や書き込み機能なども活用した自律学習の促進、他の学生との協働学習の機会を評価する声が複数あった。学生への配慮を問う設問(9)でも4.82の値が出たが、自由記述にも「分からなければヒントを出しつつ待ってくれた」、「積極性を強制することはなかった」、「生徒側の行動に沢山反応してこちら側の可能性を伸ばすイメージで話してくれた」、「学生の理解度に合った丁寧な指導を行っていた」など、学習者中心の授業を実感してくれたことがわかる声があった。学生の不安と負担を軽減するために、毎回の授業後にまとめのプリントを電子データで配布したり、授業後、またはメールやオフィスアワーで学生の相談を随時受け付けたりと、工夫をした効果もあったようだ。今後も状況に合わせて学生の学びの環境を整えるために努力を続けていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い<国際科目群>
 授業コード 13B01-901
 教員名 RIESSLAND, Andreas
 教員コード 101252
 登録人数 7
 回答数 5
 回答率 71.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

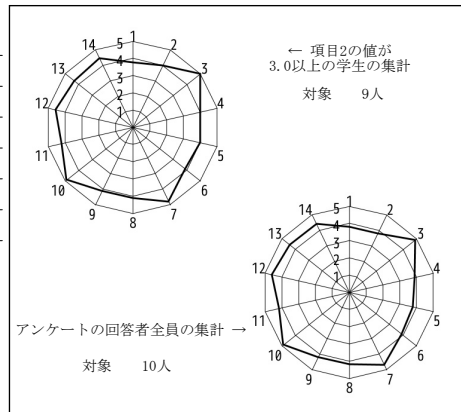


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course was for the participants to develop a better understanding how Japan, its culture and its society have been perceived by non-Japanese observers over the last 500 years. Judging from the participants' responses during class, in their evaluation and in their course contributions, this aim has been reached to its fullest. As in the years before, the evaluation score is solidly above the university average, and I see this as an expression of the participants' satisfaction with both course format and contents. Given the difficult conditions under which courses were conducted this year, I am particularly pleased that the efforts to supply the participants with a stimulating and intellectually satisfying online environment has met with obvious success.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎演習II (言語文化)
授業コード	34A06-001
教員名	PETERSEN, Esben
教員コード	103814
登録人数	29
回答数	10
回答率	34.5%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

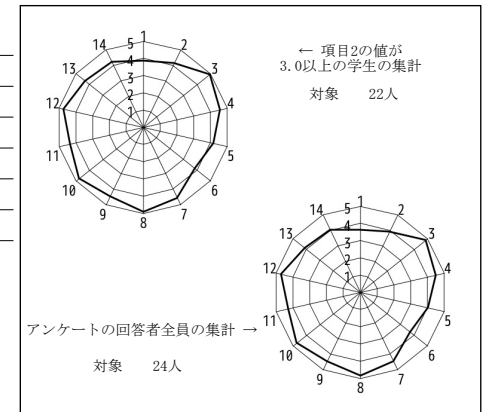
I am grateful for the constructive feedback that some of my students has provided. I taught the course for the first time and overall, I am pleased with what the students have answered.

I am glad to see that the class was happy with me as a teacher. The high average in question 7, 12,13, and 14 reflect this. Also comments like [学生たちで話し合う時間を頻繁に設けていて、十分に意見の交換ができたこと] and [レポートの作成に関するポイントを解説してくれた点。これからレポートを書く機会が増えると思うので、とてもためになった.] Shows that the student learned the central points of this course which is on how to study critically and write an academic report. The goal of the course therefore seems to have been fulfilled.

Like in many other courses of this year, there was a big transition from direct classes to online classes. This transition also meant that some adjustment had to be made to the original syllabus. This transition did not always work well but technically and structurally. This can in particular explain the lower grades in question 4 and 5. The student complains [ブレイクアウトルームなど、何をするのかかわからない時間が多かったように思う] and [少しパワーポイントの文章が読みづらい箇所があった点], both, I think, reflect this problem. I am aware of these points myself and will try to improve this in the future. Overall, I am happy with how the course went. I want to thank the students for having shown online in class every time participate actively. This has really helped making a great class.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ史
授業コード	34A15-001
教員名	岡地 稔
教員コード	015206
登録人数	74
回答数	24
回答率	32.4%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業はドイツ学科社会専攻2年次生の必修科目であるが、文化専攻の学生と外国語学部他学科生にも選択科目として開講されている。オンライン授業となったため、当初の予定を変更して、ドイツ近現代史を概観することを、授業前のスケジュール表において、また第1回授業のさいに説明し、受講生に了承を求めた。到達目標は、ドイツ近世・近現代史の基本的な流れを把握することができるようになる、としたが、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」の評価平均値は4.04であり、まずは受講生に理解されたと思われる。②設問(3)～(14)の平均値は4.40であり、全体として及第点と思われる。授業内容・進め方については、設問(7)「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることはできましたか」が4.46、設問(9)「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」が4.46、設問(11)「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」が4.29、設問(12)「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」が4.71で、総じて好評価を得た。自由記述欄でも、批判的な記述はまったくなく、「先生が一方的にお話をされるのではなく、要点を生徒に当てる形式であったので、授業に参加していることがより感じられ、毎回充実していた。」「適宜私たちに質問を投げかけてくれて、分からなかったらその場で詳しく説明して下さって理解しやすい授業の運び方だったと思う。」「プリントの穴埋めの箇所などは板書の代わりに、ホワイトボードを使って書いていただいたため、聞き流すこともなく、授業に集中できた。」「資料も見やすく、インターネットの接続も問題無かったのでオンラインでも受講しやすかったと感じました。」など、これも好評価を得た。③次年度がどのような授業形態になるか不明だが、引き続き研鑽を積んでいきたい。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語通訳法
授業コード 34D08-001
教員名 太田 達也
教員コード 101967
登録人数 18
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の「ドイツ語通訳法」の授業は、14回のZoom授業と1回の自主学習という構成とした。Zoomの機能を最大限に活用し、マイクをオフにしてのシャドーイング練習、ブレイクアウトルームに分かれてのペア練習、また3人以上のグループに分かれてのインタビュー通訳実践練習など、多様な練習形態を取り入れて授業を進めた。「①開講当初に設定していた目標と到達の程度について」については、ほぼ達成できたのではないかと思う。履修者たちは「日常的な話題および平易な時事的話題についてのドイツ語から日本語／日本語からドイツ語への逐次通訳ができる運用能力」を、程度の差こそあれ概ね身につけたと言える。「②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価」については、ほとんどの学生が脱落することなく積極的に授業に参加し、自主学習時間および学期末課題のいずれにおいても完成度の高い課題を提出していたことから、学習意欲を一定程度、促進することができたのではないかと考えている。「③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など」については、今後オンライン授業ではなく教室での授業となっても、Zoom授業で行ったのと同様のさまざまな練習形態を取り入れたいが、人と人が近距離で話し合う通訳練習という特質のため、コロナウイルス感染拡大予防との両立をうまく考えていく必要があると認識している。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 演習VI3
授業コード 35A27-003
教員名 間瀬 朋子
教員コード 103607
登録人数 6
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

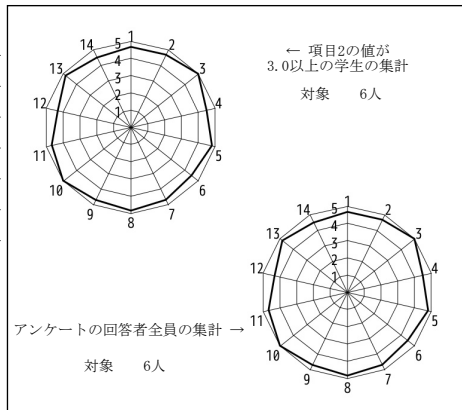
「庶民の目線からとらえるインドネシア」がサブタイトルの4年生演習で、現代インドネシアの社会問題に関する卒業論文を完成させることを到達目標とした。(特別な事情があり、卒業を来年度に延期する意向の1名以外の)履修生はみな、これを完成させることができた。完成までの取り組みはおおむね良好であった。履修生たちは、教員とのやりとり(教員からのコメントや修正要求にこたえる作業)を熱心に繰り返し、粘り強く論文に取り組んだ。自分以外の履修生のテーマと接する中で現代インドネシアへの知見を広げ、テーマに沿って論文を仕上げるスキルを身につけた。

Covid-19パンデミックの状況が刻々と変わり、予定していた2回の対面授業は履修生たちの要望にもとづいて取り止め、オンライン授業に切り替えた。しかし、対面授業と変わらず活発に議論できる、資料を画面共有してじっくりとみられるなどの理由で、オンライン授業という形態に目立った不満は出なかった。教員としても、とくにやりにくさは感じなかった。

段階的に、具体的に修正提案を出して、履修生のモチベーションを高めていけるかどうか、卒論の完成度を左右する、と実感している。個々の履修生の状況を把握し、かれらが大学における学業の集大成としての卒論をよりよく仕上げられるよう、今度一層努力したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国の現代事情1
授業コード 35B04-001
教員名 松戸 庸子
教員コード 100087
登録人数 12
回答数 6
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

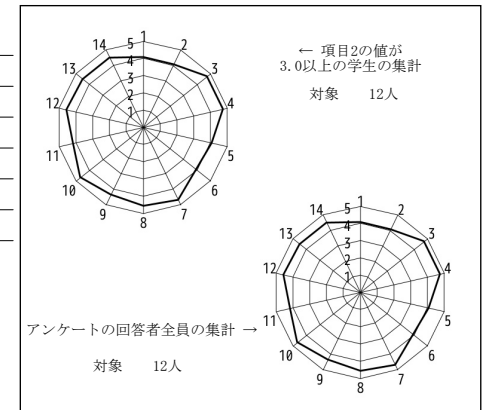


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この科目はアジア学科の2年次生を対象とした科目で、発音記号が付いていない中国語の文章（表意文字である漢字のみ）を教材として読解力と発音能力の向上を目標とし同時に、科目タイトルにあるように「中国現代社会に関する理解」の向上を図ることを目指した。特に到達目標として、ほぼ毎回、前回学習済みの教材の朗読させて発音（発音表記のついていない漢字を読み、発音も矯正）のチェックを行った。朗読の力に関しては受講生12名全員がAあるいはA+の評価で、この点では授業目標は達成された。読解力については、最後の日に、授業開始に発音表記のついていない文章を使って試験を行った。「長文の要約」と「現代中国社会に関する論評」が課題であった。受講生の一部は、読解力と知識の不十分さは露呈したが、総合点としては全員がA以上の評価に値する力をつけることができたかと判断している。
- ②項目1～14も、項目3～14の平均値もいずれも4.69で、アジア学科及び外国語部の全学科のそれよりも高い数値となったので、まずまずの授業ができたと考え（ただし、受講生12名中回答者は6名に過ぎなかった点は割引く必要がある）。特に項目番号12「質問や相談の機会が十分にあったか？」は評価の平均値が最低で4.33と低かった。ZOOMによるオンライン授業に終始した点が原因かと考える。
- ③今年で定年で来年度の授業は無い。オンライン授業に関しては、学生からのフィードバック点を重視した授業にすることの必要性を認識した。
- ④その他：自由回答に2名が回答を寄せており、いずれも「教科書の補足説明が多くなされて、中国社会に関する知識が広がった」とか「豆知識が聴けて楽しかった」という回答があり、科目目標の一部は達成できたと考え。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語学研究
授業コード 35C12-001
教員名 鈴木 史己
教員コード 103651
登録人数 39
回答数 12
回答率 30.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

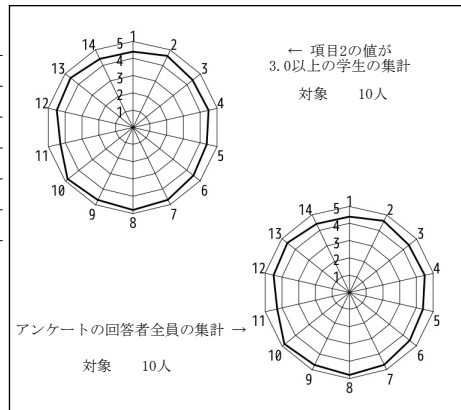


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本科目の目標は、現代中国語の文字・音韻・語彙・文法・方言に関する基礎知識を身につけ、あわせて古代から現代に至る歴史的な変化や日本人・日本語との関わりについて初歩的な知識を身につけることである。はじめに他言語と比較しながら中国語の特徴を示したうえで、上記の5つのテーマに分けて講義を進めた。受講生の負担を考慮し、Zoom授業を1時間程度に制限したが、要点を伝えることはできたと考えている。
- ②設問1・2は受講生自身の興味・態度を示しているが、この設問の評価の低さが設問5・6の評価に直結しているように感じる。外国語を身につけるうえで必要な知識を提供しているつもりだが、興味も予備知識もない受講生に伝える工夫がより必要だと考える。自由記述にあった「授業時間内に説明が間に合わなさそうになり、早足で説明することが度々あったので、講義一回で進む範囲をもう少し短くしてもいいのではと感じた」というコメントについては、事前にZoom授業は時間を制限してレジュメの要点のみを説明することを伝えたい。
- ③上述のとおり、本科目に対する意識が低い学生に対して何をどのように伝えればよいかという視点がより必要だと考える。来年度に向けて授業内容と資料を見直していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 華人社会研究
授業コード 35C20-001
教員名 張 玉玲
教員コード 101049
登録人数 28
回答数 10
回答率 35.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

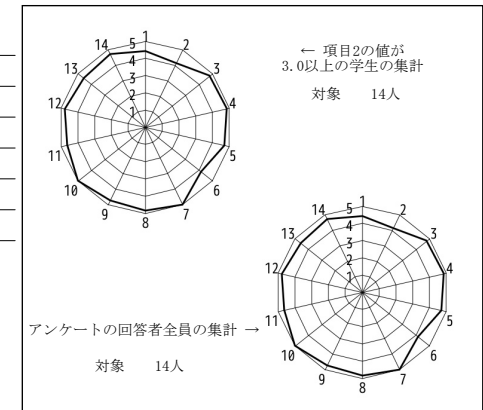


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 対象授業では、各地の中国系移民の発生や華人社会の形成・変容および母国（故郷）と居住国との相互作用の諸相をいくつかの国・地域を取り上げ、華人社会が「中華性」を保ちつつ、居住国の一員としてほかの民族・文化集団と共生していく可能性について考察するものであり、a. 華人の移住要因について、送り出し側と受け入れ側の両方から理解すること、華人社会の形成・構造・変容について、華人を取り巻く国際情勢など多角的に分析できること、c. ある国・地域の華人社会に焦点を当て、問題を発見し、自分の見解を加えながら考察できることを目標として設定している。この三つの目標はほぼ達成できたと思われる。
- ② 受講生からより高く評価されたのは、授業に関する豊富な一次資料や関連情報であるように思われる。今年度は、海外の大学からオンラインによる公開授業も取り組んでおり、受講生がより多角的に授業内容を理解できたのではないかと考えている。
- ③ ②の取り組みを今後も続けていく。一方、二時間連続の授業は受講者にも負担が大きいようで、次年度から授業形態など工夫する必要があるように思われる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア文化研究
授業コード 35D12-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 23
回答数 14
回答率 60.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

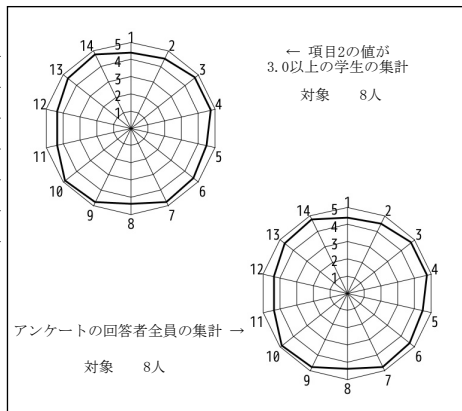


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業は講義および演習形式で行われる。授業で紹介する様々な文化を知ることによって、受講生はインドネシア全体に関する理解を深める。異文化についての知識を高め、異文化への意識を研ぎ澄ませるための一つの方法は、比較にある。この授業では、自文化（＝日本文化）と他の文化（＝インドネシア文化）との比較をグループワークの形式で実施する。到達目標は異文化（インドネシア）を意識し、それに対するじゅうぶんな知識をもっている。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
到達目標に関して、学生は十分に理解し、十分に得たと思う。「映像や写真が豊富で、異文化理解というこの授業の目的を大いに達成することができたと感じた。」という評価もあり、「この授業の到達目標を理解することができましたか。」に対する回答平均値は4.71というデータもある。それに、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」と「授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていきましたか。」に対する回答平均が両方とも 5.00、と全体的な回答平均が 4.00以上というのはありがたいことであり、今後の力でもあると思う。
- ③ 今回の評価データを基にして来年度の本授業をより良い実を結ぶ授業になればと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(アジアの社会人類学)2
授業コード	22C70-002
教員名	宮脇 千絵
教員コード	152580
登録人数	30
回答数	8
回答率	26.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

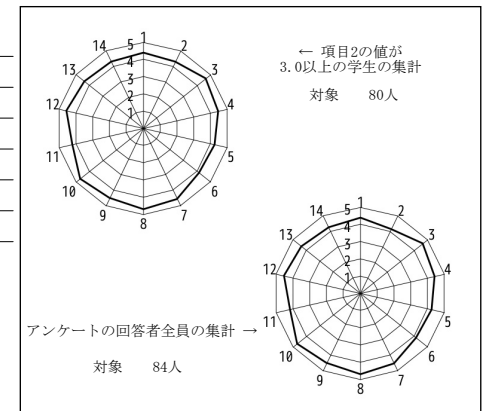


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義は、講義および演習形式で、現代中国における移動と人びとのつながりを文化人類学の視点から論じることを目的に、論文講読や映像鑑賞も交えながらおこなった。今回は特に中国国内の労働移動による経済・地域間・民族格差問題や、チベット難民の亡命移動によって引き起こされるナショナリズムに焦点を当て、国家や社会と人との関係やつながりについて議論をおこなった。出席率もよく、zoomのブレイクアウトルームに分かれてのディスカッションやそれを踏まえての小レポートでも積極的に意見交換ができ、理解を深める助けになったと思う。
- ②3週にわたって授業評価への入力呼び掛けしたが、全体の三分の一の回答に留まった。全体的におおむね良い評価を得られたと思う。自由記述欄でも「レポート課題の作成によって自分の考えをまとめ直す事ができた」、「やる気を引き出してくれた」等のコメントを得られた。今年はzoomでの授業だったので、講義、論文講読、映像鑑賞、ディスカッション、レポート執筆とメリハリをつけた内容を心掛けたため、飽きずに取り組めたのかもしれない。一方でディスカッションや映像鑑賞のときに、ネット環境が悪くなることもあった。
- ③今年は急遽オンライン用に内容を組み立てなおしたため、急場しのぎの側面もあったが、論文講読やディスカッションを踏まえてのレポート執筆など、自らで考える時間を取れたのはよかったと思い、今後も取り入れていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済統計論A
授業コード	40D13-001
教員名	宮崎 浩伸
教員コード	101892
登録人数	242
回答数	84
回答率	34.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

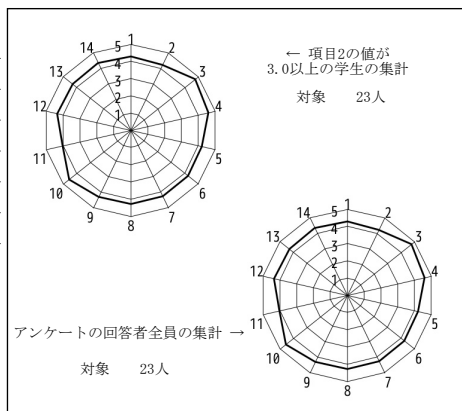


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- オンラインでの授業となり、学生からの授業評価がどのようなものか心配であったが、開講当初に設定していた目標に対する到達度としては、まずまずの結果であったと思う。今回の授業評価結果は、設問3～14の平均値が4.43、設問1～14の平均値が4.41であり、対面授業での授業評価と比べても、むしろオンラインの方が評価が高かったようである。
- しかし、個々の授業評価項目では、設問6, 11が低い値となっており、何らかの対策が必要である。そこで、今後の改善すべき点としては、以下の2つが挙げられる。
1. 授業の到達目標を理解し、到達目標に向けて、力がついてきたことを実感してもらおう。
 2. 学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導・情報提供を行う。
- これらの課題には、到達目標をその都度、授業の中でも繰り返し、例えば、新聞記事を活用して、理解が深まったことを確認すること、またwebclassを利用して問題演習に取り組んでもらい、各自の理解度を確認してもらおうことが有効と思われる。
- 自由記述欄では、「Excelを使った計算では、計算式も見える形になっていたので理解しやすかった。」、「参考資料が多くて分かりやすかったです。」、「白板を使って、難しい所を分かりやすく説明していた点良かったです。」等の肯定的な意見をもらったので、これまでのような授業運営で進めていきたいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析B
授業コード	40D20-001
教員名	吉根 勝美
教員コード	018358
登録人数	68
回答数	23
回答率	33.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、1年次必修科目「データ処理入門」の後継科目に位置付けられ、表計算ソフトウェアの基本操作に習熟し、経済統計データのさまざまな分析手法を理解することを目標として、すべての授業をオンラインで実施した。提出されたレポートのうち約8割からは、授業内容をそれなりに理解している様子が窺える。

設問(1)～(14)については、設問(11)「学習意欲、授業参加や自主学習の促進」に対する回答の平均値4.04は、他のすべての設問で4.2以上あるのに対し突出して低かった。

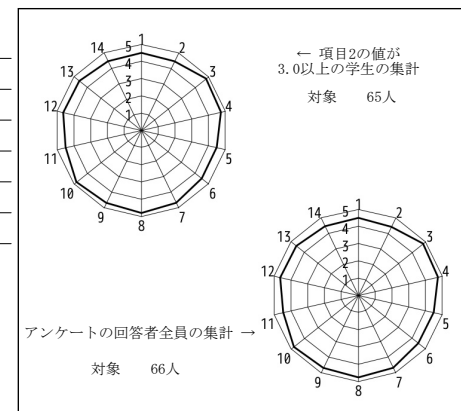
自由記述の回答については、改善点の指摘は特になく、良かった点として「分かりやすい・理解しやすい」旨の回答が3名からあったほか、授業内容、オンライン授業について、それぞれ1名から良かった旨の回答があった。理解しやすい理由として、毎回の自習・演習の資料が充実していることが挙げられていたが、一方で「学習意欲、授業参加や自主学習の促進」に対する評価が低いのは、受講者によっては、資料の分量や難易度が合わないと感じるからだろう。

オンライン授業は、授業開始40分間ほど各自で自習してもらい、その後オンラインで解説する形式で行った。この進め方が効率的で良かったという回答があったのは、コンピュータによる演習が不可欠な本授業では、この進め方が適していたからなのだろう。

今後、対面・オンラインに関わらず、多様な受講者に対応できることと目指して、教材の改善を引き続き行いたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	金融論B
授業コード	40D29-001
教員名	都築 栄司
教員コード	103265
登録人数	198
回答数	66
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初に予定していた講義の内容は過不足なく取り扱うことができた。また、中間・期末レポートの結果から、大半の受講生が当初予定していた到達目標に到達できていることが分かる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

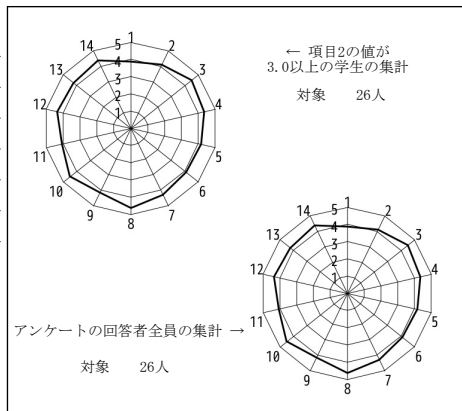
この科目の受講には若干の数学的な予備知識が要求されるため、数学を用いた議論が苦にならない人とそれを苦手とする人とで、理解の速さに差が出ることは仕方がない。この点については、シラバスや初回のガイダンスで十分にアナウンスしている。毎時限、理解度の確認のための練習問題を配布しているが、授業内で解説をするだけでなく、各自が理解の程度や速さに合わせて学習できるようWebClassを活用している。講義資料は、煩雑にならない程度に、各自で自習ができるよう、幾分詳細な内容も反映した作りとしている。これは好評のようなので続けていきたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

分析方法それ自体の理解度は十分であると思われるが、その実際問題への応用については、時間的な制約もあり、詳細な内容にまでは踏み込むことができなかった。吸収した知識をいかに身の回りの事柄に役立てられるかは、学問を習得するうえで最も重要なことであると思われるので、今後はそのような内容をさらに充実させていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会保障論B
 授業コード 40D39-001
 教員名 神野 真敏
 教員コード 103880
 登録人数 90
 回答数 26
 回答率 28.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、到達目標として、社会保障を経済学的な視点から理解でき、その存在意義や問題点を自らの言葉で説明でき、そのうえで望ましい社会保障制度を自ら考えられるようになってもらえるように心がけました。

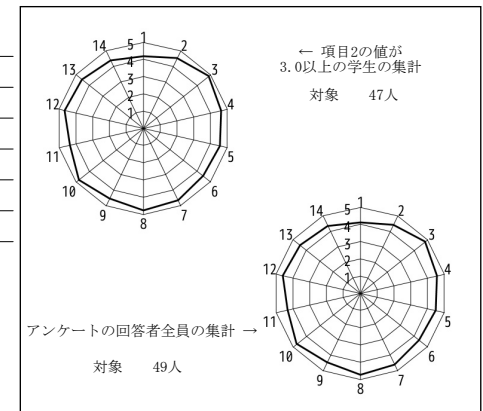
そして、今回の評価を見ました。設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」の結果をみると、あまり本講義に興味を持っていなかったことが示されています(3.88/4.18。以下、本講義/学部平均)。社会保障という性質上、現役世代に属する皆さんの興味がないのも、致し方ないと思います。

そのような中、皆さんのこの講義の到達目標への到達度具合の指標となるのが、設問6「あなたは、この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の結果になります。これをみると、まだまだ皆さんの理解を引き出せず、講義をする力が足りないなど実感しています(4.12/4.20)。さらに、設問11「学生の学習欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」という設問の結果は4.08/4.17と、この項目も低くなっていました。この二つの設問の結果から、今後の改善点として、積極的な授業参加を促せるような、あるいは自主的な学習を促せるような、講義内での工夫がさらに必要だと理解しました。今後、この点に絞って改善していきたいと思います。

ただ、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の結果は、4.38/4.26と、平均よりも高い評価をしてもらいました。これを維持、さらに高められるよう、今後も改善に努めたいと思います。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済学B
 授業コード 40D45-001
 教員名 實多 康弘
 教員コード 100751
 登録人数 158
 回答数 49
 回答率 31.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

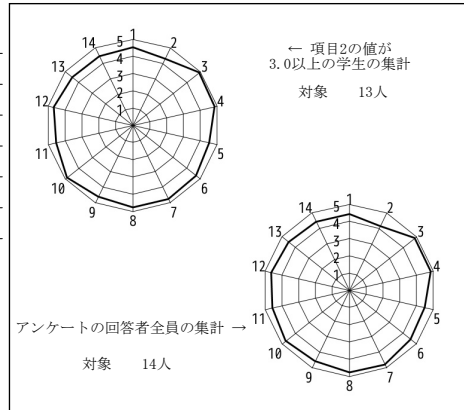


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回初めて担当した講義で、国際経済学の学部専門科目である。国際経済学Bでは、国際金融・国際マクロ経済学に焦点を当てており、マクロ経済学や国際経済入門の知識をある程度前提としているが、特に重要な点については復習をしっかりと行った。オンラインでの講義となり、Q1での試行錯誤の結果、Zoomのホワイトボードに手書きで書き込んで講義した。手書きの講義ノートは、講義資料としてアップロードした。学生からの記述評価で、スライドを事前に配付・印刷して書き込むような授業よりも、集中して聴くことができ、また、アップロードした講義資料で自分のノートを改めて確認できて復習ができた、と高い評価を得た。そして、開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。初めて担当したこと、オンラインであることから、内容を絞り込んで講義を行った。その結果、授業の内容と進行速度について高い評価を得た。また、理解度の確認のためのレポートを課して提出を求めた。提出後に、授業内で解説を行った。質問も多くあり、チャットなどのすべての質問に丁寧に対応した。全体的に非常に高い評価を得たので、今回の授業を、オンライン授業だけでなく、対面授業でも生かしていきたい。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋経済史B
授業コード	40D61-001
教員名	梅垣 宏嗣
教員コード	102397
登録人数	52
回答数	14
回答率	26.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

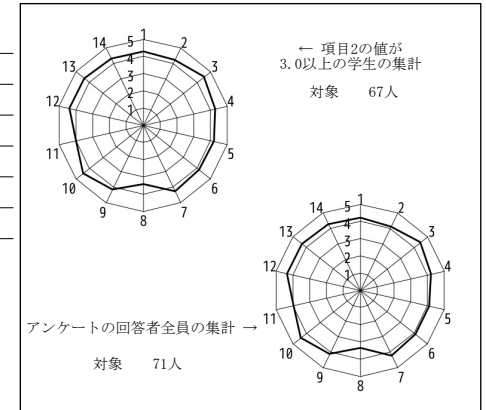
結果として出ている授業評価の数値等に関しては、大きな問題は見当たらない。ただし、回答者数が決して多くないことから、おそらく毎回授業に参加してくれている学生のみが回答しており、何らかの不満があって授業に参加しなくなった学生の意見はこの結果に反映されていないものと考えられる。よって、根本的な問題として、より多くの学生が授業に参加し、授業評価を入力してくれるよう、魅力ある授業内容にしていかなければならない。

この授業では、西洋経済史における代表的な論点を中心に、成績評価の対象とはならない3問の例題を課し、提出された回答に対して助言コメントを返すという形を採り、さらに、成績評価の対象となる期末レポートは、この3つの例題をもとに出題した。そして、少なくとも、例題に真剣に取り組んでくれた学生に関しては、助言コメントを期末レポートの内容に真摯に反映させており、理解を深められたものと考えられる。

今後の課題としては、冒頭で述べた課題を克服するため、授業への参加意欲を一層高めるために、西洋経済史の講義として「教えるべきこと」のみに拘泥するのではなく、学生にとってのフックとなるような話題をも盛りこんでいきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	消費社会論B
授業コード	40D69-001
教員名	阪本 俊生
教員コード	017020
登録人数	206
回答数	71
回答率	34.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

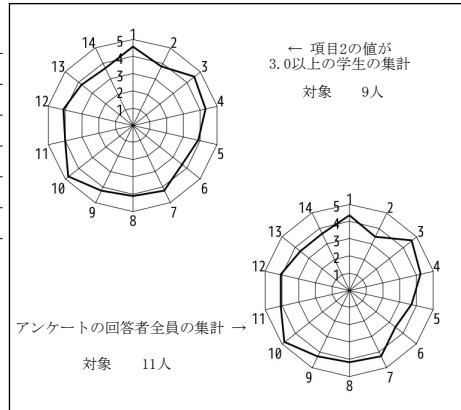


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初、目標としていた内容を講義することができ、また期末レポートからは学生の大多数が概ね、こちらが求めていた内容の理解に達していることを確認できた。したがって、到達目標は達成されたと考えている。このことは、質問の項目番号5、6、13がいずれも4以上であったことにもあらわれている。②全体としての満足度が4以上であり、開講主体のほぼ平均的な数値であることから可もなく不可もなくといったところである。個々の項目で4未満であったのは、項目8と11である。8についてはインターネットが途切れるトラブルが2度ほどあったためであろう。1度目はWi-Fi環境を変えるなどして対応したが、1度はコンピュータのファイアウォールの影響であり、不測の事態であった。11については、大人数の説明中心の講義であることから難しさもある。参考文献を紹介するなどおこなったが、学生の関心には合わなかったのであろう。③オンラインが来年度も続くなれば、今度は途切れることのないよう対応したい。また、学生の関心を引き出すよう、教材をさらに充実させることなどを検討したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学B4
授業コード	12C09-004
教員名	井岡 佳代子
教員コード	103647
登録人数	26
回答数	11
回答率	42.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

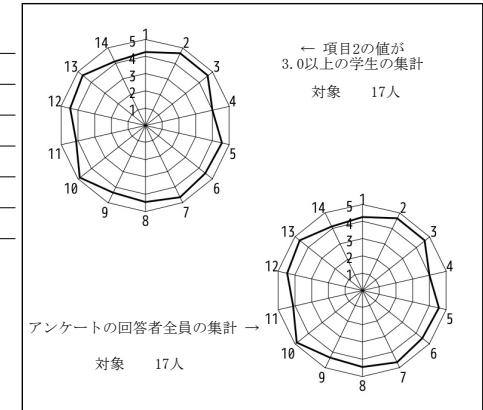


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当該科目は、オンライン（リアルタイム）での授業を実施した。対面方式で実施予定であった授業内容に加え、WebClassを最大限に活用するために、初回の授業においては、生徒の興味や関心に関する調査を実施し、その後においては、講義内容に関する質問や感想を投稿してもらうようにした。授業は、その結果を踏まえて進めた。授業内容については、経営学における代表的な事例として、主としてアメリカの企業を取り上げ、現状の組織や戦略について、わかりやすく説明した。さらに、そのような現状に至った歴史的経緯を理解してもらうことにも努めた。その結果、履修生の理解度を確認しながら講義を進めることができたことで、開講当初に設定していた目標と到達の程度は達成できたと考えている。また、履修生のアンケートには、「最初に生徒がどういったことに興味があるかアンケートを取っていた」、「留学生として、記録のスビートが遅いですが、講義資料のところに全ての資料がありますから、本当に良いと思います」などの意見がよせられた。これらの意見からも、WebClassを活用したオンラインでの授業は対面式での授業と遜色のないことが伺える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報機器の操作4
授業コード	14D02-004
教員名	長谷川 高則
教員コード	000162
登録人数	22
回答数	17
回答率	77.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

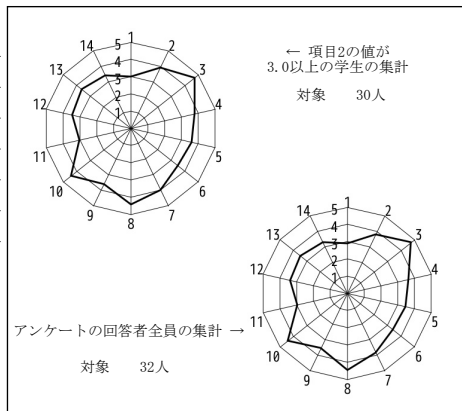


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標
この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標にしている。今回はZoom利用によるオンライン授業であったが、質問が多くなり個別指導に時間が掛かり、進行状況は少し遅れ気味であった。
2. 目標達成度
出席状況は大変良好であったが、対面授業よりも説明に時間がかかり、演習時間に影響を及ぼしてしまった。開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポートの内容は高評価のものが多く、演習課題も頑張った内容のものが多かった。
3. 授業評価
前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は4.56から4.45に僅かながら低下した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問10（授業の妨げになる行為への対処）4.88、設問2（主体的に授業に参加）4.65、設問13（新しい技術や能力を得た）4.65等であり、評価が低いのは設問4（授業の構成や進行速度）4.00、設問11（授業参加や自主的な学習を促す）4.12等であった。設問4の評価を改善するのは受講生のスキル差も有り難題ではあるが、設問11に関してはデジタル教材を作成し改善中である。
4. 今後の抱負
オンライン授業で得た可能性、対面授業ならではの必要性を再認識し、次世代の学びのあり方・地域の創生に対応する内容も取り入れ、エドテックを使ってもっと興味がわき理解しやすい効率的な授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	数学II2
授業コード	42B04-002
教員名	宮元 忠敏
教員コード	017293
登録人数	99
回答数	32
回答率	32.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

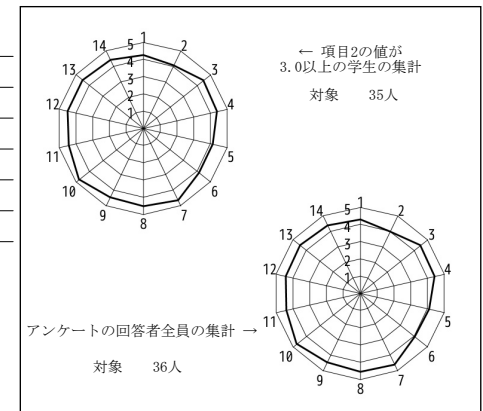
目標と到達度 整式、指数、対数で表される1変数関数の微積分、整式で表される2変数関数の勾配ベクトルを使った分析を、シラバスに記載した通り達成した。

自己点検・評価 授業はZoomによるOn-lineであった。Zoomによる開始と終了であるため、授業時間はきっちり守ることができた。講義ノートは講義資料置き場に事前に5回分でわけUPされ、予習、復習を自由に行える状況を作った。しかし、全般的には、学習意欲を引き出す努力が足りないという評価されている（項目番号11 値 2.97）。一方、自由記述欄には、わかりやすい授業または資料と評価する声も10弱ほど寄せられている。また、試験に関しては、On-lineの限界に関する事柄を指摘する声が響く。例えば、エクセル等のソフトを使えば、課題の結果の一部を自動で計算することが可能である。数学の試験とは何をもってなすかである。授業に比べ試験が難しいという声も寄せられている。

改善点、今後の抱負 授業はZoomによるOn-line形式、試験は対面での一斉受験を前提とする。板書に時間を取られることがないので、講義は先に進むことができる。そして、復習のための演習問題40題ほどをこなすことができる。予習は事前にUPされた講義ノートを使うことができる。あとは、対面での質問をするための時間を散りばめることである。さて、状況はどうなるかである。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	資本市場論(金融機関)
授業コード	42C20-001
教員名	山下 忠康
教員コード	101152
登録人数	112
回答数	36
回答率	32.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度

(当初目標)

1. 銀行を中心とした金融機関の役割や現状を社会・経済の変化のなかで理解できる。
2. 単に金融経済に関する新聞記事が理解できるようなレベルではなく、その背後にある金融機関各社の経営戦略や監督官庁の方針なども理解した上で大きな流れをつかむことができる。

(到達の程度)

期末レポートの出来具合をみる限り、ほとんどの学生が当初目標をクリアしていたと評価する。*本来、対面の筆記試験(マークシート方式)を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面試験が中止になり、急遽、レポート試験となった。これにより、学生に負担をかけてしまったことを申し訳なく思う。

②数値データおよび総合的な自己点検・評価

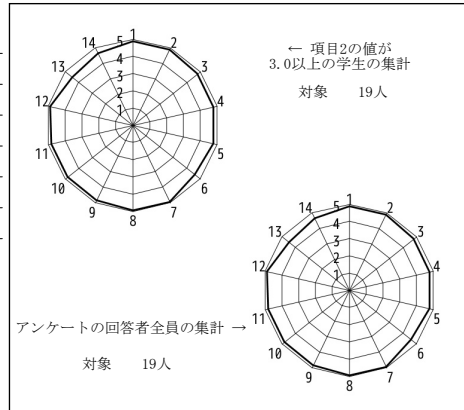
回答者が履修者の約3分の1ということで、断定的なことは言えないが、回答してくれた学生が期末試験の形式が大きく変わったにもかかわらず、肯定的な評価をしてくれたことは教員として勇気づけられる。すべての学生を満足させられるような授業は無理なので、都度、学生の声を反映させながら、授業を進めていきたい。特に自由意見についてコメントすべきことはなかった。

③次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

次学期については、本講義科目は不開講であるが、南山大学から金融機関へ就職する学生が多数いることを勘案すると、そのようなニーズを有する学生に金融機関の基本的知識を学生に修得させることも重要であると認識している。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織心理学B
授業コード	42C26-001
教員名	中尾 陽子
教員コード	064188
登録人数	94
回答数	19
回答率	20.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



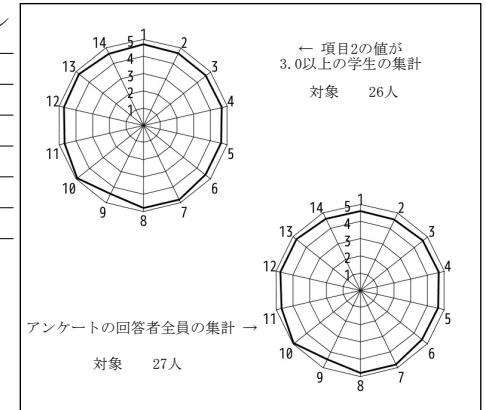
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、組織心理学に纏わる知見を、知識として理解するだけではなく日々の生活の中で活用できるようになることを目標としてきました。また、学生さんの登校機会激減を踏まえ、一方通行のオンライン講義ではなく、参加者同士の関わりを通して学び合うことにもこだわってきました。毎回の授業後のFBからも、受講生同士の関わりを通じた学びが、それぞれの意味へとつながったことを感じています。ブレイクアウトルームに分かれた後、私は全グループをサポートできないのが通常ですが、この授業の目的を理解し、自分たちにとって意味ある時間を創りあげくださったみなさんに感謝の気持ちで一杯です。

自由記述には、「事前に何回もリマインドはありましたがそれにしても、課題を出さないとその後の授業に参加できない、というのはオンラインで普段とは違う環境で受講している学生にとっては酷なものではないかと思いました。授業内容に興味があったのでこの形式にも同意せざるを得ない形で履修しましたが満足のいく形式ではなく、他にもっと学生の立場に立ったようなやり方はなかったのかと思います。」とのご意見をいただきました。一方、「グループワークが沢山あったこと。最初の授業で先生がそれを強調してくれたことで、ある意味メンバーが削ぎ落とされて、グループワークの時に悲しい思いをすることがなかった。」というご意見も。これまでの授業経験から、限られた時間内で充実したGWを実現するには、各自が事前にそのための準備をして参加することがポイントの一つだと考えています。事前課題はこの準備にあたります。ただ、何に対して嫌な思い・悲しい思いをするかは人それぞれということも改めて感じましたので、次のQでは事前準備の意味を十分理解していただけるような説明を心がけていきたいと思っています。(ちなみに、事前課題が提出できなかった方でも、授業開始までにやってあればGWへ参加していただいています。決してみなさんの学びの機会を奪おうなどとは考えていませんので、ぜひご理解ください。)

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング・コミュニケーション
授業コード	42C37-001
教員名	川北 真紀子
教員コード	102879
登録人数	108
回答数	27
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

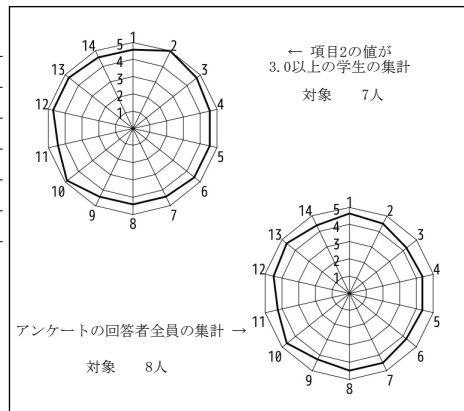


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 広報・PRについての基礎的な理解については、小テストに資料をみながら答える部分で、ある程度獲得できていると思われる。また、ニュースリリースを書くことができるという点は、最終課題のリリースを見る限りでは、クオリティとしてはプロフェッショナルのレベルには行かないものの、リリースという形式のものを書くことができるようになっている。そこで、リリースを通じてコミュニケーションをとるという点は理解されているだろう。
- ② 質問9 (適切な資料) の項目が4.44と低めであるが、学科平均である。教科書購入を前提としているため、提示資料を配布していないことが原因と思われる。ほぼ、同じ内容であるため、必要ないと思われるが、教科書を買わない人には不評であるようだ。それ以外は高い得点である。質問13 (知識や理解の獲得) については4.74と高く (学科平均の4.42) 本授業の関連知識や理解の獲得の自覚はありそうである。質問14 (全体満足) は4.59と平均よりも高い (学科平均4.38) 。
- ③ オンラインでの教育への工夫に多大な労力がかかっている。これを、もう少し労力をかけずに運用していかないといけないと考えている。学生にサポーターをお願いし運用してきたが、これまでとは違い、協力者が少なかったので、サポーター制度を考え直さないとはいけいと考えている。学生の取り組み姿勢の違いに応じた運用を検討してみたい。ゲスト講師についても、賛沢に3名お願いしてきたが、学生たちの受け入れ態度によっては、少し減らしていこうと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報処理B
授業コード 42D03-001
教員名 姜 秉国
教員コード 019547
登録人数 19
回答数 8
回答率 42.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

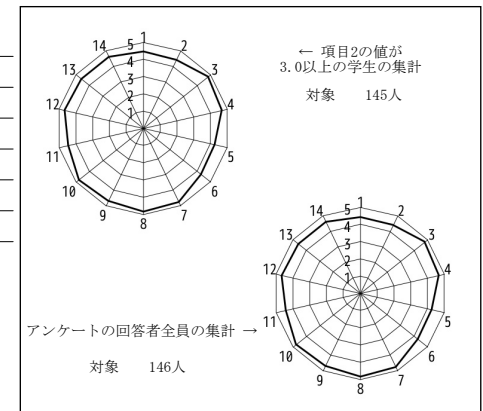
開講当初に設定した目標は「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができること」と「簡単な事務処理の自動化システムの構築ができること」であった。登録した学生のExcelの使い方（習熟度）にばらつきが大きいのは例年と変わらなかった。そのため、講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていく必要があった。今年はオンライン授業形式を取らざるを得なかったが、評価項目全般にわり良い評価を得ており、現段階で特に改善を要する点は見当たらない。学生の出席、レポート、発表内容からみて、授業の目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメント（評価できる点）があった。

－実際にエクセルを使って学ぶことができる授業だったので、わかりやすかったし、楽しかったです。

－プログラミングを誰でも理解できるように、とても丁寧に講義をしてくださって、自由課題では、自分の思った通りのものがプログラミングを通じて作ることができたので良かったです。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 企業論B
授業コード 42E02-001
教員名 後藤 剛史
教員コード 100374
登録人数 293
回答数 146
回答率 49.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

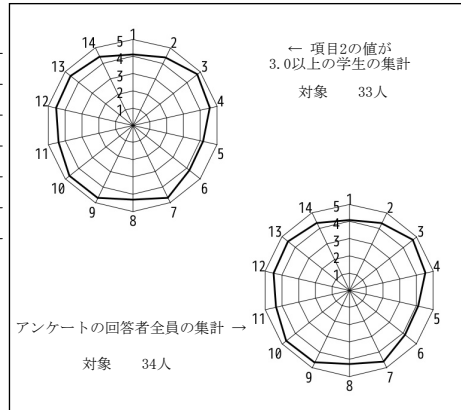


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この科目のシラバスに掲げた到達目標は「様々な人事制度について、そのメリットとデメリットを経済学的に考察できるようになること」である。授業期間中に課した4つの課題や最終レポートの出来具合から到達の程度を判断すると、7割程度は到達したものとする。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値データは、どの設問についても、同カテゴリの他の科目の平均値を上回っている。また、自由記述も好意的なものがほとんどである。これらのことから、まずまずの授業運営ができたものと自己評価する。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今年度のQ3までのオンライン講義と比べると、受講する学生の熱意がやや下がっていたように見受けられた。これは、授業中にチャットで寄せられた質問の件数や、課題・レポートの文面からの推測である。オンライン講義ならではの利点もたくさんあるのだが、意欲の持続という面でやや難があるのかもしれない。次年度もオンライン講義だった場合は、この点に留意して、こちらからの働きかけを工夫したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営環境論B
授業コード	42E06-001
教員名	薫 祥哲
教員コード	018168
登録人数	80
回答数	34
回答率	42.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

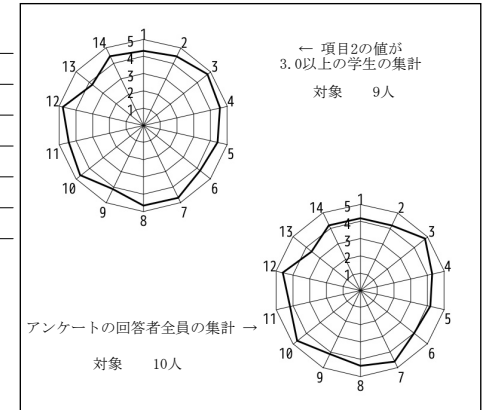
再生可能資源である漁業資源の最適利用や、資源リサイクルに関する課税や補助金政策がどのような影響を及ぼすのかについて、ミクロ経済分析アプローチに基づく講義を行った。また、米国における2大環境法規制である「大気浄化法」と「水質浄化法」を取り上げ、環境改善のための法規制がどのようなプロセスで進められ、どのような問題点があるのかについても解説した。講義レジュメや関連資料はすべてサーバにアップし、毎回、これら資料を画面表示しながら14回のZoom授業と、1回の自主課題学習を行った。また、「書画カメラ」を使い、紙にグラフや計算式などを手書した物をモニターに映し出して講義した。学期中に2回のレポート課題を出し、レポート提出後にこれら課題の解き方について解説した。環境政策を進めるためには便益費用分析が重要であり、環境資源の最適利用を考えるための経済学的アプローチを理解する事を目標とした。

全体の満足度を尋ねる設問14の平均値が4.35と高く、設問2で尋ねられている「予習・復習や主体的な授業参加」についての評価も4.32となっており、満足できる授業評価であり、当初設定した授業目標も達成されたと判断している。

自由記述欄にも、「課題に関する説明が充実していた」「計算の過程などを紙に書いて手元カメラで写しており、見やすかった」といった肯定的なコメントが多かった。授業の改善すべき点については記述がなかったが、ネット環境について「たまに音声が届くことがあった」との指摘があったので、機材の設定などについて今後注意したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル・ビジネス論B
授業コード	42E12-001
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	20
回答数	10
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

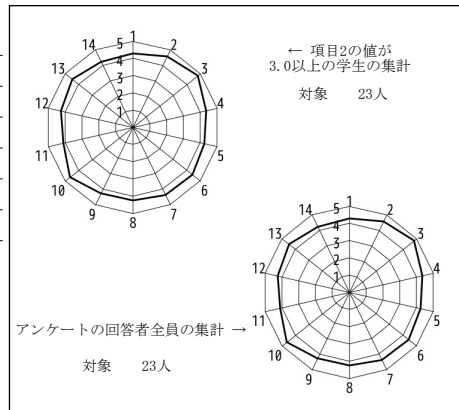
本授業の目的は、ビジネスのグローバル化が進む中、アジア諸国における人的資源管理の国際比較学習である。履修者は、アジアにおける人的資源管理の基礎と実用的方法を学び、人的資源を活用するための必要な手法、戦略や視野を身に付け、日本の人的資源管理と比較研究を出来るようになる。授業は、テキスト・講義レジュメ・関連資料などを配布し、休講・補講なしで、シラバスを終了しました。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。

設問1から設問2「授業への参加について」に関しては、2019年度第4クォーター全科目と経営学部の42001-001~42H04-999番台科目群とを比較すると、ほぼ同じ評価を受けている。設問3から設問7「授業全体について」の平均値4.70、4.51、4.22、4.18、4.60 に対して、本科目の評価は、4.80、4.30、4.20、4.00、4.60となっている。設問8から設問12「授業の運営について」では平均値4.67、4.50、4.71、4.33、4.52 に対して、本科目は4.40、4.10、4.70、4.20、4.60となっている。設問13から設問14「全体的な評価」では平均値4.42、4.38 に対して、本科目は3.60、4.20となっている。昨年と比較すると全ての設問の平均値が上がり、評価がとても良くなっている。

また、設問15から17「自由記述」では、「出席に厳しいところ、端的にまとめられた見やすい資料があったこと、話がとても聞きやすい、資料も事前に配られているので全く問題はない」、などがあった。設問17「授業環境（インターネット接続、資料の見やすさなど）」では、「どの授業も声が途切れる瞬間があるので話している内容についていけなくなりやすい、原因は不明が、むしろオンラインの方が集中できる気がする」、などがあった。ZOOMへの接続の問題だと思うが、毎回数人が遅れて授業に参加した。本学期の経験を生かして、今後もより高い水準をめざして様々な改善を試みたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 オペレーションズ・リサーチB
 授業コード 42E16-001
 教員名 奥田 隆明
 教員コード 102600
 登録人数 47
 回答数 23
 回答率 48.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

統計データを用いた物流分析を題材にして講義と演習を行った。数学や統計を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習や演習にも力を入れて授業を行い、当初の目標は概ね達成することができたと考えている。他方で、今年度はオンライン授業と対面授業を同時に行い、受講生がいずれかを選択できるハイフレックス型授業を実施した。授業の前半には、EXCELの操作等、PCが不得意な人が対面授業を受けたが、後半はコロナウィルス感染症の状況が悪化したこともあって、できる限りオンライン授業を推奨した。今年度の授業を過去に実施した対面授業のみの場合と比較すると、予習・復習4.57（対面授業3.83）、目標達成4.43（対面授業4.20）、授業妨害への配慮4.65（対面授業4.33）、質問対応4.26（対面授業4.22）で今年度のハイフレックス型授業の方が高い値を示したものの、その他の項目については、いずれも過年度の対面授業の方が高い値を示した。その原因としては、大教室（DB1）であったため教室の機器が多く、授業進行がスムーズでなかった点があるものと考えている。演習を含む授業の場合、やはり対面授業の方が質の高い教育ができるのかもしれない。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Corporate Finance B<国際科目群>
 授業コード 42G16-901
 教員名 BREMER, Marc
 教員コード 017913
 登録人数 5
 回答数 2
 回答率 40.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is an advanced course that concentrates on some of the major issues in corporate finance. The focus is on making good financial decisions with regard to capital budgeting, dividend policy, debt policy and mergers. The course is offered in English. The objectives of the course were achieved. Students refined their knowledge of the net present value method to make appropriate capital budgeting decisions. They learned about the capital asset pricing model. They learned how dividend policy and investment policy are related, and in particular now understand the basic concepts underlying economic value added. The overall evaluation of the class by students was good. All students felt that the course was satisfying. The students gave the course a satisfaction rating of 5.00 which compares favorably to the Nanzan University average of 4.33. All students felt that the course improved their understanding of finance. In general, the responses to the other questions were higher than the average of all Nanzan courses. Yet, it is important to note that the number of students in this class was very small. This is mainly because of the COVID-19 pandemic and the inconvenience to the students of Zoom lectures. The students were very pleased with some of the additional material discussed in the class. There was special lecture on how to value reversible investments. We also discussed Japan's new code of corporate governance and the corporate governance issues at Softbank. Next year's class will include additional discussion of stock markets and "payment for order flow".

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語で学ぶ経営学(ビジネスとICT)
授業コード 42G27-001
教員名 BIERI, Thomas
教員コード 102517
登録人数 4
回答数 0
回答率 0.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

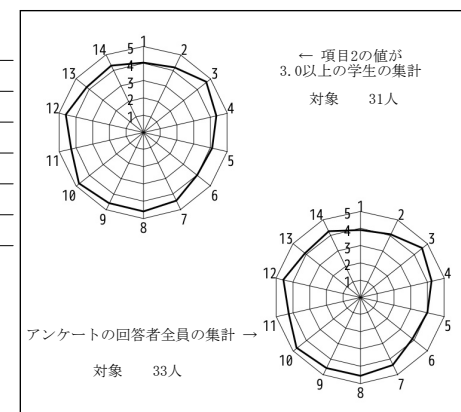
I aimed for students to gain a deeper understanding of problems and opportunities for businesses and business-people using ICT. The topics in the syllabus were covered as expected and led to some greater understanding in each of the students who were active, though not always to the extent I had hoped.

I also aimed for the students to understand English lectures, presentations, and readings and engage in active discussions about these topics while improving fluency. Not all students achieved this as hoped, but those that attended regularly achieved at least the minimum.

This was a very small class and one member was absent for significant parts of the lessons. It was very difficult to develop socially constructed, cooperative learning in the students under these conditions. The current course design is for face-to-face lecture with significant in class discussion and peer support, and I look forward to returning to that format in 2021. A strongly effective online course would require a very significant time investment in course design changes.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 工業簿記II
授業コード 42H04-001
教員名 窪田 祐一
教員コード 102901
登録人数 112
回答数 33
回答率 29.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

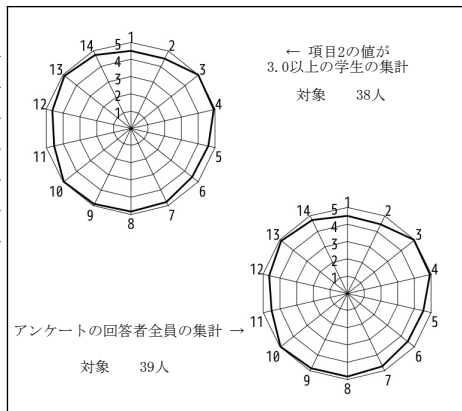


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標に対して、多くの学生は到達できているものと思われる。ただし、期末レポートを見る限り、大変優秀な回答がある一方で、理解不足の回答も若干ではあるが存在していた。
- ②授業評価に示されている受講生の理解度（問13、平均4.09）は決して高くない。また、満足度も若干低い（問14、平均4.24）。他の質問項目を確認すると、問1（講義前の授業内容への興味）のスコアが低く（平均3.91）、これが他の項目にも影響を及ぼしていることが推測された（問13、問14に相関あり）。必修科目ではないため、関心が無ければ履修する必要はないはずだが、学んで行くにつれて興味を抱くようになるものと期待して受講した学生がいたようである。しかし、工業簿記IIは工業簿記Iの学習知識がないとついてこれないため、ハードルが高かったのかもしれない。
- ③次年度以降は、まず工業簿記Iを受けずに工業簿記IIから受講をしようとしている学生に対して、ハードルが高いことを十分に伝えることにしたい。また、予習復習のスコア（問2、平均4.06）も低かったので、もっと宿題の指示を出すように改善したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学 / Management Studies
 授業コード 48C15-001
 教員名 湯本 祐司
 教員コード 017533
 登録人数 87
 回答数 39
 回答率 44.8%
 休講回数 1 回
 補講回数 1 回

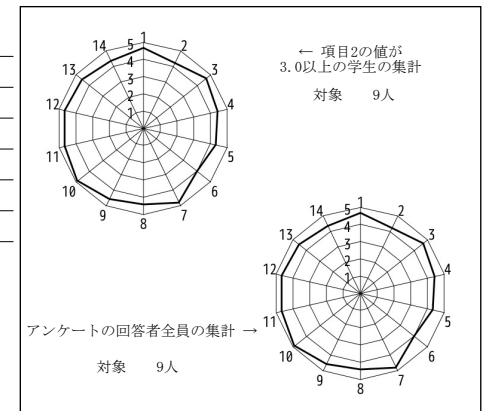


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は国際教養学科「学問知の基礎科目」の選択科目であり、登録している87名はすべて国際教養学科の学生である。到達目標は「経営戦略および関連する基本概念や理論が理解できる」「事例と理論の関連が理解できる」であり、授業中の課題およびおよび期末レポートの解答から判断する限り、かなりの学生は目標に到達している。学生の授業評価では履修登録者87名のうち39名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はそれぞれ4.71と4.75であった。学生の評価が特に高かった設問は、3「事前に予告された開始時間は守られていましたか」(4.97)、4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」(4.92)、10「授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていきましたか」(4.97)、13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」(4.90)である。一方、11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」が平均値4.49で比較的低かった。自由記述欄には、「経営学の基本的概念や理論と実際の事例の提示、さらに課題に取り組む前に生徒間でのディスカッションタイムの設定など、バランスが取れた授業であった」「映像を使ってわかりやすい授業展開をしてくれた」「説明やスライドが非常に分かりやすかった」など好意的なコメントが多かったが、「声がやや聞き取りにくかった」というコメントがあったので、次年度にはより一層発音に気をつけて改善をしていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐる<国際科目群>2
 授業コード 13C05-902
 教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
 教員コード 101180
 登録人数 14
 回答数 9
 回答率 64.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

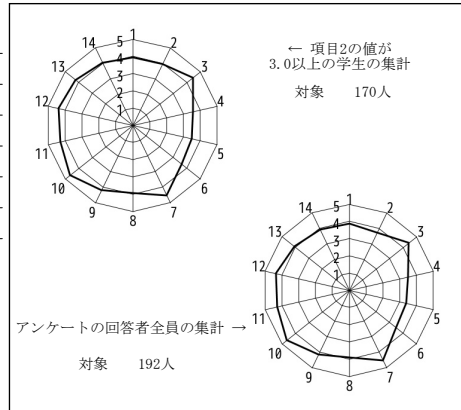
The main goal of this course was to help students 1) understand basic notions, categories and practices of human rights, 2) analyze human rights issues in contemporary world from an interdisciplinary perspective and 3) identify human rights risks of their conducts and the conduct of people around them. Judging from the students' active participation in finding latest human rights issues of the day and critically share them with other students during class discussion, it can be said that the course met the goals set up at the start.

Instead of passively attending the class, this course put great efforts on making student actively find basic and critical knowledge about human rights through concrete cases in the news or from their own experiences. This was a satisfying academic experience, not only for me as lecturer, but also for students, as indicated in the comments.

Of course, there are some drawbacks that needs to improve for the next quarter, in particular to create an environment where all students have opportunities to share their thoughts, as some students may find difficulties or still do not have enough courage to share their ideas.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法総論B
授業コード 44A11-001
教員名 水留 正流
教員コード 101566
登録人数 284
回答数 192
回答率 67.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 前年度とやり方を変えて、Q3とQ4で刑法総論をいわば二巡するスタイルに変更した。Q4はやや複雑な論点で犯罪の成否を学生が適切に検討できるようにすることを授業目標とした。

2. 項目全体の平均が4点を超えたことから、全体的には概ね満足できる結果となっている。しかし、設問5（到達目標の理解度：3.39）及び設問6（到達目標の実現感：3.47）は昨年度と比較しても悪い数字になってしまった。自由記述では、毎回、設例を提示したことについて概ね好評だったものの、その「正解を教えてくれない」という意見も多かった。前述の数字はこれと関連したものだろうか。

なお、回答率は67.6%で、法学部及び大教室講義の平均をクリアした。

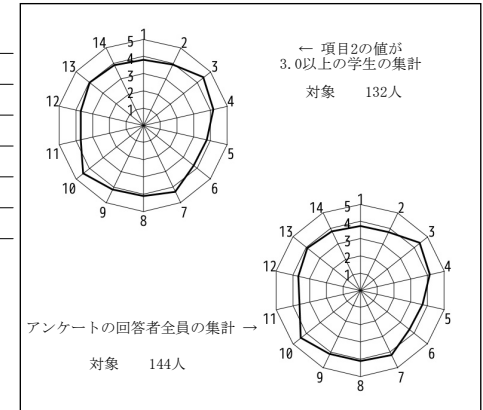
3. 今年度はオンライン授業の影響が大きいものと思われ、前述の授業方式変更の効果を今回の授業評価で測定するのは困難である。

それでも、設問4（毎回の授業構成・進度：3.51）の低得点は気がかりである。自由記述には「やはりQ3と範囲をきっちり分けた方がわかりやすいのではないか」との意見もあり、これを容れて昨年度の進め方に戻すという選択も考慮に値するが、私自身は今年度のやり方でもう少し改善を目指したい。

前述の「正解が分からない」との声にも応えていく必要があるが、それ以前に学生の望む「正解」の在り方が法律解釈論の立場からみた「正解」であるのか、もうすこし考えてみたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物権法
授業コード 44A18-001
教員名 副田 隆重
教員コード 045880
登録人数 374
回答数 144
回答率 38.5%
休講回数 3 回
補講回数 0 回



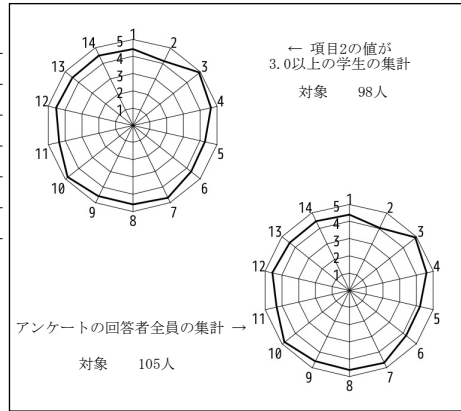
授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず担当者（副田）の健康上の理由から冬休み明けの授業を担当できず、受講生の皆さんにご心配をお掛けしたり、また代講や試験に関して他の民法教員の方々にご負担をおかけしてしまったことをお詫びします。そうした事情にもかかわらず、全体としての授業満足度（項目番号14）として3.98、ならびに、この授業を通じた知識の習得、理解の深化が得られた（項目番号13）として3.95と、いずれも限りなく4に近い評価を得られた点は幸いであった。内容的には、毎回の授業の構成が適切であり、授業開始時間も守られて授業の進行速度が適切であった点、わかりやすく詳細なレジメが配布されて、教科書とともに丁寧な説明がなされた点が好評価につながったことは過年度とほぼ同様である。ただし、あらかじめ配布すべきレジメの提示を失念したことがあった点は重大な反省点である。今後もわかりやすいレジメを用意することとし、準備したい。

他方で、最も低い評価となった項目は、学生の学習意欲を引き出し積極的な授業参加を促すための指導や情報提供が十分であったか、であり、この点（3.63）は過年度においても同様であった。これについては、何らかの工夫を考えたい。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法B
授業コード	44B10-001
教員名	岡田 悦典
教員コード	100621
登録人数	286
回答数	105
回答率	36.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

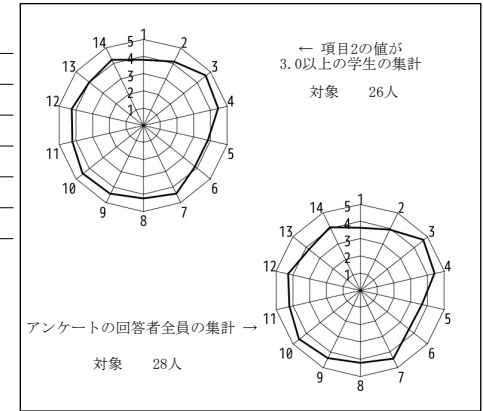


授業評価結果を踏まえた点検・評価

刑事訴訟法の公判・上訴の部分について、基礎的な内容をわかりやすく説明し、それを理解してもらうことが目標であった。自由記述を見る限り、その目的は十分に達していたと思われる。今回は、オンラインによる授業ということで、レジュメを刷新し、できるだけ、図をレジュメの中に組み込むこととした。その図を元に、より基礎的かつ本質的に内容を迫るようにした。その点がよかったのだろうと思われる。ただ、到達目標への理解と、その自己評価の項目が、やはり相変わらず低かった(4.2程度)。これまでよりも相対的に高いので、効果は現れていると思うが、やはり、何らかの明確な目標がない中で、教員と学生との相互理解を深めるべく、次回はより具体的な目標を明確にしていくことを考えている。次回に向けては、レジュメの誤字が目立ったという指摘があり、反省すべきところである。すぐに修正したい。また、レジュメの量が多いから経済的に大変だったという指摘ももらった。確かに、その通りで悩ましいところである。ただ、オンラインから対面に移行した場合でも、電子ファイルで学生にレジュメを提供したいと思っており、上記のように図を多用することによる効果は大きいので、今後の受講生の感想を見ながら、継続的に検討していきたい。また、判例百選のナンバーも、レジュメに付記するようにし、参考テキストとの連携を深める便宜も考えたい。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋法史B
授業コード	44B36-001
教員名	田中 実
教員コード	017038
登録人数	121
回答数	28
回答率	23.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

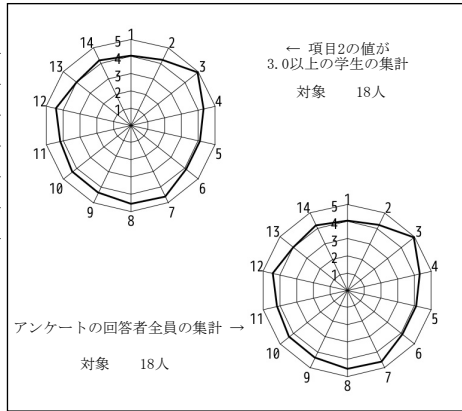


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度はzoomによる変則的なリモート講義となり、最初はマイクを利用したが、時に聞き取りにくいことがあるとの声もあり、途中からマイクを通してではなく直接パソコンの画面に向かって話すことに切り替えることになった。声の出し方などに不安があったが、項目8の評価がそれほど低くなく安堵している。基本的には、共有画面で配付ハンドアウトを見せながらの講義であった。必ずしもハンドアウトのページに従わない説明のため、私自身は、かえって参照箇所の提示や説明がしやすいと感じたが、進行については慣れないこともあり不手際もあったと思われる。この点で、項目9が、例年の講義よりも評価が高かったのも、これも安堵している。法学部の学生にとっては特殊な分野であり、例年、項目1や項目7などが比較的低い。予定している項目が多く、どうしてもすぐに個別の項目に入ってしまうが、以前行っていたように、前提の話をより充実させるように心がけたいと考える。なお、自由記述において非常に肯定的な評価を記入してくれる学生があり、担当者としては嬉しい限りである。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政法各論
授業コード	44C04-001
教員名	榑原 秀訓
教員コード	100548
登録人数	123
回答数	18
回答率	14.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

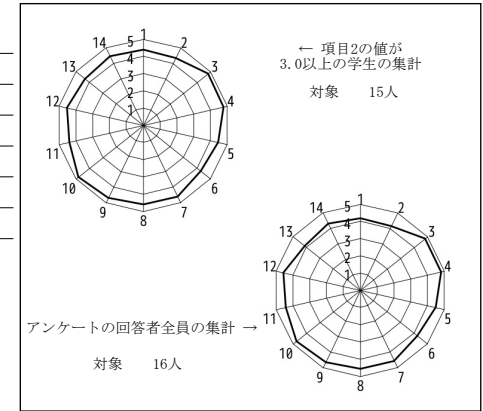


授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政法各論の履修登録者は123名であった。当初99名であったのが、登録変更期間に増加し、この人数になった。そのため、対面とオンラインの併用の授業であった。しかし、実際には、出席者は当初最大4名、換気の関係もあって教室がかなり寒くなり、新型コロナウイルス感染者も増加したこともあって、中間段階から対面で授業を聴くものが0名になった。3・4年生を対象とする授業は履修登録人数に関係なく、対面とオンラインの併用でも実際問題として支障がないのではないかと考える。反対に、対面での参加者が出る可能性もあることから教室で授業を行ったが、それが必要なのかも疑問に感じた。さて、こういった授業の形態が影響しているのかわからないが、回答者はわずか18名で履修登録者の15%に過ぎなかった。2016年が47.8%、2018年は22.4%で相当少ないと考えたが、それにも全く及ばなかった。このように、比率が低く参考にならないが、数値は、4点以上であって授業としては大きな問題はなかったと考えられる。自由記載には「後ろの板書が先生で見えない」といったものもあったが、さてどうしたものか。書いて一定時間は横に立ち、その後は正面に座るといったことで「見えない」時間が多いのは確かであるが、それは書いた段階で見えていないからではないかという気がする。そもそもホワイトボードは使わない方が良いのか、画面に何を出すのが良いのか考えさせられる。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済法B
授業コード	44C20-001
教員名	齊藤 高広
教員コード	103599
登録人数	67
回答数	16
回答率	23.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

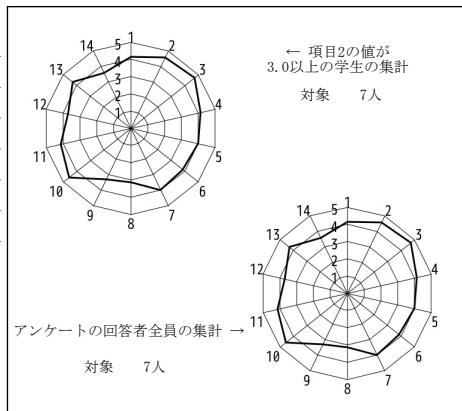


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、独占禁止法のうち、主として不公正な取引方法を扱った。開講当初の目標として、①経済活動に対する法的規律を理解する、②市場における競争秩序の意義と規整方法を法的に説明することができる、③競争減殺行為の規制手法を理解する、の3点を挙げていた。例年、双方向型の授業方式を採用し、また、試験では説明問題と事例問題を出題することで、知識の定着を図り、法的思考の実践に対する効果を測定していた。本年度については、オンラインでの授業実施によって、学生との口頭でのやりとりに支障が生じることも少なく、双方向型のやりとりについては断念せざるを得なかった。もっとも、チャットによる質疑応答とともに、授業時間を利用した試験方式を採用することによって、通常授業におけるパフォーマンスに近づけるよう努めた。アンケート結果を見る限り、幸い、授業の運用面については、大きな問題や課題点は無かったようである。パワーポイントや使用教材についてオンライン向けに修正を加えたことが奏功した可能性が考えられるが、今後も改善に努めたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	倒産法
授業コード	44C22-001
教員名	小原 将照
教員コード	102897
登録人数	38
回答数	7
回答率	18.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度は受講生の数が少なく、またオンラインと対面のハイブリッド方式であったので、対面式を前提の講義を組み立てた。その分、到達度が低いように感じている。原因は、板書の文字が見えなくなる、というのが最大の問題点である。パワーポイントを使えばよい、との指摘もあるが、それは講義のダイナミズムを喪失させる原因にもつながる。少なくとも、オンライン授業が、対面式の代替になる、というのは、必ずしも当然の話でないと思われる。

次年度以降もハイブリッド方式が継続されるのであれば、根本的な講義の見直しをしなければならない。特に、対面式を前提として、対面式の学生を飽きさせない工夫が、ハイブリッドではマイナス要因として働いている。この点は、全学的な視点で検討が必要であるが、オンラインと対面のどちらを主位として、他方を従位とするのかを明確にした方がよい。どちらも完璧に満足させる講義を構築するのは、数年の検討と検証が必要になると思われる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アドバンスト演習D
授業コード	44C28-021
教員名	王 冷然
教員コード	103577
登録人数	10
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

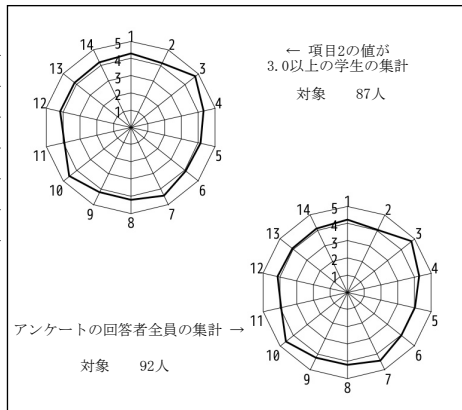
当該演習の目標は、判例や文献報告を通して、民法の基礎的な知識を習得し、民法の基本的考え方を理解することと、判例の読み方や解釈方法などを身につけることおよび民法を中心に、問題洞察力、問題の分析能力や解決能力、論理的な構成力と結論の正当化を通じての説得力を鍛えることであった。ゼミでの報告内容や議論状況および座談会での学生たちの意見からみると、当初の目標はほぼ実現されたといえる。

学生のアンケート調査科目ではないため、数値データなどはありませんが、座談会で学生たちから、使用する判例が難しく、判例の説明だけでかなり時間がかかって、議論する時間が少ないという意見や、オンライン形式の場合はグループ発表がなかなかうまく連絡をとれないという意見が寄せられた。ゼミの最終回ではなく、途中も座談会を開いて学生たちの意見を聞いたなら、早く対応できた点に反省すべきである。

次年度のゼミにおいては、取り扱う資料のレベルを調整して、随時に学生たちの意見を聞き、問題があれば早期対応できるように心がける。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 家族法(相続)
授業コード 44F04-001
教員名 伊藤 司
教員コード 100474
登録人数 244
回答数 92
回答率 37.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

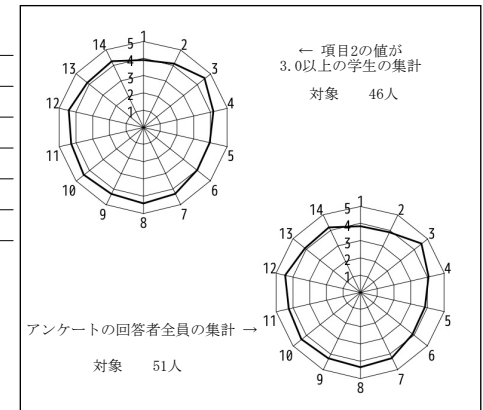
この講義は民法の「相続」を概説するもので、この分野の法的な問題を自力で解決できる用法の知識といかに解決するかの実例を数多く学ぶことを目標にしている。この目標は一応達成できているように思われる。

また、講義それ自体も全体として、それなりの評価が得られているように思われる。この傾向は、自分としては喜ばしいことであり、今後もこの傾向が続くようように努めていきたい。ただし、今回についても以前と同様にアンケートに協力してくれた学生の数が少ない。試験を受けた人数からすると4分の1ぐらいしか回答されていない。講義をしている限りにおいてはそれほど人数の減少を感じなかったのであるが、アンケートの回答率をみるとそれほどでもない状況である。これは以前も指摘した点が、もしも授業評価アンケートに協力をする気のない学生が多いということであれば、アンケートのあり方自体を再検討する時期にきているように思われる。

自由記述においては否定的な評価がみられなかった。このこと自体は喜ばしい結果であるが、数値からいって学生のモチベーションを上げる工夫がさらに必要であろう。今後はこの点を改善するように努めなければならないと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会社法(ガバナンス)
授業コード 44F05-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 160
回答数 51
回答率 31.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



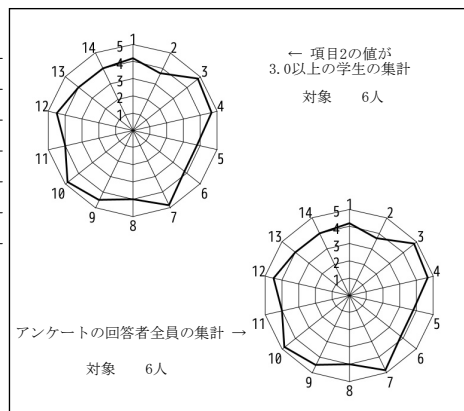
授業評価結果を踏まえた点検・評価

会社法(ガバナンス)を担当するのは、今年度で2回目となる。今年度は、昨年度の授業評価を踏まえ、学生に対する学習支援の強化・充実を行うことを課題・目標とした。そこで、今年度は、①基準となる教科書を指定し、それに準拠した授業とすること、②復習のための教材を提供すること、③発展的な学習のための教材を提供すること、の三つの施策を行った。また、オンライン授業の特色を生かし、授業で使用した板書および補足の説明を記述したレジュメを、授業終了後アップロードし、学習の便宜を図った。これらの施策から、項目番号9・11の評点が開講主体別(法律学科)の評点を上まわることができたことから、当初設定した課題・目標はクリアできたものと考えている。

他方、項目番号1・2が、開講主体別の評点を下回っている。さらにいえば、この項目における法律学科の評点の平均値は、開講主体別で最下位となっている。この原因の一つは、法律を学ぶ意義の認識が不十分であることが、この原因の一つではないかと考える。それを根本的に解決するには、初年度教育を改善することが必要である。担当する授業については、来年度から、最初の授業の対象となっている法律に興味を持たせる工夫を行い、法律に興味を持ち、主体的に授業に参加することを促していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳4
 授業コード 10D08-004
 教員名 BOSAKAIBO, B. Georges
 教員コード 104045
 登録人数 16
 回答数 6
 回答率 37.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

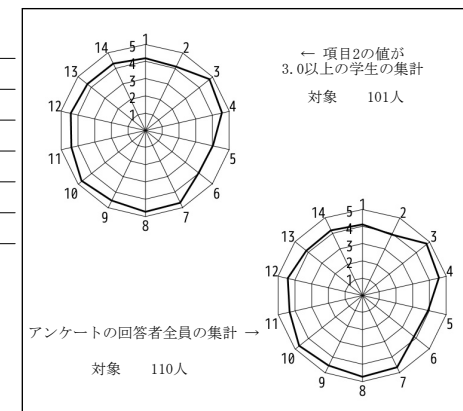


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 民族問題と人間の尊厳のダイナミズムを理解する歴史のおよび現代的な仮定を学生に提供することを目的としています。学生は、現代社会の民族問題を分析しながら、人間の尊厳の重要性についての知識を深めることが期待されています。この講義では、基礎文学に加えて、世界、特にアフリカやアジアで実際に起こっている現象、特に現代社会における人間の尊厳の概念に関連する現象について考察しました。学生は、アフリカとアジアのいくつかの選択された地域における民族問題と人間の尊厳のダイナミズムを理解する歴史のおよび現代的な仮定を学びました。アフリカやアジアの現代社会の民族問題を分析しながら、人間の尊厳の重要性についての知識を深めました。一般的に、これらの目標は達成されたと思います。 2. 各授業の構成とスピードを適切に使って、クラスの目標を理解していただきました。生徒たちはいつも時間通りに授業に参加してくれて満足しています。彼らの報告から、クラスで議論されたアフリカとアジアから選ばれたトピックに関するコースの内容を彼らが理解していることが分かりました。自分の声をオンラインでコースに使用しようとしたのですが、ほとんどの場合、ネットワーク環境は安定しており、生徒はよく聞くことができました。事前に授業を用意し、配布資料を配って、授業を適切に進めていきました。さらに、受講者は、コースをよりよく理解するために、事前に資料を読むことをお勧めしました。生徒たちからたくさんの質問を期待していましたが、期待通りに質問がありませんでした。学生の評価全般と最終報告書を考えると、アフリカやアジアの人間の尊厳や文化的伝統について、この授業を通じて新しい知識を身につけ、理解を深めていると感じています。 3. いくつかの授業で繰り返しとして戻ってきたいいくつかの問題を削除し、学生の知識と理解にとって興味深い他の新しい問題を追加することで、レッスンを改善する必要があると感じています。授業では、最終報告書と同じように意見を出して、他の人にも意見を聞いてもらいたいと思います。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際関係論
 授業コード 46D06-001
 教員名 小尾 美千代
 教員コード 102453
 登録人数 225
 回答数 110
 回答率 48.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

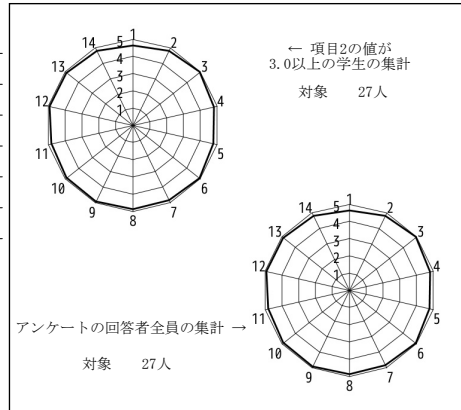


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業では、(1)国際関係論の基礎的概念を理解すること、(2)国際関係の変遷や現在の主要課題について理解すること、(3)国際関係を体系的に捉える分析視角を習得すること、の3点を到達目標とした。216名の履修者のうち200名が単位を取得できたため、概ね到達目標は達成されたと思われる。
 ②回答者は110人で、項目1~14の平均値は4.35、3~14の平均値は4.40であった。項目5「到達目標の理解」と項目6「力がついてきているか」の評価が3.92、3.85と低い結果となったが、理解度や満足度に関する項目13と14はいずれも4.17でやや高かった。いずれも学科の平均値よりは低かったが、自由記述欄の良かった点には改善点の3~4倍のコメントが寄せられ、「説明が丁寧でわかりやすかった」というものや授業資料を評価する意見が多かった。講義科目であるため、「聞いているだけなので疲れる」と言う趣旨のコメントが若干見られたが、Zoomのアンケート機能の利用や授業資料は好評であった。
 ③履修者の多くを占める1年生にとって理論や抽象的な概念を扱うこの授業は難しい面もあったと思われるが、来年度は授業の最後ではなく途中で質問時間を取ったり、適宜アンケート機能を使ったクイズをしたりするなど、学生が何らかの形でより主体的に参加できるような授業運営を心がけていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会調査法
 授業コード 46E04-001
 教員名 狭間 諒多朗
 教員コード 104124
 登録人数 39
 回答数 27
 回答率 69.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

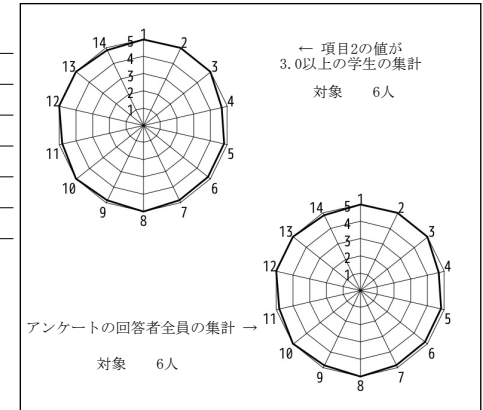
本授業では「①社会調査の過程を理解する」「②社会調査を正しく評価する能力を習得する」「③統計パッケージを使って簡単な分析ができる」の3つの到達目標を掲げている。①については、調査の設計から実査、報告書の作成に至るまでの課程を一通り解説することができ、受講生の理解も進んだと考えている。②については、授業の中で適切ではない社会調査の例をたびたび紹介することで、習得できたと思われる。③についてはEXCELを使ったHADという総計パッケージの使い方を説明し、毎回の課題をこなすことで多くの受講生が自分で分析できるようになったという手ごたえを感じている。

数値データをみると、すべての項目が4点台後半であり、おおむね高い評価となっている。項目番号12の平均値が4.93となっていることからわかるとおり、本授業では質問・相談の時間を多くとることを心掛けた。このことが、学生の高い満足度につながっていると考えている。また、自由回答をみると、統計パッケージの使い方など、難しい説明部分を録画し、アップロードした点が好評であることがわかる。今後、全面的に対面授業が復活したとしても、この方法は残してもよいかもしれない。

今年度は、初めての対面・オンライン混合授業を実施したこともあり、授業進行がスムーズにいかない場面もあった。来年度の授業形態は未定であるが、もし今年度と同じ形態であった場合は、今年度の反省を活かしたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語IIII
 授業コード 46F06-001
 教員名 原田 直枝
 教員コード 018754
 登録人数 10
 回答数 6
 回答率 60.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この授業は3つの到達目標を設定していた。

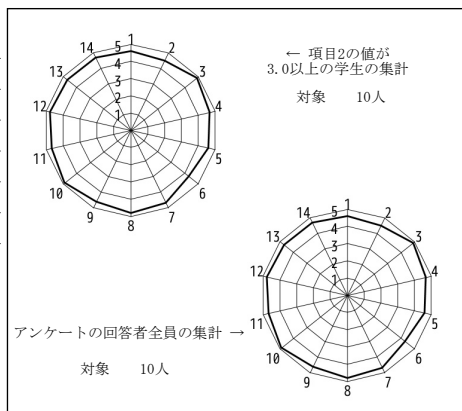
- 1) 中国語による中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる。
- 2) 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する。
- 3) 現代中国の諸事情に関する初歩的話題の中国語文献を処理することができる。

②今回の授業評価の結果を見ると、上記目標全般について、受講者側において達成感を得て履修を終えてもらったように推測できる。オンラインでの語学授業であっても、予習、練習問題、添削結果の提出など、受講者は熱心に取り組んでいて、担当者として対面式授業によるよりもむしろ真剣さを感じる場面がしばしばあった。ただ、教室という空間では容易にできるはずの、受講者との呼吸によって授業のテンポを調節することがオンラインでは難しく、一方的であったり、ゆっくり過ぎたりといった加減については常に不安だった。「4. 毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」が4.67と全項目中で一番低い数値であるのに端的に表れている気がする。

③上記②で取り上げた評価項目4に関して、授業の構成の仕方、学生の理解度を知る方法について情報を集めるなどして工夫を加えたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策中国語III2
授業コード	46F06-002
教員名	梁 暁虹
教員コード	045229
登録人数	10
回答数	10
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1~14の平均値は4.68、設問3~14の平均値は4.70、設問3、10は4.9、設問7、12は、4.8、とかなり高い点であり、学習者及び授業担当者双方の満足感が窺えよう。

学生の自由記述項目15では、「ビデオをオライにして先生と発音練習ができた」「授業でも、重要なポイント等を丁寧に説明してくれて、分かりやすかった」、「中国についていろいろなことが知れて良かった、」「毎回中国語の授業が楽しかった」等のよい評価があった一方、教師として改善の余地がないわけではない。設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」は4.3であり、一番低い点であった。そのため、今後どのようにしたら、学生がこの授業を学習する目的を理解、彼らの学習欲を引き出し、さらに積極的な授業参加を促すような工夫をする必要があると考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ACADEMIC PATH ENGLISH3
授業コード	46F07-003
教員名	CROKER, Robert
教員コード	100082
登録人数	26
回答数	4
回答率	15.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

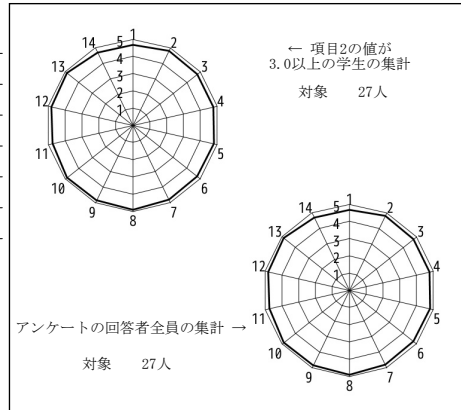
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This required elective course for third-year Faculty of Policy Studies students met once a week in Q4, for a total of eight classes. The focus of the course was to help students learn how to find online resources for their graduation theses topics in English and Japanese using CiNii, ProQuest, EBSCO Host, J-Stor, and from Japanese government sources. The students had to find at least two readings about their research topic from one of these online resource portals each week. Students found it difficult to decide on the keywords that would be most appropriate to help them find the most useful resources. Students wrote summaries of the readings that they had found for homework. At the end of the quarter, students combined these articles or government reports to create a 1600-word essay. The students worked hard both in and outside class. Based upon the questionnaire results, the students felt that the course was worthwhile and helpful. Most of the students who took the course in the fourth quarter of their third year already had a pretty clear idea of the topic of their graduation thesis, and were motivated to find relevant research resources.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策日本語II
授業コード 46F12-001
教員名 山口 和代
教員コード 049726
登録人数 32
回答数 27
回答率 84.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

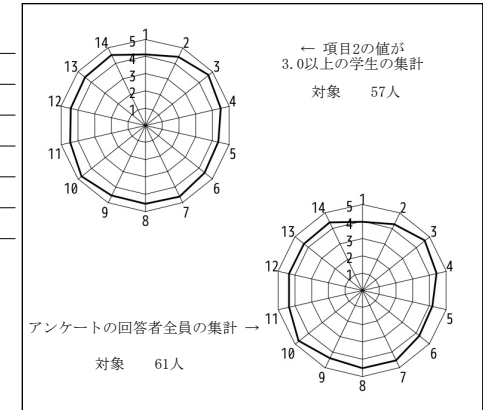


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、現代の諸問題に関する具体的課題を取り上げ、情報収集と分析を行い、ディベートにより視点を広げることで理解を深めることである。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.67から4.93という結果であった。授業への興味についての項目が4.67、到達目標への理解についての項目が4.81、授業を通しての新しい知識の獲得や理解に関する項目が4.85であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、積極的に授業に取り組んだことが伺われる。以上から判断する限り、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。自由記述欄（授業の評価）への記入が10あったが、いずれも肯定的なもので、ディベートを行うためのグループ作業の効果をうかがわせる記述が複数あり、ゼミ（プロジェクト研究）の基礎となる知識と技術を学ぶという目標もある程度達成できたのではないかと考える。今回はこれまでより人数も多く、オンラインと対面のハイブリッドで行う授業も数回あり、zoomで参加する学生への配慮と工夫が必要だと感じたが、今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるようにしたいと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政学
授業コード 46K01-001
教員名 井上 洋
教員コード 100177
登録人数 144
回答数 61
回答率 42.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

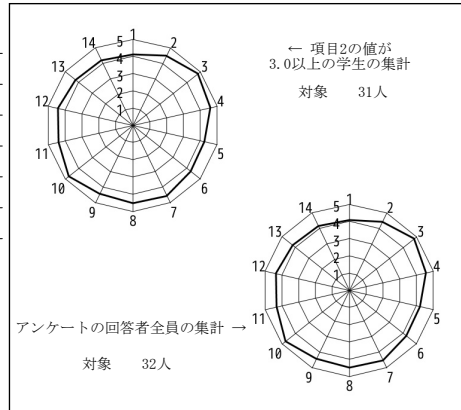


授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政学の講義では、現代日本政治と行政の問題状況に学生ひとりひとりがコンフロントすることを促すような話をした。ズーム授業なので、学生の表情はわからないが、あまり手ごたえは感じられなかった。この点、第3学期の現代国家論の授業では、1年生の女子学生の少数に、積極的な反応が見られた。行政学は、2年次以上の学生の配当なので、話に向かう姿勢に慣れからくる怠惰と鈍麻があるように思えた。学生をマスとしてとらえた場合、これは、たぶん、一教員のわたしではどうしようもないところに原因があるのだろうという気がする。このような状況なので、数値データがほとんどすべて4以上になっていても、喜べない気がする。今年度は、コロナウイルス感染症の蔓延のため、オンライン形態の授業となった。教員として、またおそらく話に向かおうとする少数の学生にとっては、対面形式よりはるかに集中することができたのではないかと思う。細かな資料への注視や、文章への注目などは、大教室では散漫に散ってしまうけれども、ズーム形式ではそこに依拠してしゃべることができる。このことに気付くことができたのは、思いがけない収穫であった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 対外政策論
授業コード 46L03-001
教員名 平岩 俊司
教員コード 103613
登録人数 108
回答数 32
回答率 29.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

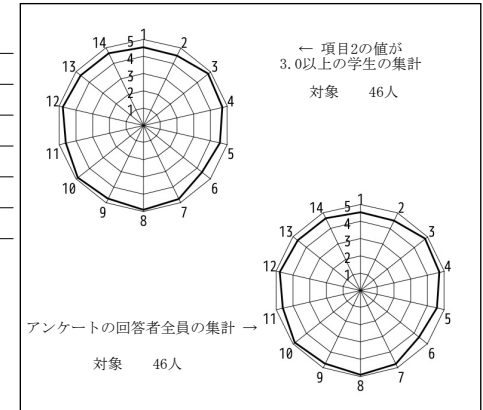


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定した目標の程度については、講義としてはほぼ予定通り完了した。ただし、受講生がどの程度理解したかについては期末テストではなくレポートで対応せざるを得なかったので詳細に分析できなかったが（テストの場合、どの部分の理解が足りないかなど分野ごとに整理できる）、全体的には目標に到達していると言える。総合的は評価としては、日本の朝鮮半島政策の具体的事例を説明するのに時間がかかり、対外政策の理論的な部分について十分説明できなかったため、今後理論的な部分を増やすよう来年度のシラバスにはそれを反映させた。リモートということもあり、受講生はビデオオフで参加しているため、ビデオオンで参加してもらうのが難しいのであれば、講義の内容がどの程度理解されているのかをその都度確認することが難しかったが、かりにリモートが続くのであればウェブクラスなどを使って反応を見るなどの方法が必要かと思う。日本の朝鮮半島政策は、戦後最悪と言われる日韓関係、拉致・核・ミサイルが焦点となる日朝関係など、引き続き難しい状況が続くが、具体的な問題の理解と理論的な理解によって対外政策について考える機会を受講生に持ってもらいたいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境経済学
授業コード 46N01-001
教員名 鶴見 哲也
教員コード 102265
登録人数 65
回答数 46
回答率 70.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

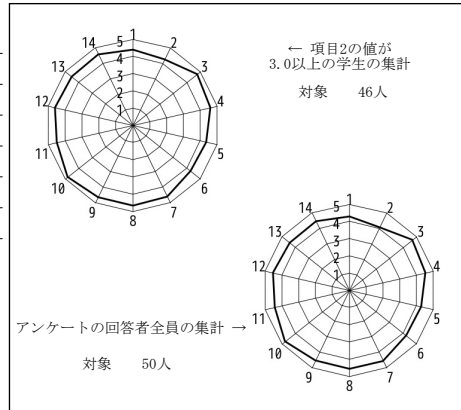


授業評価結果を踏まえた点検・評価

同人数帯の設定問3-14の大学全体での平均点が4.36であるのに対して、本科目は4.70であり、平均よりも高い評価を得ている。総合政策学部の平均も4.58であり、それと比較しても高い平均点を得ているため、おおむね高い評価を得ることができたと考えている。目標到達の程度については、学生のレポートで意見を述べさせているが、講義の内容を踏まえて、持続可能な発展のための環境政策の在り方について説得力のある意見を述べている学生が多く、目標は達成できたと考えている。自由記述回答において1名がより高いレベルの授業を期待していたが、総合政策学部の学生が受講生のほとんどを占め、経済学のバックグラウンドがないなかでの講義であることから、基礎的な事項を具体的事例で繰り返し説明することに注力した。この結果として自由記述回答においては説明が分かりやすいという評価をもらうことができ、この方針を今後も続けていきたいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経営戦略論
授業コード	46N03-001
教員名	金網 基志
教員コード	102923
登録人数	108
回答数	50
回答率	46.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

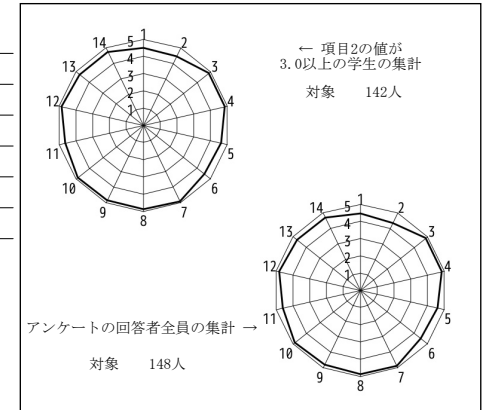


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均値は、全体や登録者数別集計の平均値を上回っている。また設問14の平均値も、全体や登録者別集計の平均値を上回っている。自由記述欄を見ると、学生に考えさせるエクササイズの設定することで参加型の講義としていることの学生からについての評価が高い。また、チャットでの質問に対してすぐに回答している点も評価されている。他の項目と比較すると、到達目標に向けて力がついていると思うかという設問に対する評価が若干低い。設問13の、授業を通じて新しい知識が得られたり、理解が深まったかという問いに対する評価と比較して、到達目標に関連する設問の評価が低いことは、到達目標の理解が十分に得られていないことが原因と考えられるかもしれない。今後は、こうした到達目標に関する理解が深まるような工夫を心掛けていきたい。また、エクササイズを設定することで参加型の講義にすることについては、今後も継続して行っていく予定である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人的資源管理論
授業コード	46N05-001
教員名	久村 恵子
教員コード	100026
登録人数	281
回答数	148
回答率	52.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、経営学の視点から、組織（＝経営者など）は労働者である「ヒト」をいかに捉え、活用してきたのかを、労働観や人間観の変遷を通じて学び、その上で、経営組織（＝企業）における人的資源管理の体系と機能について理解を深めることを目的とした。

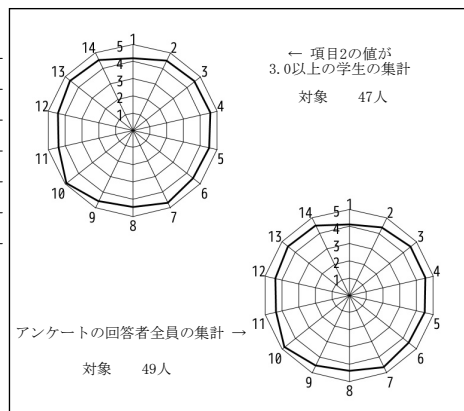
今回の授業評価の結果を見る限り、設問3～設問14の平均値は4.76（前回値：4.65）であり、全体として肯定的で高い評価が得られた。項目毎に見ても、主体的な学習に関する項目（設問2）は他の項目と比べやや低い値4.34（前回値：4.11）となり、特にオンライン授業においていかに学生の主体的な学習を促すことが可能かを再度検討していく必要がある。

自由記述では大きく分けて、「分かりやすい説明と解説」、「資料（レジュメ・スライド）が良い」、「将来に役立つ」の3つの点からの肯定的なコメントが多く寄せられた。また、オンライン授業としても「話すスピード」や「授業の進行スピード」は適切とするコメントも多く寄せられたが、その一方で「もう少し休憩時間が欲しい」というコメントもあり、この点は改善する必要があると判断されよう。

以上の点を踏まえ、来年度、どのような形での授業開講となろうとも、各授業の開講形態の特徴を考慮しつつ、授業資料と運用の改善を進めると共に、単に学術的な人的資源管理の知見のみならず、学生が社会に出ると直面するであろう問題を人的資源の立場から取り上げ、興味や関心を高めつつ学習できる授業内容および授業への参加を促す構成へと改善を図りたい。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域経済論
授業コード	46N06-001
教員名	森 徹
教員コード	101861
登録人数	109
回答数	49
回答率	45.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

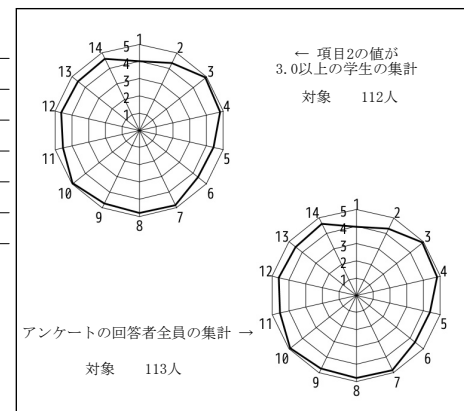


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 予定の講義内容を全てカバーする授業実施ができたこと、到達目標の理解に関する学生評価が高かった点、及び成績評価においてA+やA出会った学生が多数であった点から見て、人口・産業構造・所得水準の地域的分布の状況とその推移、そこにおける各要因の相互連関性や大都市制度のあり方に関する考察方法に関して当初に設定した到達目標はほぼ達成できたものと判断している。
- ② 授業内容に関する学生の評価は、全体的満足度の平均点が約4.5であったことに示されているように全体的に高かったと言える。これには、例年に比べて受講者数が相対的に少なく（例年は300名近いが今年度は100名程度であった）、それだけに伊yp9ある学生が多く受講してくれたことも作用していたと思われる。
- ③ 担当者は今年度で退職するため、次期以降の学部での講義担当は予定していない。今後は、若い講義担当者が、一層意欲的で学生の知的好奇心を高める授業を実施されることを期待している。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治変動論
授業コード	46N10-001
教員名	星野 昌裕
教員コード	101897
登録人数	264
回答数	113
回答率	42.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

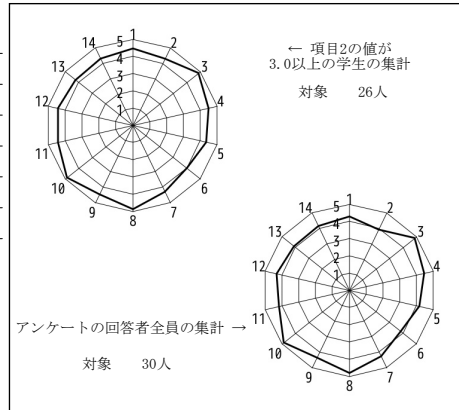


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業では、東アジアの政治変動を理解するのに必要な政治学の基本概念を詳しく説明したうえで、中国の一方支配政治システムの形成とその変容過程、台湾における権威主義体制の確立と民主化、権威主義体制下における民族問題等を講義した。これらを通じて、地域研究の分析手法、「権威主義」、「民主化」、「民主主義」などの政治学概念、東アジアで依然として大きなプレゼンスを占める「社会主義」体制の理論と現実、世界各国の政治体制を比較分析する手法を習得することが、開講当初に設定した本授業の目標である。
- 授業評価をみると、例えば設問3から設問14の平均値が4.67となっており、開講当初の目標を十分に達成できたと考えられる。設問3から14のなかで最も平均値の低かったのが、授業の到達目標に向けて力がついてきているかを問う設問6であった。4.36という数値自体は、大学全体や開講主体の平均値と比べて決して低い値ではないが、授業で学んだ分析手法を現実の政治分析に応用できるよう、次年度に向けて改善していきたい。
- 今年度は250名を超える履修者にZoomで講義を行った。レジュメとパワーポイントのほかに、ホワイトボードに板書する授業形態を併用したが、自由記述欄ではこれに対する好意的なコメントが多数にのぼった。これはオンライン授業であっても、教員の動的な姿をみせることが授業理解に役立つことを示すものだろう。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル化と国際協力 / Globalization and International Cooperation
 授業コード 48E05-001
 教員名 山田 哲也
 教員コード 100839
 登録人数 133
 回答数 30
 回答率 22.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

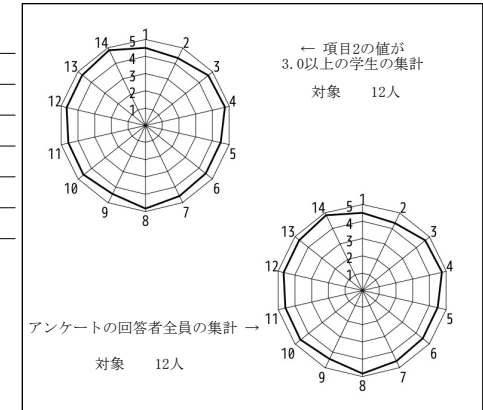


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義も全面オンラインであり、教科書を指定し、それを基にしたレジュメを資料ダウンロードに事前に上げ、講義の際は、そこに書き込んでいく、という方式を採用した。ただ、国際教養学科の科目というもあり、兼担を依頼された際、「できるだけ英語を入れ、アクティブラーニング方式で」という注文が付いていたので、そのつもりで準備していたし、昨年度はそれに沿って、講義を行った。他方、今年の学生（3年生が中心）に意向を聞いたところ、あまり英語の使用に積極的ではなく、また（コロナ禍による経済的困窮もあって）教科書もほとんどが入手していなかった。そのため、資料は可能な限り英語で作成し、講義ではそこに日本語で説明を加えるという形で、英語に触れさせる機会を増やすようには努力した。アクティブラーニングについては、ZOOMのチャット機能を利用したが、学生側から積極的に質問が出るという状況でもなかった。本来なら、ブレイクアウトルームを活用したいところではあったが、学生側の通信環境にも配慮して、実際には利用できなかった。種々の制約はあったが、数値的に見れば、当方が開講当初に設定していた目標はほぼ到達できたものと考えられる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学II および演習[SS]1
 授業コード 50A07-001
 教員名 阿部 俊弘
 教員コード 103189
 登録人数 42
 回答数 12
 回答率 28.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本授業の目標

1. 逆行列を計算することができる。
2. ベクトルの一次独立性と一次従属性を理解している。
3. ベクトル空間を理解している。
4. ベクトル空間に関する概念について述べることができる。

はすべて達成された。
 本授業では毎回の授業後に演習問題を設定しており、多くの学生が積極的に授業に参加していた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

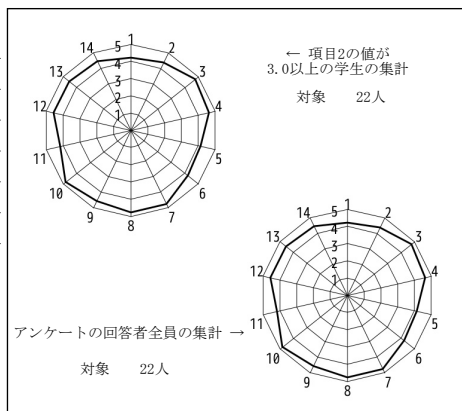
対面授業に比べて、質問がしやすいようで、学生が積極的に質問をしてきていたので、丁寧に対応できた。
 また、オンライン授業であることから、私語などの苦情は0であり、オンライン授業ならではの良さが発揮できた。
 期末レポートも全体的に良好であり、授業に関しては効果が大きかった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

理系科目の多くの授業と同様、予習よりも復習を重視しており、学生もその意識で勉強をしていたと思われる。難易度ももう少しあげても良いかもしれない。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	線形代数学II および演習[SS]2
授業コード	50A07-004
教員名	小市 俊悟
教員コード	101691
登録人数	44
回答数	22
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

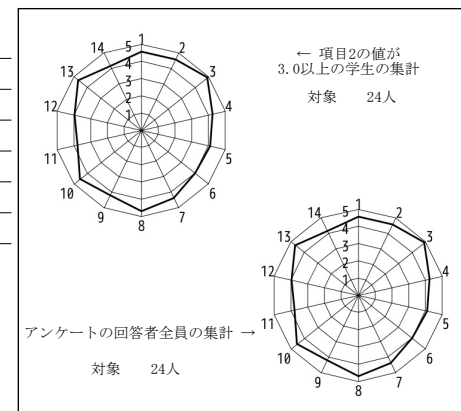


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①線形代数学Iおよび演習で学んだ知識（行基本変形）を活用して、ベクトル空間などの線形代数学に関する概念を理解することが、線形代数学IIおよび演習の目標であるが、成績からすれば概ね達成できたように思う。ただし、学生の自己評価（設問20）によると、決して高いとは言えないので、注意が必要である。
- ②設問18まで4以上の数値であり、自由記述欄も好意的なコメントが多いので、学生にとっては満足度の高い授業が行えたのではないかと考える。特に、自由記述欄からは、授業の進行速度が適切であり、質問の時間を含め演習にかかる時間などが効率的なものであったことがうかがえる。一方で、演習問題を増やしてほしいというコメントもあった。
- ③当然かもしれないが、オンライン授業は自習する能力が十分である学生にとってはかえって効率が良いのかもしれない。逆にいうと、そうでない学生をいかに助けるかが重要でもある。また、成績評価についても、選択問題だけでは、学生の実力を知るのに難しい面もあるので、可能な限り多様なレポート形式を用意することが、学生の学力を把握するのに必要かもしれないと考える。検討を続けたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	プログラミング応用[SE]2
授業コード	50A09-004
教員名	蜂巢 吉成
教員コード	019448
登録人数	42
回答数	24
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標と到達の程度について
講義はすべてオンライン、実習もオンライン中心で対面授業は2回実施した。対面授業の参加者は2割程度であった。オンラインでの実習はZoomのブレイクアウトルームを使用し、受講生が教員・TAに自由に質問ができるようにした。実習の課題は提出必須の基本課題と可能な限り提出の発展課題とし、適宜採点して、再提出の機会も設けた。発展課題の提出率は約80%であり、多くの学生が自主的に課題に取り組んでいた。
Zoomを利用した口述試問による試験も実施した。授業時間中に課題を出題してプログラムを提出させ、そのプログラムの内容について口頭で質問した。ほとんどの学生が質問内容に適切に答えており、当初設定した目標を達成したと考えている。
- ②総合的な自己点検・評価。
オンライン中心の授業であったが、過去の授業評価の数値と比較しても、点数が大きく下がるなどの違いは見られなかった。自由記述欄でも「オンラインとはいえ、質疑応答やTAなどが充実していた」「ブレイクアウトルームでTAさんや先生に質問できる場があったのが良かった」などの好意的な意見が多かった。「オンライン授業ということで、質問をする際に、画面越しであるため、伝えたいことを伝えるのに時間がかかることが大変だった」という意見もあったが、概ね、オンライン授業による不利益はあまりなかったようである。
- ③次クォーターに向けて
来年度もオンラインが中心であるようならば、学生のより積極的な参加を促すような取り組みも検討する。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	プログラミング応用[SC] (2019生用)
3	
授業コード	50A09-009
教員名	大月 英明
教員コード	047340
登録人数	15
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

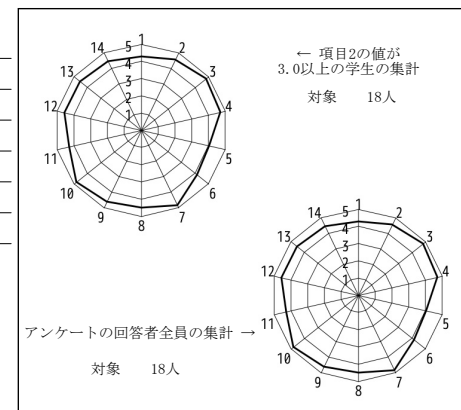
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目はオンラインと対面授業を交互に行った。学生はオンラインと対面授業を自分で選択する日も設けていた。従来の対面授業の場合、質問に対しては学生のディスプレイを確認することに比較的に手間がかかっていた。しかしオンラインであると、学生のディスプレイを直接自分のディスプレイに表示することができる。この点はむしろ対面よりもオンラインの方が効率的に指導できると感じた。昨年度までは学生同士で相談して課題をこなすことを許していたが、今期のオンライン授業ではその点は考慮していなかった。オンラインのデメリットとしてはこのような学生同士の相談がやりにくいことであろう。実際、オンラインではなくあえて対面に出席する学生は、学生同士での相談が目的の者も少なくなかったように見受けられた。学生同士の相談はオンラインでもシステム上は不可能ではないので、来年度からはルール化し、オンラインでも学生同士の相談ができるようにすることも考えた方が良くと思う。ともあれ、この授業に関しては、コロナウイルスによる悪影響はそれほど多くなかったように思われる。状況が元に戻ったとしても、オンライン授業は続けていっても良いのではないかと感じた。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報システム開発実習[S1]
授業コード	52A04-001
教員名	金山 知俊
教員コード	019455
登録人数	32
回答数	18
回答率	56.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

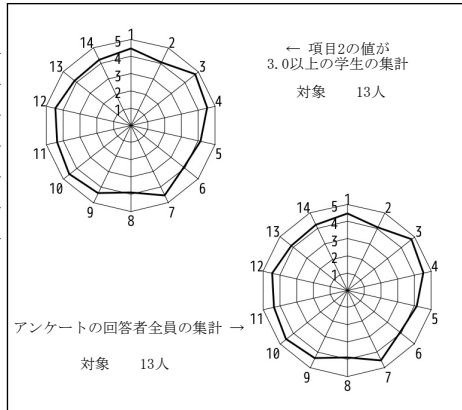


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 本科目は授業で行う実習やその内容をまとめたレポートおよび最後の授業回での発表についてピア評価および自己評価を行うことで学生の積極的な取り組みを促しつつ学習を進める工夫を行う予定であった。今年度はオンライン授業への移行が必要となり、実機からソフトウェアによるシミュレータを使用した授業に変更が必要となった。また、レポートのピア評価も実施することはできなかった。その一方で、実機では授業中にしか実施できない実験を自宅で行う環境が得られたことにより、意欲のある学生にとっては自主的に学習を進めることが可能となり、受講の成績にも昨年度以前と比較して大きな差は発生しなかった。授業方法の変更はあったがシラバスに示された到達目標はおおむね達成できたと考えられる。
2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.52、項目3~14の平均が4.53であった。これは理工学部ソフトウェア工学科科目の平均より高い値である。個別の評価項目はいずれも4以上であり、全体として授業に満足した受講生が多いと思われる。設問15-17の自由記述では、トラブル対応や受講生同士での話し合いの機会が多かった点を評価する意見があった。評価の低い項目は5,6であり、これは授業内容の大幅な変更により当初スムーズな授業進行が困難だったことが要因にあると思われる。また、オンライン授業では受講生相互のコミュニケーションが難しい場面もあり、自由記述にもグループワークが思うように進行できなかったという意見が見られた。
3. 次年度は、コロナ対応により実施できなかったピア評価、自己評価やレポートの相互参照など、アクティブラーニング形式の授業構成を再開したい。また、シミュレータ導入による授業時間外の自主学習については次年度も利用できるよう検討したい。加えて、次年度に対面授業が再開できなかった場合にそなえ、オンライン授業をより効果的に実施できるよう事前に検討を行う予定である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報システム開発実習[S]2
授業コード	52A04-002
教員名	横山 哲郎
教員コード	101934
登録人数	31
回答数	13
回答率	41.9%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

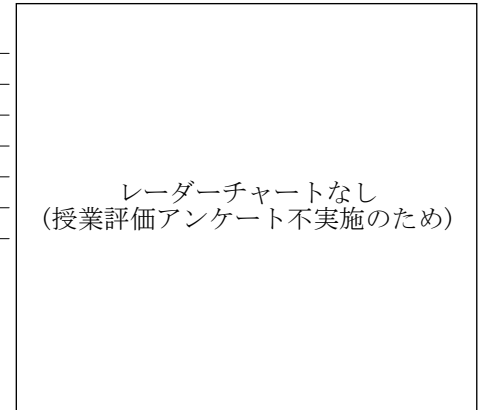
本実習は組込みシステムを題材にソフトウェア開発技術の基礎的な概念から実際に手を動かしてソフトウェアの構成法について学ぶことが意図されている。今年度は、複数人で実機を共有してグループワークを行う代わりに、シミュレータを用いてオンラインでZoomのブレークアウトの機能を使ってのグループワークを行った。到達目標に掲げられたクロス開発環境を用いたソフトウェア開発や組込みシステムに求められる特徴的な品質について理解し、実時間性を考慮したソフトウェア構成法を実践することは一通り行うことはできた。

今年度の自由記述欄は例年と異なる意見が多かった。「動画」教材の良さや「資料がしっかりしていた」こと、オンラインでのグループワークの難しさ、質問のしやすさが挙がっていた。

リモートでシミュレータを用いると実機のイメージがわからない欠点もあったが、以下のような良い面もあった。例年、実機を自宅に持ち帰って予習復習に役立てたいという意見が一部で出ていたが、シミュレータはいつでも各自で動かすことが可能である。動画教材は必要なときに見返すことが可能である。ブレークアウトルームを使うと他のグループの活動を参考にする機会が減る一方で、自分たちの取り組みに集中することができる。オンラインの方が例年よりも質問が気軽にできたようであるが、質問をする仕組みを変えるだけでこうした変化があったのは意外であった。来年以降もこれらの良い面が生かせるような取り組みは継続していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ソフトウェア工学演習IV
授業コード	52A08-003
教員名	張 漢明
教員コード	049627
登録人数	2
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ソフトウェア工学科の野呂研究室、沢田研究室、張研究室に配属された学部3年生を対象に、卒業研究に向けてソフトウェア工学および関連技術に関する基礎的な能力を養うための演習を実施した。

■開講当初に設定していた目標と到達程度について

本演習では、ソフトウェア工学演習IIIに引き続き、オブジェクト指向の概念を用いたソフトウェア開発の基本技術の習得を目的として、グループ演習を行った。研究室の住所録を題材として、(1)ユースケース図・クラス図・シーケンス図を用いた仕様と設計の基本技術 (2) Java言語を用いたプログラミング技術の習得を目指した。特に、クラスとインスタンスの関係、クラス間の関連、汎化関係の基本概念の理解と、オブジェクト指向の概念を用いた仕様・設計・実現のソフトウェア開発プロセスの理解を目指した。

■総合的な自己点検・評価

受講生らは積極的に課題に取り組み、いずれのグループも動くプログラムを完成させることができた。しかし、プログラムの詳細をみると、クラスの汎化関係の理解と実現方法の理解が十分ではなかった。UMLを用いたオブジェクト指向の概念は概ね理解できたと思われるが、それらを実現するプログラミング技術の習得は十分ではなかったと思われる。

■改善点、今後の抱負、方針

演習は、オブジェクト指向の解説とグループ作業で進めた。プログラム作成のサポートをどのようにするかが今後の課題である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業研究IVD
授業コード 52A16-001
教員名 野呂 昌満
教員コード 016477
登録人数 12
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

十分な水準の卒業論文を作成できるようにするのが目標であった。今年度は通年でリモートでの指導となった。開始当初は対面で行う方が効果が高いと感じてはいたが、意外なことに、リモートの方が良い成果が挙げられたと考える。卒論の質量ともに充実したものとなった理由としては、

1. 決まった時間だけでなく、随時対応でリモートミーティングを学生の求めに応じて行ったこと、
2. 提出物の添削等も会議システム上で会話的に行えたこと、
3. 学生にとって質問の敷居が高くなったこと(学生が自分部屋から任意に要求が出せた)、
4. 教員にとっても質疑応答の敷居が低かったこと、

などが挙げられる。私の怠惰のなせる技ではあるが、自分の部屋からいつでも指導が可能という環境は十二分に機能するものであった。

来年度は、対面での指導が復活するであろうから、今年度得た教訓をもとに、さらに良い論文を書けるように指導したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業研究IVD
授業コード 52A16-006
教員名 沢田 篤史
教員コード 101413
登録人数 15
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度

開講当初においては、Q1からQ3までの卒業研究指導に引き続き、卒業研究を継続し、成果を卒業論文として取りまとめるとともに、発表できるようにすることを目標とした。すなわち、受講生らが自ら選んだ研究課題について調査・検討し、研究課題に対する自らのアプローチの新規性・有用性について主張できるようにすることを目指して指導を行った。より具体的には、卒業研究で取り組む課題に対する技術的背景、問題点、研究目的、目的達成のための技術的課題、技術的課題を解決するための手法、研究成果、成果に対する評価・考察、今後の課題、を明らかにし、それらを論文と要旨、成果発表資料(プレゼンテーション)に取りまとめるべく研究指導を行った。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

授業評価アンケートは実施していないので、数値データや自由記述は存在しない。

当初設定した目標について、達成が不十分であった。卒業論文、その要旨、プレゼンテーション資料について、受講生自身らが行った研究の成果や意義を明確に主張できていない例が散見されている。特に卒業論文については、南山大学理工学部の卒業論文としてふさわしい内容に改めるべく引き続き指導を行っている。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針
遠隔での指導が継続される場合、研究指導の意図が受講生に届きにくいことを十分認識の上、研究の質向上に向けて努力する。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	プログラミング応用[SC] (2019生用)
3	
授業コード	50A09-009
教員名	本田 晋也
教員コード	104254
登録人数	15
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 目標と到達

本授業では、C言語の基本的な文法の理解と関数を用いたプログラミングの理解と作成を到達目標としている。演習の提出物及び期末の面接の結果から、おおむね到達できたと考える。

(2) 総合的な自己点検・評価

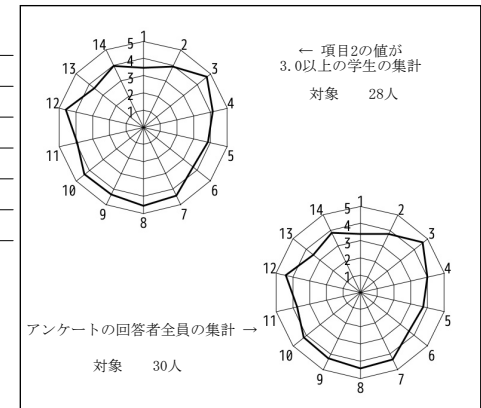
本授業では、半分の回は演習であり、課題は授業時間内に実施して同日中にWebClassに提出することになっている。今年度はオンラインで演習を実施し、課題の提出は当日の1次締め切りと1週間後の2次締め切りの2段階に設けた。これは、ネットワークの不調により参加できないケースを考慮して設定した。毎回の講義において、数名の学生はネットワーク不調により参加が出来ないという状況であったが、大きな混乱なく進められた。演習では、1つのZoom会議において、複数の教員とTAが約300名の学生を担当した。教員とTA毎にブレイクアウトルームを設けて質問がある学生は自らブレイクアウトルームに移動して質問をするという方法で進めた。メリットとしては、学生のPCの画面を共有できるため、状況の把握と細やかな指導が可能であったことが挙げられる。デメリットとしては、質問が長い学生がいると、他の学生の対応が出来ないという問題が発生した。特にTAに対しては課題の詳細まで質問する学生が多いという問題があった。また、オンラインでは全体の理解や進捗状況が把握しづらい点が課題として挙げられる。例えば、理解度や進捗が低い学生がいた場合、対面では教室を巡回することにより、このような学生を発見して指導することが可能であるが、オンラインで同様のことを実現するのは難しい。

(3) 改善点

理解度や進捗が低い学生を把握するため、演習時間内に手の空いた教員は定期的に学生と個別面談する等の措置が必要であると考えられる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報社会と倫理
授業コード	52B09-001
教員名	杉原 桂太
教員コード	101115
登録人数	119
回答数	30
回答率	25.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



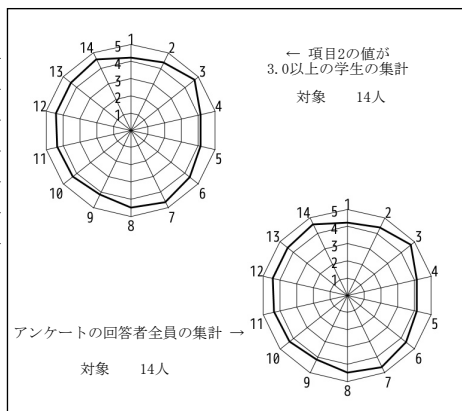
授業評価結果を踏まえた点検・評価

従来の対面授業の内容をオンラインでも効果的に実施することが目標となった。まず、学生による授業評価の実施を複数の回で呼びかけたが、十分な回答数とはいえない。オンラインでの授業での評価への参加を促す手段を検討したい。次に、項目番号の平均値は3と4、7、8、9、10、12は4点台であり、それ以外は3点台だった。オンラインの授業の開始時間と音声は特段問題がなかったことが分かった。しかし、受講者の自主的な学習を引き出す方策と全体の満足度には改善の余地が大きいといえる。さらに、自由記述では一部を除いて特段問題を指摘されていないが、これは、一定程度満足した受講者が回答者の多くを占めているからだと思われる。上記の目標は全体として上手く行ったとはまだ判断できない。授業評価を行っていない受講者は、授業の進行について指摘したい点があったと思われる。

オンラインの授業では、チャットを用いた質問を受講者が行いやすいと考えられ、今回の評価にもそのことが表れていると考えられる。この点を今後の対面、オンラインの授業に活かす方法を検討することで、より内容が受講者に伝わり、満足度が向上する授業が可能だと思われる。このことを今後の授業につなげていきたいと考えている。そのためにも、対面およびオンライン授業のためのノウハウをFD活動によって収集することは有益と思われる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御システム実習2
授業コード 53A02-002
教員名 稲垣 伸吉
教員コード 104255
登録人数 30
回答数 14
回答率 46.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

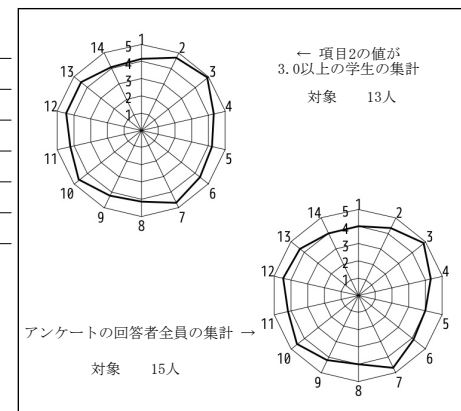
開講当初に設定していた目標は、1. 目的を持つシステムを現実の世界に試作・設計できる、2. システムのモデルなどを利用して制御アルゴリズムを構築できる、3. 制御アルゴリズム・プログラムを実在するシステムに実装できる、であった。これに対し、本講義は座学と実習をもってほぼ到達できた。感染症対策のため対面授業によって実機に触れる機会が少ないのが残念だったが、シミュレーションを用いた実習で十分に補えたと思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。アンケート結果から、学生への授業への興味、取り組み、授業への対応など（設問1～14）は平均点4.38と高い値を示している。このことから、授業内容と進め方は十分であったことが分かる。設問19「授業の進行に伴う学習、理解の状況」の点数は平均3.36と若干低かった。また、設問20「授業の達成目標に挙げられた内容について、全体としてどの程度身についたか」が平均2.5と低かった。復習の機会を授業内で増やすべきであろう。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
感染症対策のため対面の機会が少ないことはほぼ同じと思われるので、シミュレーションと実機の対応についてより分かりやすい解説が求められる。また、授業内容の理解を促すために、レポートの解説の時間を増やして復習する機会を増やしたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 電子通信工学実習2
授業コード 53A03-002
教員名 野田 聡人
教員コード 103679
登録人数 30
回答数 15
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本実習科目の性格からして、当初目標に十分に到達したかということは安易に評価できない。本学科のカリキュラムにおいて、実習科目の本質的役割は何であるかという点から問わなければならない。ここでその議論はしない。各学生が対面の授業を受けることができたのは1回のみである。ただしそれをもって目標に到達していないと評価することも合理的でない。代替手段としてシミュレーションを中心とした内容で授業を構成したが、これには実機実験に勝る利点も少なくない。レポートを採点した限りでは、工学部2年生とは思えない水準の文章力のものが多いがこれは例年通りである。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

自由記述にポジティブな記述が多く、意外である。「質問しやすい」等の記述は他科目と間違えたのではないかと疑ってしまう。確かに講師側としては、毎回の授業で度々「質問があればどうぞ」と質問を促し、しばらくチャットや発言を黙って待つという時間を設けるようには配慮した。しかしそのようなときに実際に質問をした学生はほとんどいない。では全員が質問もないほどに理解しているかと言えば、レポートを評価する限りそのようなことはない。質問しにくいのだと思う。TA不在で教員のみであったことも質問しにくさの一因と推測する。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
本年度はTA不在での実施となった。実習科目はTAを配置して十分なスタッフ対学生比で実施するべきであるという学科全体でのコンセンサスがあればこのようなことにはならなかったと思う。学科会議で強くお願いを申し上げたので来年度はこの点は改善するはずである。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業研究IVG
授業コード 53A14-003
教員名 陳 幹
教員コード 100770
登録人数 7
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

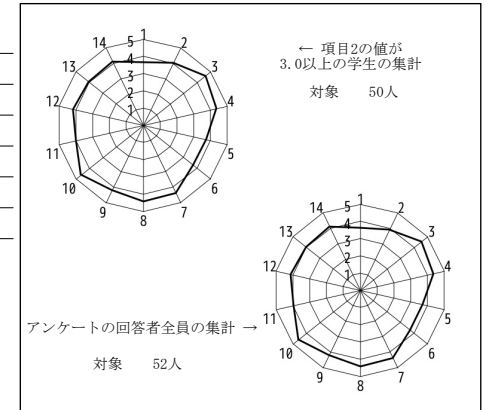
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初設定し、学生に周知した目標は、A. 研究動機が明確であること、B. 独自性や新奇性があること、C. 有用性があること、の三点である。
A については達成できたが、B と C については半数以上の学生が達成できなかった。
2. 学生の受講状況は、コロナ禍の影響もあってよくなかった。
通学を希望せず、一年間一度も対面を行うことなく卒業論文に取り組む学生が半数を超えた。
通学よりも参加しやすい遠隔講義形式であったにもかかわらず、欠席が多かった。
最低でも高校生の学習時間以上の研究時間を確保するよう数え切れないくらい指示したが、毎回の進捗報告は研究時間を捻出したとは思えないものが多かった。
遠隔で学生に指示を出しても、大半の学生はそれに従っていなかった。
今年度のこの科目(卒業研究)の成果はここ10年で最も低い。
3. 遠隔講義のみでは卒業研究の指導は非常に難しい。
2021年度は少人数・演習系の科目は対面となるときいている。
2019年度までの質にもどしたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 通信理論[S]
授業コード 53B02-001
教員名 河野 浩之
教員コード 048595
登録人数 144
回答数 52
回答率 36.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

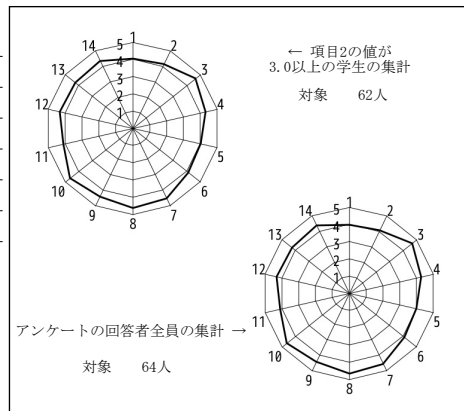


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
試験(対面)の予備調査時点で、試験(対面)実施が困難であると考えて、毎回の小テスト解答とレポート提出を求めることで、当初目標とした評価を行うことができた。また、毎回実施した小テストの解説を、次回の授業中に行うことにした。
 - ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
オンライン授業時の学生のコメントを踏まえて、授業の動画アップロードを行なった。
授業終了前に、短時間の音声による質問時間(チャット対応)を設定したことは良かったようである。
オンライン授業以前より課題設定(小テスト)を実施していたが、今後も継続したい。
- なお、項目番号21に関して評価が低い。しかし、レポート課題(情報量に関するエントロピー計算)への解答状況は良好であり、学生自身の評価以上に理解していると思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
2021年度の授業の環境は不透明であるが、今期作成した各種教材の有効活用を検討したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報通信セキュリティ[S1]
授業コード 53B08-001
教員名 石原 靖哲
教員コード 103810
登録人数 223
回答数 64
回答率 28.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

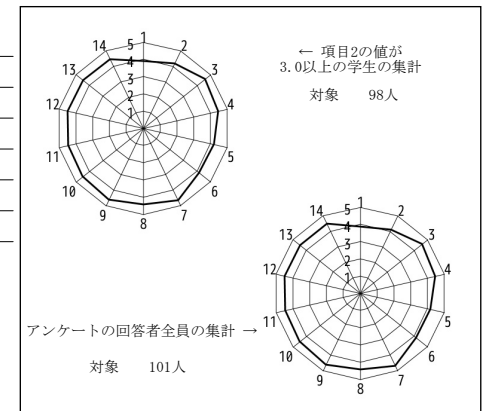


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①今年度は、昨年度と教える内容は大まかには変わらないものの、教科書を最近出版されたものに変更し、細かい内容をより現状に即したものにすることを目標としていた。ところが、コロナ禍で定期試験を実施できない可能性を考慮した授業運営が必要になってしまい、定期試験の代替として毎回ミニレポートを課すことにしたため、授業の準備がかなり自転車操業になってしまった。もう少し教科書を読み込む余裕があれば、よりよい授業ができたと思われる。
- ②自由記述において、ホワイトボードに関する賛否の意見があった。さまざまな要因を考慮した結果、手元のタブレットに書き込んだ内容が自動でクラウドに保存され、さらにその内容がクラウドからZoomを起動しているPCに自動で転送され、最終的に学生に配信されるという形をとっていたのだが、クラウド経由のデータ転送に時間がかかることが何度もあった。引き続き最適な配信方法を模索していきたい。それ以外はおおむね好評であったようだ。特に「オンラインのデメリットを感じることなく授業を受けられた」との意見は、いろいろと工夫を重ねた甲斐があったと素直にうれしく思う。
- ③許されるのであれば来年度も講義はオンラインで行いたいと強く思う。機材の関係で教室では行いづらいデモも簡単に見せることができる。デジタルのホワイトボードは、教室のホワイトボードよりも見やすく、柔軟な使い方ができる。授業中に、真面目な学生が不真面目な学生に私語等で邪魔される心配もない。座学ならオンラインの方が確実によい授業ができるという自信がある。大学として方針を早めに決めていただけるとありがたいと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化人類学A
授業コード 12B13-001
教員名 MUNSI, Roger Vanzila
教員コード 101925
登録人数 198
回答数 101
回答率 51.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



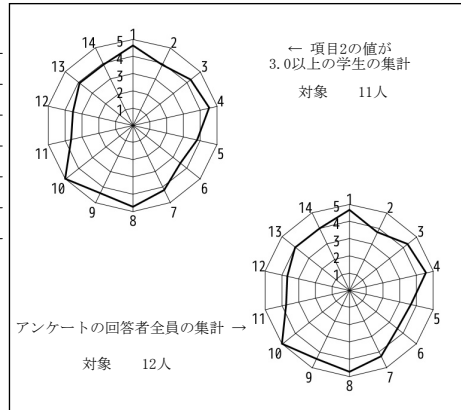
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This Course on Cultural Anthropology A was organized into parts. The first part allowed students to grasp the historical background, basic theories and methods of cultural anthropology. The second part focused on case studies in various areas, such as Japanese, Central and south east Asia, Africa, Haiti and South America. Some selected reading materials allowed students to improve their knowledge of the the recent literature and to equip themselves with arguments for their final reports. Although lectures were done through Zoom, almost all students participated on line and asked questions whenever it was necessary. In the midst of the quarter 4 I organized a workshop on the relationship between cotton and human beings. This improved students' understanding of some socio-cultural, development and environmental questions discussed in our case studies.

It was my first time to give this Course on Cultural Anthropology A. In this respect, I am very happy that students developed a keen interest in cultural anthropology and wrote up good final reports. Some tried to produced good ethnographies of the festivals performed in their hometowns. Others even expressed the desire to work with me for their forthcoming long essays. Hence, students' questions, observations, and course evaluations helped me to review the course design and related literature in the future.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English IV2
授業コード	48A08-002
教員名	松永 隆
教員コード	015081
登録人数	23
回答数	12
回答率	52.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course goals:

In GLS English II, students will be encouraged to attain an appropriate level of academic and oral proficiency, and to critically explore and analyze thought-provoking content, drawn from the class text and selections of journalistic, literary and documentary sources.

In this course, students will:

- (1) learn to read English in an academic context in order to obtain information,
- (2) learn to express their views coherently, rationally, and with appropriate discourse,
- (3) learn the basics for organizing and presenting different opinions and perspectives on a range of issues.

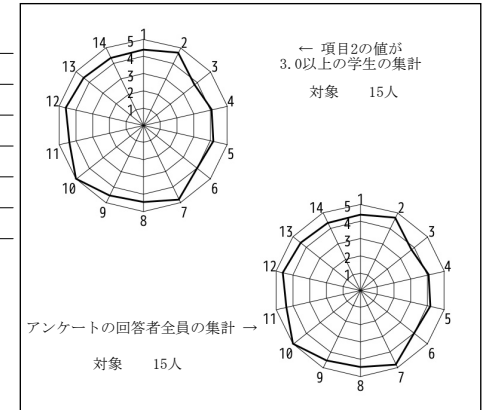
目標達成度

設問1~14の平均値は4.17、設問3~14の平均値は4.17であった。また「ディスカッションをする機会が多くあり良かった」、「ブレイクアウト・ルームで積極的に発言できた。」などのコメントがあり、今後もこのような手法は継続し、さらに新たな試みも導入していきたい。

Active Learning をしっかりと実施することができ、目標は十分なレベルまで達成できたと思われる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLS English IV4
授業コード	48A08-004
教員名	YARDLEY, Gabriel
教員コード	016998
登録人数	24
回答数	15
回答率	62.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

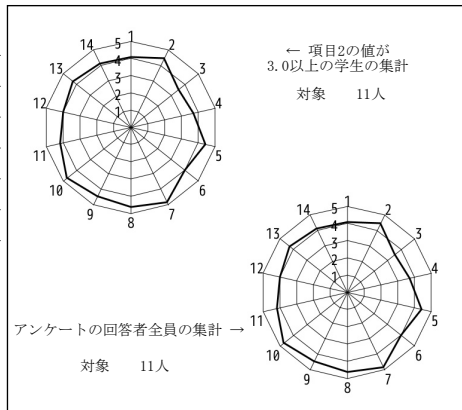


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives presented in the course syllabus were closely followed throughout Q4. Participants were required to prepare reading and writing assignments relating to issues of crime and delinquency. Discussion activities were based on coherent, critical analyses of materials related to this theme. Each student's confidence and progress was reviewed during several feedback sessions each quarter; however, given the responses to some of the earlier questions, some participants may have not fully understood the class goals, or may have felt that the class was progressing too rapidly. Several students found occasional difficulties in participating consistently in Zoom class sessions due to technological issues. In future classes, the instructor will confirm more often that all students feel confident about course objectives while ensuring that the methodology is consistently accessible. Overall, survey responses appear to indicate general satisfaction with the course in terms of the knowledge acquired and the materials and methodology used throughout Q4. Written, individual comments also reflect a positive attitude to course content. In spite of technical limitations, classes were a pleasure to teach: students all did their very best and worked harder than expected, particularly on their presentations. While the majority would seem to have 'gained new knowledge... through this course', the instructor will nevertheless aim to provide a more satisfactory learning experience in all the areas reviewed by this survey.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV5
授業コード 48A08-005
教員名 森泉 哲
教員コード 100542
登録人数 21
回答数 11
回答率 52.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

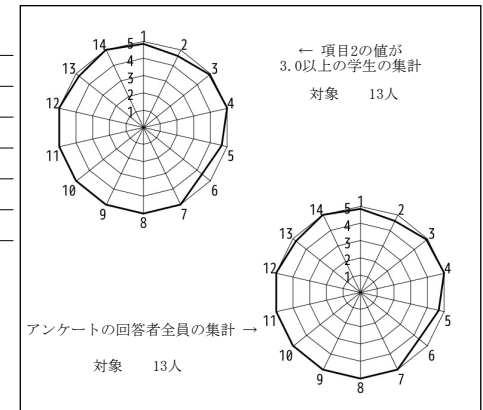


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、Q3に引き続き英語によるアカデミックスキルを養成する科目であり、特に現代社会の諸問題についてコミュニケーションできる英語4技能を同時に高めることを狙いとしている。特にQ3と比較して、英語でディスカッションを通して、議論できるだけでなく、今回初めてディベートを導入することを通して、さらに議論を論理的に構築し、相手に説得的に伝えることの基礎を養うことを目的としている。学生の評価から判断すると、自由記述での本授業の評価できる点として、「グループでのディスカッションに取り組めたこと」「ディベートやプレゼンテーションが多く設けられており、力がついたと思う」というコメントにみられるように、学生は本授業の趣旨を理解し、熱心に課題に取り組むことのできる授業であったのではないかと思う。一方で、評価が相対的に低い項目は、「授業開始・終了時間」「授業構成・進度」に関してであった。1, 2度ズーム接続がうまくいかなく、予定開始時間に授業が始められなかったこと、また終了時間においても、学生の発表時間を途中で切るとは難しく延長してしまうことがあったので、より厳密に授業運営を行っていきたい。授業構成や進度については、学生の反応について各授業終了時に直接尋ねるなり、適宜アンケートを行うなどし、反応をより丁寧にみながらより効果的な授業になるように授業を行っていく。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV8
授業コード 48A08-008
教員名 MILES, Richard
教員コード 101363
登録人数 21
回答数 13
回答率 61.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went, given all the difficulties of the past year. Students were very positive in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students learn about all the issues related to crime, in English, through active learning. Students answered very positively to questions #13 and #14, indicating they felt they had achieved a lot, had improved their skills and gained a better understanding of the course materials. Students also responded positively to questions #7-12, even though the class was somewhat difficult, indicating they thought the level of the class was appropriate.
2. The written comments from the students were positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the online classroom and the interaction between the teacher and students, as well as the interaction between students. In particular, students enjoyed and seemed to benefit from the group discussions in breakout rooms.
3. Unfortunately, this course will be discontinued, but I intend to provide more positive feedback to students in other classes in the future, as their responses to question #6 indicated they were still a little unsure of the overall progress towards the class goals.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	GLSアカデミック・ジャパニーズII
授業コード	48A13-001
教員名	北村 雅則
教員コード	100212
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

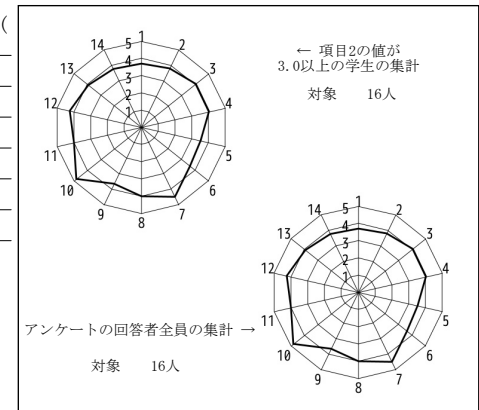
今年は、オンライン授業による例年にはない厳しい環境の中での語学（日本語）の授業となったが、到達目標として示した「1. 日本語で、適切な語彙・表現を用いたプレゼンテーションができる。」「2. 日本語による、論理性や客観性の高いレポートを作成できる。」について、概ね達成できたと考える。

回答者数の問題で履修生からの評価値が分からないが、到達目標の2に関しては、この一年を通して論述に挑んできた結果が現れ、履修生たちの日本語レポートは格段の上達が見られたことも到達目標が達成されたことの裏付けとなる。授業を終えた今、語学の授業は、オンラインよりも対面授業の方がやはり有効だと感じているが、こうした環境下でもできる対応を取ってきたことで履修生の日本語力向上の一助となれたのなら幸いである。しかし、履修生たちが自助努力も含め、日本語力の向上に努めたことが一番の要因であり、そういった雰囲気、授業の中で共に作り上げられたことに、自己評価として達成感を覚える。

今後も、履修生とともに作り上げる授業スタイルを継続していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies C (Religious and Social Studies)
授業コード	48E08-001
教員名	VOLPE, Angelina
教員コード	000167
登録人数	49
回答数	16
回答率	32.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The first problem that becomes clear is that only 16 out of 49 students answered the questionnaire (only one third of the class).

The most difficult thing was to maintain an active relationship with the students during the online lessons. Except 3 to 4 students, most of them didn't turn on the camera and show their faces during the lessons. I was left with 46 little black windows to talk to. (And even when we were given the chance to have face-to-face classes again, the situation remained pretty much the same). I think one of the most important issues to be solved is how to convince students to turn the camera on without fear and speak freely even through a computer.

However, from the good quality of the final reports, I would say that they achieved the purpose of the course, which is:

- 1) To understand that Christianity is for every culture and people (especially for what concerns the concept of equality and fraternity).
- 2) To think about religions without prejudices (a hard problem to overcome since 90% of the students say to have a bad image about religions).
- 3) To understand that Christians and non-Christians can work together for the common good.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies A (Linguistics) <国際科目群>
授業コード	48G07-901
教員名	村杉 恵子
教員コード	019034
登録人数	9
回答数	3
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4のSpecial Topics (持続可能性と言語) は、ZOOMによって行われた。この授業については12月と1月に授業評価の対象であることをアナウンスしているが、3名の授業評価しか得られなかった。したがって授業内で得られた感想も含めて、この授業について省みたい。

① ZOOMにより、教科書を用い、チャットに質問などを自由に書いてもらいつつ、講義を進めた。学生同士の話し合いは、ブレイクアウトセッションによって行った。予定どおり、授業の最後には、学生による発表はパワーポイントを用いて画面共有によって行われた。学生は、持続可能性の問題が遠い地域の問題ではなく、手話や難読症など身近な場所に重要な問題があることを認識することができた点において、当初の目標は達成されたように思う。

② 自由記述には、「ブレイクアウトルームを利用して、生徒だけで課題に対する相談をする時間を設けてくれたのが良かったです。」

「オンラインでも友人と相談できる時間が設けられていて、やりやすかったです。」などのコメントがあった。また、学生がパワーポイントにより、資料共有をして、発表できたこともよかったようだ。

③ ZOOMだからこそできる授業をめざす中で、チャットを用いて自由に質問できる環境や、教員の聞こえない中で学生同士が意見を自由に話すことのできるブレイクアウトセッションは、対面授業にはない良さであったかもしれない。一方、ZOOMであるがゆえに、画面を出したとしても下を向いている(おそらく携帯をさわっている)など、ほんの一部の学生ではあるが、自宅にいる学生のモチベーションを保つ難しさも感じた。今後も、置かれた環境の中で、方法や内容を考え、工夫し、受講生にとって最適な学習環境を整えられるように努めていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies D (Political and Economic Studies) <国際科目群>
授業コード	48G10-901
教員名	山岸 敬和
教員コード	101411
登録人数	15
回答数	3
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスを担当したのは今年度が初めてであった。最初に20名程度いた履修者が最終的には14名になった。このクラスは国際教養学部の英語によるクラスでも最上位に当たるクラスと考えられることもあり、かなり多くの英語のリーディングと、多くの準備が必要となるプレゼンのフォーマットを採用した。学生が減少したのは、ハードなクラスであるという印象を持たれたのが主な原因だと考えられるが、その結果勉学に積極的な学生ばかりとなりクラス内での議論も活発であり、最後のレポートもよく書かれているものばかりだった。

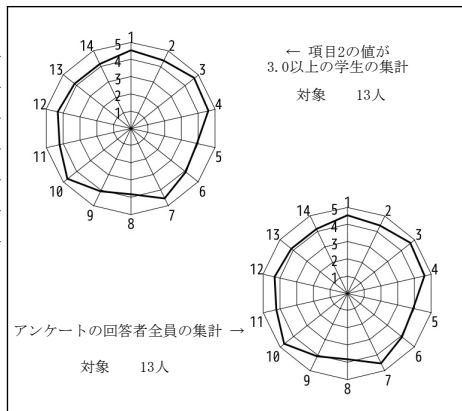
このクラスの目的は以下のものを学生に身につけさせることとした。1) To read and discuss in English, 2) To understand what capitalism is, 3) To discuss how to solve the problems which capitalism causes. 授業の全てを英語で行ったこのクラスでは1)は十分達成された。また資本主義とは何か、資本主義が引き起こす問題をどのように解決するのかという点については、クラスで毎回議論が行われたことで学生もより深く考えることができたと考えられる。

このクラスは授業評価の回答数が3名と少なかったためレーダーチャートや平均点が出されなかった。授業評価に協力してもらいたいということをクラス内でも学生に強く伝えたが残念であり、来年は異なった方法で協力を求めるように考えたい。

しかし、回答してくれた3名の学生の評価はほとんどが「5」でありこのクラスへの満足度が高かったことが分かる。また自由記述にも「常に新しい発見や考える機会がある授業でした」とのコメントがあった。ただクラスの途中で文献をしっかりと読んできていない学生がいることが問題となった。議論の質を高めるためにも、再度このクラスを教える時にはリーディングの宿題を必ずやってくるように学生に伝えたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	少年法
授業コード	44B11-001
教員名	丸山 雅夫
教員コード	017517
登録人数	67
回答数	13
回答率	19.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

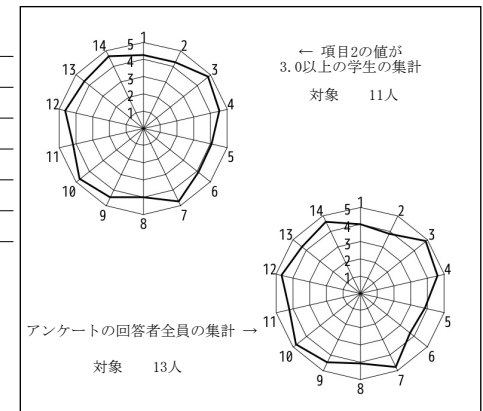


授業評価結果を踏まえた点検・評価

個比較の人数の多い授業を対面とオンラインのハイブリッドで行ったが、担当者としては、例年通りにホワイト・ボードを使用する形であったため、特に問題と思われることはなかった。一方、受講生には相当程度の戸惑いがあったように思われる。それは、設問5および設問8が、例年と比較して、かなり点数が低かったことに現れているように思われる。また、その他の設問についても、例年と比べて、相対的に低い点数になっており、特に受講生の主体的参加や理解度との関係で、オンライン授業は、対面式授業と比べて、明らかな限界が感じられるものであった。全体的な満足度が顕著に低くなっているのが、その典型的なものと言えよう。自由記述の数が少ないこと、さらには全体の回答数が極端に少ないことにも、オンライン授業ならではの「緊張感の欠如」が見取れる。こうした形式が本年度限りの例外的な措置であれば、次年度は、例年と同じような評価（の高さ）が期待される一方で、本年度と同じ形式が継続するようであれば、何らかの工夫が必要と思われるが、現時点では妙案がないというのが正直なところである。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事執行法
授業コード	44C21-001
教員名	石田 秀博
教員コード	101939
登録人数	37
回答数	13
回答率	35.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均が4.34、項目3から14の平均が4.41であったことから、「民事執行・保全手続きにつき、その全体像を把握することができる。権利の実現場面における基本的問題点につき理解することができる。」との到達目標は、教員の立場からはおおむね達成できたと考えている。ただ、学生側からは項目5（到達目標を理解できたか）が3.85、項目6（到達目標に向け力がついてきているか）が3.69と、相対的には低い数字であった。他方、項目13（理解が深まった）が4.31、項目14（満足度）は4.62であったことから、到達目標自体を理解してもらえるように、今後十分に説明したい。

自由記述欄の記載では、評価できる点として、「繰り返し話してくださるのでわかりやすく、とても理解できました。「設例を多く用いた説明だったので理解が深まった点が良かった。」が挙げられていたので、今後もその方向で進めていきたい。一方、改善すべき点として、「設例の解説が少し早く、聞き取れなかった時がある点」が指摘されていたので、今後注意したい。なお、オンラインの授業環境に関して、「板書が読めなかった」との意見があった。板書では大きめの文字・図を書いたつもりであるが、今後も留意したいと思うが、受講生側の端末の大きさにも左右されるので、オンライン授業の一つの問題点であると思われる。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト演習D
授業コード 44C28-012
教員名 豊島 明子
教員コード 101192
登録人数 21
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、Q1からQ4まで、1単位科目として、A・B・C・Dの順に連続して開講しているゼミである。Q4は対面授業を実施したが、対面授業への参加状況は21名中3名の学生が参加したのが2回ほどあり、これが最多参加人数であった以外は、大多数の学生はオンラインでの受講にとどまった。

授業は、当初の到達目標・授業計画に沿って実施でき、具体的には、行政法学の分野における最近の学術論文を法律雑誌からピックアップして、毎回のゼミでは各論文を1本ずつ読んできてもらい、検討した。授業の運営方法についても、当初の計画どおり、班ごとに報告の準備をしてもらい、事前に用意したレジュメに従い、所要30分程度で報告してもらう方法で実施できた。

Q1から試行錯誤しながらZOOMを用いたゼミ運営をしてきたが、さすがにQ4であったので、教員も学生もその環境に慣れ、全体としてスムーズに報告もディスカッションもできたと思う。実際、Q4の最終回の授業において、1年間のゼミを通しての感想や意見を出してもらう機会を持ったところ、どの学生もオンライン形式でも行政法を深く学ぶことができたことを好意的に評価してくれていた。ただし、班ごとの報告準備等の集団作業においては、対面形式に比べてやりにくさがある旨の意見も多く聞かれた。このような制約がありながらも、学生たちは、SNSやZOOMのブレイクアウトセッションも活用し、自らも工夫しながら臨んでくれたおかげもあって、教員と学生が一緒になって有意義なゼミを作り上げることができたと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学演習AII
授業コード 44D02-002
教員名 永江 亘
教員コード 103861
登録人数 4
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本演習は、今年度の状況に鑑みオンラインにて開講した。本演習への参加者は、これまでも報告者の演習を受講してきた者であったので、演習の進め方に特に違和感なく進めることができた。

本演習の目標通り、本演習では設定したテーマについて各自研究を進めてきた。参加者は各人のこれまでの研究を踏まえて、更に深化したテーマを各自用意し、報告を重ねた。今期はコロナとの関係により、資料収集に難があり、受講生に苦勞が見られた。データベースの拡充は今後も必須であると感じた。今後の課題として、初めて報告者の演習を履修する学生がいた場合にどのように進めるのかという点については検討が必要であると考えている。会社法及び金商法の外郭に関する議論をする世代ではないので、具体的なテーマの選定が困難な学生についてどのように対応していくのかについて、今後検討したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業論文演習II
授業コード 44D06-004
教員名 榎本 雅記
教員コード 103094
登録人数 2
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初設定していた目標と到達の程度は、学術論文と呼ぶに値する刑事法に関する論文を作成すること、作成した論文について分かりやすい報告をすること、であった。当該科目は、その科目の特性上、受講者による主体的な活動が他の科目に比して、より多く必要となるが、担当教員としては、受講者の論文作成の各過程において、適切にアドバイスを与えることで、受講者がスムーズに論文を完成させることが重要である。②受講者が2名だったため、それぞれの事情に応じて個別に対応することが多くなったが、両名とも積極的に論文作業に取り組んでくれたように思う。結果的に、論文を提出できたのは、うち1名であった。未提出の1名については、相当程度研究をすすめていたものの、就職関係の事情により、論文作成に費やせる時間が限られていたため、最終提出には及ばなかった。③受講者がきわめて少人数であれば、今期のような個別対応がベストだと思うが、もう少し受講者が増えたときのことも想定しておく必要があるように感じた。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 憲法特修演習IV
授業コード 44E04-001
教員名 倉持 孝司
教員コード 045237
登録人数 15
回答数 _____
回答率 _____
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、司法特修コースの学生を履修対象とすることを前提とした新設科目であり、法律専門職を目指す学生が、憲法に関して、講義だけでは得られない知識、応用力および実践力を身に付けることを目標に開講されるものである。

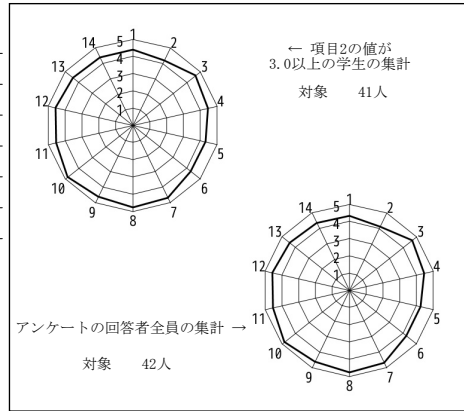
到達目標としては、ロースクール、法学研究科で学ぶことができる法実践力、法理論の基礎を修得し、具体的な事例について、正確な事実の認識、法の適用、妥当な結論を明示できるようになることが挙げられた。実際には、このうち、とくに法理論の基礎の修得に力点が置かれることとなった。そのため、学習の進捗を把握するために実施した「課題」について、いわゆる正誤方式については正答率が高く学習の成果が見られたが、論述方式については課題が残った。また、到達目標に挙げられた事例分析については、取り組むまでには至らなかった。

来年度の授業展開はおそらく本年度と同様のものになるだろうが、事例問題にまで到達できるかは今後の課題である。

なお、コース所属学生は、授業に熱心に参加し、課題にも同じように熱心に取り組んだ。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政法総論（応用）
授業コード	44F02-001
教員名	洞澤 秀雄
教員コード	102443
登録人数	112
回答数	42
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

ZOOMを通じた講義となったため、それを生かした講義をしようと考え、毎回授業内容を踏まえた設問を設け、学生にチャットで回答を求める形として、双方向での授業を行おうとした。また、時事的なテーマとしてコロナ対策について、講義に盛り込むことと行政法への興味を持ってもらおうと考えた。

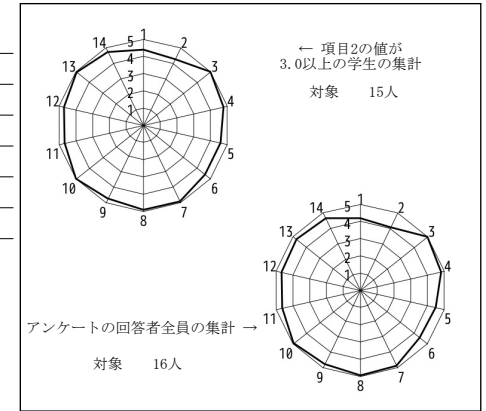
数値データにおいては、全般的に高評価をいただいた。上記の2つの狙いがある程度達成できたためと考えられる。特に自由記述欄において、コロナ対策について触れた点について、好意的な記述が複数見られ、後者の狙いへより効果的に達成できたと思う。

他方で、毎回の設問は、十分に生かしきれなかった面がある点は自認しており、自由記述においてもその点について指摘がなされた。来年度以降も設問を設けて考えてもらうという機会を持つと考えているため、設問をブラッシュアップし、授業内容に興味を持ってもらいつつ、その応用的思考ができるようにしようと思う。

来年度、ZOOMでの講義か対面での講義かがまだ決定されていないが、いずれにせよ、本年度行った設問を通じた双方向性の確保、及び、時事的なテーマの取入れは、改善をしつつ、来年度も実施していこうと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳10
授業コード	10D06-010
教員名	大塚 弥生
教員コード	000065
登録人数	34
回答数	16
回答率	47.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



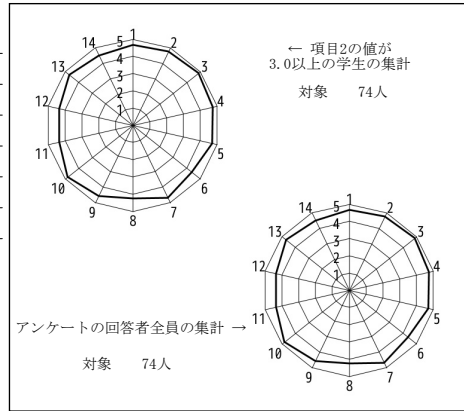
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3～14の平均値が4.74であったことから、本講義の目標は到達できたものとする。本講義のテーマは、「児童虐待」と「高齢者介護」を通して人間の尊厳についての自身の考えを深めるものであったが、これらのテーマは受講生自身が抱える当事者としてのテーマともなる一方、多くの受講生にとっては日常生活とはかけ離れたテーマである。そのため、このテーマから新しい視点を得ることが重要なポイントであったと考える。その点において、項目13（授業を通しての新しい知識や理解の深まり）の得点が4.75であったことから、本講義の目標は十分に到達できたものとする。

また、学生の自由記述からは、資料が充実していた点や、他の学生のジャーナルをまとめて提示したことによって、他者の考えに触れることができたことについての評価が多く見られた。本講義は今年度で担当を終了するが、他の講義においても、このような、受講生相互の意見交換の場を提供することを継続していきたいと考える。一方、比較的評価が低い項目として、6（授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）は4.44であったことがあげられる。受講生が自身の成長について実感できるような授業を工夫していきたいと考える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教職入門2
授業コード	15A02-002
教員名	宇田 光
教員コード	100494
登録人数	86
回答数	74
回答率	86.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



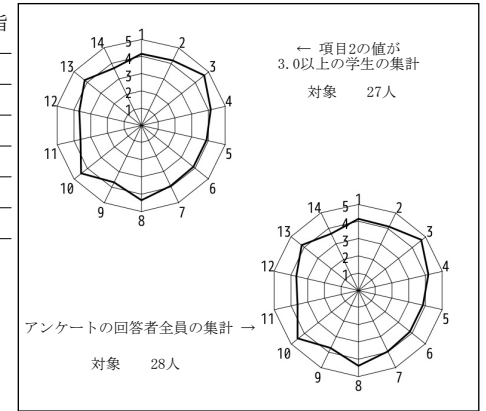
授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程を受講する学生が、最初に受講する科目である。前半がBRD方式を用いた講義、後半がグループ・プロジェクトである。初めてのハイフレックス型授業だったが幸い、授業内容・方法ともに概して評価された。項目1から14の平均値は4.60と、筆者の例年の数値と比較して大差ない。自由記述で良かった点は、「仲間と意見交流する機会が十分に設けられていたので、自分の意見の立ち位置を理解したり、また新たな意見に触れたりすることができました。／対面授業で受けることができ、相談する時間が設けられていたこと。／適切な授業内容を展開されており、自由度も高くとても充実した授業であった。／zoomと対面の両方の授業形式を用意していたので良かった。」等。

一方、ハイフレックス型への不慣れが露呈した。自由記述では「zoomと対面に対応の差がある。意見が被った場合、対面のほうが優先度が高い。／オンラインで受講の学生が不利であると感じた。音声聞き取りづらかったり、対面で今何をしているかの情報共有をしていただけがない時があった。／声をもう少し大きくしてほしい。」等、特にオンラインでの受講生への対応が不十分だった点が、数多く指摘された。今後の課題が残ったと言える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法2
授業コード	15A20-002
教員名	笹尾 幸夫
教員コード	103858
登録人数	61
回答数	28
回答率	45.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

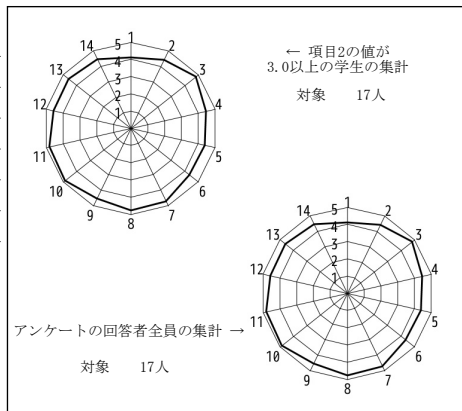


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は教職を目指す学生の必修科目であり、教員採用試験に向けて第3学年の秋から勉強に取り組ませる必要があるため、教職教養の内容を加えて指導しており、指導内容が豊富となっている。また、教員採用試験の過去の小論文課題をレポートとして課したり、授業ごとに課題を与えて教員採用試験の面接における回答の参考となるように工夫している。しかし、教員免許の取得だけを考えている学生にとっては負担感を感じているようである。ZOOMによる授業のため、テストは最後の授業時間に記述形式で実施したが、対面授業に比べ学生の理解度に広がりが見られた。これは、ZOOMの授業では生徒の反応が分かりづらいことがその要因の一つと考えられる。また例年実施している学級経営の指導方法が十分伝わっていなかったためではないかと思われる。来年度から90分から100分授業となるため、学生のグループ討論の時間を授業中に確保し、その内容を一部の学生に発表させることで、さまざまな考え方のあることを他の学生にも分からせ、学生の理解度の深化を図っていきたい。また現状では、対面授業はZOOMによる授業とハイブリッドとなり指導が複雑であるが、対面授業で実施していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 比較教育学
 授業コード 23C14-001
 教員名 五島 敦子
 教員コード 101282
 登録人数 27
 回答数 17
 回答率 63.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標の達成度・点検・評価

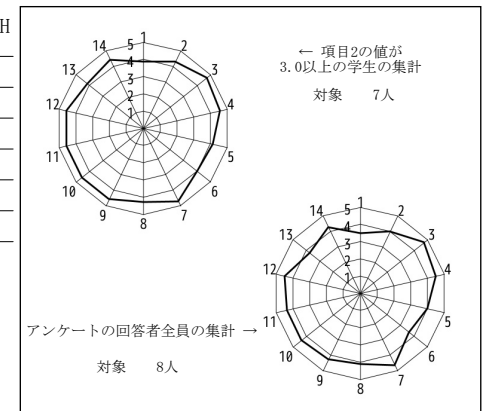
本講義は、心理人間学科の専門科目であるが、人文学部共通科目であることや日本語教師資格科目であることなどから、他学部・他学科の受講生が半数程度をしめた。したがって、受講開始前の関心を示す設問1)は、4.12と高くなかったが、授業後の評価を示す設問13)は4.59、14)は4.47というように、総じて満足度が高かったと考えられる。授業運営に関しては、設問7) 4.71、8) 4.76、9) 4.52、10) 4.88、11) 4.82と高い評価が得られた。ブレイクアウトルーム、投票機能、動画、レポート構想発表会・研究発表など、オンラインでありながら、アクティブラーニングを可能するよう学生主体の講義が展開できたと考えている。毎週、読み物課題を出し、それについてディスカッションするという反転学習を行ったことも効果的であったと考えている。自由記述でも、「ディスカッションを多用して他の人の意見と自分の意見を比較することができた」「内容が充実していた。また、主体的に学習できる内容だった」「自分のキャリアについて教育の面から考えることができた」など肯定的な意見が多くみられた。

2. 今後の改善点・抱負・方針

「グループでの話し合いの時間がもう少し長くしてほしかった」という意見が複数みられた。順番にブレイクアウトルームに参加して様子をうかがっているものの、オンラインでは同時に全体を見通すことができずファシリテートすることが困難なこと、Wifiが切れて退出してしまった学生のケアをしなければならないことなど、問題は尽きないが、テーマによって時間配分をかえる、必要な時間について学生の意見をとり入れるなどの工夫していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]3
 授業コード 11A12-008
 教員名 LOTT, Danielle
 教員コード 103593
 登録人数 22
 回答数 8
 回答率 36.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

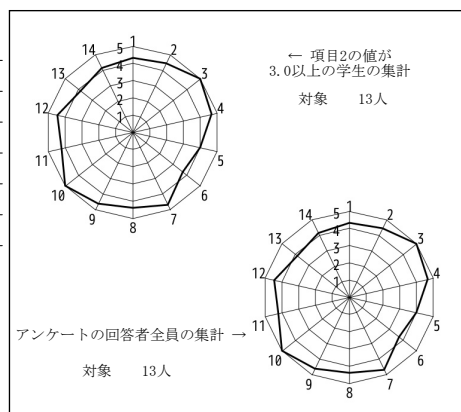


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) My goals were to develop students' communicative competency through the teaching of conversation strategies, Webclass activities, recorded presentations on Flipgrid, and conversation in ZOOM. In the first quarter they couldn't finish all of the Webclass assignments, so in the following quarters I greatly reduced assignments and increased time talking on ZOOM. Compared to previous years, fewer students were using conversation strategies well. However, they did improve fluency, and according to their final reports, many students went from disliking English to liking it, and many students felt more confident in their speaking ability.
- 2) Based on the numerical data and comments, the course was a success. One student wrote that there were too many assignments, but I assigned fewer than half of the assignments that I did with my other classes, so I can't agree with this comment.
- 3) Next year I want to assess students formally on their use of conversation strategies and do live speaking tests. This should ensure that students practice and use them even during practice conversations. I also want to continue using some materials I used on Webclass, especially readings and listening.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]5
授業コード 11A12-020
教員名 KUMAI William N.
教員コード 000204
登録人数 21
回答数 13
回答率 61.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

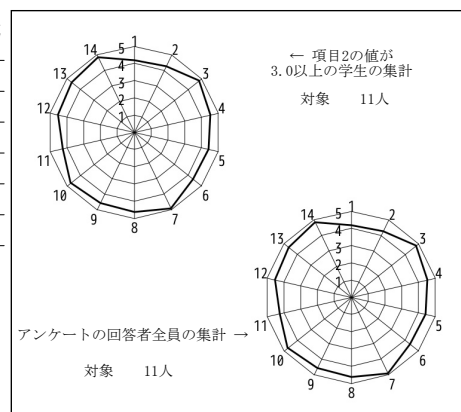


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goals of the class were to not only increase the fluency and participation of students in English conversation but also increase their interest in English-based activities. According to the students' comments, these were largely achieved. One of the biggest barriers to overcome was the Zoom environment which makes interaction limited to small groups in break-out rooms. Many activities do not translate to Zoom because students need to circulate among themselves. Also performance-based activities such as a job hunting simulation or a marketplace simulation could not be implemented. The numerical data doesn't reflect the goals achievement but the goals were clearly stated in quarter 1, of which this class is a continuation; students may have forgotten these points. Students may not have thought they are receiving new knowledge but this class aimed at activating what they learned academically in high school in a practical sense. Now the limitations of Zoom classes have been experienced, future classes can be reminded of how instructor observation is limited and how students can exercise active learning while awaiting the return of the instructor during conversation exercises.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E
]6
授業コード 11A12-030
教員名 OTTOSON, Kevin
教員コード 103121
登録人数 21
回答数 11
回答率 52.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) According to a survey on the class objectives, I gave the students at the end of quarter 4. Most of the course objectives, according to students, were achieved. In some respects, I agree, however, I think the students have a lot of room to improve. In particular, while the students can describe their daily life and routines, they still need work on describing those routines in detail. Furthermore, they need to work more on giving more information but also asking for more information. The goal the students felt that they really increased was in using conversation strategies to start, maintain, and conclude conversations. We spent a lot of energy working on this goal, but they still have room to improve.
- 2) Overall, according to the students' assessment, they seemed satisfied with the class, however, my lowest area (4.27) was for question #2 and #11. I think these are related. Had I provided more opportunities and encouragement for individual or independent learning in class, they may have taken more initiatives to prepare for, study, and review for class.
- 3) With this in mind, I will look for ways to provide options for independent learning, review and study for the class

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]8
授業コード	11A14-029
教員名	TAYLOR, Jamie
教員コード	104100
登録人数	18
回答数	4
回答率	22.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

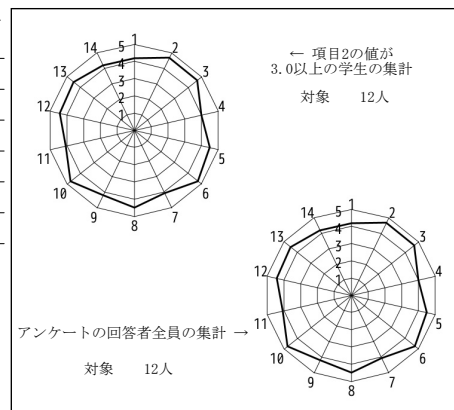
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals for this course included being able to use conversation skills such as describing past events and future plans, discussing personal and academic topics, and giving 3-5 minute presentations. The class seemed to do well with giving presentations and using the target conversation skills. They also did a good job with their extensive reading projects and kept up well with the course even though the online format was challenging.

In the future, I will plan some live presentations (instead of all pre-recorded talks) in this class. I also hope to do more interactive reading activities if we have any classes online again.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]1
授業コード	11A16-001
教員名	KLUGE David E.
教員コード	100398
登録人数	16
回答数	12
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Goals: The goals of the course were for students to improve their reading and speaking skills. Every class students had to speak (conversation and discussion) with an individual presentation at the end of each unit, and read (textbook and graded readers). Students rated Q#5 on whether they understood the goals as 4.50, and marked for Q#6 on whether they felt they attained the goals 4.75 so it is clear that the goals were clear. 2. Overall Assessment: Compared to the average of other English classes, which was 4.14, my average of 4.39 was better than average. For individual scores, high scores were for Q#8 on the teacher's voice (4.50), Q#10 on appropriate measures for interferences (4.75), on Q#12 on providing adequate opportunities for questions and consultation (4.42), and Q#13 on whether students felt they gained new skills and knowledge (4.50). Scores that were not so good were for Q#4 for appropriate structure and progress speed (4.00), Q#7 on the teacher's sincerity and seriousness (4.08), Q#9 on the teacher's use of textbook and AV aids (4.17), Q#11 on providing appropriate guidance and information (4.08), Q#14 on overall satisfaction (4.17), but all these not so good scores were higher than average. For Q#15 on the good points of this class, students wrote good comments about the teacher, the atmosphere, and pace of the class. For Q#16 on the problems, the main one was "It was a pity that there was no face-to-face class this year." For Q17 on environment problems, one student stated that the teacher's sound was sometimes not so good, but this may be due to the student's own wifi connection or speaker. 3. Future: I have gotten used to teaching online.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]2
授業コード	11A16-002
教員名	GAGNON, Greg
教員コード	103474
登録人数	16
回答数	4
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

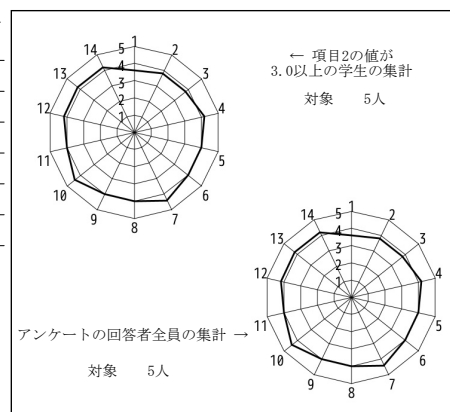
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

During Q4, the goals of the class were as follows:
Students will be able to ask meaningful questions and understand basic responses. Students will have a greater confidence speaking English and understanding spoken English. Students will be able to engage in a basic conversation, be able to tell a story, and understand others who describe their lives and ideas. Students will practice various pronunciation skills and be able to reproduce sounds common in the English language. During the class itself, the students were therefore actively challenged to produce their own responses to topics, by both questions from the teacher and their fellow students. All students were able to better express themselves both in class, and by applying the same structures in video projects, placed on Flipgrid. com . Students responded favorably to the class, in general: 先生が明るく授業が楽しかったこと。However, there were admittedly technical problems using Zoom, and the syllabus outlining on-line attendance was confusing to some. Having had learned more about the medium of on-line classes, I will be better able in future classes to be better able to be more clear about class times and sessions, and I intend to work hard to make this correct. Finally, I have learned the value of using certain on-line components to class. Web-Class is a good tool for many aspects, and can be used even when classes are not on-line for the overall benefit of teaching goals. I hope to explore these. This year has challenged me to think deeply about my teaching, and I am more convinced that the in-class activities I have been using for student engagement are valuable and proper for teaching.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]3
授業コード	11A16-003
教員名	LEAR, Christopher Adam
教員コード	104290
登録人数	17
回答数	5
回答率	29.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

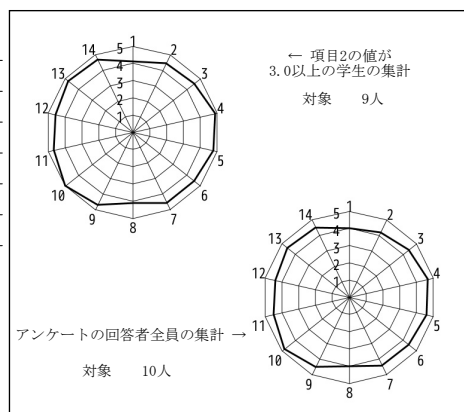


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Being the 4th quarter of online classes, I felt much more confident in my materials and my student's capabilities.
My goal for quarter was to continue developing my student's communication skill capabilities. This was achieved through the various Webclass activities in conjunction with the Zoom lessons. I feel there is room for development on how to effectively achieve this, but this semester went much more smoothly than previous quarters. Looking at more ways to include review activities of previous lessons will be my next step forward if classes remain online. Additionally, I will look at ways to encourage class cohesion, possibly through encouraging groups via Line, requiring webcams, and more group collaboration activities.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]5
 授業コード 11A16-007
 教員名 HOWREY, John
 教員コード 100371
 登録人数 18
 回答数 10
 回答率 55.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

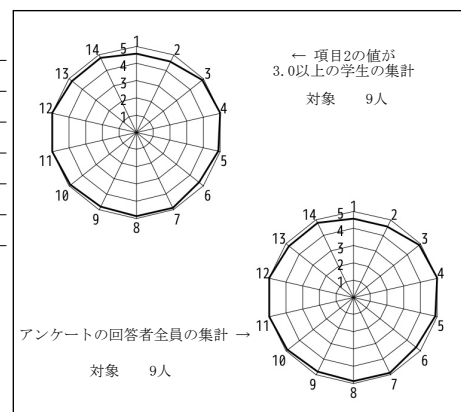
This course is designed to improve students' overall English ability, particularly speaking, listening, and reading skills. This course was done online using WebClass and Zoom. Zoom sessions were held four times each quarter. Students read ebooks (extensive readers) from the Nanzan library and answered questions on Mreader. Students also learned and practiced speaking strategies for starting, maintaining, and concluding conversations, and gave two short presentations on Flipgrid.

I was pleased with the results of the questionnaire, particularly since being online makes it much harder to connect with students and for students to stay motivated and engaged. Students did not come to the Zoom sessions often but completed all the other necessary assignments. There was only one student comment: *すべてオンラインでの受講だったので、好きな時間に課題に取り組むことができたので良かった。また、youtubeにあげられた動画を見れば課題を回答することができたので特に困ることもなく受講できた。*

I think students appreciated the flexibility I gave them when they completed assignments and the supplemental YouTube videos I gave to explain conversation strategies or pronunciation/intonation. I will continue to think of ways to keep students engaged while learning online by adding more videos.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<S>4
 授業コード 11A17-026
 教員名 ELLIOTT, Darren
 教員コード 101579
 登録人数 22
 回答数 9
 回答率 40.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



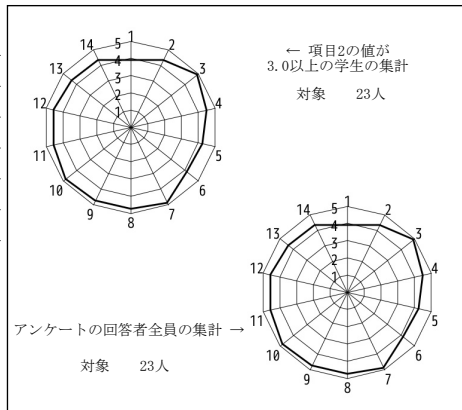
授業評価結果を踏まえた点検・評価

As this was a writing class, I opted to have only a few (non-required) Zoom classes, just to allow students to check in and for me to confirm deadlines and tasks. The majority of the materials and activities were posted to WebClass, with some simple activities on Google Forms. The nine students who completed the survey were very satisfied, although there is clearly some inbuilt skewing of the data. Several students will fail this class, mainly the ones who didn't check or respond to my messages. It would be interesting to hear their feedback, but those are most likely the students who didn't complete the survey.

This is a Writing 1 class, which repeats with a fresh intake each quarter, so by Q4 I feel I had ironed out most of the wrinkles. It is difficult to know what I should improve or what specific measures I should take, because the university has not yet clarified whether we will be online, face-to-face, or some hybrid version of the two.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIディスカッション4
授業コード 11A20-004
教員名 都築 千絵
教員コード 103924
登録人数 24
回答数 23
回答率 95.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

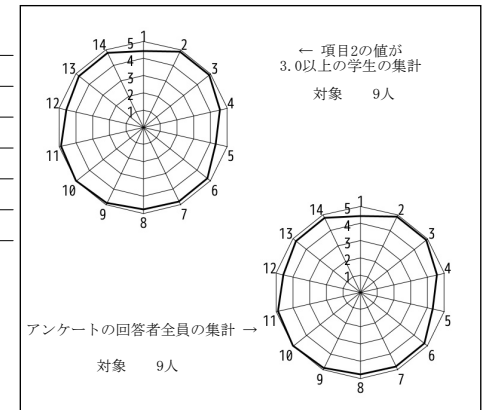
①Q4では、直接の対面授業は一度もできなかったが、一回を除きすべての授業をZoomで行い、双方向で授業ができたのはDiscussion技術を学ぶクラスとしては良かったと思う。具体的に設定された16の目標項目は、アンケート実施日までは、すべて授業で扱い、実際に学生が練習する機会を設けていた。できるようになったかどうかは項目により多少個人差があったが、少なくともどうすれば良いのかは理解し、あとは実際の練習を重ねる段階にあり、授業としての目標にはおおむね到達した。

②授業評価の数値で平均値が高かったのが、「担当教員の授業に取り組む姿勢」(4.87)であった。自由記述でも「生徒の理解を何度も確認していた」「先生が常に生徒の視点から物事を考えてくれて、スムーズに授業が進み、理解が早かった」など教員について好意的な記述が多かった。一方で、設問13、14で2を選んだ学生が一人ずついた。また、改善点として「もう少し英語のレベルが高いものを学びたかった」とあった。このコースは経済学部の学生用の選択科目であるが、今年度は他学部の2年生以上の学生も履修できたようで、外国語学部の学生も履修していたことも影響したかもしれない。

③来年度、Zoomでの授業をすることがあれば、「授業の進め方が定まっていると、同じ流れでやりやすい」ことを考慮し、ブレイクアウトルームで「黙ってしまうことのないように対策」を用意したいと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>2
授業コード 11A24-004
教員名 ELMETAHER, Hosam
教員コード 104289
登録人数 24
回答数 9
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall

I have taught ten subjects, each with a different specific teaching goal; overall, the goal is to develop students' academic and communicative English skills. I have developed and use my own teaching materials. Students were always well-informed of their academic progress through feedback on their weekly homework, quizzes, tasks, and final exams. Students were encouraged to provide feedback in the evaluation of my classes. My teaching materials worked well and the students enjoyed the classes while demonstrating an overall improvement in their English language skills.

For this specific class evaluation

This class was designed to develop students' reading skills. The students have worked on different weekly assignments. Each assignment includes intensive vocabulary input, reading skills, and academic research. Group and individual feedback were provided through both Webclass and Zoom. Based on the class evaluation, students very much enjoyed the class and have confirmed their academic and research skills development. For the next academic year, I aim to implement more active learning opportunities in all of my classes.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語Iリスニング<S>4
授業コード	11A25-032
教員名	TIDMARSH, Andrew
教員コード	104101
登録人数	22
回答数	4
回答率	18.2%
休講回数	0回
補講回数	0回

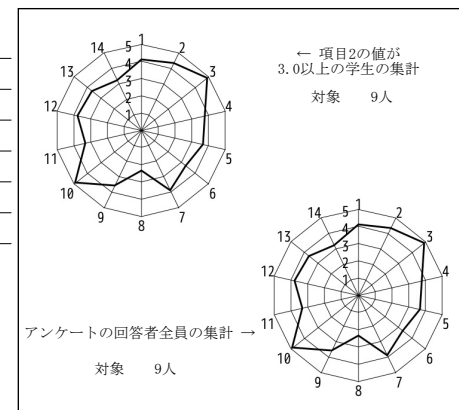
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The main goal of this class was to increase listening practice time using authentic materials. Tasks, rather than material, were graded. Student responsibility was essential due to online classes and the independent nature of listening tasks. Student achievement is closely linked to these items.
2. Based on the lack of willingness of students to communicate problems or ask for help, I think it would be difficult to achieve a significantly higher score for each criteria due to preconceived ideas and the different goals of the participants regarding listening classes.
3. In the event that online classes continue, I will add more tests to ensure that students understand the teaching philosophy that is the basis of the class and repeatedly confirm to students the goals of the class to counter the lack of understanding that students bring to the class evaluation alongside their ideas of listening classes, often based on outdated and counter-productive teaching practices that can be found elsewhere in education.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語VIII[FF]2
授業コード	11B08-004
教員名	OLIVERO, Regis
教員コード	104119
登録人数	21
回答数	9
回答率	42.9%
休講回数	0回
補講回数	0回

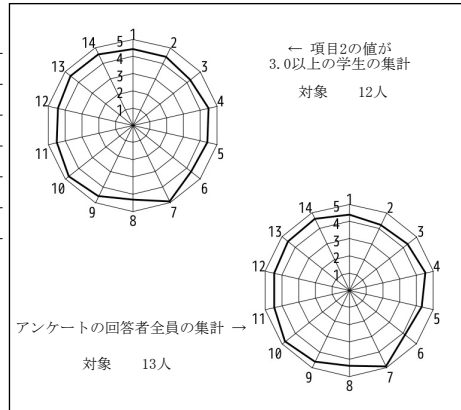


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal I pursued during the Q4 was to give the students more autonomy and opportunities to speak, especially on group activities. It was not always possible to fulfill that goal due to technical problems or the mediocre quality of the sound. I will try to be more attentive to that issue in the coming year if courses are going to be online again; There is only so much we can do when practising oral skills online. Those problems are indeed nonexistent on face-to-face lessons. On the more positive side, I am very satisfied with the students' production and commitment during this Q4. They remained serious and motivated throughout the course and I have noticed real improvements on every aspect of the learning process. Their writing skills got increasingly better as well as their pronunciation and comprehension level. As shown on the final test, this group clearly met the requirements of the first year and will undoubtedly meet the standards in the second year, especially with the betterment of the teaching environment.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VIII<全>2
 授業コード 11C08-002
 教員名 梶浦 直子
 教員コード 102557
 登録人数 17
 回答数 13
 回答率 76.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

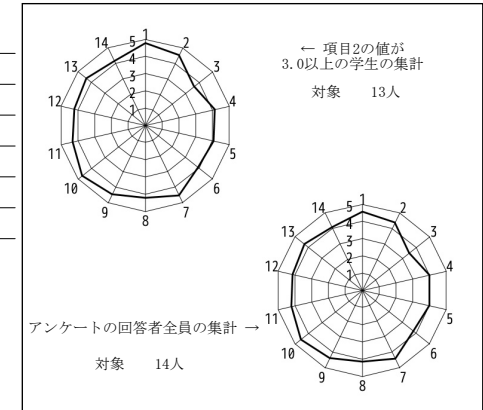
この授業の学習目標は、学習者同士が協力しながら、発見的、自律的にドイツ語を学ぶことにある。多くの学習者にとって初めてのオンライン授業という授業形態において、学習者は戸惑いながらも、日を追うごとに積極的に授業に参加したと感じている。自由記述においても「ブレイクアウトルームでの他生徒との交流が多かった。」「生徒が主体的に参加出来る環境だった。」と協働学習、自律学習に対するよい評価がみられた。このような点からも学習者の積極的に学んだ姿勢を感じ取ることができ、おおむね学習目標を達成したと言える。

一方で、項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」は、4.15とやや低い。これは学習者の自己評価が厳しいことに影響されていると思われる。授業では学習日誌を導入し、学習を振り返る機会を設けているが、今後の授業においては、教師側だけでなく、できるだけ学習者同士でフィードバックする機会を増やしていきたい。また、学習目標の確認と学習の到達度を客観的に把握する機会を定期的に取り入れようと考えている。

授業で使用するアプリケーションは特別なものでなく、導入の際にも講義資料サイトにおける文書でのアナウンス、授業での説明および代替の方法等に気を配っていたが、今後はより配慮するように努めたい。また、授業時間の管理も十分に気をつけたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VII[FS]2
 授業コード 11D07-002
 教員名 LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
 教員コード 103688
 登録人数 16
 回答数 14
 回答率 87.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Evaluation report for class 11D07 002 4th. quarter.

Prof. Sergio Neri. We were working on developing a communicative competence that allows students to:

- be able to describe and compare places.
- be able to express an opinion, agreement and disagreement, differences, similarities, likes and dislikes.
- be able to talk about historic events.
- talk about past events.

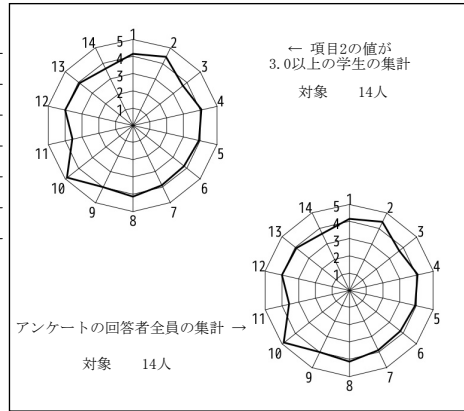
In order to achieve that students learned to:

- Use comparative expressions and expressions for opinions in Spanish.
- Use the expressions "I like" and "I would like" in Spanish and understand their differences.
- Construct and use some relative clauses with connectors like: "... that..."; "... where..."; "in which..."; etc. in Spanish.
- Differentiate and properly use the "Indefinite Pass" and the "Perfect Pass" in Spanish.

This academic year posed new challenges due to the COVID 19. We learned from this experience and I 'm sure that classes will improve during the next term.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語IV<H>4
授業コード	11F04-004
教員名	虞 萍
教員コード	101432
登録人数	30
回答数	14
回答率	46.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

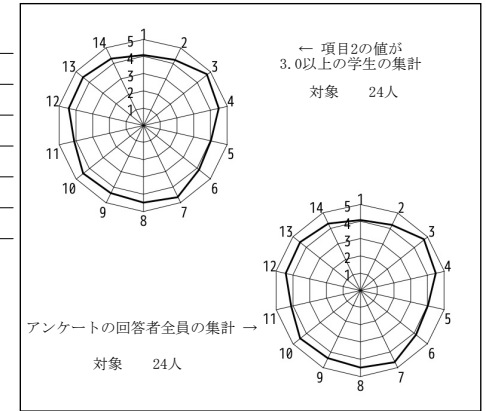
今学期Q3から口述小テストを導入して以来、学生は日頃から教材の録音を頻繁に聴くようになり、中国語で話そうとする意識が高まった。開講当初に設定していた到達目標は「1. 基礎単語800語を習得している。2. 中国語検定4級レベルの運用力を身につけている。」であるが、実際に中国語検定4級の資格を取ろうと思うと、やはり授業以外、学生各自が検定対策を行わなければならない。

設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に関して、学生から、「ズームと課題のバランスが良かった。」「内容が充実していた。」「ただ教科書を読むだけではなくしっかりと文法をわかりやすく教えて下さったところが良かった。」「全体で発音の練習をしていたので声を出しやすかった点。文法の説明をきちんとしていた点。」などのコメントがありました。オンライン授業において、適切な教育方法が導入されたことは学生に認めてもらったと言えます。

オンライン授業であるため、パソコン画面越しの指示はどこまで実行されるのは各々の学生の勉強意欲や積極性等に大きく左右される。引き続き学生にとって有効的なオンライン授業教育方法を模索したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語IV<J・P>1
授業コード	11G04-005
教員名	陸 心芬
教員コード	101225
登録人数	30
回答数	24
回答率	80.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4の授業目標であった初級レベル基礎文法の習得や基礎会話ができることについて、おおむね達成したと言える。学生による授業評価設問項目の平均値が4を超えており、評価にそれが現れていると思われる。

Q4の主な内容は、用言の過去形・名詞文の過去形・願望・連結語尾・不規則の活用などを身につけることだったが、PPT資料や会話練習・課題などを通して、生徒が集中力をもって楽しく学習する様子が観察された。学生からの評価においても全般的に良好で今後の授業にも生かしていきたい。

学生の自由記述欄の良かった点としては、「授業ごとに覚える量がちょうどよかった」「韓国語の力がついた」「わかりやすい説明」「韓国語が以前よりも上達した」「課題でたくさんの韓国語を書くところ」「生徒間で会話の練習ができた」「質問のたくさん時間を設けてくださった」「アウトプットがしっかりできた」などがあつた。

改善すべき点としては、「理解している人のペースに合わせてしまうと、理解していない人が置いていかれてしまう」「読むスピードが少し早くてついていけないときがあつた」「オンラインで90分は疲れる」などの意見があつた。

指導に至って、難しく感じる生徒にはよりゆっくりとした指導が必要だが、オンライン上ではすぐに解決できない難しさがあつた。その対策としてメールや授業後に質問を受けていたが、これを積極的に利用できるようにする。そのほかの改善点においても工夫をし続けるつもりである。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解作文)2
授業コード 11L08-002
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 21
回答数
回答率
休講回数 0 回
補講回数 0 回

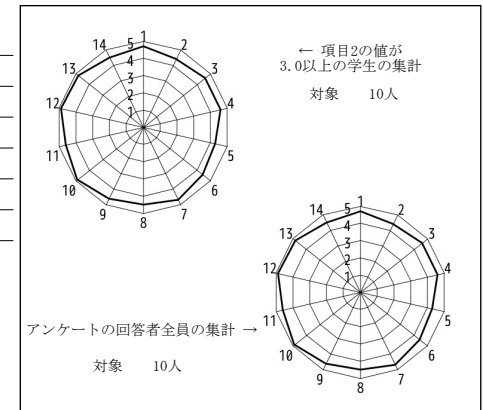
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、総合政策学部の留学生が、多くの情報の中から必要なものだけを抜き出したり、ひとまとまりの文章を読んで内容を正確に理解し要約したりすることができるようになることである。そのために、日常生活を題材にした易しいものから、日本の文化や社会などについて理解を深めるための難しめのもので、様々なタイプの文章を読む練習を行った。日本の地理や自然、歴史等、日本事情に関する事柄については、視覚に訴える画像や図表も多用し、学生の理解を促した。また、その理解度を測るため、内容に関する質問を与え、文章のポイントをつかむ練習も行った。学生たちの受講状況は、概ね良好であった。Q4終了時には多くの学生が、必要な情報だけを探し出したり、筆者の意図を大まかに把握したりすることができるようになっていた。しかし、細かなニュアンスの違いに注意を払い、文意を正確に読み取る力は、まだついていない学生が多いように見受けられる。そのような力をつけさせるためには、漢字の正確な理解や、語彙の意味範囲の把握、基本的な文法の習得等が欠かせない。従って来学期以降は、そのような日本語運用力を高めることに重点を置いて指導を進めていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触6
授業コード 13A02-006
教員名 佐々木 陽子
教員コード 019695
登録人数 28
回答数 10
回答率 35.7%
休講回数 1 回
補講回数 1 回

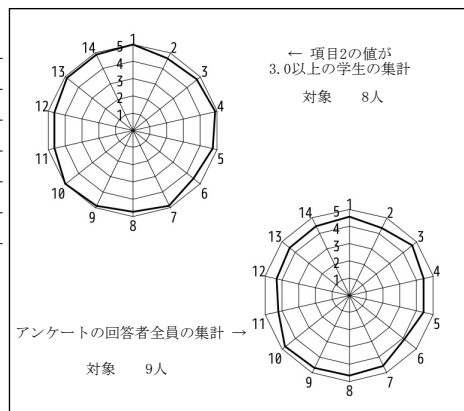


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当初は網羅的状況の解説を主としていたが、遠隔授業に組み換えた際に、写真や映像を重視して展開し、芸術を介した対話的な他者理解を志向して設計した。それにより質的な理解は深まったと考えられる一方、統計や地図等の客観資料の解説がやや軽くなった。随時提出した課題を見る限りでは、目標とする現地状況の理解はおおむね達成されている。
- ②平均4.61(Q1-14) / 4.62(Q3-14)で、最高値はQ10, Q12の4.9だった。ZOOMでのプライベートメッセージ質問に常に対応して、授業中も随時質問を受け付けていた点や、WebClassで出された提出課題すべてに毎回コメントを返して追加資料等の提示を行ったことが、良かったのではないと思われる。「毎回の授業の説明も非常に丁寧で、分からないところは分かるまで教えてもらった」「質問しやすかった」などあり、とりわけ1年生の受講生は、教員とのフィードバックを重視していると感じた。「先生が撮った写真を見せてくれて実況をよく理解」できた「映像がよかった」等の記述もあり、視覚情報の活用が有効だと思われる。
- ③内容を詰め込んでいることもあってか、90分連続型では集中力が続かない等の指摘は前期よりあり、次年度の長時間化(100分)に備えて、ペア曜日開講に改める予定である。ブレイクアウトルームを用いた学生間対話をごく限られた時間であるが試行したところ非常に好評であったことから、昨今多くの博物館で取り入れられ始めている「対話的鑑賞法」の活用をより計画的に織り込み、他者との対話や、自己と作品の内的対話を促すような授業設計を試みたいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IIA<全>試験対策TOEIC4
 授業コード 14A12-004
 教員名 BAILDON, MARTIN
 教員コード 102326
 登録人数 16
 回答数 9
 回答率 56.3%
 休講回数 0回
 補講回数 0回

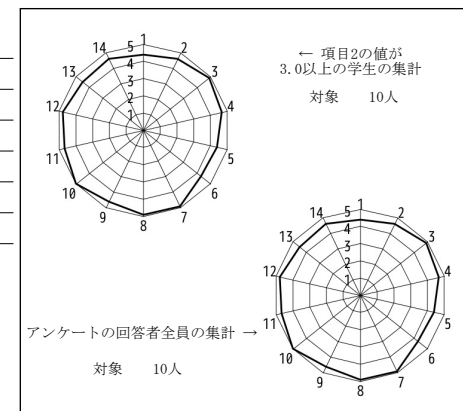


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am satisfied with the results of this survey. More than two thirds of students gave the full evaluation (5.0) for all questions except Q2 and Q6. I am satisfied that students who attended online lessons and fully undertook the activities provided on Webclass and other mediums were able to improve their abilities on the TOEIC test, despite the slightly lower evaluation of Q6. I also believe students gained knowledge for similar English proficiency tests and improved their general English ability (Q13). Although we could not teach in the classroom, I am satisfied that the materials I made and recommended were sufficient for improving the students' skills and knowledge (Q9 — 4.67), and students found them accessible and useful (Q15 & Q17). I did not evaluate students on attendance for Zoom lessons as suggested in Q16, as this would have prejudiced those who were not able to access stable online connections. One further comment in Q16, also suggested the learning materials were excessive. However, the materials offer opportunities for students to decide themselves how long or how much they wish to prepare themselves for English Proficiency tests, though a foundation is required by completing the materials uploaded to Webclass. In future courses for test preparation that are undertaken online, I will make transcripts available during lessons for listening tasks, enabling students to better fully understand listening activities and problems.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語IIC<全>試験対策IELTS2
 授業コード 14A14-002
 教員名 FILER, Benjamin
 教員コード 103850
 登録人数 23
 回答数 10
 回答率 43.5%
 休講回数 0回
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

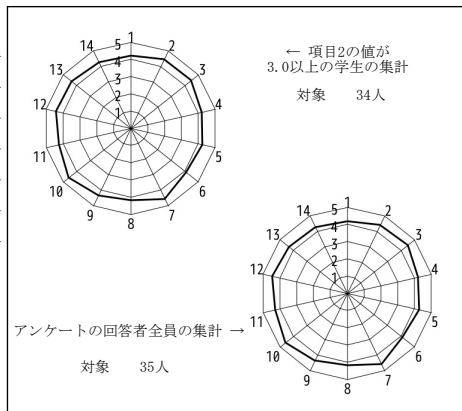
Considering the circumstances of learning in the 2020 academic year, I am relatively satisfied that the goals of this course were achieved. The students were given an overview of the IELTS test, both in Zoom meetings, and Webclass materials. I focussed most of the Zoom classes on practicing speaking skills to prepare for the speaking part of the test. The students seemed to appreciate this, and the advice I gave them hopefully helped them to feel more confident in their speaking skills for this test.

I am very happy to see the results of the feedback survey from the students. It was a little harder to garner how satisfied the students were with the teaching compared to face to face teaching. It is extremely pleasing to see such positive feedback.

As the 2021 academic year is still an unknown quantity in terms of how it will be conducted, it is not easy to look too far forward. However, whatever happens, I will endeavour to give the students plenty of supported practice time with the IELTS test. Also, I will make sure that I try to maintain my sense of humour while teaching this class, in order to help students feel at ease and less nervous.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育文法(初級)2
授業コード	24C61-002
教員名	町田 奈々子
教員コード	017483
登録人数	39
回答数	35
回答率	89.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度のQ4の学生評価もまずまず良好であり、概ね目標は達成されたと思われる。高く評価された点としては、授業に対する誠実な姿勢(7)や授業運営に関する項目(3)(10)、質問や相談の機会(12)などである。自由記述にも「実際に留学生が使っている教科書で学べて良かった」「ワークシートや教材が豊富であった」「チャットによる質問や、ブレイクアウトルームでのディスカッションの機会が多く与えられた」など、今年度もこちらが意図していた学生の積極的な参加を促す授業運営や授業内容に関するプラスの評価が多くあったことは喜ばしい。

改善すべき点は、やはり時間割とオンラインによる問題であろう。本科目は、本来内容的には週2回が望ましい。日本語母語話者の学生にとっては、普段意識しない教育文法は新しいことの連続である。Q4は特別な事情で週一回2コマ連続の授業となったが、やや理解が追いつかなかった学生もいたようである。オンラインによる2コマ連続では、集中を持続させることも難しかったであろう。なるべく学生に考え、意見交換してもらえらる方式を採用したことは例年通りであるが、学生数が多いZOOMでは、普段より理解度を察知することが難しかった。そのためか(6)や(13)が例年に比べるとやや低い値であった。自由記述に「進度が速かった」というものが複数見られたので今後気をつけたい。例年であればジャンプラザでの留学生との交流を通しての学びや、より実践的な授業内容の紹介も可能であるが、制約の多い学期であった。今後時間割は週2回としたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎体育B[Q4火金4D]
授業コード	10B51-086
教員名	金 興烈
教員コード	102721
登録人数	32
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

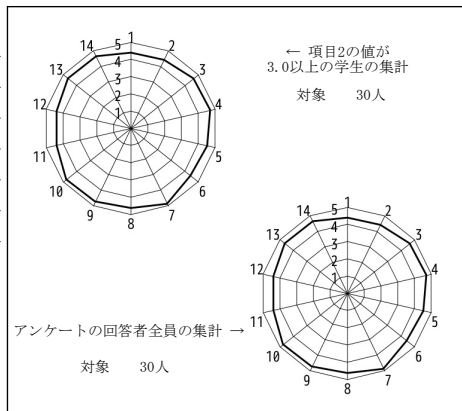
レーダーチャートなし
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本来、基礎体育は、2種目の実技の組み合わせによるコースを選択し履修するが、今年度は新型コロナウイルス感染防止対策としてシラバスの内容から変更し、理論学習(オンデマンド資料)やzoomを用いた軽運動の組み合わせで対応した。なお、zoomを用いたオンライン授業の学習効果を上げるため、従来のクラス人数から半分に減らし、理論学習と実習の日をわけて実施した。理論学習においては、体育の健康・スポーツ科学分野に加え、人文・社会科学分野を幅広く網羅し、学生たちの知的好奇心を引き起こす内容で準備した。また、Webclassによる学習の理解度チェックと実践レポートを併用し行なった。特にzoomを用いたオンライン授業では、他大学の事例等を精査し、学生たちの受講環境や体力の個人差等を考慮した内容の動画を作成し、活用した。教員は授業内で分かりづらい動作の補足説明を加えながら授業を実施した。さらに、身体的な事情で配慮が必要とする学生については、初回の全体ガイダンスと2回目のコース別ガイダンスを通じてその人数を把握し、個別運動プログラムを提供するなど体力の個人差による単位認定の不公平性を被らないよう対応した。コロナ禍の中で実施された今年度の授業は、教員と学生相互間でより良い授業を目指し探ってきた1年ではなかっただろう。毎回の授業において教員の熱意はどの程度まで受け止められているか?など詳細な情報共有とずれのフィードバックが難しい部分はオンラインならではの授業の光景ではないかと思う。しかし、今回の取り組みについて学生からの意見は、満足している回答が多数を示していることから、それなりに評価してよいものではないかと思う。次年度の授業形態がまだ決まっていないところではあるが、今後も授業内容を工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ科学演習B
授業コード	12D11-001
教員名	笹川 慶
教員コード	103190
登録人数	36
回答数	30
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

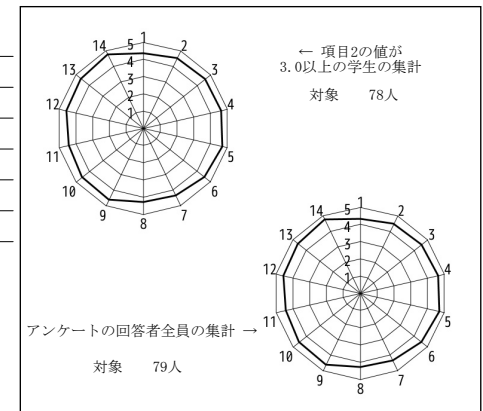


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①. 到達目標の理解に関する設問5と到達目標について力がついてきているかという設問6の数値がそれぞれ「4.53」と「4.43」であった。したがって、本授業において設定された到達目標は概ね達成されたと考えられる。
- ②. 設問3～14までの平均値が「4.62」という高い値を得ることができている。また、自由記述の「良かった点・評価できる点」では昨年度より多くの記述を頂いた。したがって、今年度の授業の難易度や進行速度などの授業内容や構成は学生に適していたと考えられ、昨年度の授業内容を改善した結果であると素直に評価したい。
- ③. 設問3～14のうち設問11および12がともに「4.40」と最も低い値であった。これらは、授業内容に関する学生とのコミュニケーションの時間が十分でなかったことを示している。また、自由記述の改善点に「野球やサッカーなどを例に取り、実際に計画を立てながらの授業だとよりわかりやすいと感じた。」という内容の意見が2つあり、到達目標の4. 【各履修者が取り組んでいるスポーツに応じたトレーニング計画を立案できる。】に関する課題の評価点が少々低かった。つまり、到達目標4に関する授業内容はさらに具体的な説明が必要と考えられる。来年度の授業では「学生と教員のコミュニケーション時間の拡充」と「到達目標4に関する授業内容のより具体的な説明」という、この2点を改善を目指す。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と環境3
授業コード	13D02-003
教員名	加藤 孝基
教員コード	104117
登録人数	229
回答数	79
回答率	34.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業目標として挙げた以下の3点（1. 運動に関わる身体メカニズムについて理解している 2. 運動が学習される過程を理解している 3. 発育発達について理解している）は、概ね達成出来ていたと思われる。小テストや最終レポート課題の出来が非常に良かったため、レジュメや資料等から理解をより深めることが出来たと考える。しかし一部の学生は、特に身体動作の制御機構について理解しきれていないようだった。本学では文系の講義が大半を占め、このような講義内容に馴染みない学生もいると思われるので、より理解しやすい講義となるよう努めていきたい。
- ②受講者が200人以上であったため、オンラインを中心とした授業形態となった。数回の講義はZOOMを用いた同時進行型であったが、それ以外はレジュメ・資料等を用いた自主学習型を用いた。そのような形態であっても、学生が興味を持てるような講義内容、レジュメ構成にし、小テストを毎回設けることで、理解度を確認しながら行った。資料について、概ね分かりやすいといったコメントが見られたが、一部、動画を用いて欲しい等の意見もあったので、来年度に向けて改善していきたい。
- ③次年度は、どのような授業形態であっても、学生が満足する講義を展開していきたい。身体制御や脳活動に興味を示す学生が大勢いたため、対面授業が可能ならば、そのような学生と共に簡単な実験・実演を取り入れていきたい。オンラインでの開講となれば、各々が一人で簡単に出来る人体の実験を用いるなど、より興味を惹くような授業を展開していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(生涯スポーツ)ストリートダンス
授業コード	14E05-003
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目の目標は、ストリートダンスのジャンルとリズムの概念について理解できる、リズムにのってダンスを楽しめるようになる、ダンスルーティンを作れるようになる、の3点であった。実受講者が非常に少なくなり、1人1人に合わせて授業を進められたこともあってか、主観的には3つの目標を達成できたように感じる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

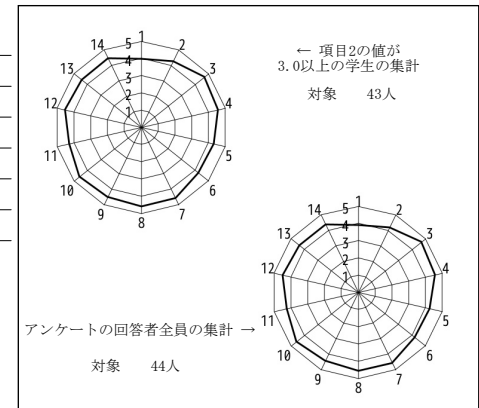
アンケートの回答人数が非常に少なかったため、それだけをもとに判断するのは難しいが、回答してくれた学生の満足度は高かったため授業内容自体はよかったと推測できる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今回はコロナ禍で対面体育が難しい中、少しでもスポーツを学ぶ機会を作ろうという気持ちもありオンラインとのハイブリッド型で授業を実施した。音楽の共有や画面を通じた動きの指導など、事前には準備しきれず受講生に迷惑をかけてしまったことも事実である。今後もオンラインでの体育実技をおこなう機会はあると思うが、この反省を活かして改善していきたい。また、毎年の中ではあるが、週2回の1限の体育実技は、登録だけで出席しない学生やドロップアウトしてしまう学生が非常に多い。科目システム自体の改善・見直しの必要性も感じている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人文地理概説
授業コード	22C05-001
教員名	岡本 耕平
教員コード	049502
登録人数	134
回答数	44
回答率	32.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

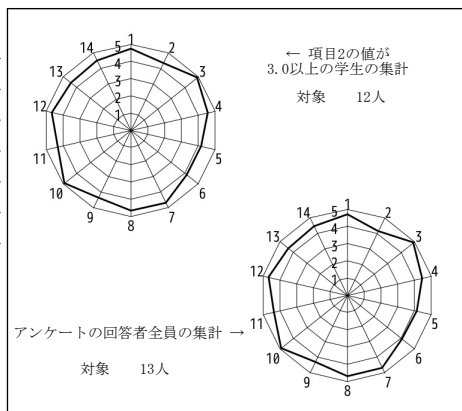
①項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」および項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の学生評価平均値が全体の平均値をそれぞれ若干上まわっていたので、ある程度授業の到達目標は達成できたのではないかと考えている。項目15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」で「この授業に対して受講前は強い関心を抱いていたわけではなかったが、授業を経て人間と社会情勢や地理に関しての知識や見方が広がり、非常に面白かった。身近な地域から海外の諸地域まで幅広く、時に対比的に取り上げられていたのも良かった。」や「毎回の小レポートで授業内容のおさらいができたところ」という回答があった。

②第2クォーターの「地誌概論」で項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」の評価が悪かったので、今回は各授業の最後に15分ほどの「授業ふりかえり」の小レポート作成の時間帯を設け、その時間にチャットでの質問を積極的に受け、回答した。その結果、項目12の学生評価平均値が全体の平均値を上まわり改善した。項目15の「この授業の良かった点」の自由記述にも「質問に対する返答」という回答があった。

③項目17「オンラインで受講した場合、授業環境（インターネット接続、資料の見やすさなど）についてコメントがあれば書いてください。」に対し、「zoomのミーティングルームへの入室時に、全参加者のマイクをミュートにする設定にした方が良いと思う。」という回答があった。これはZoomのこの点の操作方法についての理解ができていなかったことが原因なので、次回は改善したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の哲学
授業コード 22C09-001
教員名 長滝 祥司
教員コード 100764
登録人数 46
回答数 13
回答率 28.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

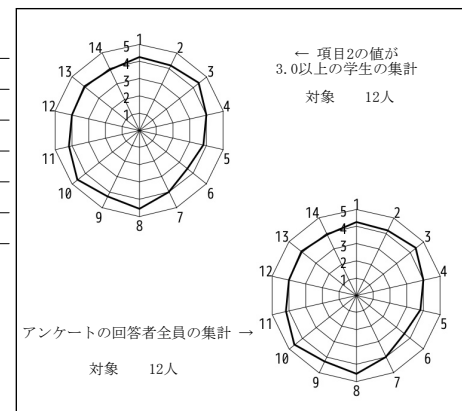


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講にあたって4つの目標を設定していた。授業後に出る質問、小レポートやレポートの内容などから総合的に判断すると、7割程度の受講生は、それらの目標に一定の水準で達していることがわかった。残りの3割については、やや課題が残る面もあった。②自由記述からは、静止画や動画などの映像資料や、そのほかなるべく具体的な図などによって抽象的な概念をわかりやすく理解してもらおうというこちらの意図が伝わっていたことが分かる。数値データでは、各項目すべて平均4を上回っていたので、概ね問題がなかった。ただし、抽象的な内容なので、何を目標にしているかについてやや伝わっていない側面も見受けられた。具体的な教材を使って直観的な理解度を上げることには成功している反面、概念的理解度を深めるという点で、やや行き届かない面もあったと考えられる。また、予習・復習についてやや積極性が欠けている学生もいたので、もう少し課題を多くすることも考えていきたい。③②ですでに記したが、哲学の内容について深い概念的理解に一人でも多くの受講生が達するよう、具体的材料と抽象的概念との繋がりをさらに明確に伝えるようにすること、予習・復習に使える課題を少し増やすこと、を来年度の方針とする。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会人類学
授業コード 22C34-001
教員名 東 賢太郎
教員コード 102883
登録人数 24
回答数 12
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

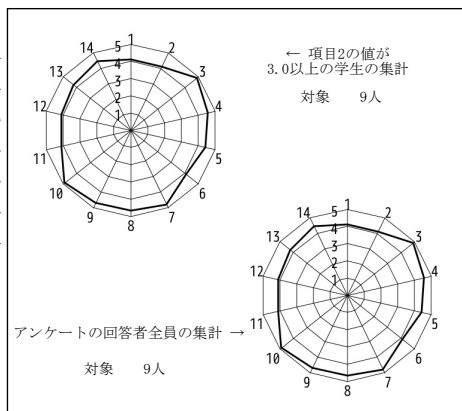


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①文化人類学の基本的な理論と方法を学ぶという目的は、数値データと自由記述を見る限り、十分に達成できたと思う。オンラインでの開講ということで、伝わる度合いや通信環境などに不安があったが、その点も特に問題はなかった。②上記の通り、数値データはおおむね平均を上回り、また自由記述の内容からも、授業内容は十分に伝わり、受講生の学習達成度は高かったと考える。とくに、教員の具体的な経験からフィールドワークについて説明する点はわかりやすかったとの記述があり、その点は今後も継続していく。授業内でグループでのプレゼンテーションを行ったが、オンライン状況での準備に困難を感じた受講生がいたため、その点を改善すべきだと考える。③今後もオンライン授業が継続する場合、新たな機材や技術を導入し、動画を作成したりブレイクアウトルームでのアクティブラーニングを活用するなどして、より分かりやすい授業を行うようにしたい。またグループでのプレゼンテーションの準備や連絡を、授業時間内に行えるように配慮したいと考える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(西アジア)
授業コード 22C48-001
教員名 門脇 誠二
教員コード 102240
登録人数 32
回答数 9
回答率 28.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

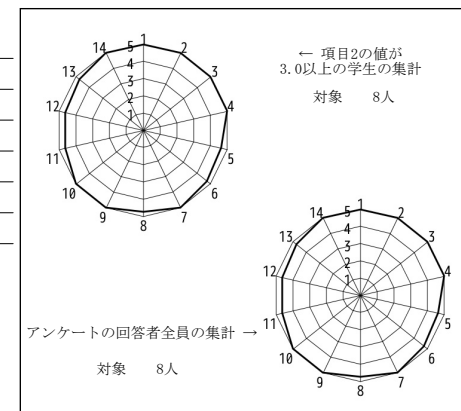


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 2つの目標を掲げていた。一つは「多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「2. 西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。パワーポイントのスライドをPDFで配布し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。
- ② アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価はおおむね平均以上だった。今回はすべてオンラインで講義を行ったため、実物資料（考古遺物やそのレプリカ、関連文献）を回覧して興味を促進することができなだったが、代わりに動画の利用を増やし、興味と理解を上げる工夫を行った。
- ③ オンラインの授業で、しかもクォーター制のため2時間続けての授業は、集中力を持続させるのが難しいと感じた。来学期は対面式に戻り、実物資料を見せることができることを望むが、そうでない場合は、途中でミニクイズを行うなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(統語分析)
授業コード 22C62-001
教員名 田中 秀治
教員コード 104125
登録人数 8
回答数 8
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

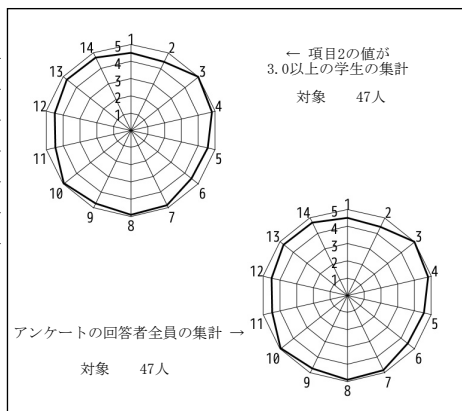


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業の到達目標は、どの学生も「各議論における対象・背景・論点・主張・根拠を説明できる」ようになることと「生成文法統語論の専門用語を説明できる」ようになることであった。これらのスキルの習得度を測る手段として毎授業後に復習課題を課していたため、その出来具合に基づくと、どの学生も概ね各研究者の議論のポイントを説明することができ、かつ、専門用語もその意味を十分に理解して使いこなすことができていた。もちろん、復習課題は資料等を見ながらの取り組みを許可していたため、以上の説明スキルが完璧に定着しているとは言い切れないが、今後の研究活動において資料を見ながら自身の議論を展開させるノウハウは身に着けたと考えられる。
- ② アンケート集計の数値データに基づくと、どの学生もこの授業に概ね満足していると判断される。一方、自由記述の評価では、好意的なコメントが大半を占めつつも、一部改善すべき点が指摘されているという点で、授業運営の在り方が完璧ではなかったと考えられる。
- ③ 今後の改善点としては二点ある。一つ目は、今後オンライン授業を実施する場合は、授業資料をできるだけ早めに学生に提供し、余裕を持って印刷できるようにすること。二つ目は、グループディスカッションの時間配分を変更し、学生間で意見交換がよりしやすくなるようにすること。他にも学生から改善すべき点が指摘されているが、それらについては担当教員の思惑もあるため、次年度ではまず上記の二点を改善できるように工夫していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害児教育論
授業コード 23C19-001
教員名 伊藤 修毅
教員コード 103837
登録人数 93
回答数 47
回答率 50.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

「開講当初」の解釈にもよりますが、少なくともオンラインでの講義に切り替えることが決まり、それによって変更した方法に基づく目標の到達という意味では十分に達成できたと感じています。しかし、それはあくまでも、オンライン講義に対応させた上での到達であって、対面講義想定のものから考えれば、限界があったことも確かです。

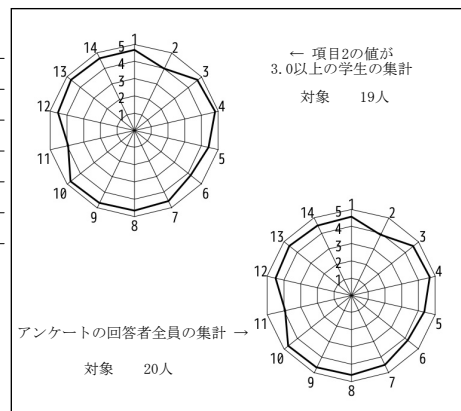
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データの平均値は4.43~4.98の範囲にあり、5件法の評価としてはかなり高い評価をいただいたものと思っております。自由記述についてもおおむね好評をいただいたようですが、一部の学生からは資料のみにくさ等の指摘がありました。見やすかったという意見もあったので、おそらく学生の使用端末に依存する面も大きいのでしょうか、可能な限りの改善策を検討していきます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
オンライン講義が継続されるか否かで、考え方は大きく変わります。コロナ禍の推移を見守りつつ、その時の状況に応じて、臨機応変に対応することを第一に考えたいです。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理的アセスメント2
授業コード 23C62-002
教員名 井村 安之
教員コード 048439
登録人数 42
回答数 20
回答率 47.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回Q4の授業は、Q1の授業時になかったzoomのトラブルが続き、受講生には大変な迷惑をかけてしまった。Q1で問題がなかったからQ4は大丈夫だろうと思っていたがもう一度、確認しておくべきであったのが最大の反省点である。アンケートの結果、概ね良い評価をいただけたようであるが、授業の目標と到達点不明確であったということから、個々の心理検査の概説ということに留まらず、常に授業目標と関連付けた解説をしていくようにしたい。また、本授業は予備知識なしで心理検査を体験してみるといういを大切にしているが、それが予習を含めた自主的な学習を促すことと逆行しているところもあると思われるので、もう少し参考資料の案内などを増やすなど工夫をしていきたい。また、授業内の時間的なスケジュールがやや変動してしまったが、受講生の心理検査の実施状況により随時変える必要が出てくるので、この件に関してはやむをえないものとする。また、事例を交えての解説は好評なようではあったが、特に今回はネット上で個人の情報を扱うということになってしまったため、事例解説は最小限に留めたことで理解することが難しい面もあったと思われるが、それについてもご理解いただきたい。いずれにせよ事例をどこまで提示し、解説するかは難しい問題であり、今後も課題としていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文章表現法2
授業コード	24C08-002
教員名	北田 雄一
教員コード	104314
登録人数	22
回答数	4
回答率	18.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

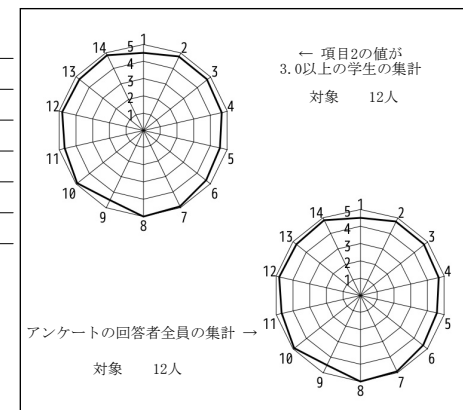
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「文章表現法2」はオンライン講義の形式で行った。毎回講義とレポートの提出の組み合わせで文章力の向上を図った。講義を踏まえて書かれたレポートはきちんと書けていたが、やはり途中で今までの講義内容を忘れていた学生がいたため、繰り返し過去の講義のレジュメを見直しながらかレポートの執筆を促した。提出されたレポートを見る限り、開校当初の目標はクリアできたのではないかと思う。
- ②自由記述の回答の中に「音声小さかった」という意見があった。これはこちら側の音量設定のミスであり、音声資料を作る前に音量の確認を行うことで改善したい。
- ③2021年度はどのような形式で行われるか未定であるが、可能な限り学生に身近で新鮮な課題文を用意し、レポートの執筆を行ってもらおうつもりである。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会言語学
授業コード	24C53-001
教員名	安井 永子
教員コード	102889
登録人数	37
回答数	12
回答率	32.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

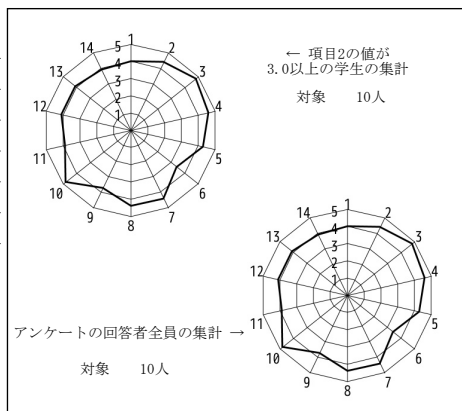


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
今年度は、オンライン化に伴い、多くの授業を前半60分のZoom講義、後半30分を自主課題、という方式で行った。受講生は、その日の講義内容と予習文献に基づき、Zoom講義後に個別で課題に取り組み、提出することが求められた。課題を毎回採点し、学生に返却することで、受講生の理解の度合いをリアルタイムで把握することは可能であった。しかしながら、対面授業のように、授業中に学生から意見を求めたり、学生のデータ分析に対してその場でコメントすることなどができなかったことから、会話分析の手法を十分に受講生に習得させることはできなかったように感じる。ただ、会話の組織について理解したり、日常の活動の細部への気づきを得るという目標や、それらを日常会話の実践に生かすという目標は、受講生の試験結果、授業後コメント、授業評価結果より、概ね達成できたと判断できる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
自由記述や数値データからは、受講生が概ね授業に満足していたと判断できる。しかしながら、学生の理解にはもう少し配慮した授業設計が必要だったと思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
毎回のミニ課題やコメントをもとに、今後は学生の理解度を細かくチェックしながら、それに応じた授業設計を意識したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]2
 授業コード 11A08-033
 教員名 クマイ 恭子
 教員コード 101131
 登録人数 19
 回答数 10
 回答率 52.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目はGLS必須科目の一つであり、大学生にふさわしい（また学部の専門内容を学ぶに必要とされる）読解能力、理解力、作文能力、思考能力またクリティカル・シンキングおよびそれを表現するための英語力を増強するものだと捉えている。この目的達成のためにコーディネーターの指示に従い、共通のテキストを使用しつつも個々の教員によるエクササイズの使用などバランスの取れた教授が可能となっていると思う。

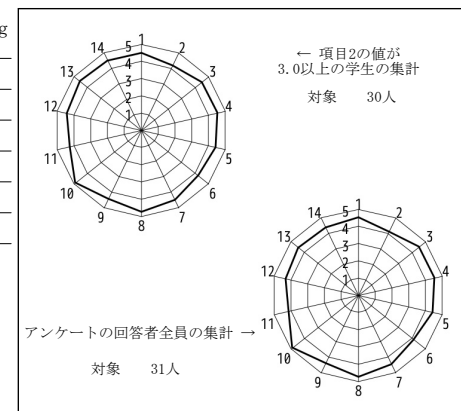
学生には授業内ではグループディスカッションを行ってもらい、グループでのコンセンサスおよびエッセイ作成をしてもらった。これにより英語で議論する機会も提供できたと思う。学生からは読む・書くだけでなく話す機会も持たせたことが肯定的に捉えられていたようである。

本年度はオンライン授業ということもあり、資料の作成および有効活用に尽力した。またできるだけ授業は「学生とのコミュニケーション」であるということにも配慮したつもりではある。学生の自由記述評価では資料の誤りの指摘があった。誤っていた以上学生には謝罪することになるのだが、実際にはアップロードしたときに確認したものが何らかの形で変更されていることが多々あり、システムのセキュリティの向上を望む。

来年度はどうなるかわからないがオンラインの場合、いかにしてこの学生と生きたコミュニケーションが取れるように図っていくかが課題となる気がしている。オンラインでウェブクラスを使用したところ、これは対面授業にも活かせると感じた。ウェブクラスとZoomを組み合わせるとより効果的な遠隔授業になるようである。ここにもう少しビジュアルな要素も加味すればより彩りのある授業になるのではないかと思っている。また、学生の積極的な発言と課題への興味をどう喚起していくかも課題である。もともとリーディングとライティングは学生が好む科目とは言い難い点もあるため、「考えることの喜び」発見にどう誘っていくかも課題であると感じている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language E3
 授業コード 31C15-003
 教員名 吉田 江依子
 教員コード 103084
 登録人数 80
 回答数 31
 回答率 38.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

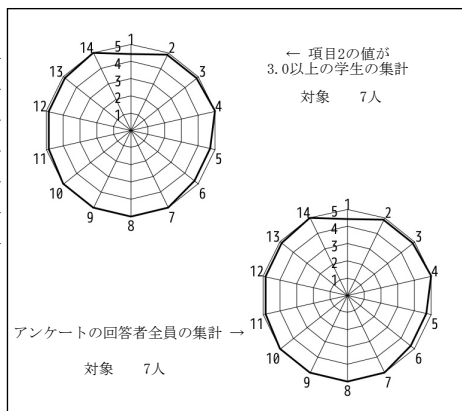
本講義の目的は、人間の言語について幅広い観点から考察することによってその特性を明らかにすることであった。開講当初に設定していたシラバス通りの内容の講義を全て行うことができた。授業全体としては、設問3から14の平均点が4.45であり、運用面も含めた評価としては、おおむね合格点であろう。

内容面での評価については評価13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」評価5および4で93%、評価14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」評価5および4で87%と受講者のほとんどが満足してくれた点は、本授業の内容の方向性に間違いがないということを確認できた。自由記述においても、特に授業内容についての評価が高かった。また、ウェブクラスを用いたDiscussion形式も好評で、オンライン授業の副産物ではあるが、今後対面式の授業に戻った際にも取り入れるなどして、より効果の上がる講義を形成していきたいと考える。

一方、問題点としては、自由記述において課題の多さを指摘する学生がいたが、単位数に対する総学習時間数を考慮した結果のものであり、この点については変更をする予定はない。またフィードバックについての問題点を指摘する学生もいた。この点については、次年度、受講者数の上限人数を設け、提出レポートに対するフィードバックの時間を個々に設けるなどの対策を講じたいと考える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語音声学
授業コード	31E17-001
教員名	服部 範子
教員コード	100353
登録人数	17
回答数	7
回答率	41.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

オンライン授業という形態になり、パソコンを用いた音声分析実習が対面授業のときのように円滑に進められるか開講当初は心配であったが、基本的な操作方法を解説した動画を予め用意し、学生側のパソコンで操作が上手く進んでいるか段階を追って確認することで当初の心配は解消された。質問はチャットで随時受け付け、またzoomによる授業の最後に個別に質問のある学生には残って質問するように伝えることで、そのときどきの学生からの質問には対応できたと思われる。開講当初に設定していた目標に到達することができた。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

「項目1」を見ると、受講学生は授業を履修する前は、この授業の内容について興味を持っていると答えた割合が他の項目への回答に比べて低かったが、「項目13：この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じるか」の回答は4, 86、「項目14：全体としての授業への満足度」は5.00という回答結果から、受講学生の興味を引き出すことができたのではないかと思います。実際、学生の自由記述からも、「課題を行うにあたって操作を詳しく教えて頂いたのととてもやりやすかった、質問に対して丁寧にわかりやすく対応していただいた」という回答から、オンライン授業への準備が役に立ったようで教員としてうれしく思う。

(3) 次クォーターに向けての改善点、今後の抱負、方針など

次クォーターはこの授業を担当しないため、該当なしとさせていただきます。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際経済学
授業コード	31E21-001
教員名	栗原 裕
教員コード	104294
登録人数	8
回答数	3
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートへのご協力に感謝します。以下、3点について述べます。

1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
到達目標は2点でした。

1. 国際経済・国際経済学に関する知識、基礎的な考え方や理論を修得し、それらについて説明することができるようになる。

2. 上記に関わる経済現象が理論的に説明できるようになる。

授業時の質疑応答、小テスト、レポート、最終テスト、授業評価より判断しますと、履修した内容については概ね達成できたのではないかと思います。

2) 総合的な自己点検・評価

ミクロ・マクロ経済学の基礎を含む国際経済学の理論、最新の時事問題など、相当な内容が含まれていました。しかし、意欲と能力のある学生の皆さんに助けられました。

3) 改善点、今後の抱負、方針など

学生の皆さん相互での学びの機会が十分に提供できませんでした。

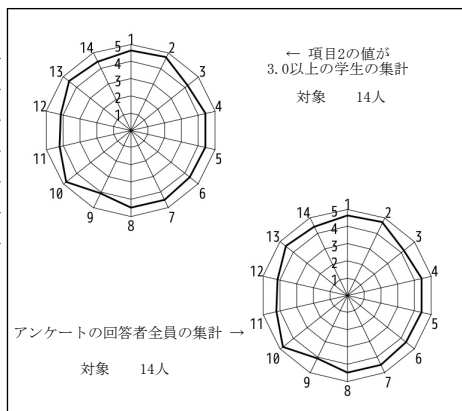
数回経過した段階で、アンケートを実施したところ、日本経済についても学びたいといった要望が複数ありました。英語を使った授業も改善点としてあげられると思われます。

接続の不備、WebClassのテストでも設定ミスがありました。こうしたことは避けなければなりません。

過大な評価であったと感じています。学生の皆さんの提出物、授業内での質疑応答、そしてこのアンケートを再度見直し、来年度の授業に活かします。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIIB2
 授業コード 32A13-002
 教員名 VILLALOBOS Antelma
 教員コード 101011
 登録人数 21
 回答数 14
 回答率 66.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

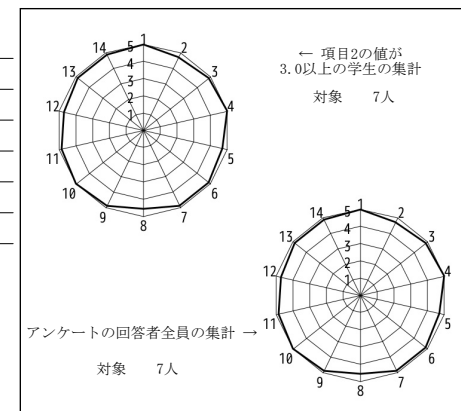
2020年度は、学生にとっても教員にとっても大変な一年間だったと思います。第Q1からオンライン授業になり、学生らは様々な課題を対面しました。最初からシラバスの訂正、時間の整理などがあり、不安やストレスが多かったのですが、学生と教員ともに少しずつ進めながら授業を楽しい時間になったといえるでしょう。結局、学生らの大変な努力により、プログラムのすべてを見ることができました。そのため、先生方も新しい教授法・活動の多様性・練習問題の作り方などにより、学生らは徐々に徐々に満足できるようになりました。何も欠点がなく年度を終わることができました。

ただ、対面授業と違って、人間の直接的なコミュニケーション・温もりのある触れ合いができなくて残念だったといわなければならない。

それでも、教員として、様々な学習があり、新しいチャレンジがあり、とても感動的な一年度でした。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIIB3
 授業コード 32A13-003
 教員名 HOPKINS Mariella
 教員コード 103653
 登録人数 19
 回答数 7
 回答率 36.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

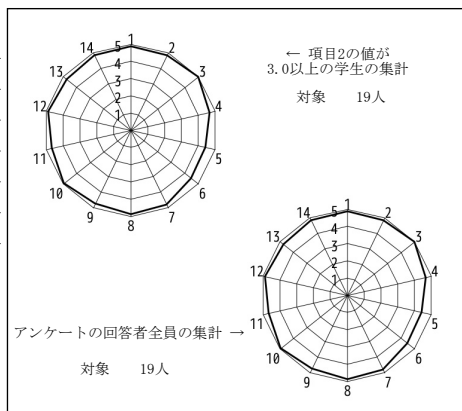
OBJETIVOS: Las metas planteadas para alcanzar los objetivos del cuarto trimestre fueron realizadas en su totalidad. Las clases han sido de forma sincrónica (on line) via la plataforma zoom. El cuarto trimestre se hicieron nuevas actividades que los alumnos pudieron realizar sin ningún problema por ejemplo trabajos con videos grupales, trabajos asincrónicos con la plataforma de google y realizamos exámenes on line individuales y en parejas; todas estas actividades fueron hechas con excelentes resultados.

En relación a las clases on line por la plataforma zoom se hace necesario renovar y actualizar el equipo tanto del profesor como el de los alumnos, el primer trimestre en especial tuvimos algunas dificultades por que todos los alumnos no contaban con los equipos necesarios para el buen desarrollo de las clases. Ya en este último trimestre (Q4) los alumnos en total tienen los equipos para el desarrollo de las clases.

Para los próximos trimestres del 2021 estamos preparando nuevas clases teniendo como referencia la nueva realidad virtual para que nuestros alumnos continúen con el mismo interés en el aprendizaje del idioma español que están estudiando. Se tomará en cuenta principalmente que las clases pueden ser tanto virtuales como presenciales para que los alumnos puedan cumplir con los objetivos que serán trazados.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIC1
 授業コード 32A23-001
 教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue
 教員コード 103464
 登録人数 31
 回答数 19
 回答率 61.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

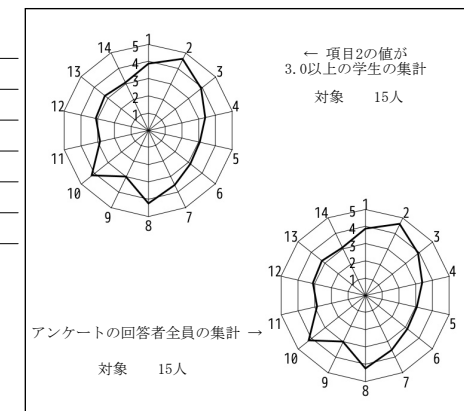


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
はい、オンラインでありながらも達成することができた。学生は積極的に参加し、課題、授業活動を問題なく成し遂げることができたためオンライン授業でありながらも、スムーズで、快適な授業ができた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データの総合数がとてもよかったため、学習者の指導がオンラインであってもできていた。
自由記述については、学習者が置かれてた状況下に身を置き、できるだけ分かりやすく、そして適切に授業を進めることができたと感じている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
来年度の授業がまたオンラインになった場合に備えて、同じ名前前の学習者の場合、苗字で呼ぶように注意します。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIC2
 授業コード 32A23-002
 教員名 JAIME LAZO, Alan Christian
 教員コード 103654
 登録人数 40
 回答数 15
 回答率 37.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

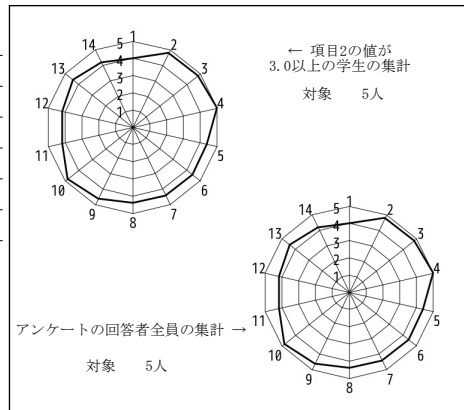


授業評価結果を踏まえた点検・評価

En general creo que de manera práctica se han conseguido los objetivos planteados al comienzo: analizar e identificar la naturaleza de un proyecto de tesis en cuanto a la formas y contenidos. Teniendo en cuenta la complejidad y diversidad característica de las ciencias sociales, así como de las humanidades, se ha puesto énfasis en sus principales disciplinas (antropología, sociología e historiografía) para revisar algunos de los enfoques teóricos y metodologías recurrentes. La redacción y corrección de textos que progresivamente han incluido los contenidos del syllabus ha requerido una evaluación formativa en la cual, por cuestión de disponibilidad de tiempo así como las restricciones del entorno virtual, no ha sido posible ofrecer una retroalimentación cabal a cada estudiante. Sin embargo, la aplicación práctica de estos conocimientos se ha plasmado en un breve ensayo final en el que los estudiantes han debido aplicar los puntos desarrollados para esbozar un proyecto de tesis. Esta asignatura requiere de mayor atención crítica para los ejercicios, análisis y tareas propuestos, pero sobre todo una permanente revisión de literatura sobre teorías y métodos de investigación con la cual muchos estudiantes parecen no estar familiarizados. Definitivamente, para la próxima oportunidad tomaremos en cuenta las observaciones efectuadas y haremos más comprensibles ciertos aspectos teóricos complejos.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの政治
授業コード 32C22-001
教員名 中川 智彦
教員コード 102940
登録人数 14
回答数 5
回答率 35.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

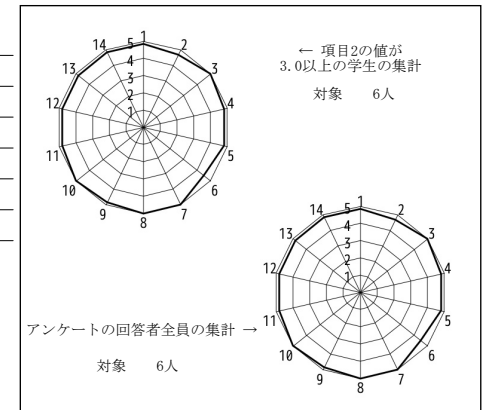
講義の目標については、期末試験結果及び総合評価を行う中で、概ね、達成できたと思われ、授業評価についても平均的な結果となっているが、学生の学習意欲の引き出しや、質問相談や課題の事前事後フォローに関して、少し評価が低かった。

グループワークの準備期間が短かったという記述が一名あったが、おそらく、前半のグループワークのことだと思うので、第1回目の授業からの告知と準備指導を徹底するようにしたい。一方で、オンライン授業となったために、授業計画段階でプレゼンの時間について余裕を持たせたことが良かったようで、進行速度や内容については、非常に評価が高かった。この点は、どんな形態の授業になっても、次クォーターでも踏襲したいと考えている。

プレゼンに対する評価・事後指導については、十分な時間を取れなかったせいか、自由記述の中で<わかりづらい>という指摘があったので、特に事後指導については、WebClass等のツールを通じたフォローなどをもっと活用していきたい。また、これは、オンライン授業のおかげかもしれないが、WebClassに加えてGoogleClassroomも活用することで、事前連絡と資料の事前配布等を含めたコミュニケーションは通常授業よりも密に取れたように感じるので、この点は今後の授業にも活かしていきたい。その他、アンケート回答率を上げられるように、告知も強化したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ポルトガル語圏文化・社会特殊研究A
授業コード 32C33-001
教員名 伊藤 秋仁
教員コード 100662
登録人数 9
回答数 6
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

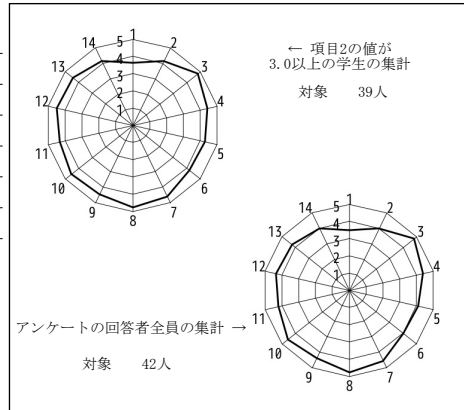
ブラジル文化・社会について総合的な理解を深めるため、人種関係と在日ブラジル人に焦点を当てて講義を行った。おおよそ授業内で該当する内容について説明はできた。オンラインでパワーポイントを使って行ったせいか、予想したよりも授業が速く進み、時間的な余裕ができた。その時間を使って、本質的な理解に資する背景について、視聴覚教材や学生のプレゼンテーションなどの機会を利用して説明できた。

授業についてはアクティブラーニングを目指しており、プレゼンテーションだけでなく、授業内で学生からの活発な質問を受けたり全員での議論などを行いたかったが、質問をするのは一部の学生のみであった。学生がより授業にコミットできるような雰囲気づくりや働き掛けをする必要性を感じた。

数値データはほとんどが4か5であり、率直に言って、あまり参考にならない。自由記述についても同様で、良いところを述べてくれるのはありがたいが、学生側からの要望が読み取れなかった。授業では毎回（と言っても2回連続の授業なので、1日に1回）ミニツペーパーを提出させ、質問を出させたり、理解度を図ろうとしたりした。次回の講義では学生に取り上げてほしいテーマなどをミニツペーパーに書かせるなどして、そのテーマを授業の中に積極的に取り入れていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス文学史
授業コード	33A05-001
教員名	永田 道弘
教員コード	101176
登録人数	113
回答数	42
回答率	37.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

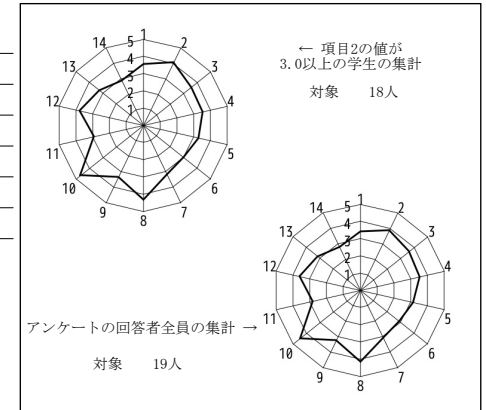


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標では中世よりはじまり、16・17・18・19の各世紀をへて20世紀にたるフランス文学史全体の流れを説明する予定であった。ただ、今日の学生にあまり馴染みのないフランス文学により親んでもらうことを目的に、文学とは直接に関係のない建築や絵画、映画の話題も入れ、それに関する視覚教材も用いたため、20世紀に関する説明がやや駆け足となってしまった感は否めない。自由記述をみれば、この方針はおおむね好意的に受け入れられているようだが（「文学という文字情報だけの媒体はわかりにくいので、視覚的に伝わるように建築の話の例はわかりやすかった」「適宜内容に合った映像資料を使った学習ができたこと」「文学のお堅い話だけではなく映画や建築といった視覚的な芸術の話もいてくださった点」等）、一部に19世紀以降の解説が不十分であったとの指摘もあった（「最初の建築のお話も大変参考になったのですが、もう少し短くして頂いて、20世紀や19世紀の文学史のお話をもっと聞きたかったです」）。この点を反省して、次年度で文学とそれ以外のもののバランスを考えていきたい。また参加者の反応を知るためにできる限りビデオをオンにすることを求めたが、これに関しても賛否が分かれるところであった。次年度が対面で行われるならばこの問題は解消するものと考えられる。数値データおよび自由記述等を踏まえて授業の運営についてはおおむね好意的であったのではないかと判断するが、今後はより一層の工夫をこらして、多くの学生に受け入れられる授業を目指していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランスの思想
授業コード	33A22-001
教員名	飯野 和夫
教員コード	043513
登録人数	45
回答数	19
回答率	42.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた授業目標、その目標の到達程度

フランス語による思想の重要な成果を、翻訳等の資料を用いて具体的に理解することを目指した。フランス文化の諸特徴にふれた後、17世紀以降時代順に代表的な思想を取り上げることとし、具体的にはデカルトによる哲学の革新、ルソーの社会契約論、19世紀の植民地主義、フーコーの性をめぐる議論、現代のジェンダーをめぐる議論を扱うことにした。受講者参加型の授業にすることも考えた。本年度はZoomによるオンライン授業であったが、予定通り講義を行ない、授業目標は達成できた。

②総合的な自己点検・評価

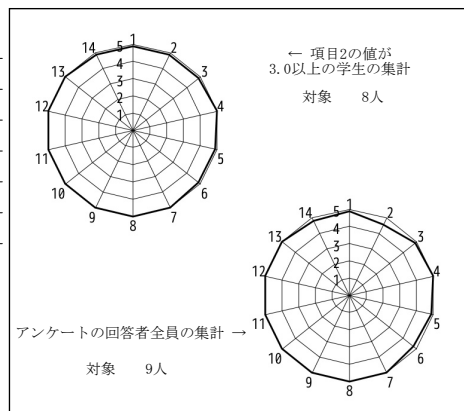
目標どおりの授業ができたと思う。学習目標を明確化し、それにかかわる設問への解答を受講者に提出させる取り組みも行き、有効に機能したと思う。受講者の興味を保つためビデオ教材も導入した。また、受講者を受身にさせないため、授業期間中に全受講生が発言するよう求めた。ただし、非常勤講師である私にとっては初めてで一つだけのオンライン授業であり、オンラインに適した授業のやり方を体得するところまではいかなかった。また、授業内容も学生がともしれば難しく感じる「思想」であるので、学生による授業評価に対する判断は難しい。慣れないなかで、できるだけ授業はしたつもりである。

③次回以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

内容についてはすでに十分なものを提供している。来年度は授業の形態に合わせて適切な対応をしていきたいと考える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論C
 授業コード 33C03-001
 教員名 LAUTIER Fabien
 教員コード 104047
 登録人数 16
 回答数 9
 回答率 56.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

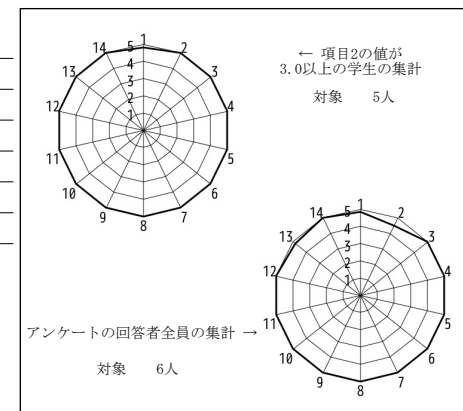
After watching the results of the enquiry that has been done in my class, i have been glad to read that the students enjoyed the way i taught them french and they could progress a bit along the fourth quarter. For me, it has been the best class i've ever had (motivated students, kind, everytime ready to speak and an appropriate number of students for a communication class...).

I'm really glad to read they liked online classes even with all the problems we encoutered on the Nanzan platform. I could notice that games were really effective with this students (even on Zoom).

In conclusion, i think the students enjoyed the way i taught them french and how i tried to help them. I don't know if this enquiry is important cause it was the last class for me in Nanzan, but one thing i could say is that i enjoy to teach them as much as they enjoy the class.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コミュニケーション特論D
 授業コード 33C04-001
 教員名 清水 ベアトリックス
 教員コード 047845
 登録人数 7
 回答数 6
 回答率 85.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The class was organized in a number of short modules so as to ensure that students' interest would be stimulated during 3 hours.

Each week, we commented on the results of the previous week' s homework in an effort to improve particular weaknesses shared by most students when using writing skills. Then we studied a formal point of communication strategy, which was then applied to oral practice for the preparation of various examinations such as DELF or 仏検 that students wanted to take.

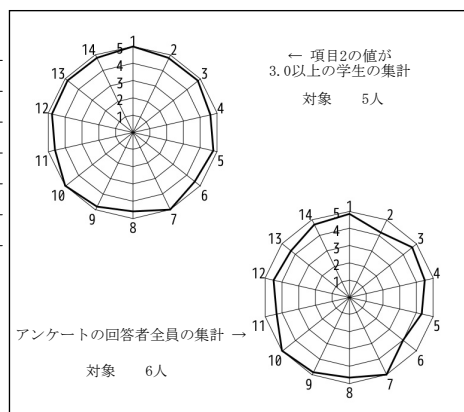
This was followed by a session of opinion sharing around a theme which had been provided a week in advance for preparation. This was done using a collaborative pad online, a form of exercise greatly appreciated by students. The class was wrapped up by each student' s short presentation of a topic of her(his) choice related to current events happening in the world, particularly France or Japan.

We used the situation of online teaching to improve students' computer literacy by asking them to use a variety of online material and ways of communication.

The number of attendants was very small but all students responded to the online survey and gave high grades to this course, which was very encouraging.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSフランス語II
授業コード 48A16-001
教員名 HERGOTT, Florian
教員コード 101725
登録人数 15
回答数 6
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

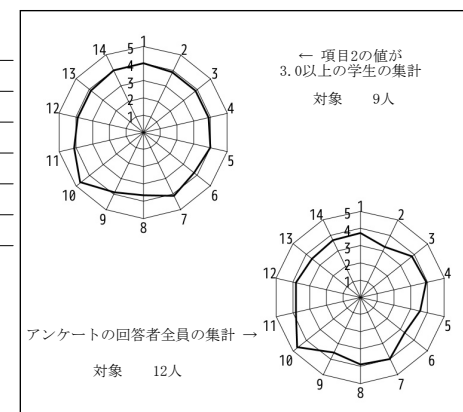
The online courses this quarter went significantly better than those in April 2020.

Students had grown accustomed to online courses, however, a certain weariness had set in after a full year of distance learning.

But, some practices, activities ... can be maintained even once we return to the classroom (online assessment, group work via networks, etc.)

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ文学史
授業コード 34D05-001
教員名 中川 佳英
教員コード 104128
登録人数 29
回答数 12
回答率 41.4%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

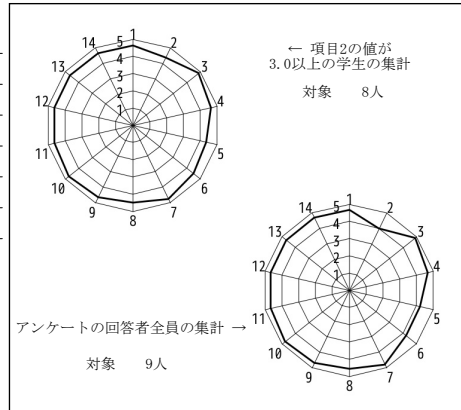
①設定していた目標は2点あり、一つはドイツ文学の大きな流れをとらえることであった。これはアンケート項目の5、6に対応する事項と思われるが、それぞれ評点としては、3.58、3.33と優れた成果を上げているとは必ずしも言えない。その原因は文学の流れをつかむことよりも、個々の作品の紹介に時間を多くの割いたこととも関連があるが、文学思潮を概念説明で済ませていた面があったかもしれない。次にドイツ文学の作品に実際に親しむことを大きな目標の一つにあげたのであるが、これはしかし直接的にアンケート調査に結果が出てくる事項ではない。強いて言えばアンケート項目の11の「学習意欲を引き出し」の結果から推察できる面があるだろう。これに対する評点は3.83であり、まずまずというところであろう。文学史で取り上げられる個々の作品をできるだけ多く読むことは文学史を理解するための前提であるが、そもそも1クォーターで学生が何冊も文学史に登場する作品を読むことは容易ではないとも言える。

②なるほど、他の先生たちの評点が高いので、それに比べると低いというしかないが、項目1~14、項目3~14の評点がそれぞれ3.77、3.81というのは、私自身はとくに悪いとは思っていない。一方、自由記述で学生たちがオンライン授業配信における機器の扱いの不首尾や不慣れについて批判していたことについては、何とか改善したいと思っている。他方、同じく自由記述でパワーポイントの出来が褒められたことについては、授業前までパワーポイントについて殆ど初心者だっただけにとても嬉しく感じ、満足している。

③自由記述で改善を求められた点は、全てオンライン配信についての不具合に関するものであった。そのためまず第一にオンライン配信に際しての操作や手順について慣れることが求められていると考えている。授業目標との関連では、第一にドイツ文学の優れた作品を実際に学生たちが手にして読むことにつながるような、より魅力的な作品紹介を心掛けたい。そして次に、文学史で用いられる諸概念をできるだけ具体的なイメージに置き換えて説明する工夫をしたいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ歴史研究
 授業コード 34D10-001
 教員名 SZIPPL, Richard
 教員コード 017582
 登録人数 23
 回答数 9
 回答率 39.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) 目標と到達度

目標は20世紀ドイツ史の主な動きと特徴、そして全体の流れを理解し、現代ドイツ事情を理解し興味をもっていることとしているが、設問5「この授業の到達目標を理解することができたか」と設問6「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うか」という項目への評価はどちらも4.22点であり、設問13「この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったと感じたか」という項目への評価が4.67点で、大学全体と学科両方の平均値を上回っているから、概ね到達できたと思う。

2) 自己点検・評価

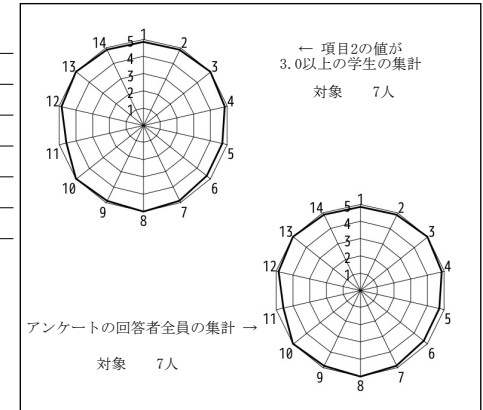
はじめてオンラインで行ったから最初は不慣れの問題もあって、自宅で使っていたコンピューターの音声回数正しく聞こえないこともあった。しかし、情報センターに連絡して直に対応していただき、問題は解決できた。今まで対面式の授業の経験しかなかったので、うまく行くかどうか心配していた。評価をみると、去年の評価と同様にすべての項目について大学全体と学科目の平均値を上回っていたとはいえ、やはり去年の評価より低くなっていた。自由記述で「毎回とても丁寧に話してくれた」という意見もあれば、「内容が少し難しかった」というものもあって、やはり改善する余地がある。

3) 今後の改善に向けて

2020年度中に70歳となるので、この授業は最後となったが、特にオンライン授業の技能を見に付けることが必要だと反省している。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化II
 授業コード 35C02-001
 教員名 金 美淑
 教員コード 102466
 登録人数 22
 回答数 7
 回答率 31.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は基礎韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることが目標です。韓国・朝鮮の言語と文化Iの続きですので、韓国語を初めて学習する学生は最初は大変だったと思いますが、最後までよく頑張ってくれていました。学生の習熟度を測るため、毎回課題を出していましたが、ほとんどの学生が提出してくれています。

オンライン授業ですが、開始・終了時間や課題の行い方・期限などに規則性を持たせ、学生が混同しないように気をつけて行いました。ネット環境にも気をつけていたので、それに関するアンケート項目では良い評価をもらっています。

可能な限り学生が授業に参加できるように、質問をしたり、学生同士で会話練習をしたりする時間も設けていましたが、自由記述でも、質問をしてくれて良かったという意見がありました。

他のアンケート項目でもすべて平均値よりも高い評価をいただいていることから、当初の計画通り、授業を進めることができたと思います。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語IV会話1
授業コード 35C06-001
教員名 張 静萱
教員コード 048047
登録人数 6
回答数 1
回答率 16.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、中級中国語IV会話ということで、基本的に中国語によって授業を行いました。少人数でしたが、受講生は、中国から1年間ほど留学を終え、帰ってきた学生もいれば、ほぼ日本国内の環境で中国語を学んだ学生もいます。受講者全員に満足のできる授業になるよう、テキストに合わせ、難易度に気を配り、使う言葉を選びながら工夫してきました。その結果、留学組としなかった組、お互いに中国語での交流が出来ましたし、テキストの内容をめぐって会話の練習もできました。この授業を通して皆さんは、中国と中国語の知識が増えただけではなく、口語の表現力も明らかに向上しました。開講当初に設定していた目標に到達したと思われず。

今後、評価されたところを引き続き努力し、学生の皆さんの学習意欲をさらに引き出すように工夫し続けていくとともに授業内容もさらに充実にし、皆さんの興味をもっと湧いてくるように、また受講生全員が満足度の高い授業運営を続けていきたいと思えます。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語通訳法
授業コード 35C31-001
教員名 鄭 高咏
教員コード 104121
登録人数 8
回答数 4
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

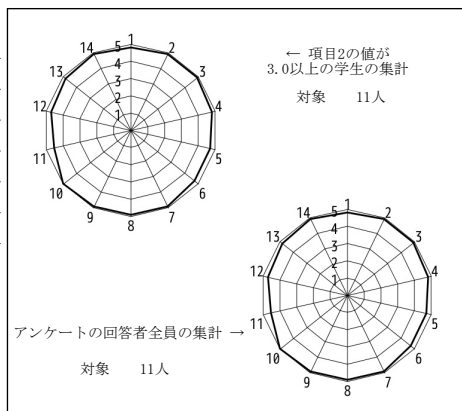
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初は昨年度と同じ到達目標を設定しましたが、しかし対面授業で宿題の完成度を直接確認できるはずの内容の一部分はオンライン授業で十分な確認が取れませんでした。学生の自主性をより求めることにはなりますが、授業の中でもグループ練習時間を増やし、チームワークで宿題の完成度を確認させることによって学習の取りこぼしがないように工夫をしました。受講者の自由記述の中に「もう少しグループ練習の時間を減らしてもよい」という意見がありました。それについての今後改善方法としては、今後、グループ練習に入る前に「何回練習する必要があるか」「どの程度まで練習する必要があるのか」について詳しく指示する必要があると考えています。そうしないと、十分な練習ができていないまま授業に臨むと、受講側は「時間が余った」と考え、教授側は「まだ十分にできていない」と判断してしまうので、すれ違いが生じます。今後、演習項目ごとに到達しなければならない目標をより細かく丁寧に受講者に示すことに努めます。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中国語II
 授業コード 48A25-001
 教員名 趙 晴
 教員コード 100960
 登録人数 43
 回答数 11
 回答率 25.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

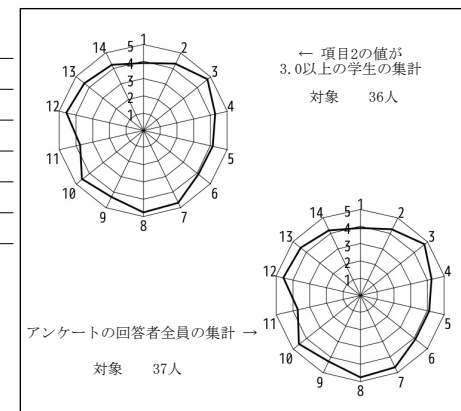


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標にほぼ達成したと思います。
 学生たちの学習態度は真面目で明るく、講義はとても進みやすかったです。特に評価された点は①簡体字とピンインどちらも示されていたためメモをしやすく分かりやすかったです。②一人一人のレベルに合わせてゆっくり授業をしてくれたので、安心して授業を受けることが出来た。③毎回生徒が発言する機会があった。④学生一人一人に寄り添った丁寧な指導がされた。⑤説明がとてもわかりやすく、楽しんで授業を受けることができた。⑥聞き取りやすい声だった。学生たちの評価を見て感動しました。慣れない講義形式についてきて、一所懸命に頑張って勉強してくれて、よく頑張ったと思います。学生たちにありがとうございます。パワーポイントがあればさらにいいというコメントもありました。今後はそれも視野に入れて、いろいろな方法を考えてさらに質の高い講義を楽しく行っていきたいと思っています。
 谢谢！加油！

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門2
 授業コード 40D05-002
 教員名 荒深 美和子
 教員コード 049353
 登録人数 45
 回答数 37
 回答率 82.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

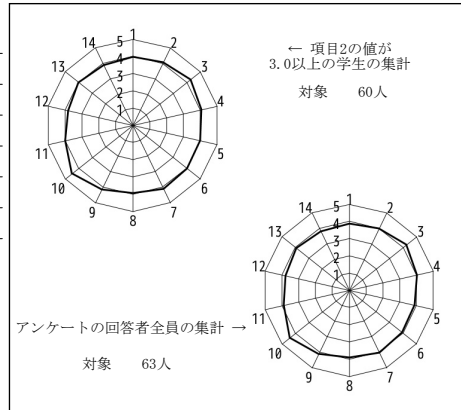


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は「統計学」をパソコンのExcel上で学んでいく入門科目である。今回、履修者45名中アンケートに回答したのは37名であり、回答率82%による結果で授業評価を行う。ここでは、各設問に対して「はい(5,4)」と「いいえ(2,1)」の割合を使って評価していく。オンライン授業であるため、授業に関する質問等がある場合は、チャットあるいはマイクのミュートを外し、いつでも授業を止めるように指示して、授業を進めるようにした。実際に学生からの質問等による中断のほとんどがチャットによるものであり、設問4の授業の進行速度が適切である78.1%、適切でない8.1%という回答結果であった。設問8では94.6%の学生がよく聞き取れたということと、設問12においても97.3%の学生が、授業時間内での質問などにも対応できたという結果であった。配布プリントの内容に復習しやすいように操作手順などを盛り込み、授業中に使っている教員のファイルを講義資料上に置いておくことで、自主的な復習の機会を設けている。学生一人ひとりにとって知識が本当に身につく授業を目指したい。設問13の「新しい知識を得て理解が深まった」では91.9%、設問14の「全体として満足」では81.1%の学生がそう思うとの結果から、オンラインでもある程度の成果があったように思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済思想史A
授業コード	40D64-001
教員名	大谷津 晴夫
教員コード	015222
登録人数	237
回答数	63
回答率	26.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



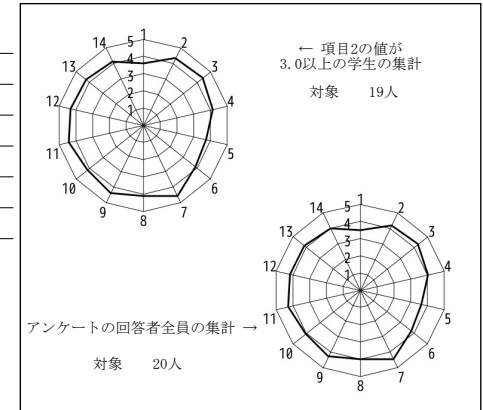
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目について、設問13の平均が3.94であったことは、総合的に見て合格点の評価をもらったと受け止めている。その中で設問3、4の値がそれぞれ4.24、4.03であったことは、授業の形式面の条件を充足していたという評価と受け止める。また、設問7の4.02の評価に示されているように、授業への真摯な取り組みについての評価も合格の水準にあり、全体的な満足度を問う設問14の値も3.81とまずまずの水準にあると評価できるとともに、設問6の到達目標にかかる評価も3.94と一応合格点をもらったと考えている。授業履修前の興味度が3.86で、参加度も3.97であったのに対応して、設問13の新知識を得られたとする度合いの評価も3.94とほぼ同じ水準にとどまった点は、受講生の学習意欲や興味を引き出す教員の力量不足として反省しなければならない。

またZoom操作に不慣れなために様々なトラブルが発生し、オンライン授業がスムーズに進行しないケースがあった。そのため設問8の評価は3.92にとどまり、自由記述解答でもそうした指摘があった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学史B
授業コード	40D67-001
教員名	大塚 雄太
教員コード	104256
登録人数	63
回答数	20
回答率	31.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として、1. 経済学の諸類型とその基礎にある思想を説明できる、2. 歴史的展開と経済学の発展の連関を具体的に捉えられる、3. 経済学的発想を媒介として現代社会を読み解く独自の視座を獲得する、の3点を設定したが、いずれについても受講生の多くは十分な水準に達している。数値データをみると「項目6」はやや低めとなっているが、全体として「4ないし5」をつけた学生が60%であり、また毎回のリアクションやレポート内容に照らして以上の到達目標にはるかに届かない学生はわずかであった。もっとも、本講義に主体的に取り組んだ学生とそうではない学生の差は大きく、前者については講義内容をもとに自身で文献その他にあたり、その結果をもって充実した質問を用意してくるなど、相当の力をつけている。講義レジュメは復習にも活用できるよう文字量をかなり多くし、寄せられた質問には丁寧に回答し、資料DLサーバーを活用して受講生全員で共有したが、これらに対する学生の評価は、最終回のリアクションを見るに、かなり高いものであったと自負している。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B2
授業コード	40E07-002
教員名	森川 信子
教員コード	100136
登録人数	12
回答数	1
回答率	8.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

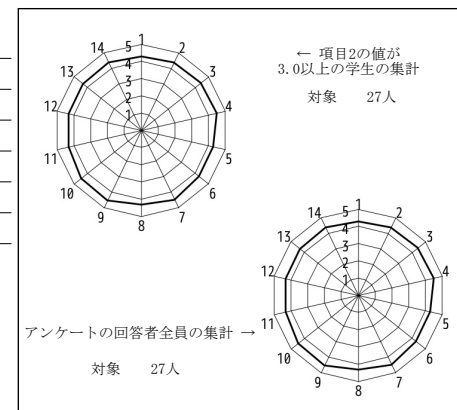
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

第4クォーターであり、受講生も私もオンラインでの授業に慣れていたので、これといった大きな問題もなく、学期はじめに予定していた内容は修了することができました。(対面授業として予定していた内容の一部は、時間的な制約のため割愛せざるを得ませんでした。それは残念ですが仕方なかったと思います)。設定していた到達目標も、オンライン授業としてはおおむね達成できたといっているのではないのでしょうか。評価については、オンラインでの試験の実施が困難なため、代わりに最終レポートとし、毎回の授業での提出物等と合わせて評価を行いました。これもほぼ適正な評価ができたのではないかと考えています。対面授業ができなかった今年度でしたが、ICTの活用を学ぶことができたのは非常に大きかったと思います。WebClassは昨年度までは利用したことはありませんでしたが、使ってみると課題のやりとりや個別の連絡にたいへん便利なものだとわかりましたので、対面授業が再開できたあとも活用していきたいと思っています。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民法B
授業コード	40F05-001
教員名	仮屋 篤子
教員コード	102079
登録人数	89
回答数	27
回答率	30.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

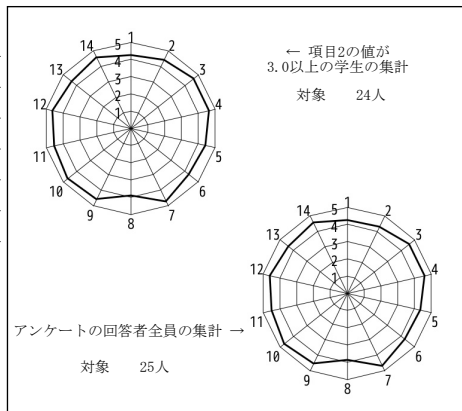


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「身近な家族法の問題を理解する。」「基本的な家族法の知識を身につける。」「論理的な思考方法を身につける。」については、一定程度の目標は達成できたと思われます。Zoomでの授業ということで、聞くだけでは飽きてしまう恐れがあるため、なるべく集中力を途切れさせないように、図を使用するなどの視覚的効果を心がけました。また、自習を促すよう、授業では直接取り上げない資料なども配布して、授業内容に興味を持った場合には、自主的により深い学習ができるような環境を整えるように心がけました。授業自体を楽しんでくれた方も結構いらしたようで、良かったです。特に小テストの実施については、毎回の実施では負担となるかとも思われましたが、皆さん肯定的に評価していただいているようです。小テストの実施は継続するかどうか思案してはいたのですが、継続することにします。次学期はどのような授業形態になるかはまだ不明ですが、対面授業でも遠隔授業でも、モチベーションの保てるような視覚的工夫を心がけたいです。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商法B
授業コード	40F07-001
教員名	村上 康司
教員コード	103658
登録人数	85
回答数	25
回答率	29.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義では、ビジネス活動における多様な取引形態をイメージし、それぞれの特徴を理解できるようになること、それらの取引における資金決済手段を整理できるようになることを目指した。今年度はオンライン講義となったため、学生の戸惑いもあったかもしれないが、むしろ積極的な協力もあって当初の予定は十分にこなすことができた。②スコアは、総じて肯定的なものとなっている。また、自由記載等からも、学生各自が能動的に課題等に取り組むことによって、自らの理解を深めることができたと思われる。項目1・2のスコアよりも項目13・14が良くなっている点は、常に意識をしておきたい。もっとも、通信環境に関連する項目8のみが、やや悪い。私自身は、すべての回で同様の機材及び通信環境のもと講義を行ったが、こればかりは、時々状況や個人の環境に左右される部分もあり、一様な改善対応は難しいところではあるけれども、不鮮明な部分は再度触れたり、レコーディング対応など一応の手当ては行ったつもりである（この点、自由記載においても好意的なものがあった）。③今年度の形態が常態となるのかはわからないが、特にオンラインでは一方通行にならないように、学生自らが何かを学んでいるといった実感を得ることができるとともに、実社会でその知識が確認・応用できるような学習への取り組みを意識して行っていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法学概論
授業コード	40F08-001
教員名	滝谷 英幸
教員コード	104298
登録人数	17
回答数	3
回答率	17.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

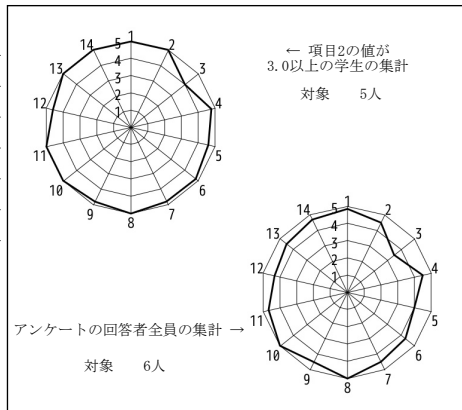
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生の皆さんの反応を見る限りでは、「知識の獲得よりも法的な思考の体験を重視し、日常生活に応用できる法的な素養を身につける」という目標はある程度達成できたのではないかと考えています。双方向型の授業へのニーズが強いようですから（科目の性質上、私自身もそれが望ましいと考えています）、来年度、対面で授業ができるようになれば、受講生との議論に時間を割くつもりです。また、もし来年度もオンライン授業となった場合には、ZOOMのチャット機能以外にも方法を検討したいと思います。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト会計B
 授業コード 42C18-001
 教員名 木下 勇人
 教員コード 102242
 登録人数 9
 回答数 6
 回答率 66.7%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回

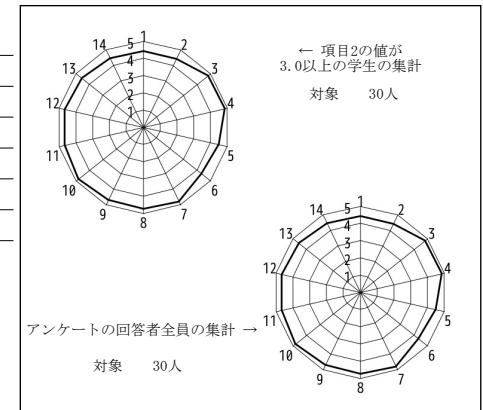


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アドバンスト会計Aと比較すると、アドバンスト会計Bは半期通しの内容になり積算的な内容になるため、一度欠席するとなかなか理解度が低くなる傾向があります。しかもコロナ禍のもとでほとんどをZoom対応となっていることから思ったよりも講義対応が厳しかったのは否めません。それでも受講生の助けもあり、何とか予定通りの進捗を図ることができたと感じております。実社会を写す鏡が会計であるため、実社会の出来事がどのような形で会計に反映されるかにつき講義を通して伝えることも実施しました。知識を実社会に当てはめる作業がイメージをつけるためには非常に重要になると考えております。単に知識を取得するだけでなく、取得した知識を生きた経験にできるよう今後も工夫を凝らしながら講義を進めていければと考えております。また、自分自身の目標をもって学生生活を送ってほしいとメッセージを伝えました。どう捉えるかは学生次第ですが、南山OBとして後輩には自らの足でしっかりと前に進んでほしいと願っております。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(起業論)
 授業コード 42F05-001
 教員名 藤榮 幸人
 教員コード 103879
 登録人数 79
 回答数 30
 回答率 38.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

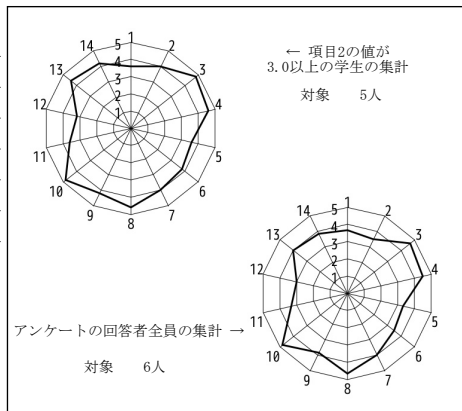
- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
 - 1点目として、自分にとって初めてのオンライン授業ということで、受講する学生の立場を考慮した運営を心がけた。具体的には一方的に画面越しに講師が話すスタイルでは、ビデオ視聴と変わらないということを考え、集合受講の意義を見いだせるようにグループディスカッションの機会を設けて、学生の参加意欲を高めることを目標とした。また、資料を提示しながら解説する際にも画面共有で資料だけを見せるのではなく、できるだけ講師の表情、身振り手振りも見てもらいながらできるような配信方法を取り入れた。
 - 2点目として、実務家教員としての強みを生かすために、できる限りリアルなビジネスの現場で起こっている事例と、理論を結びつけながら講義を進めるように心がけた。
 - 3点目は、働き方が多様化する中で、起業という選択肢も長い人生の中で選択肢に入れられるように、メリットデメリットをはっきりさせて理解を深めるようにした。
 以上3点については、当初の目標は達することができたと認識している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

項目番号6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」について全体の中で相対的に低い点数となった。与えた課題の解説が事後になったことから、難しいと感じられたというフィードバックがあったため、事前の解説にも力を入れることとしたい。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

ディスカッションを取り入れたセッションは概ね学生の評判もよく、今後も工夫しながら積極的に取り入れていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本国憲法3
授業コード 12C03-003
教員名 三上 佳佑
教員コード 103637
登録人数 15
回答数 6
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

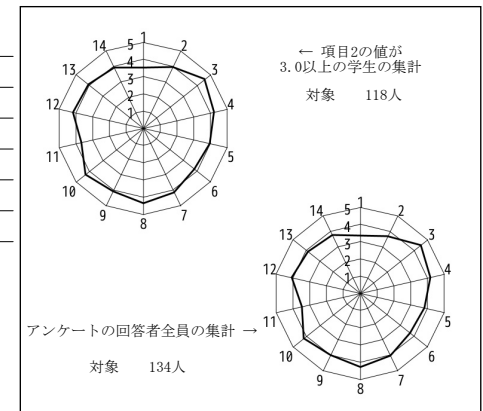


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業の進行のペース配分は概ね想定の通りであり、扱うべき内容もほぼ消化し終えることができた。また、成績評価レポートの内容を見るにつけても、受講者が授業内容を十分に消化し、社会的課題に対して自己の見解形成に活かしている状況が、一般に看取された。この点でも、本講義は所期の目標到達度に達したものと考えている。
- ②授業の構成や進行ペースや音声の聞き取り易さについて高い評価が得られている点で、数値データから見る限り、授業運営は全く問題なく行われたと自己評価できる。また、数値データから見る限り、講義担当者の「研究・教育的熱意」についても、概ね共有して頂けた者と考えている。他方で、やはり非常勤であり且つオンライン講義となってしまったことから（各回のレジュメに連絡先を記し、何時でも質問するよう伝えてはいたものの）質問の機会確保などの点で、学生にやや距離を感じさせてしまった点は反省すべきと考えている。
- ③基本的には現在の方針・方式を維持しつつ、適宜、学生の理解度に配慮して柔軟に対処してゆきたいと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権各論B
授業コード 44A20-001
教員名 近藤 敦
教員コード 104264
登録人数 289
回答数 134
回答率 46.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

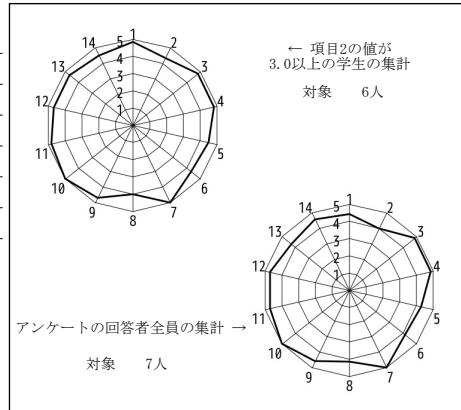


授業評価結果を踏まえた点検・評価

人権各論の到達目標は、次の3点である。1、基本的人権の内容を「比較」の観点から把握し、理解している。2、現代社会において実際に生じた様々な憲法や人権の問題について、学説・判例を学びながら、それを分析し評価することができる。3、現在、国内外で新たに現出している人権問題について、「人間の尊厳」の観点からそれらを考察することができる力を身につけることができる。これらを踏まえた講義をしたが、多くの学生は一応の到達点に達しているが、一部の学生は十分に到達できていない問題があった。特に「比較」を人権条約と日本国憲法の比較を中心としたが、その点の到達度が成績の成否を分けている。おそらく、授業を受けず、教科書を読んでいない学生が、出題の意図を理解できずに、別の解答をしている場合に、到達できていないのであり、大半の授業を受け、教科書をしっかり読んでいる学生は、合格しているものと思われる。オンライン授業に参加していない学生にどのように参加を働きかけるのかが課題といえる。今年度の非常勤だけで終わるので、今後の抱負や方針については、特に記載する必要はないと思われる。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス法
授業コード	44B39-001
教員名	石井 三記
教員コード	101849
登録人数	19
回答数	7
回答率	36.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

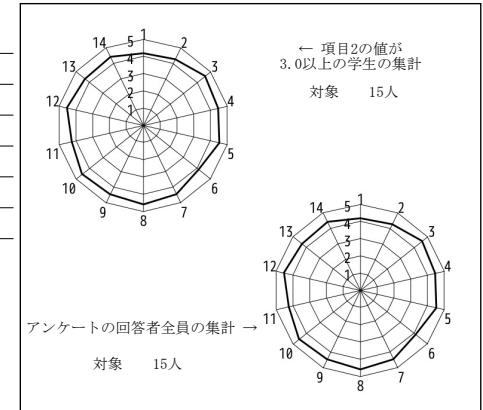


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①学修目標の「フランス法制度の基本的な成り立ちを歴史的に理解し、日本の法制度を広い視野から検討する参照枠を獲得する」ため、授業計画にそくして、フランス法の近代日本の法制度に及ぼした影響、フランスの裁判制度、憲法・民法・刑法について理解を深めてもらうようにした。
- ②上記の目標を達成するためにはフランス語など一定の基礎知識が必要となり、授業評価アンケートの結果は低くなっているが、アンケート回答者の数が少ないこともあり、一概にこの目標が達成されていないといえるか検討の余地があるように思う。もちろん、授業アンケートの自由記載欄からは専門外の難しい科目であるということも理解できるところであり、この点については、フランス社会やフランス語の知識がないと確かに難解と思われるが、逆に「フランスのことがわかり興味深かった」との感想も聞いた。
- ③上記の問題点も勘案し、今後は双方向の授業によって理解の程度を確認しながら、また小レポートなどを課すことなどしつつ、当該対象国のことと日本の法制度の双方の理解を目指す二重の目標を堅持することは重要と考えている。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政学B
授業コード	44B43-001
教員名	高 東柱
教員コード	104267
登録人数	64
回答数	15
回答率	23.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

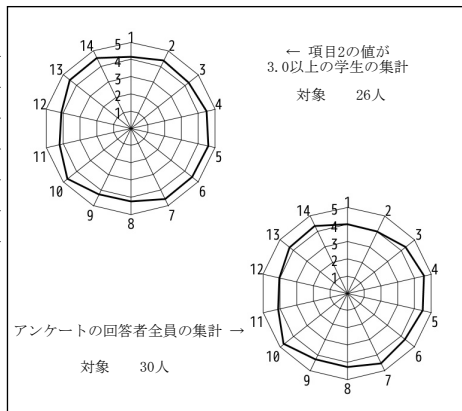


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度
設問5の平均値が4.53となっており、講義当初の到達目標は概ね達成できたと考える。
 - ②担当科目に関する総合的な自己点検・評価
設問14の平均値が4.40となっており、法律学科の平均値（4.08）を上回っていることから、授業の満足度は高かったと言える。そして、設問1と2の平均点がそれぞれ4.20と4.27となっており、どちらも法律学科の平均値より高くなっていることから、学生もより積極的に授業に取り組んでいたと考える。今年度はオンライン授業となり、慣れない環境で試行錯誤しながらの授業であったが、学生から一定の評価を得ることができたと考える。
 - ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
設問6の平均値が4.13となっており、法律学科の平均値（3.86）よりは高くなっているものの、担当科目の設問ごとの平均値の中では最も低かった。学生が授業を通して、専門知識を学び、授業の到達目標が達成できたと実感できるように、さらに工夫していきたい。
- * 本報告書は授業評価集計をもとに作成しているが、今回の授業評価の回答率は23.4%と低いため、結果の解釈には注意が必要。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治史
授業コード	44B46-001
教員名	長谷川 一年
教員コード	103576
登録人数	140
回答数	30
回答率	21.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

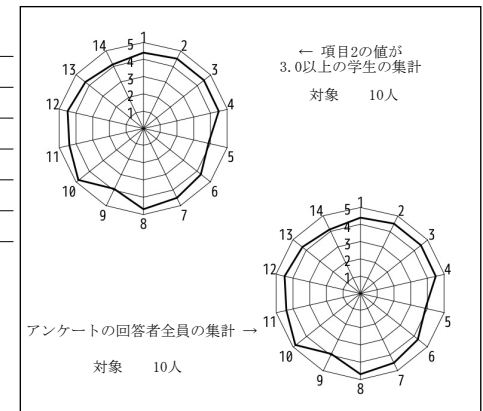


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定されていた目標は、「ヨーロッパ、アメリカ、日本の近代政治史を理解することができる」「各国の歴史的文脈の相違を踏まえて国際政治の動向を捉えることができる」「現代日本政治について歴史的かつ比較政治的観点から議論することができる」の三点であった。授業はシラバス通りに進行し、期末レポートも授業内容を踏まえて適切に作成されているものが大半であったので、これらの目標はおおむね達成されたものと考えている。
- ②数値データに関しては、とくに問題ないと思われる。他方、自由記述では、リアルタイムのオンライン授業ゆえの問題点がいくつか指摘された。授業中に自宅のWifi回線が途切れたため、授業時間が若干オーバーすることがあった。また、こちら側では把握していなかったが、音声の一部聞き取りにくいということもあったようである。
- ③授業のコンテンツそのものについては、とくに大きな改善点はないものと理解している。オンライン授業に関する技術的な問題点については、今年度の経験から改善されていく点も少なくないが、その道の専門家ならぬ身にとってはおのずと限界があることも事実である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済原論B
授業コード	44B53-001
教員名	川地 啓介
教員コード	103289
登録人数	32
回答数	10
回答率	31.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

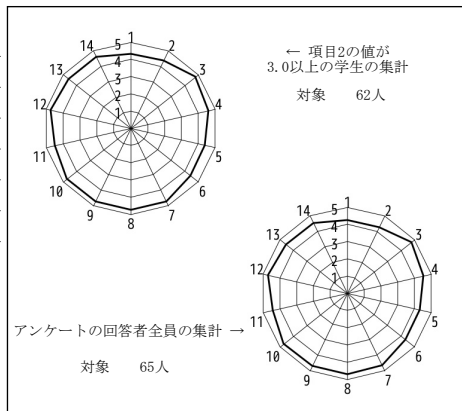


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、国全体の経済水準の捉え方に加え、マクロ経済における各市場の仕組みや経済政策の意義について理解できるようになることを設定し、授業期間内に授業目標に関する内容を講義することができた。しかしながら、授業評価における到達目標の理解および教材に関する項目について、平均値が4を割っている。前者については初回の授業で授業目標などについて丁寧に説明しているが、オンラインで受講する学生に対してはこれまで以上に丁寧な説明が必要かもしれないため来年度以降の課題である。後者については自由記述回答にレジメの配布が講義前日であったとの指摘があったが、基本的に数回先の授業のレジメまで予め配布していたことが理解されていなかったようで今後の課題である。その他の項目については、おおむね良好だったと判断されるが、今年度はハード・ソフトウェアともに制約のある環境で不慣れなライブ型授業を実施したため、授業中は機材の操作や受講生のチャット対応などに翻弄され、学生の理解度を確認する余裕を持たない場面などがあったことが反省点である。来年度は上記の課題を受けて、各種ハードウェアを更新してハード・ソフトウェアの使用について習熟度を上げることを目指したい。さらに、来年度から1回の授業時間が100分に変更されるため、授業中の受講生の集中力が持続しやすいように講義内容の配分について見直しを行いたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	担保法
授業コード	44B92-001
教員名	久須本 かおり
教員コード	101733
登録人数	266
回答数	65
回答率	24.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

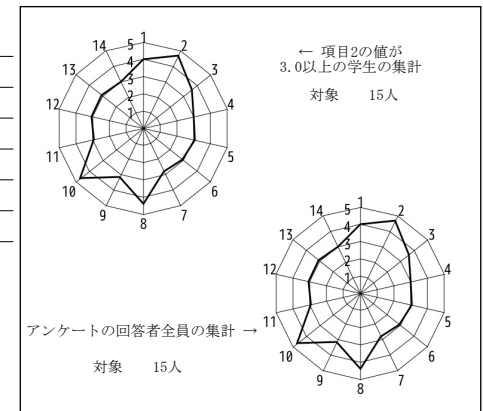


授業評価結果を踏まえた点検・評価

思った以上に高い評価をいただけて安心しました。
オンライン授業では受講生の顔が見えないため、授業の難易度や進行スピードの調整がなかなか難しかったのですが、自由記述の感想を拝見する限り、担保法の概要を理解していただくという目標は十分達成できたように思いますし、さらにはこの授業を楽しみにしていただいていた方や、担保法が面白いと感じていただいた方もいらっしゃったことは何よりでした。
一方で、限られた時間の中で、担保というなじみのない制度を説明するために、言葉遣いが若干難しくなってしまった部分もあったようで、その点はわかりやすい授業を徹底できなかったことを反省しています。また、もっと深く勉強をしたい方にも対応できるように百選情報をレジュメに掲載しておりましたが、授業後に寄せられた質問が時にはかなり高度なものであり、よく勉強していらっしゃる方が受講しておられることはわかっていたので、もう少しそのような方に発展的な学習をしていただけるような指示をさせていただきべきだったと反省しています。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	総合政策英語III3
授業コード	46F03-003
教員名	Jean Claude AHWENG
教員コード	104148
登録人数	37
回答数	15
回答率	40.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



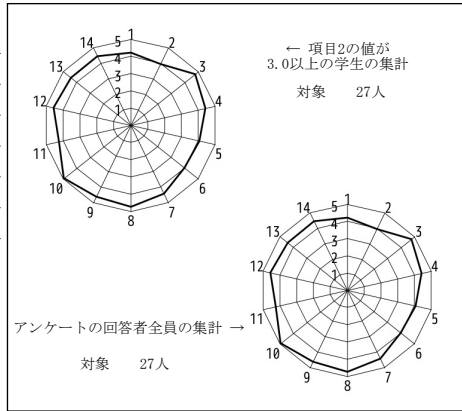
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were threefold, namely, for the students to:
(1) undertake independent research, think about assigned policy related topics; (2) transform and convey what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) to share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research.
The students could overcome the challenges caused by the Covid-19 pandemic. The students took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports.
The students liked the hands-on learning by doing approach and felt that they benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English. The instructor can, therefore, conclude that the course attained its goals.
A good learning environment requires good teacher-student communication. Right at the outset, the instructor explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus on the assignments.

The students were highly motivated, had good educational foundation and a lot of potential. The instructor thinks that the students benefited from the course. (210 words)

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア政治社会論
授業コード	46L02-001
教員名	鈴木 隆
教員コード	102972
登録人数	71
回答数	27
回答率	38.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修者の全体的評価として、以下の2つの事項の点数、今期のオンライン授業の実施形態としては、一定程度満足できるものであった。

- ・この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。
- ・全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

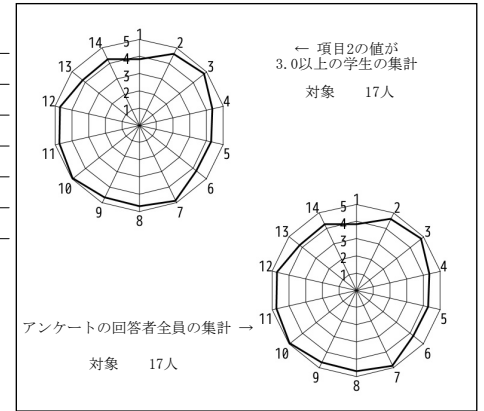
教授者として率直にうれしかったのは、自由記述回答の「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」の質問について、以下の3つが言及されていたことである。i) については、こうした多面的な理解のあり方に、学生が1人でも関心を寄せてくれたことは、本講義の授業目的を達成することができたと感じる。

- g) オンラインで内容が薄くなりがちなか中、内容を絞って重点的に講義していた
- h) スライド資料にノートがついていたため、オンラインで聞き取りにくかったところの補足ができた
- i) 中国の国際的な考え方など、今までなんやコイツと思っていたのが、少しずつ背景を知ってそんなふうの世界を捉えていたんだと理解できたのが良かった

次年度では、今期のオンラインの授業では十分に実施できなかった、履修者とのより緊密な学修コミュニケーション（例、個々の学生による質問提出とそれへの回答）を図ることに留意する。そのためにも、新型コロナの早期の収束と、対面授業の復活を期待したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境と法
授業コード	46M05-001
教員名	岩崎 恭彦
教員コード	102072
登録人数	51
回答数	17
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

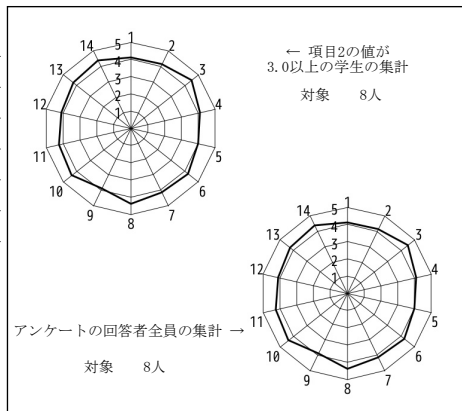
南山大学総合政策学部では、かつて瀬戸キャンパスで「環境法制論」という科目を担当し、名古屋キャンパスに移行後は「環境と法」という科目を担当しています。授業の方針としては、すべてオンラインで授業を実施した本年度も、従来と同様、法学について必ずしも系統的に学ばれているわけではない学生のみなさんを対象に、法学のなかでも先端・展開科目に位置付けられる環境法を講ずるうえで、次の点に注意を払いました。

すなわち、毎週一回の間隔で開講される講義の内容についてより一層の定着が図れるように、図表やイラストなどの資料をZoom上で画面共有して学修内容をビジュアル面からもとらえられるようにすること、各回の講義において“学びのポイント”を指摘して環境法の重要論点がどこにあるかを明確に示すことなどを実施しました。また、法学関係科目の未履修者に配慮し、法学のテクニカル・タームを説明の中で用いる場合にはできる限り丁寧に解説することを心がけました。これらの点に対しては、今回のアンケートでも多くの方々に評価していただいているのではないかと感じています。

他方、自由記述欄では、口頭説明の仕方や速度の適切さ等について、具体的な要望をいただきました。これらの点に関しても適宜対応を図ることを通じて、数値データの更なる向上をも心がけようと思っています。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学科指導法A
 授業コード 15B80-001
 教員名 杉浦 洋
 教員コード 100769
 登録人数 23
 回答数 8
 回答率 34.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・開講当初に設定した授業目標

講義と受講生の模擬授業からなる授業である。授業は全てオンラインで行われた。講義では、近代日本の数学教育の流れと問題点について述べる。また、高等学校の数学単元の基礎について述べる。模擬授業では、25分の授業と授業評価の討論20分を行う。

授業の他に、英語で書かれた数学教科書の翻訳と、教科書の作成のレポートを課す。2つのレポートにより、英語を通して数学に触れ、数学的経験と視野を広げ、また、知識を整理し、説明力を養う。

・実践状況（目標達成度）

今年は受講生が実質22名だったので、4回分を講義、11回分を模擬授業に当てた。

第1回は近代日本数学教育史(90分)、第2回は因数分解・因数定理(90分)、第12回は正十二面体の係数(45分)、第14回は百五減算(45分)、15回は積分の初等的技法(90分)について講義した。

模擬授業は、概ねよく準備されていた。板書法、授業組み立ての要点、生徒の学力に対する配慮などについて、指導した。オンライン授業は、受講者の反応がフィードバックされにくく、みんな苦労していた。

英語翻訳、教科書作成は積極的に取り組んでいた。

・授業評価

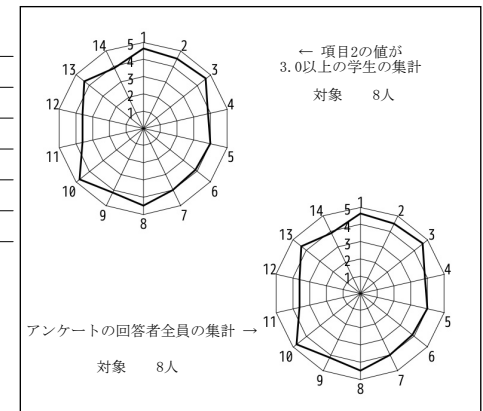
アンケートを見るとこの授業は好評である。受講生は目的意識があり、積極的に授業に取り組んだことがわかる。

・改善点抱負方針

アンケートの回答数が8で、毎回宣伝したが非常に少ない。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV3
 授業コード 48A08-003
 教員名 BALLESTEROS, Donna
 教員コード 104319
 登録人数 18
 回答数 8
 回答率 44.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

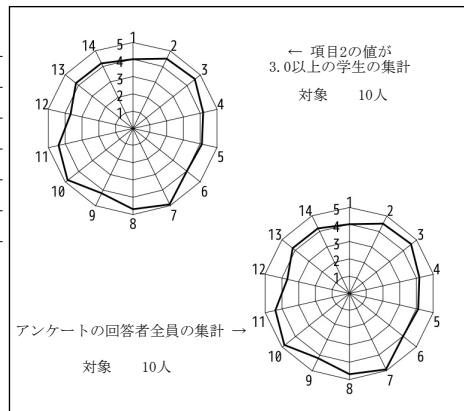


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Improvements in critical thinking, note-taking, and collaborative learning were observed while oral discussion/debate skills was challenging. There was much hesitation in asking questions and expressing opinions on what I or their classmates say during discussions. To compensate, I would give a 30-minute discussion with prompts in breakout rooms as they might be more comfortable discussing with a smaller group. A representative they selected would report back what each group discussed. However, the assessment reflects that they did not maximize as they thought it was too long. I want to improve on this in the coming quarter.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV6
 授業コード 48A08-006
 教員名 GIBBON, Benhanan
 教員コード 104318
 登録人数 20
 回答数 10
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

[1] Goals:

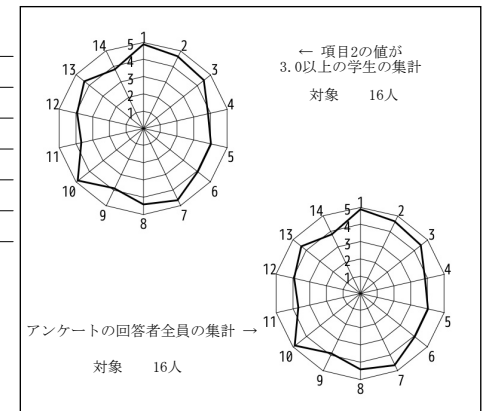
- (a) Critically explore and analyze complex content of global issues. This was addressed through the use of the textbook and additional sources.
- (b) Use strategies that facilitate coherent and rational self-expression with appropriate discourse. Evidenced by students' use of the academic word-list taught and required for written opinion coursework.
- (c) Demonstrate a high level of discussion/debates skills in considered opinions on a range of issues. Achieved very well, scored in presentations.
- (d) Extend creative use of CLIL-inspired learning strategies, including note-taking and collaborative learning skills to prepare for advanced study abroad, EMI courses, and future study in the GLS faculty. Achieved by the introduction and use of the 'Cornell Notes' system.

[2] I am overall disappointed with the evaluations, despite all but one area achieving 4/5.

[3] The 3.7 about assignment information could have been easily addressed. Perhaps it was the nature of WebClass and Zoom only information, but I will certainly ensure all students can find the syllabus dates with ease and will now end class with a mini-clarification question session alongside my usual content-plenary.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSスペイン語II
 授業コード 48A22-001
 教員名 APAZA, Pablo
 教員コード 100878
 登録人数 48
 回答数 16
 回答率 33.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

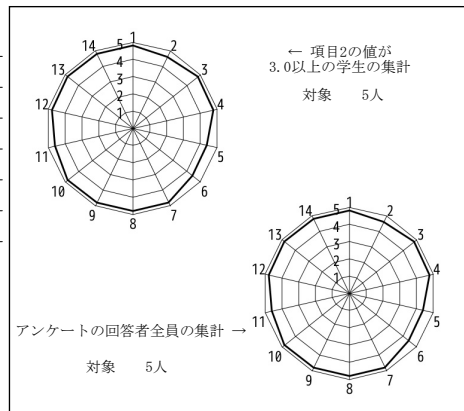
During this 4th Quarter we find that goals set at the star, were achieved after having the classes on line every class, this was thanks to the students who worked hard on their homework for every class, besides, they had to memorize lots of vocabulary for each lesson and use them in class and after class. All the students did a very good job trying to learn and participating during all the classes each time.

According to the numerical data results, in all items were good, considering that for a conversation class with 48 students is not common, because is hard to make group conversation with the active participation from the teacher in each group or pairs, but most students did a good job even being in remote place from one to another. Although, according the relevant comments from the students they were happy having conversation with their own voice with their peers online from a remote place.

Finally, the next quarter we' ll continue working on the same pad and trying to support more to each student work, specially focusing more on conversation skill, using correctly the rules of grammar and syntaxis mainly.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際協力論 / International Cooperation
 授業コード 48C12-001
 教員名 高田 洋平
 教員コード 104231
 登録人数 10
 回答数 5
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

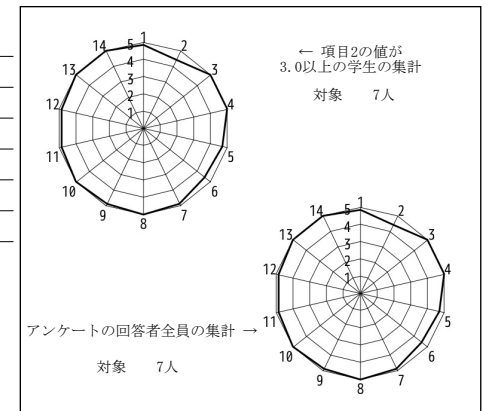


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
 目標は例年通りのものであったが、一部、目標に到達できない部分があった。原因としてはズームによる影響が大きい。本授業では双方向性を担保しつつ学生に思考する機会を提供し、それに対する過去の研究者の考え方などを提示する、というスタイルをとっているが、ズームにより双方向性の担保が難しく、学生が十分に思考する機会が少なくなっていた。また学生自身もズームのため緊張感を維持することに難しさを感じている様子で、そうしたことも授業運営と学生の到達度にネガティブに影響した。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
 昨年度より減少している箇所があった。ズームによって双方向性の機会の喪失が影響したかもしれない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
 次年度以降、ズーム形式でいかに学生の知的好奇心を満たし、双方向性を担保していけるかが大きな課題として残った。コロナが学生に不利益を及ぼすことはあってはならないし、それを限りなく最小化することが教員の責務として私に求められている。次年度以降は、対面と同等の教育効果をもつ授業ができるよう、さらに工夫、チャレンジしたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIA1
 授業コード 33A13-001
 教員名 NISHINO, Aurelie
 教員コード 103640
 登録人数 16
 回答数 7
 回答率 43.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

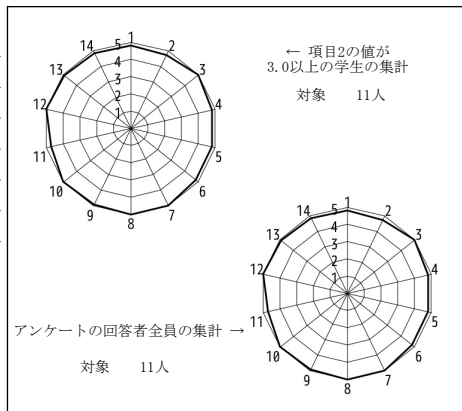


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- The goals at the beginning of the quarter were to bring the students at an intermediate level in French through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. Even in this particular situation, they were really active and it was lovely to teach to them. They didn't get the situation bother their studies and we managed to reach a very good level of French.
- Following the results of the enquête, I will try next year to provide more efficiently the answers of the textbook, even if the students have the answers also. This year was special and with the situation, I think that the class did very well. In fact, they manage to do a lot of very high-quality videos, presentations as groups even if they didn't met each others. The quality of their work was really amazing.
- For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<G>
授業コード 11F02-027
教員名 中野 麻里子
教員コード 102125
登録人数 44
回答数 11
回答率 25.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

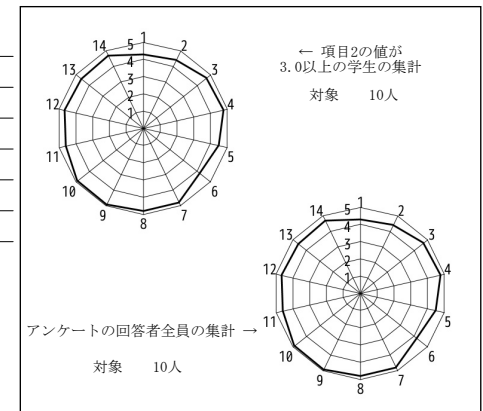


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4の学習目標、到達目標はおおむね達成できた。
学生たちの学習意欲が高く、基礎的な文法知識の基本だけでなく、細かな点までしっかりと学習できた。これからレベルアップしていくための基礎がきちんとできたと思われる。
いつもはやる単語の小テストも今回「自習」という形でしか行っていないので、実際にどれくらいの語彙が身についているのかという点は少し心配である。次のクォーターではそのあたりも補強していきたい。
また今後の一番の課題として、「発音」面のレベルアップがあげられる。発音は今回のオンラインでの授業でひとりひとり細かくチェックすることができなかった。対面授業が再開されてもマスクをした状態で、口の動きを見ることができない中、発音を矯正するのはなかなか難しいのではないかと心配である。どういった方法がとれるのか、その時々状況の踏まえて工夫していきたい。
アンケートではパワーポイントの資料が見やすかったという声がたくさんあったようだ。対面授業になった時に、その資料を補助的に使ったりもしてみたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語IV<全>1
授業コード 11F04-027
教員名 李 香善
教員コード 103871
登録人数 38
回答数 10
回答率 26.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

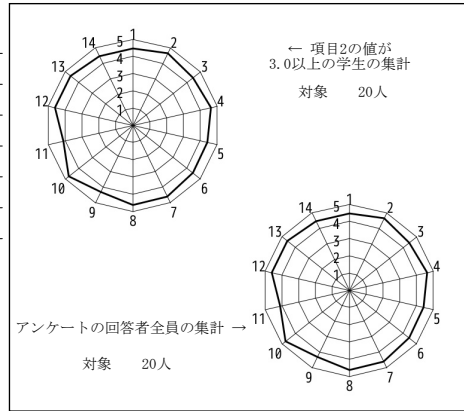


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1、受講姿勢がよく、学習意欲があり、毎回の課題をしっかりと自己訂正確認後提出する学生は六割ほどで、Zoomに欠席したり課題を未提出する学生がいるので、Zoom授業時は毎回ちゃんと出席する事と、課題を必ず提出する事を促しますが、しかしながら欠席や課題未提出者は毎回ありました。
- 2、Zoom授業時に、発音チェックを行います、みんなが正確で流暢に発音しようと努力するので、大変楽しみながらZoom授業を行えました。毎回授業終了後質問する学生が2、3人おり、良い質問をするので、普段中国学習に取り込む情熱さと熱心が伝わりました。
- 3、学生の学習負担は大きかったと思います。新年度には、如何に学生の負担を減らしつつ、中国語学習に興味を持って、且つ習得の喜びと楽しさを感じながら勉強できるよう、指導方法や学生との接し方に一層工夫したいと思います。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国の現代事情2
授業コード	35B04-002
教員名	吉田 仁
教員コード	100947
登録人数	35
回答数	20
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

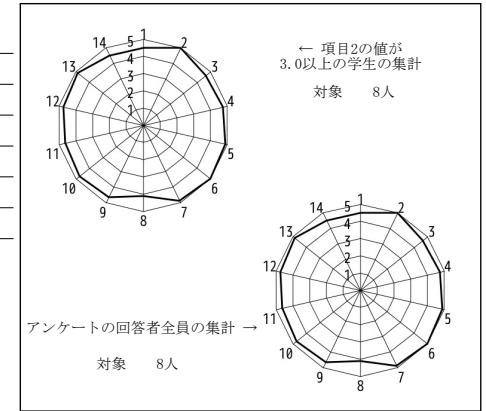


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の【到達目標】は「中国の最新状況について一定の知識が身に付いている」、「比較的長い中国語の文章が読解できるようになる」、「中国語の自然な発音で音読できるようになる」である。上記の項目については若干「音読」に難点のある学生がいたものの、ほぼクリアできたようだ。本年度の授業はコロナ禍の影響ですべてオンラインでの授業となり、授業担当者も慣れるのに苦労した。例年の対面授業では授業の「場」の一体感のようなものがあつたが、今年度ではすべてZoomでの授業となったため、担当講師自身もよそよそしくなってしまった。それが設問7、9、11にも表れており、アジア学科平均値を下回ってしまった。この点については反省している。但し、設問6の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」はアジア学科平均を上回っており安心している。項目15の「この授業の良かった点、評価できることは何ですか」では「音読の練習になった」、「中国語の学習とともに中国の現代事情についても知ることができて良かった」などがあつた。今後も努力していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(読解)2
授業コード	11L09-002
教員名	鈴木 照
教員コード	103293
登録人数	14
回答数	8
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

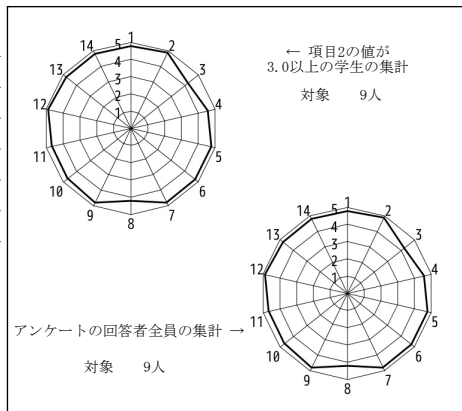
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。また、理解を深めるためにグループでの話し合いも取り入れた。

コース開始時には、初級とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮する様子が見られた。しかし、コース終了時には、学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、読解文等を理解した上で、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すこともできるようになり、目標は概ね達成できたものと思われる。学生自身も日本語が上達したこと、理解が深まったことを実感しているようである。(設問6平均値5.00、設問13同4.88)ただ、自由記述には、教員の提示した質問が全く分からずグループでの話し合いが進まなかった、要約などはサンプルを見せて欲しいといったものや、教員の声が聞こえないときがあり授業内容を聞き逃したといった回答もあり、配慮が必要であったと思われる。

次学期は、今学期の経験を踏まえ、運営方法や配付資料等を工夫しながら、一人一人の理解度等を注視し、学生がより興味を持って学習に取り組めるよう授業を運営していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)2
授業コード 11L11-002
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 15
回答数 9
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

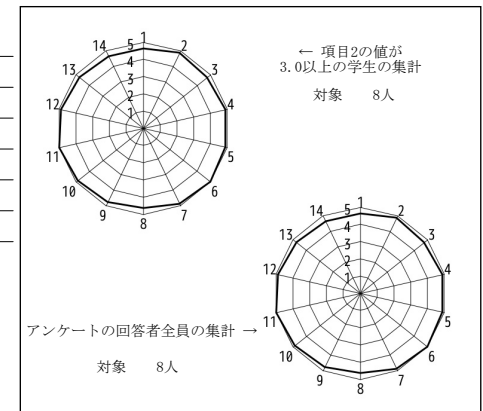


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この科目では、作文・レポートの基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書くこと、研究計画書の作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終的到達目標は、既習表現を使用した研究計画書を書くことだった。授業に出席したほとんどの学生が、作文・レポートの基礎知識を理解し、書きことば表現で文章を書くことができるようになった。また、最終課題である研究計画書の作成においては、課題に対し努力する姿勢は単位取得を志す学生全員に見られ、当初の目標がほぼ達成できた。但し、研究計画書の作成に必要な表現の実質的な運用や内容に関しては、個人差が顕著に表れた。
- ②学生からの授業評価平均値が全て4ポイント台であり、コメントにおいても、日本語の力がついた、レポートの書き方がわかるようになった、学生に合わせた授業でよかったなど、学生にとって理解しやすいものであったことがわかり、授業内容に関しては概ね評価できると考えられる。ブレイクアウト・セッションを多用していたこともあり、学生同士で話し合うピアワークも理解を助けたと思われる。
- ③先学期の反省点として挙げられた個別フィードバックの不十分さに関しては、学生に質問できる環境作りの改善を行い、毎回複数回のブレイクアウト・セッションの実施と巡回回数の増加により、学生に個別に質問しやすい環境を提供した。また、授業後コメントシートの実施により、学生の理解度の確認や個別の質問に対応したため、満足度も得られたと評価できる。反省点としては、自宅のネットワーク状態が時折不安定になり、画面が止まる、ブレイクアウト・セッションの巡回に時間がかかるなど、スムーズではないこともあった。来学期は学内からのハイブリッド型授業を予定しているため、時間的ロスを最小限にし、今学期改善したピアワークの多用、授業後コメントシートを継続し、学生の目標達成度を高めたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術A)2
授業コード 11L14-002
教員名 蒔田 雅子
教員コード 102042
登録人数 13
回答数 8
回答率 61.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

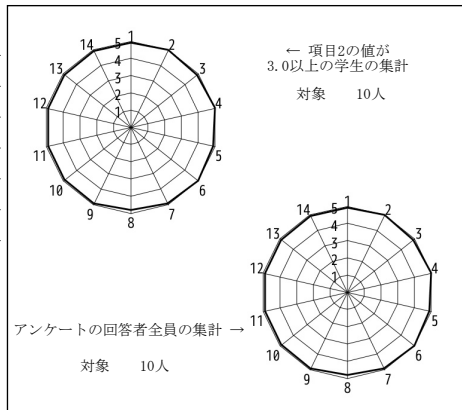
本授業の目標は留学生が内容理解に結びつく聴解ができるようになること、聞きながらメモが取れるようになること、聞き手に分かりやすい発表ができるようになることの3点であった。そのため、聴解では課題発表形式の音声を一度聞いて概要をつかみ、理解したことを発表する練習、発表では背景説明、問題提起、データ提示・説明・解釈、結論の提示、今後の課題など、発表に必要な表現を学びつつ、音声化する練習を行った。また、学生の音声に関する意識を高めてもらうため、発表を各自が録音し、自らの発話を聞き直したり、振り返ったりすることができるようにした。

評価の予習復習など主体的な授業参加（項目2）が4.88であったように、積極的な授業参加が見られ、力がついてきている（項目6で5.00）と、学生の達成感が得られたことがわかる。本授業での重要な部分であるだけに、オンライン授業で音声聞き取りにくかった場合があったことが、申し訳なかった。ただ、発表の表現や音声化には支障がないように、クラス全体で情報を共有していたので、問題はなかった。指導や情報提供（項目11）で5.00であったことは、授業内での情報共有に加え、自由記述に見られたように、提出された発表原稿に丁寧な修正、コメントを入れたことが評価されたのではないかと。

来年度も一部の学生が、オンライン授業になることを想定し、聴解時の不具合が起こらないよう、注意していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)2
授業コード 11L15-002
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 16
回答数 10
回答率 62.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

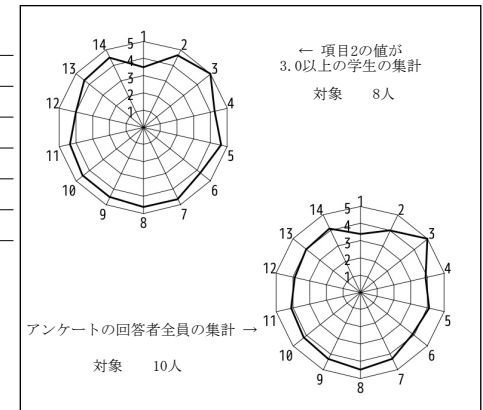


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。オンライン授業においては授業中に作成した短文をその場で直して個別にコメントするという活動がおこないにくく、先学期は学生の文法的正確さの習得が通常授業より進まなかったという実感を得ていたため、今学期は短文レベルの文法・文型クイズを多く行うことで学生の文型・文法の学習を促す工夫をした。これには効果が見られ、これまで通りの文型・表現練習と作文課題と合わせて、受講生の多くが目標とするレベルに到達するのに役立ったと考えられる。
- ② オンラインでは、教室授業より学生の反応がわかりにくく、また時間も限られたため口頭での指導が十分に行えなかったが、その分、課題の添削および配付資料や提示資料の作成を丁寧におこなうことを心がけた。また、メールでの相談も積極的に行うよう呼び掛けた。設問15の自由記述でもその点が評価されている。学生の評価は概ね良く、学習の助けとなる指導ができたと感じている。
- ③ オンライン授業のために行った工夫は、対面授業にも生かせると考えている。よりきめ細かい指導ができるよう、今後も工夫を続けたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]3
授業コード 10A01-020
教員名 大庭 貴宣
教員コード 103877
登録人数 23
回答数 10
回答率 43.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

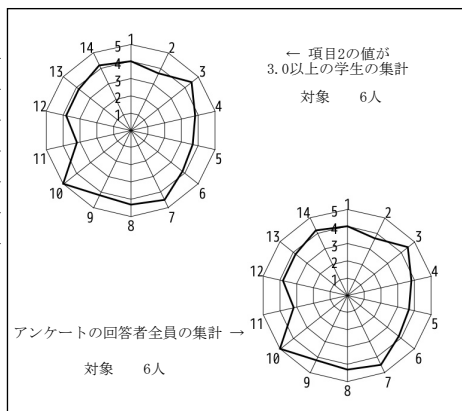


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に予定していた範囲まで教えることができた。対面であれば居眠りや私語をする学生に気を取られる場合もあるが、オンラインでの講義であったため、より講義に集中することができたことで目標に到達しやすかった。
- ② 講義中に送られてきたチャットへの質問に答えることが難しいことがあった。アウトラインを配布したが、ある学生にとっては情報量が少なかったかもしれない。けれどもパワーポイントの内容を全て記載した資料では情報量が多すぎるので、今後はより適度な資料作成に取り組みたい。また教える速度は適切であると感じていたが、数値データからは少し早かったと受け取ることができた。そのため、今後は速度を緩めて話すことを心がけたい。
- ③ 過去数年間のフィードバックからわかるように、宗教論という科目はほとんどの学生にとって興味がない科目である。今後も学生にとって身近な事例などを上げつつ、学生たちにとって必要な学問であることを教えることができるようにする。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳3
授業コード 10D01-003
教員名 長澤 壮平
教員コード 102718
登録人数 15
回答数 6
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

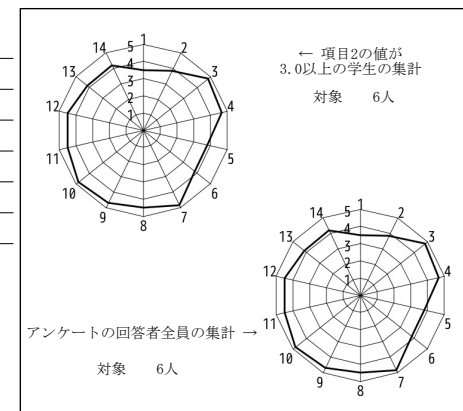


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度としては、回答された数値が平均より低く、十分でなかったように思われる。今後、授業内容をより改善するよう努めたい。設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」について、数値が3.17と振るわなかった。受講生が10名ほどのなかで、強い学習意欲を感じられた学生が2名ほどに限られたため、指導がこれらの学生に集中してしまった感がある。今後はより全体を意識しつつ、指導を強化したい。今後の改善点としては、自由記述にもあったように、映像資料からの分析を深めたり、より学生の自主的な学習を促す努力をし、授業内容の向上に努めたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳5
授業コード 10D01-005
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 16
回答数 6
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回も、遠隔授業であった。第2クォーターのときよりも、やり方に慣れていて、授業をやりやすかった。特に、第2クォーターのときには映像資料を共有することができなくて残念だったけれども、今回は映像資料を共有することができた。

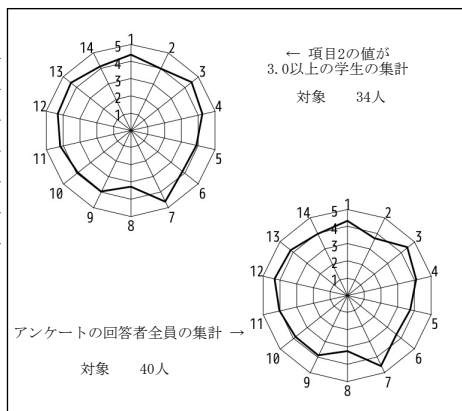
学生は、毎回出席してくる学生と欠席がちな学生とに分かれて、二極化の傾向があった。ただし、授業を行っている最中には、誰が出席していて誰が出席していないのか、出席している人が誰なのかが分からなくて、出席している学生に個別に対応することができなかった。出席する際には、誰であるのかが教師によく分かるように、学生が画面上で名前を明らかにするように教務から全学的に指導してもらいたい。

授業評価を見る限り、授業は割に好評だったようである。

自由記述の欄には、「先生が話すスピードが速かったり、声がこもったりして時々とても聞き取りにくい。話の途中で長い時間考えたりしてたまに何を言いたいかわからないときがある」という意見があった。話すのが早かったり声がこもっていたりしたのは、次回から注意する。何が言いたいのか分からないというのは問題なので、授業の途中でときどき学生に聞いて確認しながら授業を進めるようにする。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会学A2
授業コード	12C06-002
教員名	松戸 武彦
教員コード	100357
登録人数	127
回答数	40
回答率	31.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は概ね達成できたと考えられる。全ての授業で対面授業を行ったが、リモートでの参加が可である点からして実際の対面授業に参加する学生は少数であった。しかし、コロナウィルス拡大の状況からして、このことは仕方ないものと考えている。リモートで参加した学生もこちらからの問いかけには多くの学生が積極的に反応してくれて、それなりの学習効果は上がったと考えられる。授業内容についても授業のあWebclassなどのメールを通じて多くの学生が取り上げたテーマに関心を持ってくれたようでこのことも大変良かったと考えている。ZOOM内のチャットでの双方向のやり取りはもちろんできたが、Webclassでの質問や意見はそれなりに考えられたものも多く、こちらとしても参考になった。ほぼ毎回こうして集められた前回の感想や意見についてコメントを付けた方が良くと判断したものについては授業の冒頭でコメントした。また、それについても反応があったので双方向のやりとりできたところがあり、これも成果の一つだと考えられる。授業の構成上の参考にしていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地球科学A2
授業コード	12D06-002
教員名	三野 義尚
教員コード	102236
登録人数	22
回答数	4
回答率	18.2%
休講回数	4 回
補講回数	3 回

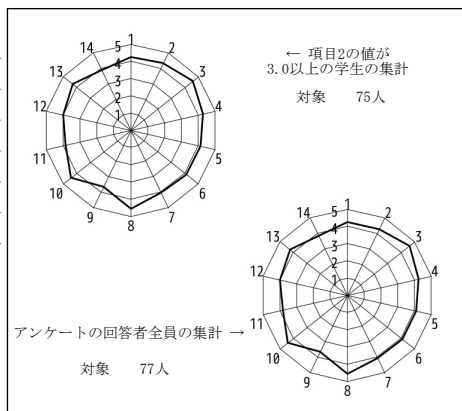
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用した。また授業で得た知識をアウトプットする機会としてWebClassを活用した小テスト（ミニレポート）を各章の終了後に実施した。Q4期間中に学外業務（＝観測航海出張）があったため、4回休講して3回補講を行った。一応、全ての章を説明したが、少し授業が早足だった点は反省している。今回は授業中にこの評価についてアナウンスが出来なかったために回答数が極めて少なく（回答結果が集計されなかった）、スコアでは評価が出来なかった。ただし自由記述回答を見ると、ビデオ教材と講義スライドのリンクは評価されているようなので（設問15）、今後もうまく活用していく予定である。設問16の改善点は特になかった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 健康科学論2
授業コード 12D09-002
教員名 土屋 真人
教員コード 104221
登録人数 130
回答数 77
回答率 59.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

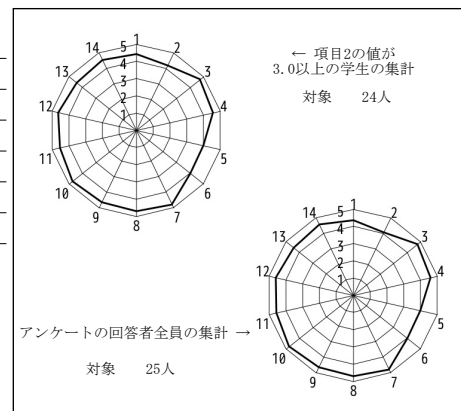


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①「超少子高齢化社会」の現代社会において、人々が元気で活動的な生活を送る中で人生を全うすることが今後、益々重要な社会テーマとなる。そのための教養を自身のこととして身につけることがこの授業の目標であった。関連設問回答、自由記述からこの目標を達成できた学生もいたが、全体としてはこの目標を意識しながら授業に取り組んだ学生は少ないと感じた。若い年代の学生には、健康問題はピンとこないところもあると思うが重要なことなので、健康問題の現状、科学的な指針なども示しながら今後もより目標を意識できるよう工夫していく。②ズームを使った環境の中で授業目標を達成するため、伝え方もいろいろと工夫し、課題なども学生の負担が大きくなりすぎないように配慮し、授業展開した。履修者中、A+評価を得た学生の最終レポートをみると、わかりやすさ、理解度を増すための各授業のミニレポートの役割など反映されていると感じ、その点は成果として評価できると感じる。ただ、ズームを使った環境下での学生とのコミュニケーションがスムーズにできず、不安を感じさせてしまったこと、授業中の情報伝達が不明確な場合があり改善が必要であったこと、など反省すべき点があった。③資料DLサーバーとwebclassの有効な使い分け、伝達事項、資料の提示方法の工夫、ズームを使った環境下であればズーム自体の有効機能活用など取り組んで、より充実した授業展開をする。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B1
授業コード 12E04-001
教員名 齋藤 菜月
教員コード 104282
登録人数 84
回答数 25
回答率 29.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

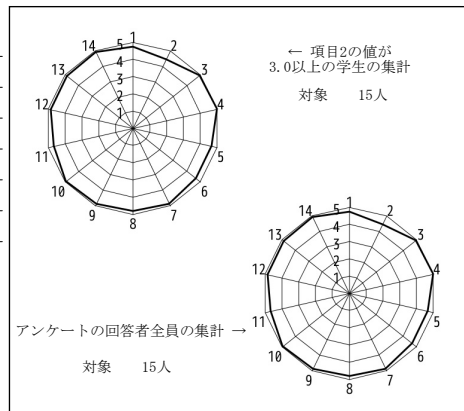


授業評価結果を踏まえた点検・評価

おおむねシラバスの予定通り授業をすすめることができた。当初に設定した達成目標は達成することができた。学生評価の自由記述で多く見られたのは、学生からの質問や興味に合わせてそれに返答する形で発展的な内容を追加したことへの評価であった。双方向的なやり取りを多くとりいれることで、オンラインという環境であっても学生の積極性を保つことができたようであった。基礎的な内容と発展的な内容、古典研究の歴史と最新の研究などを織り交ぜてバランス良く授業が進められていたとの意見もあった。一方で、学生評価で予習復習をしていたかという設問の得点がやや低かった。時期以降は、授業の中で読んでおく面白い書籍や文献の紹介をするなど、自主学習を促すような工夫をしていきたいと思う。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較2
授業コード 13A01-002
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 36
回答数 15
回答率 41.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

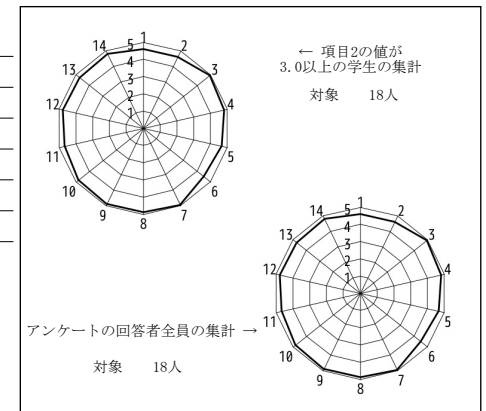
「ケルトの文化圏およびアイルランドの歴史と文化について知識を得ることでアイルランドに対する興味を引き出す」という授業目標は、達成できたと思われる。自由記述欄には「映画を授業中にみるため、面白く学ぶことが出来た」などのコメントがあった。

オンライン授業でも映画・ドキュメンタリ映像・音楽などオーディオ・ビジュアル教材を視聴することには好意的な感想が寄せられた。さらに使用したスライドについても「図版や写真が多く用いられていて、とてもわかりやすかった」などのコメントがあった。また録画した授業を公開した点については「見れなかった生徒のために録画を公開してくれるところも良かったと思う」との意見があった。

「改善すべき点」について今学期は特にコメントは無かったが、前回指摘されていた進度の速さについて気を配ったところ「2コマ連続だったが集中力を切らさない内容だった」とのコメントがあったので適切だったように思われる。また受講生側リモートの操作に慣れてきたように感じた。オーディオ機器については、前回「講師の声が小さく、聞き取りづらい時があった」というコメントがあったためマイクを買い替えたところ、今回は特にコメントは無かった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって2
授業コード 13A04-002
教員名 梶田 美香
教員コード 103589
登録人数 54
回答数 18
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

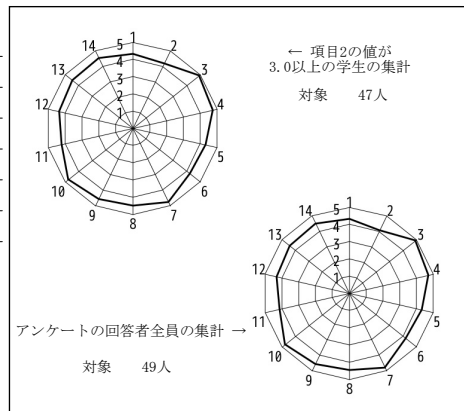


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初の想定目標について、ほぼ達成できたと思っている。
1. 授業ごとのテーマに関連した楽曲を聴くように設定したため、考察が深くなった
 2. 教育、福祉、医療、まちづくりと社会を形成する重要な分野と音楽との関わりを提示し、それに対する理解は一定程度、できていた
 3. 上記の1と2に関連して、社会と音楽の関係性についての分析ができていたことが、フィードバックシートから読み取れた。
 4. 学生に事業企画をする演習課題を提示し、授業で得た知識に基づいた創造的学習ができていたことが読み取れた。
- ②①のように教員から判断できていたが、学生からの授業評価も5点中平均4.7強と高ポイントだったので、良かったと思う。
- ③しかしながら、オンライン授業におけるテクニカルが不十分であったため、授業進行が滞ることもあった。さらに技術を習得し、学生により良い授業を提供できるよう努力したい。
- また、内容によっては長時間かけすぎる時もあり、次クウォーターでは、時間配分に気をつけたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって4
授業コード 13A04-004
教員名 小沢 優子
教員コード 101168
登録人数 132
回答数 49
回答率 37.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

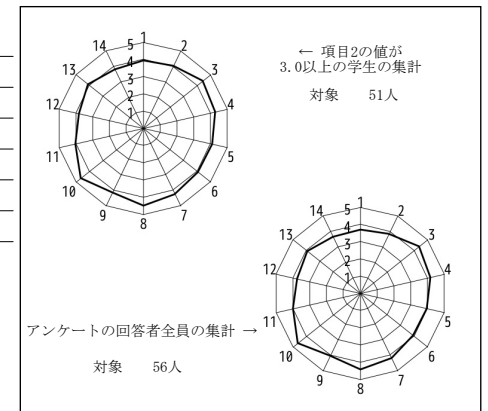


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1～14の平均が4.46、設問3～14の平均が4.51、また設問13が4.43、設問14が4.49、という数字から授業はおおむね評価されていたのではないかと思います。オンライン授業ではあるが、今回は西洋音楽史の歴史を音とともに理解してもらうために、パソコンを通してCDで曲を聴いてもらった。授業のよかった点として、「Zoomで音楽を流して聴かせてくれたこと」「実際に曲を流してくれたこと」が挙げられており少し安心したが、一方で、「音質が悪く鑑賞しづらかった」という指摘もあり、難しさを感じた。また、レジメをパソコンの画面に掲げながらの授業なので単調になりがちなのではないかと危惧していたが、「多くの資料を用いてとてもわかりやすかった」「ただ資料を読むだけでなく工夫がなされていた」「解説が丁寧でわかりやすかった」とのことで、伝えたいことは伝わり、授業内容に対する理解は得られたのではないかと思います。だが、「ずっと話を聞いているだけだと疲れる」という正直な感想もあり、ここでもZoomの授業の大変さを実感した。このほか、設問2、6、11の数値が今までと同じように低く、引き続き学生の主体的な学習や、到達目標に対する明確な意識の促しを今後の課題としたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論
授業コード 15M08-001
教員名 市橋 芳則
教員コード 100763
登録人数 139
回答数 56
回答率 40.3%
休講回数 3 回
補講回数 0 回

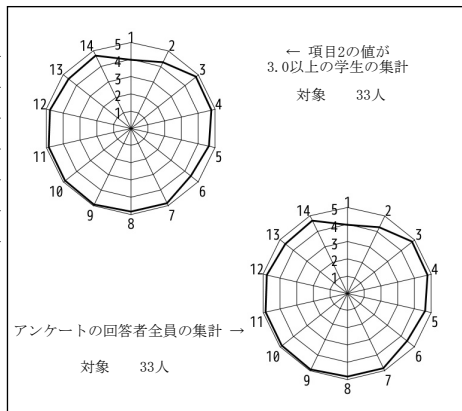


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスを変更、調整しながらの講義進行となったが、講義の目標については提供することができた。オンラインによる講義は、開講初期段階でトラブルが発生し、講義の円滑な進行を妨げる結果となった。また、対面授業で提供していた映像ソフトの提供が困難となり、代替えの動画などの提供を行なったが、今後の課題としたい。学生に提示する資料については、講義内で使用する資料と講義資料として掲載する資料が同一のためわかりやすいという指摘と、まとめたものが欲しいという要望が共存しており、これも課題とする。休校については当方の都合によるものであるが、アナウンスの方法については改善していくこととする。来年度の講義についても、オンラインによる提供となっており、今期課題としてあげた技術的な事案、講義の質を保つための事案について改善策を講じて講義を実施していくこととしたい。また、本講義については、オンラインによる提供に関してメリットも多く見受けられた。いずれにしても、オンラインを活用した講義のあり方について、技術面、講義の質の向上を図っていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	視聴覚メディア論
授業コード	15M09-001
教員名	宮下 十有
教員コード	103580
登録人数	99
回答数	33
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は「博物館・美術館における情報・メディアの意義と活用方法とその課題を理解した上で、情報提供方法、メディア活用方法についての提案ができるようになる」ことを到達目標とし、学生も、到達目標についての理解(4.64)した上で、その力がついてきていると4.45の評価であり、自らの学びを認識できている。

図らずもコロナ禍でのオンライン授業のため、授業内容の「教育におけるメディアの使い方」にリアリティーをもって考えることができたようだ。自由記述でも「メディアというものを、メディアを通じて指導してくれたので、とてもよかったです」とあった。

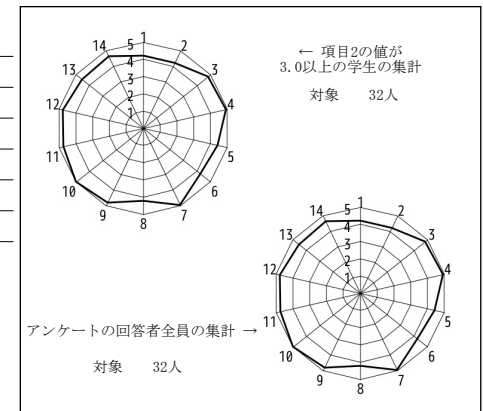
教員の姿勢、課題や資料提示はいずれも4.85-4.91であり、「たくさんの記事や動画、特に海外のサイトやTED Talksなどの媒体を紹介」「資料として多くの動画やウェブサイトが提示」「講義のイメージがしやすかった」などのコメントもあった。教材的な工夫が効果的に表れた結果であったと考える。

Zoomの配信環境で、飛行機の音など、通常の対面授業では、話さないようにするフェーズもマイク環境によって大丈夫であることなど、受講側の環境確認がうまくできていないことが今回指摘されたので、それら、さらに改善を進めていきたい。

コロナ禍における博物館、美術館は大きな変化の時期を迎えている。こうした現状にできるだけ即した授業を今後も展開していきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	生涯学習論
授業コード	15P08-001
教員名	河野 明日香
教員コード	102729
登録人数	59
回答数	32
回答率	54.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね目標を達成できたと考えている。受講生の授業アンケート結果や自由記述についても、説明がわかりやすいといったコメントや、授業資料、参考文献についてのコメントもあり、これらの点は今後も継続していきたいと思っている。一方で、改善すべき点として、オンライン授業のインターネット環境についての意見が多かった。この授業では、複数回にわたり授業途中でZoomが途切れてしまうトラブルが続き、授業担当者自身も改善すべきと考えている。本授業以外のオンライン授業やオンラインミーティングでは途切れるということは起きていないため、授業システムとこちらのインターネット環境及びPCの状態などとの整合性のチェックも必要かもしれない。いずれにしても、今後再びオンライン授業となった際を考え、オンライン授業の環境を改善したいと思う。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義(大陸哲学)
授業コード	22C67-001
教員名	星 揚一郎
教員コード	100986
登録人数	13
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

「大陸哲学」では、シラバスにありますように、クリッチリー著『ヨーロッパ大陸の哲学』を導きの糸として基礎を確認しつつ、その応用を挟むことで、結果的に、大陸哲学のエッセンスをふまえて、授業に参加した受講生全員が自ら哲学すること（レポート作成）ができました。

授業には、ドイツに留学経験のある方から、哲学がはじめての方まで参加してください、予備知識に差があるうえ、ZOOMによる遠隔授業で、難しさがありました。そこで、よくできる方にはハイデガーの難解な思想を解説してもらいなどして、みんなで螺旋状に少しずつ理解していくことにしました。実は、これが、大陸哲学の方途でもあるわけで、その良い実践になりました。

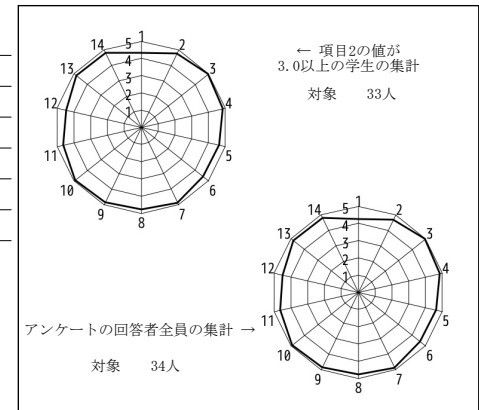
質問や意見は、授業中のチャットやWebClassのメール機能で対応しましたが、次回は、より活発な意見交換ができるように、技術的な工夫をいたします。

レポート執筆のルールをはじめに資料で提示しましたが、4年生でも定着していない方がいます。一年次から全学的な取り組みが必要かもしれません。

自己省察の機会をありがとうございます。今後とも、よろしくお願いいたします。

2020年度Q 4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ研究の基礎 (政治)
授業コード	34A09-001
教員名	山口 宏
教員コード	101552
登録人数	83
回答数	34
回答率	41.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

オンラインのためか回答数が履修者数の半分弱となり、ひょっとしたら回答をしているのが意欲の高い学生に偏ったかもしれないが、満足度（設問14）をはじめ、全体的に高い数値となっていて、よかった。知識・理解の高まり（設問13）も多く感じてもらったので、授業目標もおおよそは達成できたかと思う。また細かな映像を多く組み込んだり、2時間続きのオンラインでも退屈しないように工夫したつもりで、教材等の適切さ（設問9）も比較的高い値となり、自由記述でも「分かりやすかった」「面白かった」といった声が多く、安心している。

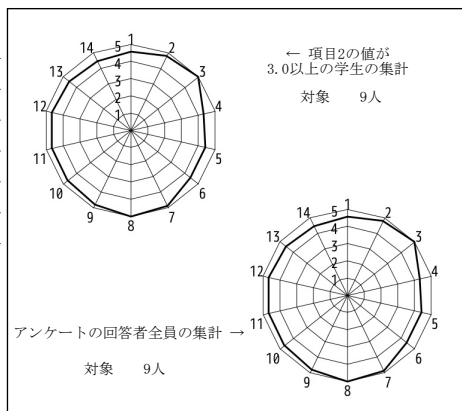
オンライン上での質疑応答などはあまりなかったが、毎回書いてもらうリアクションペーパーに対してはできるだけコメントもつけるようにして、自由記述を見ても、それがモチベーションにもなったという声が散見され、相互方向性もある程度は作ることができたかと思う。

ただ、自由記述での授業の改善点は「特になし」が並んでいるのだが、自分としては、毎回のリアクションペーパー提出も、学生にとってかなりハードな課題となってしまったのではないかと、懸念している。

次年度は対面でできることを望むが、もし仮にオンラインとなったとしても、ある程度興味を惹く授業はできることは体感できたので、さらに資料と方法に磨きをかけていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国語科指導法D
授業コード	15B56-001
教員名	上野 裕章
教員コード	103859
登録人数	15
回答数	9
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①中学校で指導する主な教材を取り上げ、何をどのように指導するか考えさせた。また、どのような指導法や指導事例があるかを紹介した。学生はとても真面目であった。皆、真剣に取り組み、指名されたとき発言もよくした。やり残した教材はあったが、教材研究の方法や発問等、授業の在り方について概ね理解していただけたと考える。
- ②評価は平均4.66であった。項目の中で評価が低いものは「毎回の授業の構成や進行速度」の4.33であった。対面授業なら、発言回数を増やしたり、グループでの話し合いや発表を行ったりするところを、オンラインで教員の説明中心の授業になったため時間調整がうまくいかないことがあった。また画面を通して行っているため、行っていることの意図が十分に伝わらないことがあった。お詫びしたい。
- ③国語科指導法については、将来、教員として自信をもって授業ができるようになるために、次年度はオンラインではなくて対面授業を実施したい。参加学生全員が模擬授業を行い、説明や発問、板書などよりよい授業を行うために工夫改善行うことが必要である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商業科指導法B
授業コード	15B74-001
教員名	服部 文彦
教員コード	103205
登録人数	6
回答数	2
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

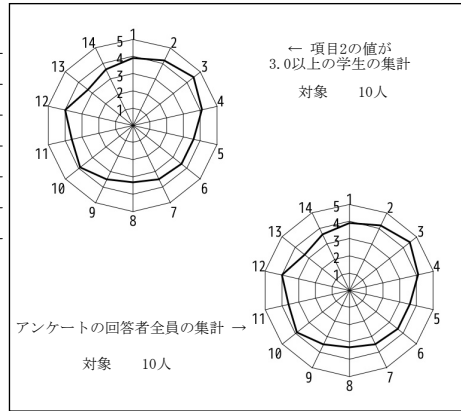
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
今年度は、コロナ対策によりzoomの授業展開をしていく中で、受講者が教員としてのスキルをいかに身に着けさせることに重点を置いて指導を展開し、前期の商業科指導法Aの授業を参考にしたことにより概ね目標に達成した。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
学生の板書き指導や声の音量やスピードに関して、zoomでの厳しい環境の中で創意工夫して目標を達成して学生一人一人の個別指導を達成した。次年度の教育実習に活用できるスキルを指導できた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
zoomによる指導法に関しては、まだまだ工夫する点があります。次年度は対面授業のためzoomでのICTを活用した指導もできるように指導するべきであり、今回のコロナ対策によるzoom授業の創意工夫した点も授業に取り入れて今後の対面授業にいかしていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P]
]2
授業コード 11A04-021
教員名 岩城 奈巳
教員コード 049601
登録人数 20
回答数 10
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

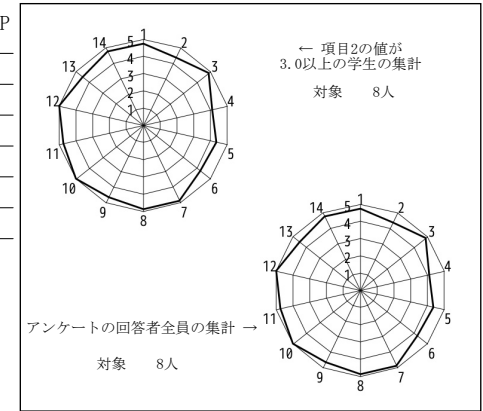


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義での目標は（シラバスに記載）概ね達成できたと思う。授業は「全員参加」であることをクォーター開始から常に意識し、オンライン講義ではあったが、学生がオンライン授業に慣れたこともありQ4は課題提出率もあがり、安心して進めていく事が出来た。顔を見て伝えることができなが、質問も寄せられるようになり、学生が懸命に課題に取り組む姿は感じることができた。毎回課題を授業日の火曜日・金曜日に出し、次の授業までに提出というルーティンを早々に根付かせたのも良かったと感じる。発音の聞き取り、リーディング、間違い探し、文章作成など多義に渡る課題に学生も柔軟に対応していた。また、ボーナスポイントとしてウェブ上のリーディング教材、洋楽のリスニング教材を取り入れ、時間がある学生はこちらも真剣に取り組んでいた。学生の反応はどのようなものか心配であったが、「質問する機会が設けられていた」、「課題の難易度が適切であった」、「授業進度がちょうどよく、勉強しやすかった」など前向きなコメントが多く安堵した。一方、「質問するタイミングがなかった」「プレゼンテーションの改善点を知りたかった」など、対面ではないために生じる問題点の指摘もあった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P]
]3
授業コード 11A04-022
教員名 HERSCHLER, Brian
教員コード 100552
登録人数 19
回答数 8
回答率 42.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

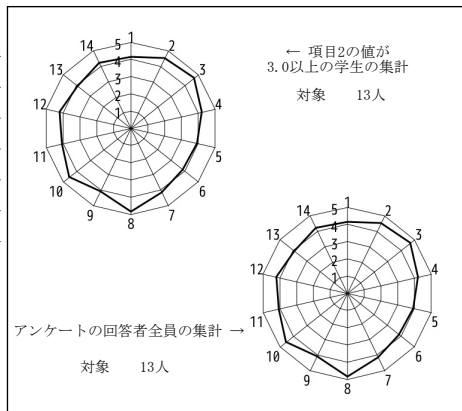


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Student opinion indicates the class was a success. All students surveyed had only positive remarks to make. One comment that stood out for me addressed the frequent conversation tests I gave. This student stated that these tests helped him or her become better at conducting short conversations. Other students noted their appreciation of the frequent changes to speak with other students in the class. Overall, according to students, the class met their needs. I concur that the class was a success.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオールラルコミュニケーション[P]]4
授業コード	11A04-023
教員名	VEGEL, Anton
教員コード	103503
登録人数	20
回答数	13
回答率	65.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

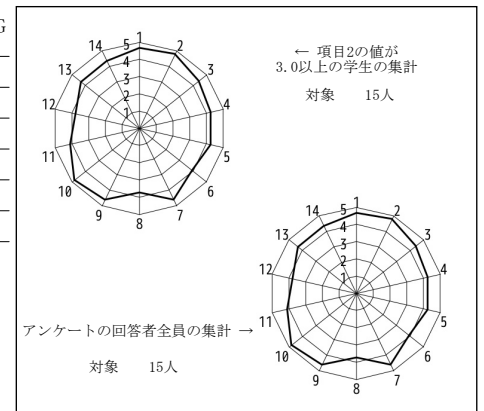


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals I set for Q4 were mostly a continuation of Q3 while offering more feedback and support. I had started Google Drive for group submissions in Q3, and I wanted to test it more. Unfortunately, this class' lecture aspect was not taught face-to-face or synchronous via Zoom. It was an on-demand class with lots of student interaction in groups via Zoom.
2. Based on the answered questions, the class seemed a bit divisive. One student was happy about the active feedback on role play assignments and the chance to view lectures many times. Two others expressed a want for synchronous teaching. The question radar chart also showed interesting results. The 4-5 range expressed satisfaction and support, while the 3-4 range expressed (as is usual for this course) an uncertainty of gained skills and knowledge.
3. I wish the feedback could have been more definitive as 2020 was a year I planned to make a few changes to address these 3-4 range issues. Unfortunately, actively changing medium of instruction takes a lot of energy just to get a class up and running. Specifically, offering more peer-to-peer and past/present role play comparisons could solve these issues while somewhat difficult online.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVオールラルコミュニケーション[G]]7
授業コード	11A04-038
教員名	高野 洋子
教員コード	104147
登録人数	21
回答数	15
回答率	71.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

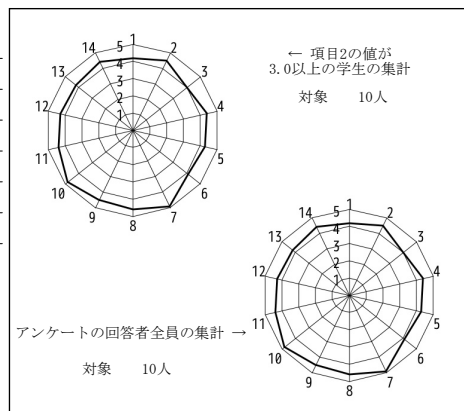


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 当初目標としていた設定は自分の意見を英語でよどみなく言えるように指導することでしたが、結果は」200%以上の上達度をみせました 具体的には ZOOMで指導していた結果、全員が集中して意見を言う、ペアワーク（ZOOMのBREAKOUTSESSIONの部屋）で日本語から英語に変換して意見を表現することを積極的に話し合うことを繰り返し行うことに慣れました ペア討論も試合方法を指導して、質問、応答 疑問点を問いかける ことを全員が積極的におこないました 特に試験前、授業前に個人メールで問い合わせしてくる生徒が多く、前向きにCLASSIにでていました。生徒の評価を踏まえて振り返ると 対面授業の時と比較してパソコンを通じての指導でも質問をしやすい雰囲気作りを努力したことが表れているのかと反芻しています。 特にオンライン CLASSだから 授業内容が色あせていた、指導者との距離があり、学習意欲がわからない、という学生の意見を最初から想定していたので、日本人が英語を第二言語として使用する際の重要点、陥りやすいミスなどを丁寧に説明しました その結果学生が信頼をしてくれるようになり、授業に真摯に向き合ってくれる結果となりました 次も指導内容はこれを基本に展開する予定ですが、対面授業となるため、精神的な不安を取り除いて 英語発信する能力の向上を念頭におき 指導する予定です

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]4
 授業コード 11A08-011
 教員名 HAYES, Mary
 教員コード 103625
 登録人数 20
 回答数 10
 回答率 50.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

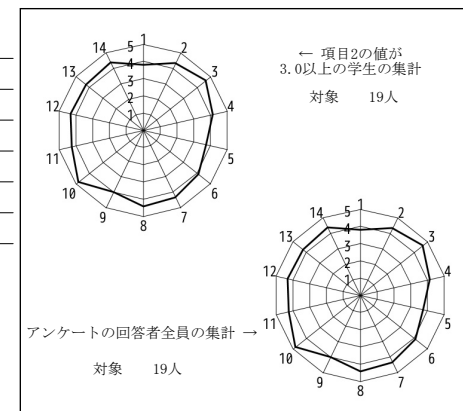


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- The goals set were to increase learners' reading and writing skills in English. Reading levels improved dramatically and students made progress in grasping main ideas of texts, while increasing vocabulary and using strategies to study vocabulary in a foreign language. Analytical skills improved through textbook study. In addition, by using online materials such as M Reader and Read Theory, students chose texts and books to read and completed quizzes and book reports. Academic writing skills also improved greatly and all members succeeded in composing well-organized academic essays, in addition to increasing their writing confidence by expressing their own ideas in regular written journals on Web-class.
- Based on the numerical data, (only 10 of 20 responded) I feel somewhat satisfied that my own efforts to motivate students and guide them to improve their skills in this class were not wasted.
- In future, if faced with such a mixed level class, I would give students more opportunities to complete assignments in groups divided according to level. This would mean easier tasks for the lower levels and would allow them to communicate more by email and text with each other.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]6
 授業コード 11A08-025
 教員名 JONES William M.
 教員コード 100263
 登録人数 20
 回答数 19
 回答率 95.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

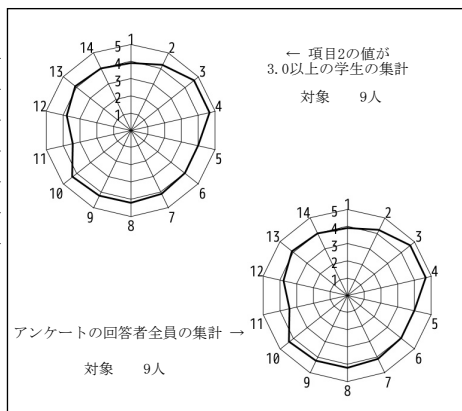


授業評価結果を踏まえた点検・評価

An A/B comparison (A=current evaluation/B=previous dozens of evaluations over a decade) shows this term is lower than average. This is understandable, although slightly disappointing. Teaching a reading/writing class online is indeed challenging. This is made even more challenging when classes are not streamed and the abilities, levels and interests of students vary considerably. Instructor is used to walking around the classroom and interacting with students while they're reading and writing and offering suggestions. This is impossible online. Instructor is working on/designing additional reading materials with audio should we be online in 2021 based upon feedback throughout Q 3 and Q4. Specifically, Instructor is upgrading his studio so that multiple cameras and camera angles can be used to facilitate both reading and writing strategies and procedures. The screen share function that is on ZOOM is less than ideal for privacy reasons and holding up materials in front of the camera has proven less than ideal for a variety of reasons. By using multiple cameras, Instructor will be able to enable PIP (picture in picture) and zoom in on prints so that students can see exactly the points being taught. Instructor is indeed very grateful to the students who were more than forgiving for any shortcomings Instructor demonstrated while using ZOOM.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]7
 授業コード 11A08-026
 教員名 BONDOC, Jeffrey
 教員コード 103469
 登録人数 20
 回答数 9
 回答率 45.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

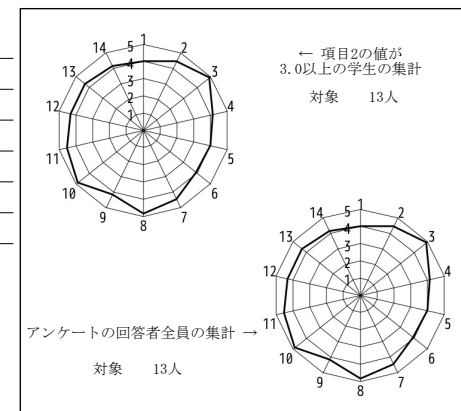


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The classes went fairly well. I did face to face classes three times in Quarter 4. Those classes went well. I was able to communicate more effectively with the students. And the students did the work accurately. The online classes were fair. My goal was to try give an engaging, challenging, but fair assessments each week. The students for the most part attempted all the activities that were posted on Webclass. Students were able to follow the instructions and sent emails to me if they needed help or found an error in the work I uploaded on Webclass. Providing feedback was the most challenging aspect of online classes. Especially writing. It was difficult to show how students can fix their grammatical errors online.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]11
 授業コード 11A08-030
 教員名 橋爪 真理
 教員コード 104272
 登録人数 19
 回答数 13
 回答率 68.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

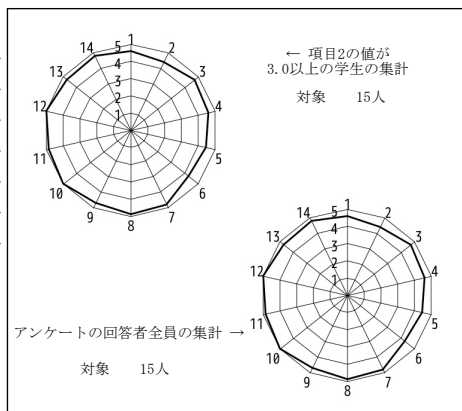


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに沿って授業を展開していき、英語で学術的な文章を書く技術、英文を読む技術をいつどのように学ぶのか生徒とともに丁寧に確認し、最後の授業では再度目標に向けてどれだけ努力し、実力が付いたか確認していたので、生徒にとっては何ができるようになり、どの項目を補充しなければいけないか自分なりに明確に理解できたようで、想定した目標には90%の学生が到達できている。一年間オンライン授業であったため、授業での生徒の集中力を持続させるため、資料を毎回パワーポイントで準備したが、生徒たちがわかりやすいように時間をかけて工夫して作成したことによって、生徒たちの理解も深まったという感想があった。また、生徒の反応に応じて次回の授業で復習を増やしたり、重要項目を確認したりしたこと、生徒たちの書いた課題の文章を教材に使うことが、生徒の高評価であった。また、Q2までの反省に基づき、できるだけ個別に指導する時間を確保するよう努めた。プレースメントテストが実施できなかったため、学生の能力が非常に異なっていたため、能力の中間層を想定して授業を展開したが、低い層の生徒には課題等をこなすのが難しく、その都度締切日を変更したりすることにより対応したが、能力差のある生徒群を等しく伸ばしていくのはさらなる工夫が必要である。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]7
授業コード 11A08-038
教員名 木下 薫
教員コード 104328
登録人数 21
回答数 15
回答率 71.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

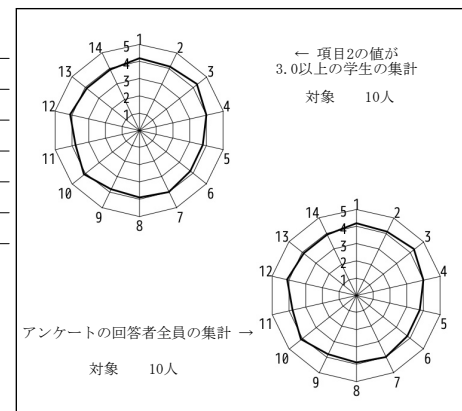
Students successfully completed their two essays, argumentative and personal narrative. They improved their skills in paragraph writing and appropriate word choices. As part of the intensive reading assignment, students created vocabulary quizzes for classmates to solve based on news articles. Beyond the online classroom, they read extensively, accessing the university's library. They drew a mindmap that summarized the book they read and shared it with classmates.

Several students commented positively about my accessibility and feedback sessions that I had offered outside the class. I will continue to provide writing support to students by allocating parts of the class time for that purpose as well. Some students rated relatively low on their understanding of the course goal. To address this issue, I will inform students of the lesson's objective and stay focused on it throughout the class.

Lastly, my classes had not been possible without my student's willing participation. Next year, I will continue to engage students by utilizing various tools and delegating roles to nurture a sense of ownership of their own learning.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]13
授業コード 11A08-042
教員名 島 禎子
教員コード 045559
登録人数 17
回答数 10
回答率 58.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

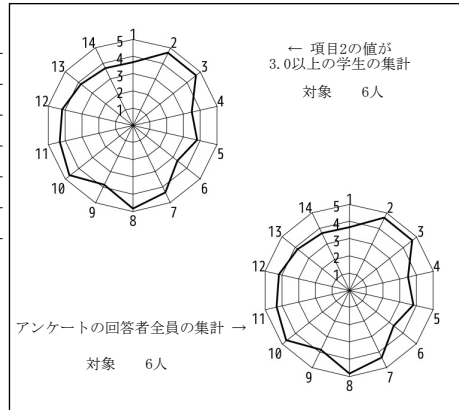


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年はクラスもmixed class、授業形態もオンライン中心の授業であり、学生だけでなく教員にとっても初めてのことばかりの一年だった。授業評価からもオンラインの利点と欠点が見て取れたように思う。設問9/11で、いいえと答えた学生が1人いた。オンラインでは、どうしても学生の理解度に配慮することが難しい。特に、学力がどちらかといえば低い学生にとって、今回の教材は難しかったと推察する。設問11では、5/4と答えた学生が70%いたのに対して、3と答えた学生は1人もなく、2/1と回答した学生が30%だった。学力が一定以上で、普段から自主的に学ぶ習慣がある者にとっては、課題中心のオンラインは、それも特にLiteracy関連の授業では、効率的に学ぶ強力な手段であるが、学習習慣のない学生にとっては、唯々苦痛であったのかもしれない。いずれにしてもこれからは、対面とオンラインを併用して個々の学生の必要性によりきめ細かく応えることが求められる時代になっていくに違いない。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]12
授業コード	11A12-004
教員名	鈴木 愛
教員コード	103596
登録人数	22
回答数	6
回答率	27.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

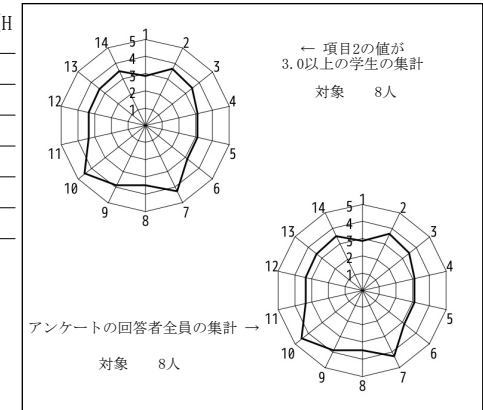
The goal set at the beginning of 2020 was to have students be able to listen and understand English conversations and narrations which was fairly accomplished through Webclass. Reading goals were to read and understand different types of readings which was also accomplished. Speaking goals were to be able to have plenty of conversation and be fluent in English presentations, however, I was not able to meet the goal of having students practice conversations.

My overall self-assessment after the questionnaire was that I was able to meet most of the student goals. Online classes were not the best way, but under this circumstance, I was able to do my best. Most of the students seemed to be satisfied with the online class.

For 2021, I would like to implement more conversation practice which I was not able to do much this year. I guess there are several ways I can do this even if it is online. I'd like to put them into groups and have them talk for a couple of minutes at the beginning of every class. This will probably help them practice English more and be able to make friends even online.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]14
授業コード	11A12-006
教員名	NIXON, Richard Mark
教員コード	103559
登録人数	21
回答数	8
回答率	38.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



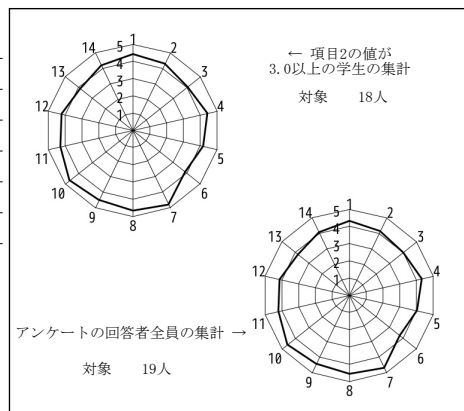
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students seemed to be only moderately interested in the course topic prior to taking the course as evidenced by their response to the first course question but even so they gave a very good and consistent effort throughout and especially in the Q4 when they were feeling fatigued they still tried their best. I tried to deal as quickly as possible with questions they had and any misunderstandings there were. It is difficult, particularly in an online class, to teach English communication strategies effectively but the activities were well done by the students. In this sense I feel I achieved one of the main goals of the course and that was to improve students' communication abilities.

In terms of reading, the students were quite diligent at completing the minimum reading goals set out by MReader and many of the students went beyond what was necessary to reach a high grade in reading. The reading activities offered through Webclass were also well done. I believe I achieved the goal of expanding student interest in reading English books. Looking ahead for the 2021 academic year I hope to incorporate some of the Webclass materials I used last academic year into the classroom.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[F A, FF, FS, FG]9
授業コード	11A12-024
教員名	DRYDEN, Laurence
教員コード	101482
登録人数	21
回答数	19
回答率	90.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

As the anketo data suggest, the students felt they had made progress and showed increased motivation. In their final reports several students expressed their intention to continue learning English.

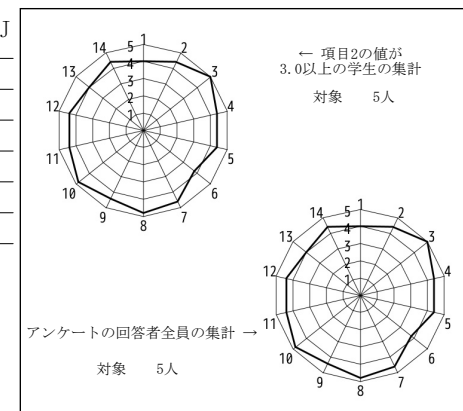
Such responses may be due, in part, to the instructor's efforts in Q3 and Q4, and earlier in the year as well, to provide many opportunities for students to speak with a variety of partners through Zoom used for every class meeting. It provided the special function to create fresh mixes of students in pairs and groups, quickly and efficiently.

Moreover, in the written comments on the anketo, students said they enjoyed the readings and films that highlighted the cultural and religious holidays which occurred during Q3 and Q4. In this and other ways, students showed interest in learning about cultural issues as part of their studies in English.

Students also expressed their approval of the teacher's classroom management, including the requirement of working in English as much as possible. Moreover, students wrote that they appreciated the teacher's learning materials which were sent by email or by Google Classroom as PDFs and Word documents for students to use in class activities.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[J]1
授業コード	11A12-037
教員名	LENIHAN John
教員コード	045070
登録人数	21
回答数	5
回答率	23.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

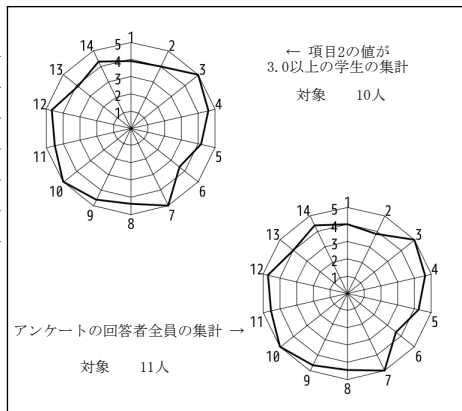
The class in question here has been challenged by the new world created by the lingering coronavirus but I am sure that we are all doing our part to give our students the best educational experience that we can. Though we are basically doing all activities online and it was not really possible to include all the activities that we normally would in this first-year required English class, the objectives remained the same — to improve listening and speaking skills, to further develop basic vocabulary and easy, every day idioms, to enjoy reading a large quantity of material in English at an accessible level and improve reading speed and comprehension.

Another problem caused by the virus that was not addressed before the start of the school year was assigning the proper level to each student. This resulted in this class having a wide variety of student levels and not the top class level that we have had in years past. Thus, I would fully expect that some students think the course load is too easy while others will swear that it is too demanding. I asked the students and received all levels of responses.

We did our best as I am sure everyone has this past year. We all look forward to return to normal classes,

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[J]
]11
授業コード 11A12-039
教員名 大竹 万里
教員コード 047084
登録人数 20
回答数 11
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



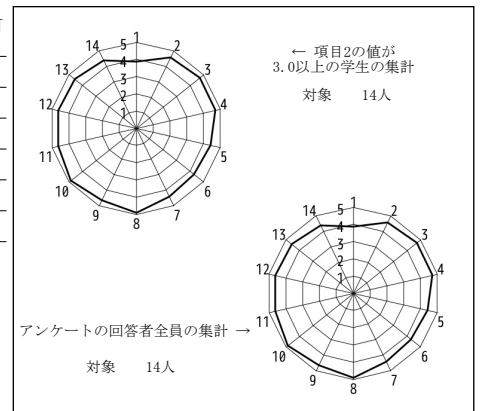
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標は、①会話やインタビューの内容把握、②プレゼンテーションのスキルを学習した上で2～3分の長さのプレゼンテーションをする、③リーディングストラテジーを学習し様々な種類の読み物の内容を理解し読後自分の意見を表現する、④MReaderを利用して多読学習を進め期限までに28,000単語を読む、⑤Vocabulary.comを利用して単語やフレーズを学習し、語彙力向上を目指すことの5点であった。Zoomを利用した授業やDLサーバやWebClassの教材を課題とした自主学習日を通して設定した目標は④を除いて概ね達成できたと考える。多読学習の目標語数を最終的に達成できなかった学生が数名いたためである。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.52、学生の授業に対する全体的な満足度については4.36であった。授業の良かった点、評価できる点として、「先生が常に生徒に寄り添ってくれていた」、「授業内容や課題の取り組み方などを丁寧に説明して頂いた点」、「いろんな教材を用意してくれている」、「先生がとても真剣であり、工夫された授業が展開されたい点」であった。改善点の指摘はなかったが、来年度も到達目標に向けて力がついてきていると学生が実感できるように一人一人の学生の学習状況に気を配り、学生の積極的な課題の取り組みを促す授業を心がけていきたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションズスキルズ[J]
]12
授業コード 11A12-040
教員名 内川 元
教員コード 101922
登録人数 19
回答数 14
回答率 73.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

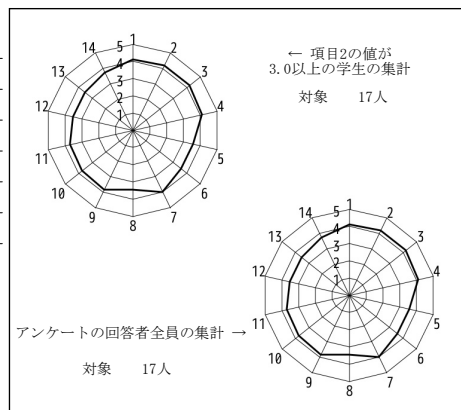
コロナ禍の影響で、今年度の生徒は本来4月に購入するはずのリーディングの教科書を夏休みに購入することになりました。例年のペースですと教科書を半分しか使わないことになり勿体ないので、3・4学期は過度にならない範囲でリーディングを増やしました。そのお陰もあってか、リーディングテストの結果は例年を大きく上回り大変良好でした。

スピーキングは今学期もマンツーマンの会話指導を継続し、1人1回8分のセッションを学期中に3回行いました。またスピーキングテストは1人10分とし、今年度行なった全てのトピックを範囲としました。この広範囲の内容をカバーするテストは直前の一夜漬け的な準備では到底対応できるものではなく、それまでの学習のクォリティーが大いに問われる為、苦戦する生徒が少なからずいることを予想していました。ところが結果は思いの外良好で、例年の集団指導ではなかなかお目にかかれぬ高得点の連発を見ることができました。スピーキングにおける個人指導の絶大な効果を感じるようになりました。

お陰様で評価数値は2学期との比較で全体的に上がっており、今学期の内容がより高く評価されたものと思います。今年度の経験を生かし、オンライン・対面に拘らず来年度はさらに充実した授業を提供できるよう努めたいと思います。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]
]5
授業コード 11A12-044
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 20
回答数 17
回答率 85.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

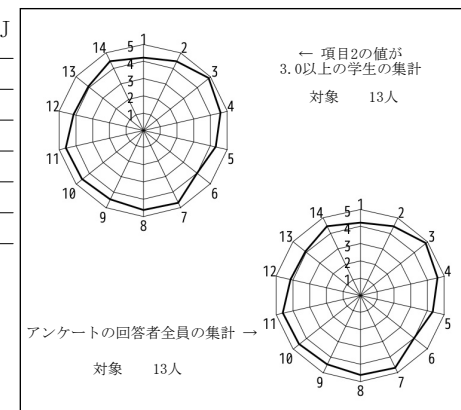
I think we did a fairly good job of meeting the class objectives. I am pleased with the number of activities provided by the speaking textbook, but because the lessons were delivered through WebClass, the text could not be utilized to its utmost.

The comments were similar to the Spring results, with positive comments mixed in with frustration over the limited face-to-face contact. I worked hard to provide feedback and answer keys, and I hope that most students understood this.

I believe that the university will be able to return to regular classes in 2021, and I will be glad if this is the case.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]
]8
授業コード 11A12-047
教員名 LANGLEY, Patrick
教員コード 104288
登録人数 20
回答数 13
回答率 65.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



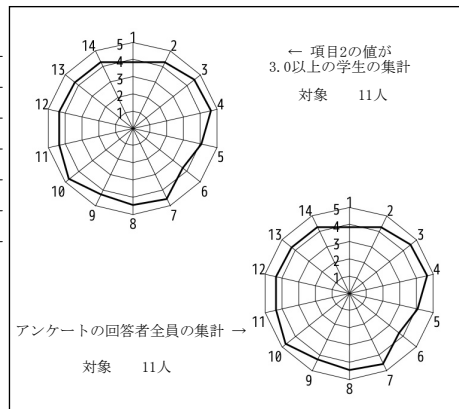
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the students achieved the overall goals of this class. They could use new conversation strategies, describe daily routines and share their opinions well. There were some students who couldn't actively participate in the class due to internet issues.

Regarding the survey - for future classes I think I should focus on provide more opportunities to give advice, explain in more detail and take questions about assignments.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[S]
]2
授業コード 11A12-050
教員名 LANDSBERRY, Lauren
教員コード 103626
登録人数 25
回答数 11
回答率 44.0%
休講回数 0回
補講回数 0回

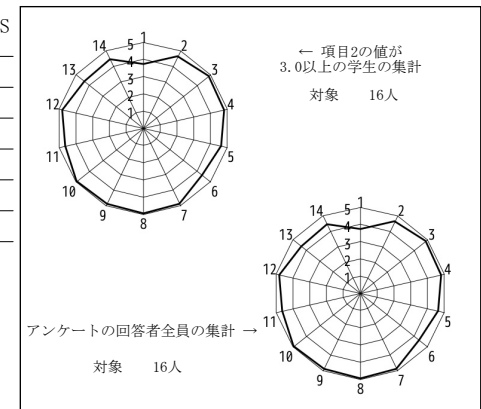


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year was an extremely challenging year for both the students and I. I think it was just as much a learning curve for the students as it was for me. Both the students and I had to learn a lot of online learning applications such as Webclass or Flipgrid. I tried to incorporate both face to face learning by using Zoom and also autonomous learning through activities on Webclass. The students were also required to make some presentations on Flipgrid. It was a difficult balance to keep everyone happy as some students thought Zoom was unnecessary and wanted to study alone through on demand activities only. However, some students were happy to be able to have contact with their classmates through Zoom. Personally, I felt that Zoom was necessary for having contact and interaction with the students, and also for the students to interact with each other. This was the best we could do out of the classroom. While I'm not sure that all the goals of the course were met this year, everyone did their best under these unusual circumstances. I look forward to being back in the classroom next semester and teaching the students at Nanzan face to face!

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[S]
]11
授業コード 11A12-059
教員名 平出 優子
教員コード 102521
登録人数 25
回答数 16
回答率 64.0%
休講回数 0回
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

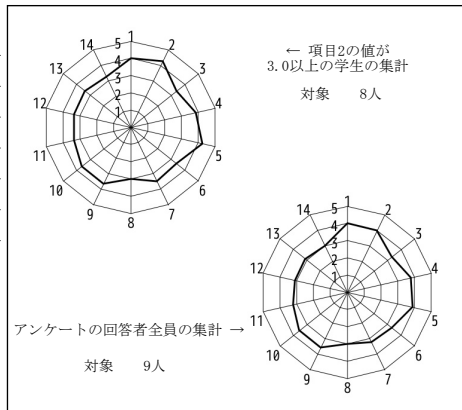
英語IV: Communication Skills 授業はスピーキングとリーディングから構成される。Q4のスピーキング目標は、EntertainmentとFoodをトピックとして、Q1から学んできた様々なSpeaking strategies を駆使してより自然な会話が行えるようになることであった。また、日本語の会話と英語の会話の違いを理解して、よりnative-like な会話になるよう何度も練習した結果、ほぼ全員が6分間のペアでの会話をスムーズに行えるようになった。来年の課題として、さらに様々な語彙や表現を紹介して多様な会話が行えるようにしたい。

Q4のリーディングの目標は、流暢に英文を読むための様々な読解方略を効果的に使えるようになること、Extensive Readingにおいて目標語数に到達し、MReaderでクイズに答えること、Vocaburay の知識を増やすことの3点であった。提出された課題の出来が非常によく、また、MReaderの集計でもほとんどの人がクリアしていたので、目標は十分に到達できたと考える。

本年度はオンライン授業で様々な制限があったにもかかわらず、授業評価の高い数値や学生からの前向きなコメントを受け、Q4も混乱なく無事に終わることが出来たと実感し安堵している。来年度も柔軟に対応していけるよう準備をしっかりしておきたいと思っている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IVコミュニケーションスキルズ[E]
授業コード	11A12-063
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	20
回答数	9
回答率	45.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. However, there are obvious limitations due to the current situation. I am looking forward to getting back into the classroom!

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

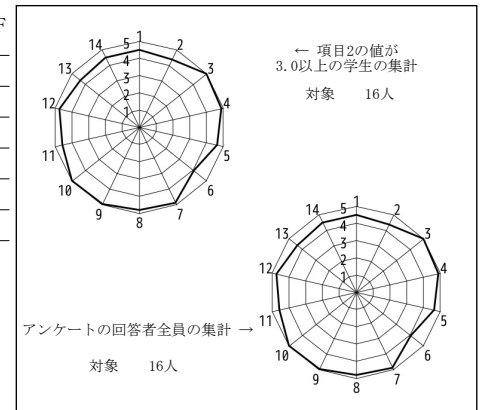
I was not unhappy with the results. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

Given the current health pandemic, there isn't really much we can do differently. I worry that the students will become tired and maybe a bit depressed by having to stay home for so long. I will try to maintain closer contact with the students and make them feel like they are getting personal attention. This is a stressful situation for them and I want to help them in any way I can.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIコミュニケーションスキルズ[F]
授業コード	11A14-003
教員名	伊藤 実里
教員コード	045542
登録人数	18
回答数	16
回答率	88.9%
休講回数	0回
補講回数	0回

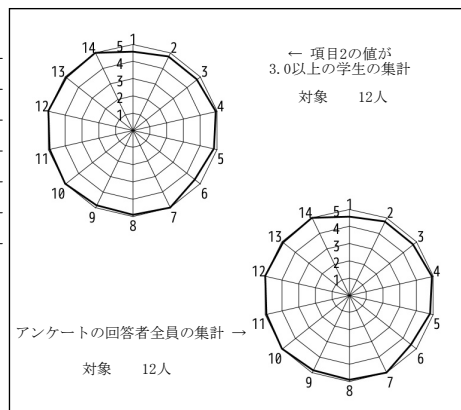


授業評価結果を踏まえた点検・評価

コミュニケーション・スキルズVIの到達目標に向けて力がついてきているという実感に欠けていることは反省点である。この科目共通の目標に個別の変更なども加えて授業を行ったので、到達目標がわかりにくかったことも一因だと思う。履修前に見るオンラインシラバスだけでなく、今後はこの授業で使用する教科書の内容から生じる到達目標について、初回のみでなく新しいトピックや課題ごとに触れていくとことで、今やっていることと関連付けてわかりやすくしていきたい。オンライン授業に関しては、教員の声やスライド、ブレイクアウトしたときのお互いの声など概ねスムーズだったようで、通常の対面授業とまったく同じとは言えないが、制限のある中では可能な限りのことができたと思う。大学のシステムだけでなくZOOMなどオンラインでの諸々の操作は、よく知っている人と不慣れな人とがいるので、教員自身がまずよく知っておき、不慣れな人でも問題なく課題がこなせるような説明をすることが非常に重要であると学んだ今年度であった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]6
授業コード 11A14-006
教員名 SCRUGGS, Edward
教員コード 101864
登録人数 18
回答数 12
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



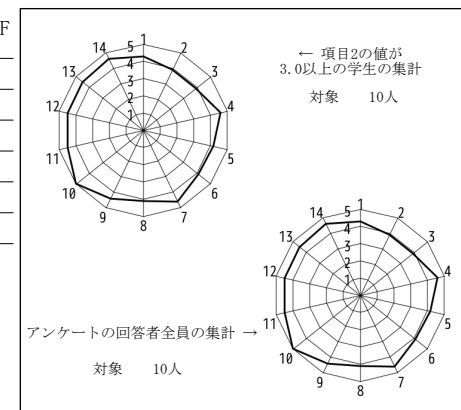
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am so happy to see that my students indicated satisfaction with the demands of this on-line class. I enjoyed teaching this group and it was a privilege to get to know each of them. While this past year has been unusual (to say the least) having such a lovely group of students has made this year a memorable experience. Every class offered an interesting exchange of ideas which was stimulating for both the students and myself.

As I have reached the age of mandatory retirement for Nanzan University, speaking of future changes in lesson planning would be a moot exercise. I do however leave with many warm memories of the fine young men and women I have been blessed with meeting there.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F
A, FF, FS, FG]7
授業コード 11A14-028
教員名 NICKSICK, Thomas
教員コード 102113
登録人数 17
回答数 10
回答率 58.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

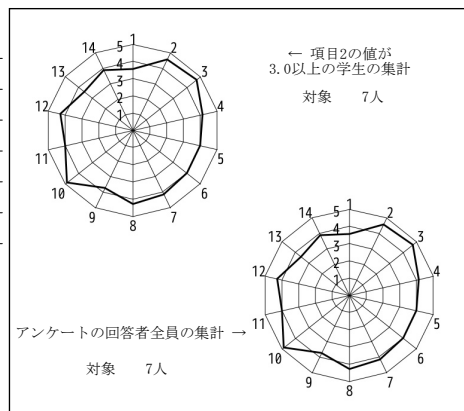


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course goals included learning conversation strategies, improving vocabulary, being more confident when giving opinions, improving reading strategies, identifying main ideas and supporting details of texts, and guessing the meanings of words from context. The instructor was relatively successful in some areas. When asked if there was appropriate guidance and provision of information in order to encourage students to want to learn, the students' rating was 4.50. Regarding enough opportunities for questions, consultation with the instructor, or guidance, the students' rating was 4.50. Also, the students' rating for overall satisfaction with the course was 4.60. However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if students were making solid progress toward achieving the course's attainment target, the students' rating was 4.10. When asked if students were able to pick up what the instructor was saying or was the sound delivered for the class clear, the students' rating was 4.10. Also, regarding the online and face-to-face classes, when the students were asked if the start and finish times were adhered to, their rating was 3.90.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ
全>6
授業コード 11A14-033
教員名 FOX, Aaron
教員コード 103869
登録人数 23
回答数 7
回答率 30.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

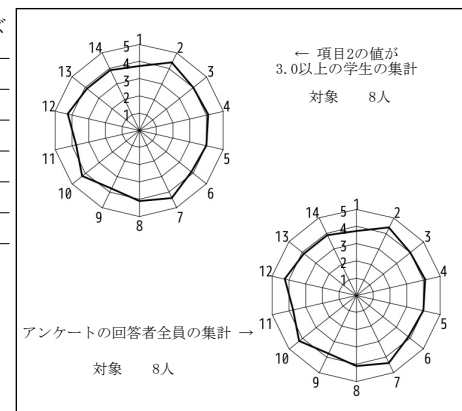


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class met the goals set out in the FLECC handbook. Given the unusual circumstances of this year, the students performed very well and made noticeable progress. Overall the progress made in terms of speaking presentation structure and delivery was satisfactory. The class adapted well to the circumstances and worked hard to achieve good results. If classes are to continue begin conducted remotely, I want to find more ways to incorporate Internet resources into the curriculum. This would include more use of online textbook resources and an expanded use of WebClass to deliver content and expanded test and quiz delivery.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ
[S]7
授業コード 11A16-009
教員名 SIMMONDS Brent
教員コード 103050
登録人数 18
回答数 8
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students adapted well to the new learning environment due to the COVID 19 pandemic. It was a difficult situation for both teachers and students to negotiate, however, the students helped each other to make a productive class. Sometimes, second year students lack the motivation that first year students have, however, in this case perhaps computer knowledge gained in their major was highly beneficial. creating a better environment than usual. My goal for the spring vacation is to review adaptations I made during the previous academic year and integrate them into the face to face classroom. Web class will be a platform that I can utilise in the future to the benefit of the students and enable me to mark, adapt and upload new material more efficiently.

An area I need to improve upon is giving instructions clearly. To do this I will break the tasks down into smaller steps and further simplify my English. Integrating, understandings of class instructions into group work should help to alleviate the problem and add to the students language acquisition.

It was generally, a very enjoyable class to teach into which, the majority of students contributed, although to different degrees.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]10
授業コード	11A16-012
教員名	BLOWER, Luke
教員コード	104287
登録人数	18
回答数	3
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The unique nature of the pandemic affected academic year meant that goals and aims had to be very flexible. One hope was that midway through the 4th quarter, at least for the Monday speaking class, we would be able to have normal face-to-face classes. It was disappointing that this didn't happen. The other main aim was to keep the students focused on the online classes- this, as reflected in general attendance and scores, was largely achieved.
2. Feedback was not sufficient to show me how the students felt. Hopefully the lack of response shows a general level of satisfaction. Personally I was happy with how I was able to adapt the online tools at my disposal to make the classes as interactive and interesting as possible. Features such as the zoom chat room are great for offering support to the students when speaking in class.
3. As we go back into face to face classes heading into the new year, I intend to keeping utilising online support tools such as google forms, dropbox etc. to assist the students in their studies.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語VIIIコミュニケーションスキルズ <再(理工学部生用)>
授業コード	11A16-014
教員名	MOORE, Douglas
教員コード	100954
登録人数	14
回答数	1
回答率	7.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

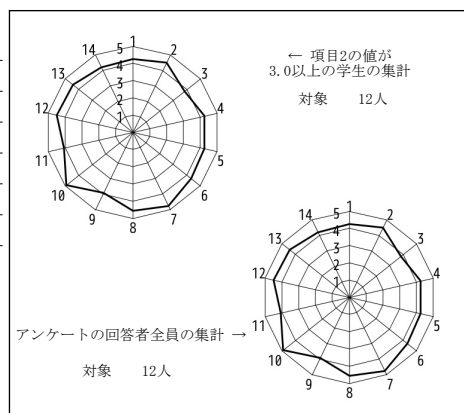
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was rather a different and difficult year as there were no live classes at all for the entire year. This course used online textbooks, Webclass and Zoom to conduct classes and most students handed in homework by email or other file sharing systems. The evaluation does not really have anything overly special in it nor any specific areas of complaint that I noticed. There was some confusion about class requirements and homework, but overall i feel most students were rapidly on board with the programme and were able to fulfill the course requirements.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<全>7
授業コード 11A18-007
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 23
回答数 12
回答率 52.2%
休講回数 0回
補講回数 0回

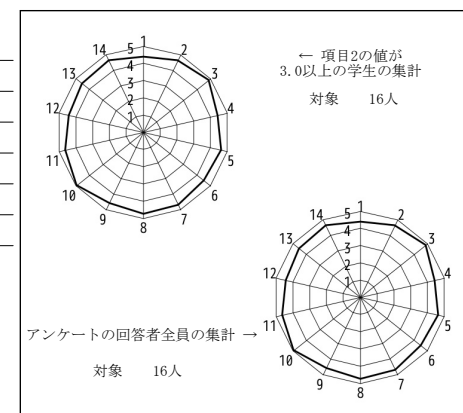


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view and try to express themselves by writing. I finished the full syllabus in time. Due to the pandemic, the classes were held by Zoom. I had no physical interaction with students and was not able to see their reactions during the class because students felt uncomfortable when I requested to turn on their camera. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.24 and 4.44 for the courses in the band of 11A01-001~11L.16-999, the scores of this course were 4.25 and 4.50. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.57, 4.45, 4.26, 4.14, and 4.58 for all courses, the scores for this course were 3.83, 4.25, 4.25, 4.33, and 4.75. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.45, 4.42, 4.73, 4.35, and 4.43 for all courses, the scores of this course were 4.58, 3.92, 4.92, 4.08, and 4.50. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.31 and 4.34 for all courses, the scores of this course were 4.42 and 4.17. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students enjoyed the class and enjoyed writing essays in English.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<全>4
授業コード 11A18-012
教員名 佐藤 ゆかり
教員コード 047605
登録人数 22
回答数 16
回答率 72.7%
休講回数 0回
補講回数 0回

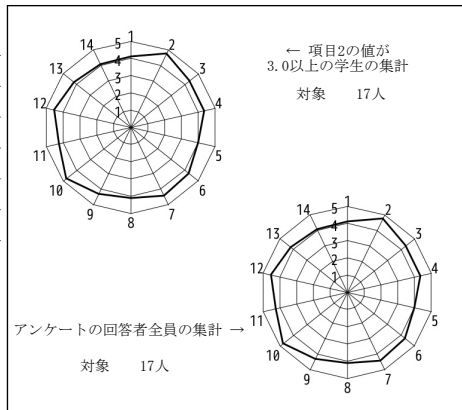


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① コロナ禍のオンライン授業のなか、いかに学生の集中力を持続させ授業を聞き続けられるか、そのためには、興味深い課題、わかりやすい進め方、時折のクラスメートとのコラボレーションの課題、丁寧なレポート指導、無理のない提出期限、わかりやすい提出方法、それらを一つずつ実行するために、グループクラスルームをプラットフォームとして、常に一定のわかりやすいゆっくりした授業を心がけた。また、文法などいれ、これまで培ってきた知識を維持し確認するベースの授業も、オンライン課題にすることで、大変取り組みやすくなったようだ。15回すべてをオンラインにせず、3回は自宅課題としてメリハリをつけた。このような状況のなかで学習せざるを得なかった学生たちは気の毒だが、15回の授業でやり終えたことは、対面授業の時代と全く遜色なくできたことも自分でよかったと思っている。ひとつ後悔があるとすれば、提出物がすべてデータなので、実際ペーパーを目の前にして、相手の直に生徒に原稿指導出来なかったことがある。現物のポートフォリオ作成をすることも出来なかった。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIディスカッション2
 授業コード 11A20-002
 教員名 木田 パルビン
 教員コード 102322
 登録人数 22
 回答数 17
 回答率 77.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

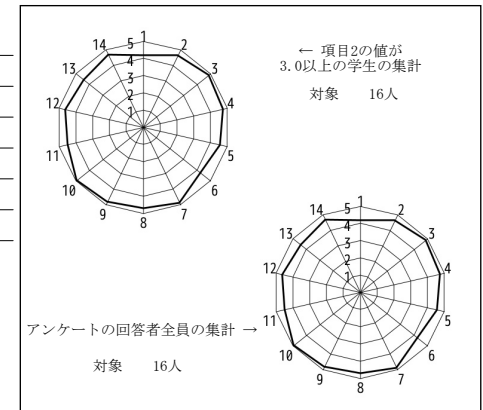
The topics discussed in quarter 4 was a continuation of quarter 3. There were two new students who quickly could catch up and follow instructions. The aim of this course was to develop students' competence in participating and leading a pair/small group discussion while focusing on critical thinking on the topics introduced during the course. Students' practiced oral skills through discussion and then a short presentation based on their personal experiences on the topic.

The lessons followed a process approach of planning, organizing, and delivering an effective presentation on Flipgrid. Watching the sample presentations on the video helped the students visually learn the techniques of delivering a speech such as voice projection and eye contact, as well as added impacts such as showing pictures, to enforce a point of view. One of the advantages of online learning was that the videos were available online so students could watch them as an assignment at their own convenient time and as many times as they wanted to. The vocabulary test was for the students to increase their vocabulary.

I have carefully studied the students' evaluations and comments. To my judgment, the students demonstrated improvement in their communication skills since the beginning of the course.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>4
 授業コード 11A24-006
 教員名 酒井 美納江
 教員コード 046060
 登録人数 24
 回答数 16
 回答率 66.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



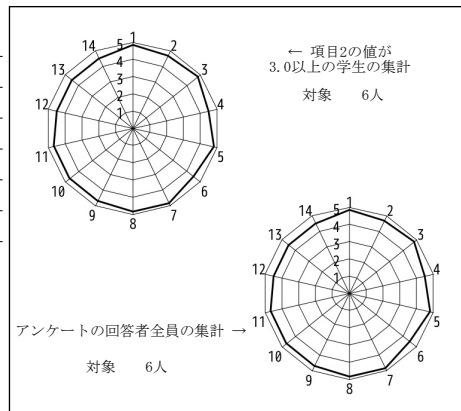
授業評価結果を踏まえた点検・評価

中級程度の論説文を読み、それについて内容理解ができ、また、読んだ内容を踏まえて自分の意見や発展的な事項をある程度英語で表現できることを目標にした。そのため、読んだ内容について学生同士がペアやグループで意見を交換する機会を多く作るよう心掛けた。Zoomの授業では参加している学生全体の様子を把握することが難しいこともあり、簡単な内容理解や語彙の問題は、各学生が4色の色の紙を見せることで容易に答え合わせをできる様工夫をした。学生の授業参加の度合いと、オンライン教材の取り組みを見ると、目標はおおむね達成できたと思う。

第4クォーターは、対面とZoomで行うことが可能だったので、授業の内容を月曜日はzoomで、木曜日は対面で行った。対面の授業形態をより好む学生が多いのではと思い、この様な形をとったのだが、前後の授業の兼ね合いもあり、ほとんどの学生がZoomで受講する形を選んでいた。対面の授業でのペア、グループワークが成り立たず、せっかく登校してくれた学生に申し訳ない様な回もあった。最初に立てた計画に固執せず、柔軟に授業形態も変更できればよかったと反省している。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>6
授業コード 11A24-008
教員名 McCANDIE, Tanja
教員コード 102688
登録人数 19
回答数 6
回答率 31.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

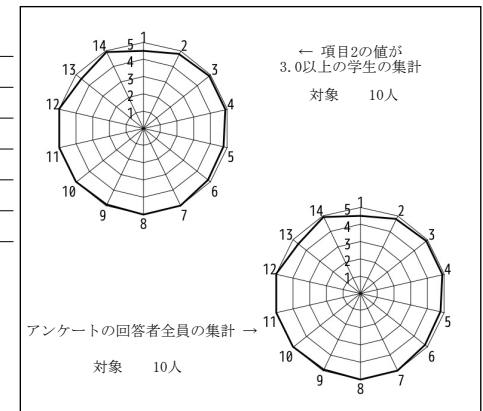


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was happy to see the scores I was given considering that the course was conducted online due to COVID. I think the students improved overall but we didn't always get to cover what I expected to in the manner I would have liked due to be online but I am grateful that the university allowed us to stay online for the safety of our health. I think if I were to teach this course again - I am not next year - I would keep it as is because I think it worked well for the students with regards to support and student autonomy. I would hope that the university again places our safety first but from what I have heard, nanzan is expecting face to face. I do not think tis is a wise move with language classes and hope it changes in the future.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全>4
授業コード 11A26-016
教員名 加藤 尚子
教員コード 103630
登録人数 22
回答数 10
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
授業がonlineとzoomの為音声と学生の精神状態を第一に考慮し講義を行いました。その上で、開講当初に設定していたリスニングの基礎でもある intonation, stress, と rhythm の理解、更に話の内容の main idea と要約の習得を重点に置きました。到達には至らなかった学生も中にはいるかもしれませんが、概ね基本の習得に至ったと思われます。

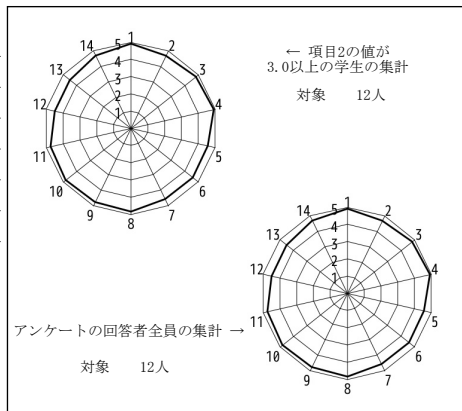
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業評価をして下さった学生の自由記述等によりますと、質問がしやすかったという点を踏まえオンラインであっても、学生が気軽に教員に質問できる雰囲気を提供できたのは喜ばしいことと見受けました。また、英語力がついたという意見もありました。しかし、講義を受けた全員が授業評価をして下さったわけではないので、全員の意見が聞けなかったのが残念です。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。
学生の興味を保持できるような教材を提供し続け、英語を通して英語だからこそ得られる知識を増やすことに力を注いでいきたいです。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全>6
授業コード 11A26-018
教員名 松見 誌野
教員コード 104166
登録人数 24
回答数 12
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

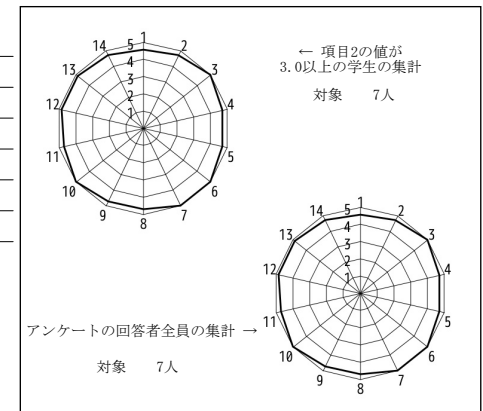


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：オンライン授業で様々な制約があったものの、受講生のほぼ全員が概ね達成できたと思う。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検、評価：オンライン授業でも対面授業とさほど変わらず、各項目の数値が高かった。科目にもよると思うが、リスニングの授業においては、オンライン授業のみでの実施でも高い授業満足度及び教育効果が得られると思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負など：今後の抱負としては、来年度の授業形態が今年度同様にオンラインとなった場合、今年度同様に教科書だけでなく、動画や洋楽等を取り入れながら受講生が飽きずにオンライン学習が継続できるように工夫していきたい。対面授業となった場合については、ペアワークやグループワーク等がある程度制限される可能性があるため、教室活動にこれまでと違った工夫が必要だと考えている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語II翻訳<全>2
授業コード 14A06-002
教員名 加藤 普由子
教員コード 101654
登録人数 16
回答数 7
回答率 43.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

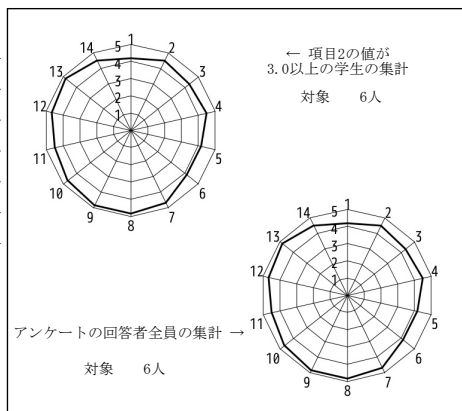


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数16名（1名は無出席）のうち回答者数は7名であるため、4割強の評価であることを前提とする。全員が授業開始前から内容に対する興味を持っており（評価5と4で100%）、71.43%（評価5）の学生が主体的に授業に参加したと自身を評価している。結果をみると、全員が到達目標に向けて力がついてきていると認識しており（評価5が100%）、85.71%（評価5）が新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと回答している。全質問において、3以下の評価はない。具体的には自由記述にある。たとえば、予習形式に好評価をもらった。学生のコメントにもあるが、本授業では「考えて翻訳する」ことを重視している。その時だけの解答が正しければ良いのではなく、今後への応用が大事と考えるからだ。zoom授業では学生の翻訳を全員で共有し、教員が翻訳者に訳出の根拠を求める形式をとった。他方で、学生からは「課題の添削の返却」「後から見返したい」との要望が寄せられた。学生のすべての翻訳に目を通し、別ファイルに編集し直し、zoom授業で共有してきたが、この一連の作業が時間などの絡みで精一杯であったことも事実である。学生からの貴重な意見として、今後活かせる方法を模索したい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語II通訳<全>2
授業コード 14A08-002
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 18
回答数 6
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた通訳技法の9割程度を扱うことができた。

15回の授業のうち12回はZoomによるオンライン授業を、3回は課題に取り組むための自習とした。対面授業と違って学生の学習状況や理解度を把握するのが難しいが、適宜、学生にヒアリングを行い、授業の構成や速度、教材の難易度などを調整した。項目4、9、12の平均値が比較的高かったのはその結果と考える。その他にオンライン授業で配慮したこととしては、一方的な講義にならないようにブレイクアウト・ルームを活用したピア・ラーニングを取り入れたこと、自粛期間中の時間を有効活用できるように自主トレーニングの実践方法を詳しく説明したことが挙げられる。英語力の向上を第一の目的に受講している学生も多いため、通訳トレーニングを利用した英語学習法を行うことで学生の学習を促進できると考えた。項目2、11、13の平均値が比較的高いことや、項目15の回答（実際の英会話やTOEICに役立つ英語能力を身につけることができる）から、この指導に一定の効果があつたと考える。

項目6（到達目標に向けて力がついてきていると思うか）は平均値が4.17で他の項目と比べると少し低かった。定期的に自分の通訳や英語を録音して聞く活動を行ったが、今後はそれ以外にも力がついてきていることを実感できるような仕組みを検討することが必要と考える。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コンピュータと言語学
授業コード 24C56-001
教員名 古泉 隆
教員コード 101035
登録人数 5
回答数 3
回答率 60.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

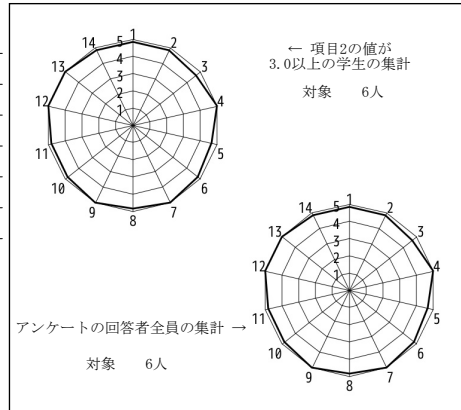
到達目標として、①テキスト処理に必要な正規表現を理解している、②単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解している、③エクセルおよびRを用いて、単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、④最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。③に関して今学期はRでの実習はおこなわなかった。これは、遠隔で授業を行うために、より手厚いサポート時間が必要と判断したため、全体の時間を確保するためである。ただ、Rについての講義内容については、ウェブで参照できるようにし、興味のある受講生は自学できるようにした。

授業はZoomにより遠隔で講義・実習を行った。学期末には、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでクラス内で報告してもらった。実習や課題の遂行状況を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じておおむね到達目標に達したと考えられる。

次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、4名以下の回答であったため個別の回答を参照した。各項目で4以上であったことから、概ね学生の学習を支援・促進し期待に応える授業であったと言える。また、文系の学生が主な対象であるため、正規表現など馴染みの薄いことを丁寧に説明し、できるだけ質問の機会を設けた。自由記載の欄に「質問に丁寧に答えて頂けた」とのコメントがあったことは良かった。今後も、丁寧な授業を心がけたい。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B2
 授業コード 40E05-002
 教員名 MOORE, Jonathan
 教員コード 101410
 登録人数 19
 回答数 6
 回答率 31.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

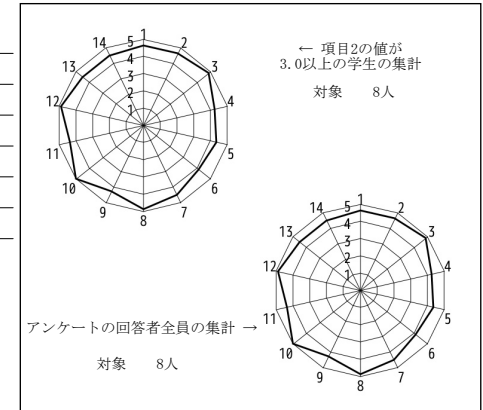


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This quarter was taught online because of the COVID-19 pandemic. The overall scoring of the set of questions was very positive. Students put a lot of effort in the lessons. Students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction online. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVライティング2
 授業コード 42G08-002
 教員名 VIADO Cora
 教員コード 100553
 登録人数 11
 回答数 8
 回答率 72.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

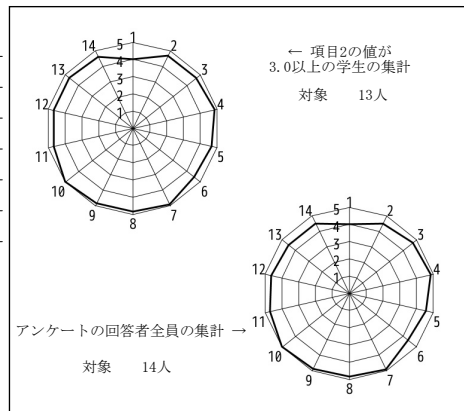


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was conducted virtually through Zoom and WebClass. Students learned how to use different types of English-language business correspondence, such as business letters, business e-mail, and business proposals in order to develop important skills related to business and writing. Timed writing on a variety of topics was done regularly so as to encourage writing in English and to monitor one's progress. Cooperative learning activities gave students opportunities for sharing ideas and written work in small groups. Working in groups or in pairs fostered camaraderie and the building of rapport among students. The overall significantly positive evaluation indicate students' general satisfaction with the content covered, the instructional methods used, and how the class was managed.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III4
 授業コード 46F03-004
 教員名 GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria
 教員コード 103652
 登録人数 36
 回答数 14
 回答率 38.9%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The overall class objective was achieved. With weekly assignments, students could keep up with the weekly content to be studied, as every class was a continuation of the previous one. Since the class was online, we had a 1 hour Zoom session and the remaining 30 minutes was for them to do their assignments that they had to submit via WebClass. Their English understanding and skills improved.

As this was a content based class, and since the number of students was big, it was difficult to see all of their faces in Zoom and also for them to interact as it was a lecture based class. However, students expressed that the Zoom sessions were helpful as I made Power Points to teach the technical material of international trade. I think that they learned a lot, as they expressed so in the final comments of the class. They said that is was a good opportunity to study and think in English while tackling international issues related to Japan.

In the coming classes I will encourage more pair work and pair submission reports so that they have a chance to interact.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 CAREER PATH ENGLISH3
 授業コード 46F08-003
 教員名 柴田 直哉
 教員コード 102751
 登録人数 42
 回答数 4
 回答率 9.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

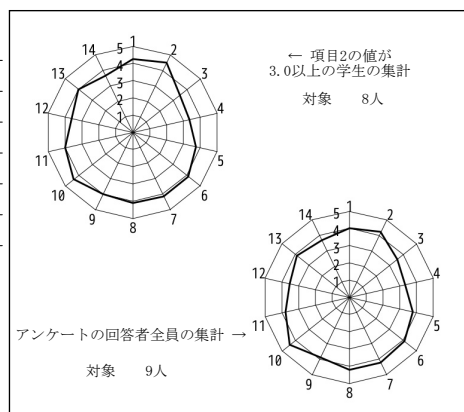
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

新型コロナウイルス感染対策としてリモートでの講義を行ったわけだが、今後オンラインでのミーティングや就職活動の機会が増えていくことが予想されていく観点からは現実に近い条件で行えたのではないかと考えている。しかしながら、英文での履歴書、志望理由書、自己PRに関してはかなり時間が限られていたことから十分なフィードバックを与えることができなかった。それ故にあまり高い質のものに仕上げることはできなかった事が反省点の1つとして考えている。また、授業時間内ではグループワーク・グループプロジェクトをメインの活動としたが、活動意欲と協働意欲の幅はグループによって大きく異なり、積極性とプロジェクト案の出来に大きな差が見えた。しかしながら、可能な限り学生たちの専門性に近いプロジェクト・トピック、そしてインターンシップ経験者の学生たちがそこでの経験を活かせるようなトピックを選んだことでグループ・ディスカッション中には自分の経験や知識を基に比較的活動的に話している様子が見えたため、それは良い点であったと感じている。

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV1
 授業コード 48A08-001
 教員名 PALISADA Eloisa
 教員コード 055830
 登録人数 15
 回答数 9
 回答率 60.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

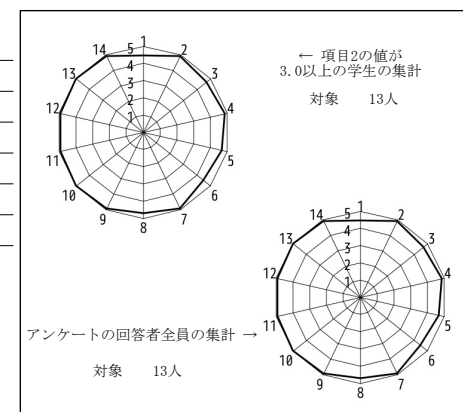


授業評価結果を踏まえた点検・評価

GLS ENGLISH IV aimed to improve students' proficiency in the 4 macro skills in an academic context. They were to critically explore thought-provoking content from class text, magazines, documentaries, media, etc. Particularly this Q4, students focused on Interpersonal Relationships. The online classes during this pandemic crisis proved to be highly challenging to 13 students of 6 cultural backgrounds and this is reflected in the survey. Their interest before this course, participation during was just average 80% and 85% respectively. Although they rated (85%) the teacher's sincerity and preparation to engage them in critical thinking discussions and taking action (89%) whenever they disrupted the class—they also complained about the pace and level not being considered enough (78%). Some seemed not to have satisfactorily achieved and understood the goals and missed apt guidance with the assigned tasks and tests. As to their written comments, some appreciated the chances to learn many values in group discussions using English, the worksheets were according to the textbook. "The teacher is willing to take positive action, made us familiar with her style, and had fun teaching." Online teaching has limitations, indeed. The lowest point in the survey was poor time management, be it for exams, deadlines, start, and end of class. Moreover, it was a struggle to cope with their submissions and personal follow-ups as needed. I must lay out clearly the methods and structure of class dynamics.

2020年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV7
 授業コード 48A08-007
 教員名 水野 真紀
 教員コード 101981
 登録人数 19
 回答数 13
 回答率 68.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初はZoomでアクティブ・ラーニングとCLILを用いる授業ができるかどうか不安であったが、高い学習能力の学生に助けられ、予想以上にうまく勧めることができ、目標は概ね達成できた。Q4までに学生はデジタル・リテラシーを身に付けており、4技能を駆使して主要テーマである犯罪について学習することができた。教科書に加え、ニュース、新聞、ネット動画などさまざまなソースから情報をインプットして、分析と考察を行い、結果を個別ではスピーチとレポート、グループではプランニングからプレゼンテーションに至るまでグループワークで行い、個性的な形でアウトプットをした。今期はオンライン授業ということでグループワークに比重を置いた。教員は適宜内容についてのアドバイスや原稿のチェックなどをしてファシリテーターの役に徹した。設問2, 11, 13, 14の高い数値と自由記述からもわかるようにクラスメートとコミュニケーションを望んでいる学生の希望に沿った協働的、主体的な学習ができた。そのため期末にスケジュールがタイトになった点は反省する。今後の課題はグループワークで英語を使わせることである。ブレイクアートルームでは常に教員がいるわけではないので学生は日本語を使用してしまう。細目に本ルームに戻しながら指導していく。